

1. ま え が き

大学・高専など、高等教育の教育方法の改善に、映像、音声、文字情報などを同一画面上で操作し、対話的に学習を進めるマルチメディア教材の開発が期待されている。このマルチメディア教材の制作には、良質の映像音響資料の入手がキーポイントとなる。しかし、映像音響資料は、各機関や研究者個人に分散しており、マルチメディア教材の開発はもとより、教員が教育に利用するために資料を収集したり、作成するにも十分な時間や手だてを持たないという問題がある。それに対して、わが国では、映像音響資料に関する情報を全国的規模で組織的計画的に提供するシステムが整備されておらず、貴重な資料が必ずしも有効に利用されていない。また、映像音響資料は図書のように画一的で確実な保管方法が確立していないため、各機関や研究者は、資料の散逸、死蔵、品質の劣化などの問題に直面している。以上の点から、学術的な映像音響資料の共有化は緊急の課題であるといえる。

放送教育開発センターは、大学共同利用機関として設立され、放送等各種のメディア利用により大学教育（遠隔教育）の内容・方法等について理論的かつ実践的な研究開発を行っている。実際に、大学の授業番組や高等教育向け映像教材の制作を通じて、画像や音声の処理に必要な機材やノウハウを蓄積している。また、学術的、歴史的に貴重で二度と収録できない資料を数多く収集・保管しており、この点でも十分な設備や技術を有している。この種の研究機関としては唯一の大学共同利用機関であり、画像や音声を伴うデータベースの開発に最適な機関である。

映像音響資料データベースシステム「AMIS」(Advanced Multimedia Information Service)は、画像や音響等様々な形態の資料を求める高等教育機関あるいは関係者に対し、必要とする情報を全国的規模で組織的、計画的に提供するシステムとして放送教育開発センターが整備するものである。AMISは、従来の文字情報を主体とした文献・書誌情報データベースと異なっており、書誌情報のみならず静止画像、音響、イメージデータを効率的、効果的に蓄積、提供ができる、マルチメディアデータベースシステムである。

本システムの開発は、大学共同利用機関として次に上げる役割、意義を果たすことを目指すものである。

(1) 全国の高等教育機関や研究機関に情報を提供すると共に、各機関で保有する映像資料情報を収集、共同利用することにより映像音響資料の相互利用の道を拓き教育の活性化に資することができる。

(2) 学術的価値の高い映像音響資料の長期保存を可能にし、しかも死蔵、散逸を防止し、その流通を促進することができる。

(3) 映像資料の保管、在庫、貸出等の管理運用、各種目録作成、の支援、著作権処理の資料管理等が円滑に行える。

(4) 高等教育のためのマルチメディア教材の開発を支援することにより、高等教育の教育方法の改善に資することができる。

(5) 放送大学の全国化に対し、学習センターなどの機能を側面から支援することができる。

2. 映像音響資料データベースシステム「AMIS」

2.1 AMISの概要

AMISは、放送教育開発センター内外の映像音響資料を死蔵、散逸化することなく、有効利用を図るため、映像音響資料を収集・保管し、そのデータベース化をおこない、学術情報センターのネットワークや統合デジタル通信網（ISDN）によって、国公立大学や全国化が予定されている放送大学の学習センター等に映像音響資料に関する情報や画像そのものを提供するものである。図2.1にAMISの概要図を示す。

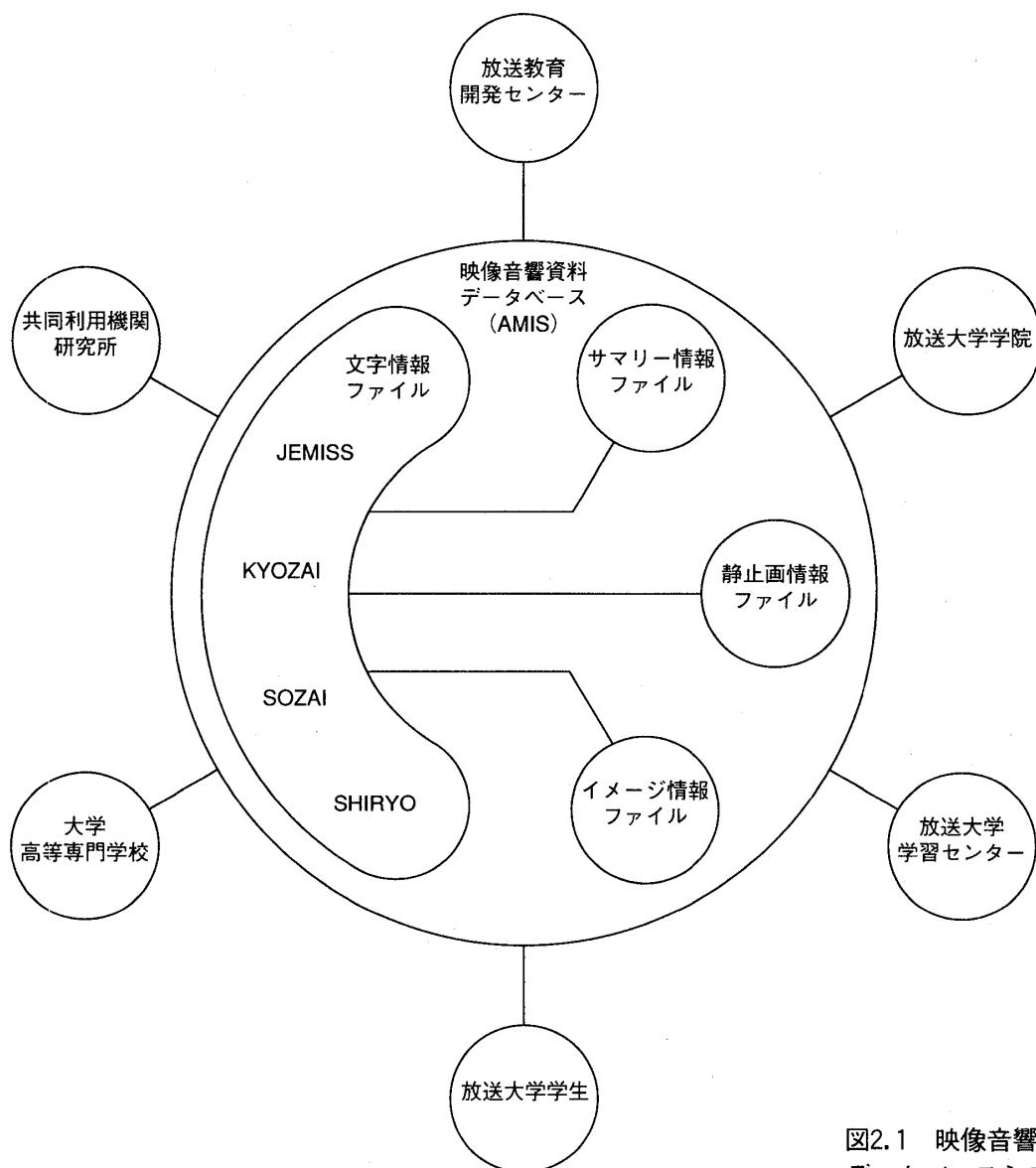


図2.1 映像音響資料データベースシステム（AMIS）概要図

2.1.1 AMISの扱う情報

映像音響資料データベースには、大別して書誌（文字）情報部分と画像・音声情報部分がある。

(1) 書誌情報

書誌（文字）情報の種類とリンクする画像・音声情報の関係は次の通りである。

- | | |
|--------------------|------------|
| ・映像教材情報（動画） | サマリー情報ファイル |
| ・音響教材情報 | |
| ・動画素材情報 | サマリー情報ファイル |
| ・静止画素材情報 | 静止画情報ファイル |
| ・遠隔教育、高等教育に関する文献情報 | イメージ情報ファイル |
| ・教科書、印刷教材情報 | イメージ情報ファイル |

(2) 画像情報

画像情報は、その種類により、アナログ光ディスクとデジタル光ディスクに蓄積される。

- | | |
|---------|---------------------|
| ・サマリー情報 | アナログ光ディスク |
| ・静止画情報 | デジタル光ディスク、アナログ光ディスク |
| ・イメージ情報 | イメージ・ファイリング用光ディスク |

2.1.2 データベース

AMISには、以下4つのデータベースが登録されている。

(1) 国内映像資料情報データベース

国内映像資料情報データベース（JEMISS：Japan Educational Media Information Service System）は、わが国における市販の映像教材に関するデータベースである。JEMISSには、学校教育、社会教育、産業教育、学術科学の分野を対象とし、1995年以降に制作された16ミリ映画、ビデオ教材、ビデオディスク、スライド等映像教材に関する書誌情報データベースである。

(2) 映像・音響完成教材データベース

映像・音響完成教材データベース（KYOZAI）は、等センターが制作、収集、保有するビデオ教材、オーディオ教材等の画像・音声を含むデータベースである。

(3) 素材静止画データベース

素材静止画データベース（SOZAI）は、番組・教材制作に利用された写真、スライド、グラフィックス等の静止画像データベースである。

(4) 文献・資料データベース

文献・資料データベース（SHIRYO）は、当センターが出版、収集、保有する文献や印刷資料のイメージデータを保有するデータベースである。

2.1.3 応用システム

AMISの開発目的に照らして、本システムに期待される機能の概要を列記する。

- ・情報資料提供：国公立大学等高等教育機関における教育効果向上のための補助教材として

の情報資料の提供

- 情報資料活用：放送大学学習センターにおける補助教材としての情報資料の活用
- 素材検索：センター教材制作部門における教材制作、手直し、改定時の効率化
- 研究の効率化：センター研究開発部門における教材の比較、評価、分析等の研究の効率化
- 貸出・著作権管理：センター事務管理部門における情報資料の貸出、著作権管理等

このような期待される機能を達成するために、次のデータベース応用システムの開発が必要である。

① データ入力支援システム

教材あるいは素材一点一点について管理番号を付し、書誌情報と画像情報を完全に対応付けて、データを入力、データベースへ登録する。

② 映像音響資料検索システム

書誌情報により検索し、利用者の必要に応じて画像を伝送する。著作権の許諾条件により画像の伝送を制限する必要がある。

③ 素材再利用システム

主として制作部門での利用。書誌情報により検索し画像を提示する。

2.1.4 データベースのサービス

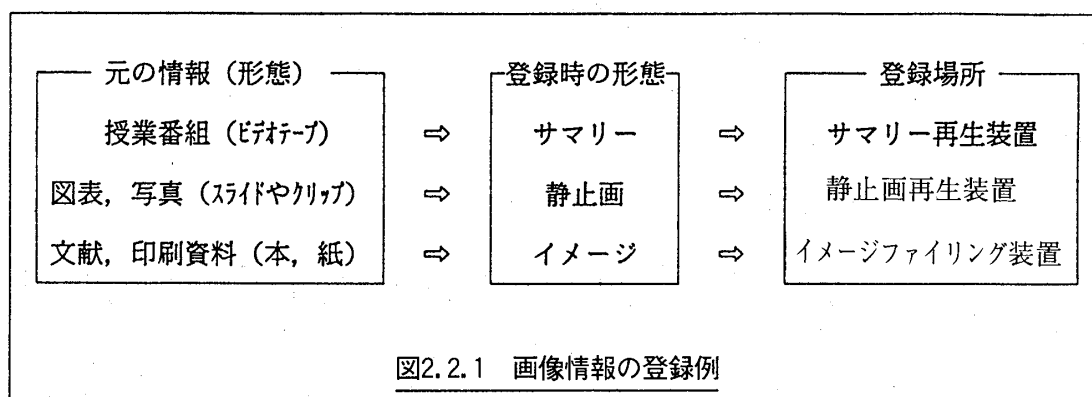
AMISは、文字情報のみならず画像と音声を伝送する必要がある。このため、AMISはこれらの伝送機器を制御し、利用者の設置端末に合致した情報を転送する機能が要求される。センター内では書誌情報についてはEthernetあるいは構内回線により、また画像情報についてはCATV網により伝送する。センター外にあっては、書誌情報については学術情報ネットワークあるいはNTT等のパケット網を用い、画像はISDNあるいはG4、G3FAX等を用いる。いずれの場合にしても書誌情報と画像情報は連動してサービスが行われる。

2.2 AMISの扱う情報

2.2.1 画像情報と書誌情報

(1) 画像情報

画像情報には、静止画と音響からなるサマリー情報（放送大学授業番組、OU教材等のダイジェスト版）、静止画情報（写真、スライド、グラフィックス）、文献などのイメージ情報の三種類の形態があり、個々の情報は、その内容や利用に適した形態で登録される。図2. 2. 1に一例を示す。AMISに登録されているデータベースは、画像情報としてサマリー、静止画、イメージを単独で、又は組み合わせて持つことができる。また、画像情報を全く持たず、書誌情報のみからなるデータベースとすることもできる。



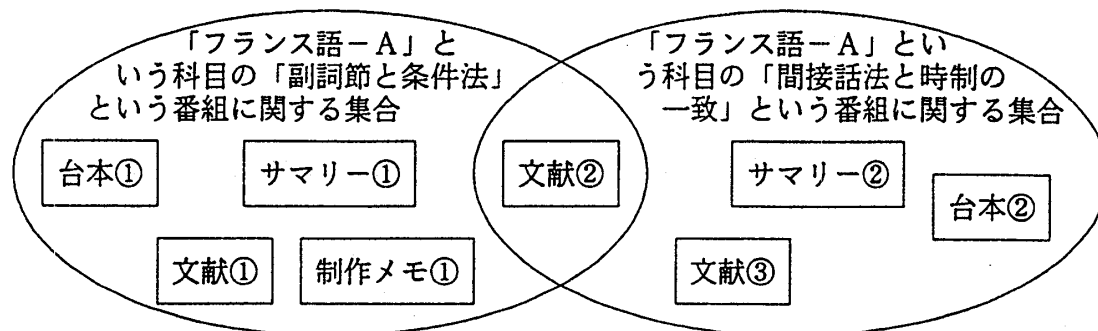
(2) 書誌情報

画像情報を登録しただけではデータベースとして機能しない。各装置に分散して登録されている画像情報の所在を一元的に管理し、利用者に検索の便宜を与えるための情報が必要となる。そのため、画像情報の所在、検索のためのキーワード、概要説明等から成る文字情報を書誌情報としてAMISの中央制御装置上のDBMS（Database Management System）に登録する。AMISに登録されるデータは、必ず書誌情報を持つ必要がある。

2.2.2 画像情報と書誌情報の対応

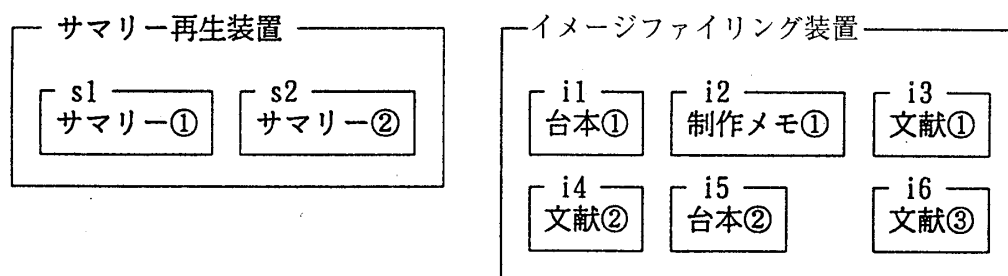
画像情報を登録する際は、一件の画像情報に対して一件の書誌情報を登録するのが基本である。放送大学の授業番組の情報を想定し、AMISでの情報の構成、画像情報の登録、書誌情報による対応付けの例を図2. 2. 2に示す。

情報の構成



画像情報の形態や利用形態等を考慮して適応する装置に登録する

画像情報



画像情報の所在、検索用のキーワード、内容説明文等を一件毎に登録する

書誌情報

科目	タイトル	キーワード	メディア	アドレス
フランス語-A	サマリー①のタイトル	仏語, 副詞節, 条件法, ...	サマリー	s1
フランス語-A	台本①のタイトル	仏語, 副詞節, 条件法, ...	イメージ	i1
フランス語-A	制作メモ①のタイトル	仏語, 副詞節, 条件法, ...	イメージ	i2
フランス語-A	文献①のタイトル	仏語, 副詞節, 条件法, ...	イメージ	i3
フランス語-A	文献②のタイトル	仏語, 副詞節, ..., 間接話法, ...	イメージ	i4
フランス語-A	サマリー②のタイトル	仏語, 間接話法, 時制, ...	サマリー	s2
フランス語-A	台本②のタイトル	仏語, 間接話法, 時制, ...	イメージ	i5
フランス語-A	文献③のタイトル	仏語, 間接話法, 時制, ...	イメージ	i6

図2.2.2 画像情報と書誌情報の対応

2.2.3 書誌情報の基本構成

書誌情報は、各データベースで任意に設定が可能であるデータベース固有のデータ項目と、画像情報の所在を一元的に管理するための全てのデータベースに共通な部分から構成されている。図2. 2. 3に書誌情報の基本構成を示す。このフォーマットは、一件の書誌情報中に必ず存在するものである。マスキレベルはデータベースのレコード単位の機密保護を行うためのデータである。メディア種別には次のコードが設定される。

- 0：画像情報はない。
- 1：対応する画像情報は静止画である。
- 2：対応する画像情報はサマリーである。
- 3：対応する画像情報はイメージである。

各アドレス情報の設定内容は後述するが、一件の書誌情報について画像アドレス情報のすべての項目にデータが設定されることはない。基本的に、メディア種別と四種類のアドレスのいずれかが設定される。

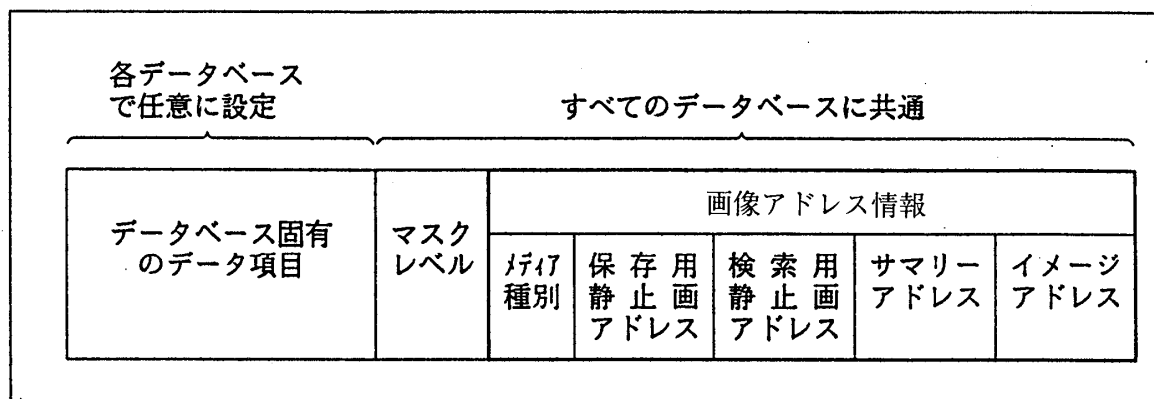


図2.2.3 書誌情報の基本構成

2.2.4 各データの概要

(1) 文字（テキスト）

文字（テキスト）は、書誌情報を作成するためのもので、画像情報の所在、検索用のキーワード、概要説明等から構成される。テキストデータは、ホストコンピュータ上に、DBMS（FAIRSI）のデータベースとして収納されている。使用するコード系は、EBCDIC、全角文字はJEFを使用している。検索用の端末との間のコード変換はゲートウェイ用ソフトウェアであるFCATに委ねているが、次のコードとの変換が可能である。

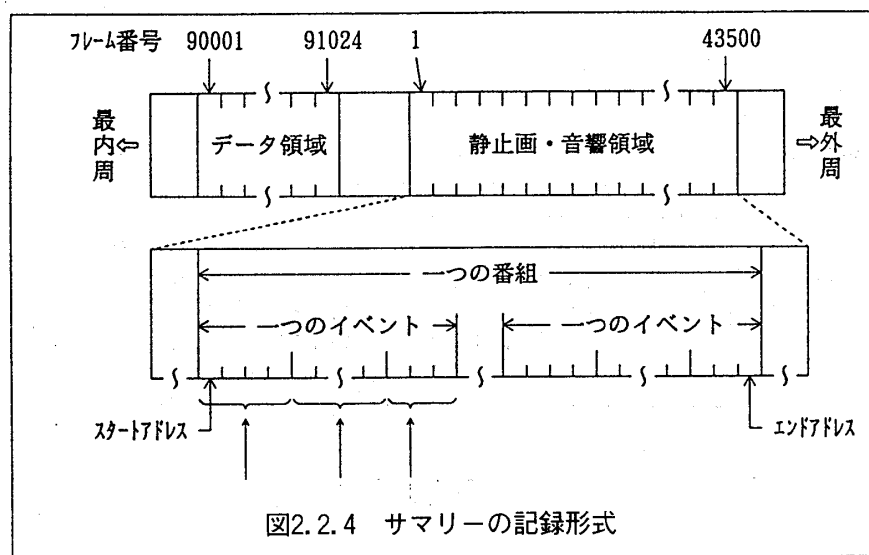
半角文字：ASCII

全角文字：シストJIS、JIS、EUC

(2) サマリー

サマリーは、番組の要旨を短時間でつかめるように工夫されたメディアである。ビデオテープを早送りで見るとは異なり、番組中の各場面から、重要なキーワードが集中している場面冒頭の静止画とナレーションを一緒に抽出し、電子紙芝居的に再生できるようになっている。

サマリーは、別途開発済みのサマリー編集システムによって、半自動的に作成され、アナログ光ディスクに記録される。作成された光ディスクは、サマリー再生装置に装填し検索に利用する。アナログ光ディスク（片面）上でのサマリーの記録形式を図2. 2. 4に示す。画像情報が記録される光ディスクは、データ領域と静止画・音響領域から構成されている。データ領域には、光ディスクのボリューム名や、番組を一義的に識別するための管理番号、スタートアドレス、エンドアドレス等が記録されているが、AMISDでは特にこれらのデータを参照しない。静止画・音響領域の内周から外周に向かって順にサマリーが記録される。一つの番組が光ディスクの面をまたがって記録されることはない。一つの番組は複数のイベントから構成される。一つのイベントは、BB、音、静止画領域に分かれている。BB領域には、各イベントの先頭を検出するために Black Burst と呼ばれる信号が4フレーム記録される。音の領域には4 K H Zでサンプリングされた音がS F A形式でnフレーム（ $1 < n < 32$ ）記録される。静止画領域には同じ静止画が3フレーム記録される。



(3) 静止画

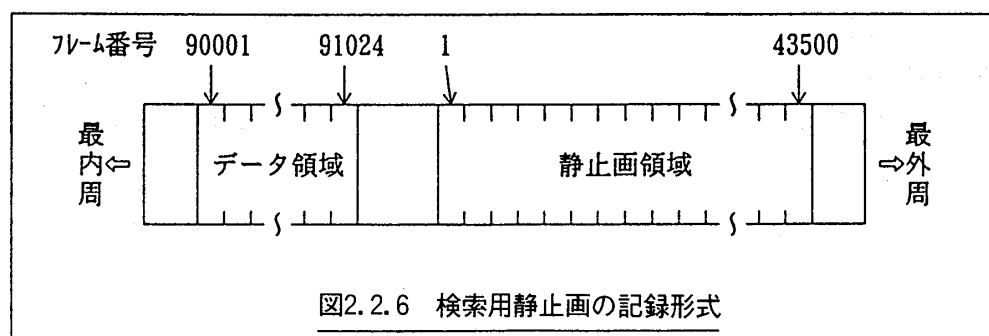
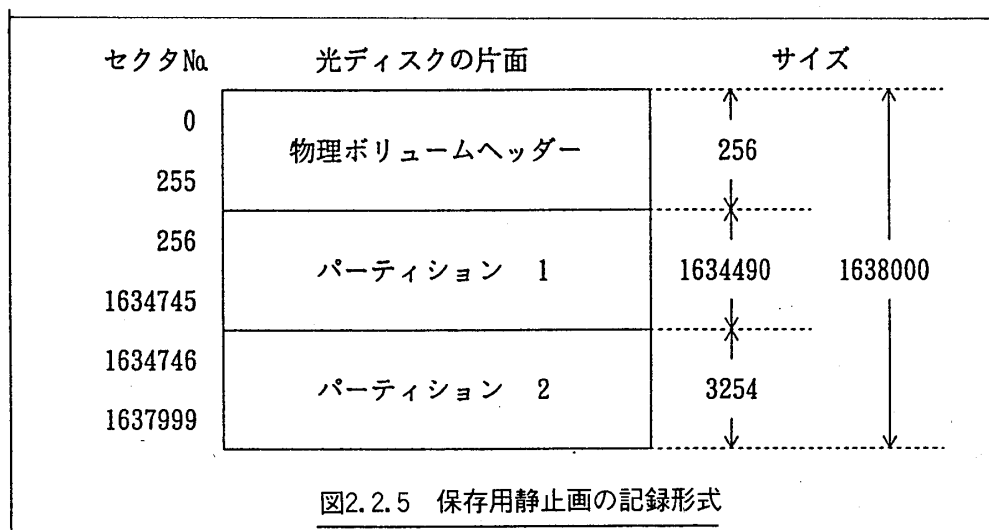
静止画には、保存用のデジタル光ディスクと検索用のアナログ光ディスクがある。

保存用静止画は、検索用静止画の原版として位置づけられており、デジタルで記録されている。保存用静止画は、別途開発済みの静止画入力システムにてデジタル光ディスクに記録され、デジタル光ディスクオートチェンジャー（光ディスクを50枚まで収納可能）に装填され使用される。図2. 2. 5にデジタル光ディスク上での保存用静止画の記録形式を示す。保存用光ディスクの片面は、物理ボリュームヘッダー、パーティション1、パーティション2から構成される。実際の保存用静止画は、パーティション1に記録される。1枚の静止画は、381セクターからなるレコードに記録される。光ディスクの片面には、4290枚の静止画を記録することができる。

検索用静止画は、保存静止画をアナログでコピーしたものである。アナログ化の目的は、光ディスク一枚当りの記録枚数を増やしオートチェンジャーを不要にすること及び静止画再生時

のD/A変換を不要にすることにより、検索時の応答時間を短縮することにある。アナログ光ディスクは、ディスク片面に43500個のフレームがあり、一つの静止画を一つのフレームに記録している。

一つの静止画は、まず保存用静止画としてディジタル光ディスクに記録され、その後、検索用静止画としてアナログ光ディスクにコピーされる。図2.2.6にアナログ光ディスク上での検索用静止画の記録形式を示す。



(4) イメージ

イメージは、電子ファイリング装置を用いて文書用光ディスクに記録された文献や印刷資料の画像データである。

2.3 AMISの構成

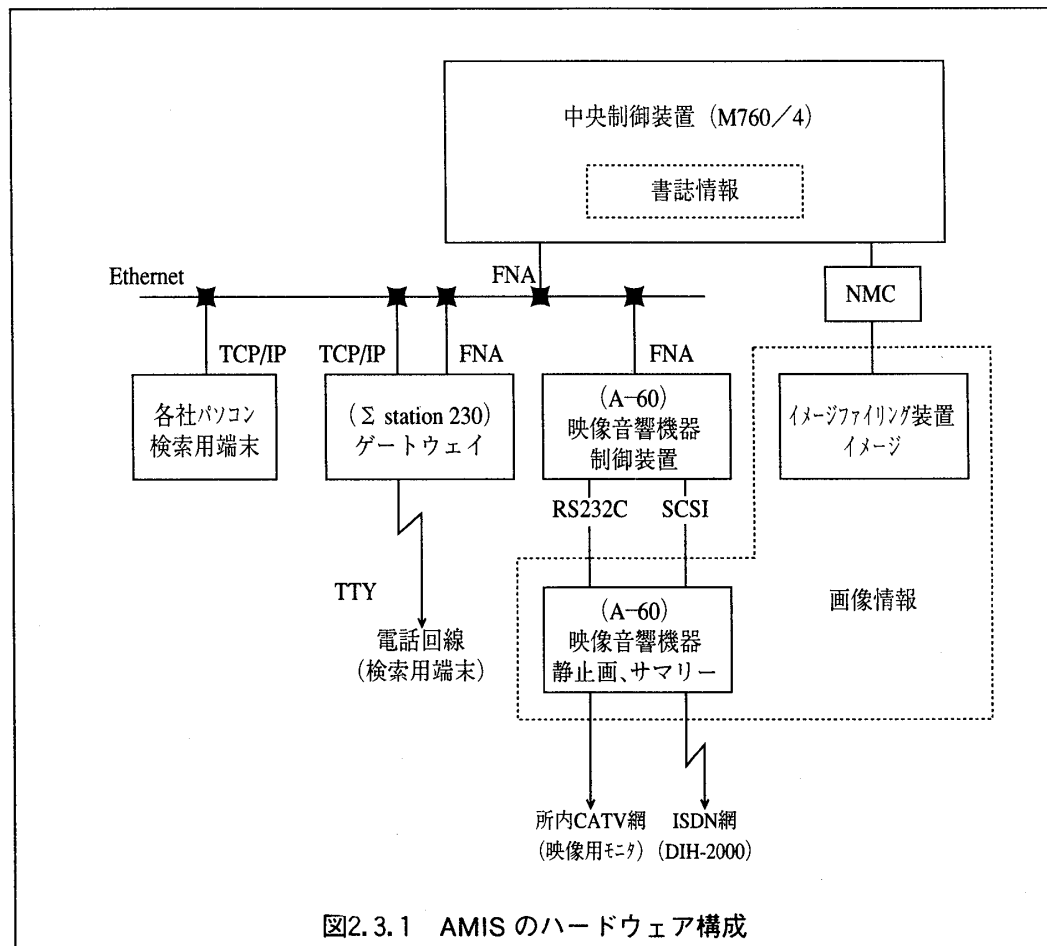
2.3.1 AMISの基本要件

AMISに要求される基本的な機能を以下に述べる。

- (1) 高度、広範な需要に応じるため、
 - ・中央制御装置は、高速、大容量であり、同時に15台以上の端末をサポートできるTSS処理能力を有すること。
 - ・オペレーティング・システム（以下「OS」という。）に漢字が使用できること。
 - ・カラーのグラフィックスとハードコピーによる画像情報処理が利用できること。
 - ・コンピュータネットワークのサーバーとして機能できること。
 - ・N1-NETのプロトコルを提供できること。
- (2) パーソナルコンピュータ（PC）及びワークステーション（WS）の普及に応えるため、
 - ・専用端末と同機能のTSSが、PCを端末として、非同期無手順で行えること。
 - ・PC端末からLAN/WSへの移行を支援すること。
 - ・PCに慣れた研究者の利用を促進するための使いやすい機能を持つこと。
- (3) 情報検索に関して、
 - ・映像音響機器である光ディスク装置、画像伝送装置等と密接な連携をとり、検索された書誌情報に対応する画像をモニタに表示あるいは伝送装置に指示できること。
 - ・情報の蓄積機能、統計情報の収集や機密保護等の運用機能を有すること。
 - ・豊富な検索条件により検索できること。
- (4) 映像音響機器制御に関して、
 - ・中央制御装置と連携し、オンラインで映像音響機器を制御すること。
 - ・配下のTTY端末が、AMISの端末としてフルスクリーンで使用可能なこと。
- (5) イメージ処理に関して、
 - ・中央制御装置と連動して使用可能である高精度なイメージ・ファイリング機能を提供できること。
- (6) 応用システム実現のため、
 - ・OSは、高信頼性を確保しながらUNIXが使用可能であること。
 - ・標準的なツールや人工知能を含む各種言語が使えること。
 - ・豊富な利用者サービス支援ソフトウェアが用意されていること。
- (7) ネットワークシステムとして、
 - ・センター内のネットワーク、Ethernet及び構内回線網に接続すること。
 - ・放送大学学園との連携等、マルチホスト間相互利用機能を有すること。
 - ・ゲートウェイ機能として、現有するPCをEthernetに接続し、AMISの端末として日本語フルスクリーンモードで使用可能なこと。
 - ・次のネットワークへの接続が可能なこと。

学術情報ネットワーク（N1-NET、図書館ネットワーク）、JUNET、BITNET
先に述べたAMISの基本要件を満たすものとして、AMISのハードウェア構成を図2.

3. 1のように決定した。AMISは、中央制御装置、映像音響機器制御装置、画像情報管理を行う映像音響機器及びイメージファイリング装置、通信制御ゲートウェイの5つに大別することができる。以下、各ブロック毎に基本機能及びその構成を示す。



2.3.2 中央制御装置

中央制御装置に要求される基本的な機能を以下に述べる。

(1) 中央演算処理装置 (CPU)

- ①プロセッサ1組当たり5MIPS以上の処理速度を有すること。
- ②各種診断が実施できること。
- ③主システムの供給者が、電話回線を介して遠隔診断を行えること。
- ④短時間の停電が発生しても、CPUのみは運転が継続できること。
- ⑤低消費電力であること。

(2) システムコンソール

システムの監視用として、以下の機能を備えたりモートコンソールを提供すること。

- ①メニューによるオペレーション (コマンド入力等) 環境を提供すること。
- ②メッセージの逆/順検索が可能なこと。
- ③同時に2画面 (メッセージ表示・コマンド入力等) の表示が可能なこと。

(3) 磁気テープ

- ①フルサイズ磁気テープ (2400フィート) が使用可能なこと。
- ②テープの端部を切断したまま、特別の処理をせずにローディングできること。

(4) 磁気ディスク装置

低消費電力であること。

(5) 回線制御装置

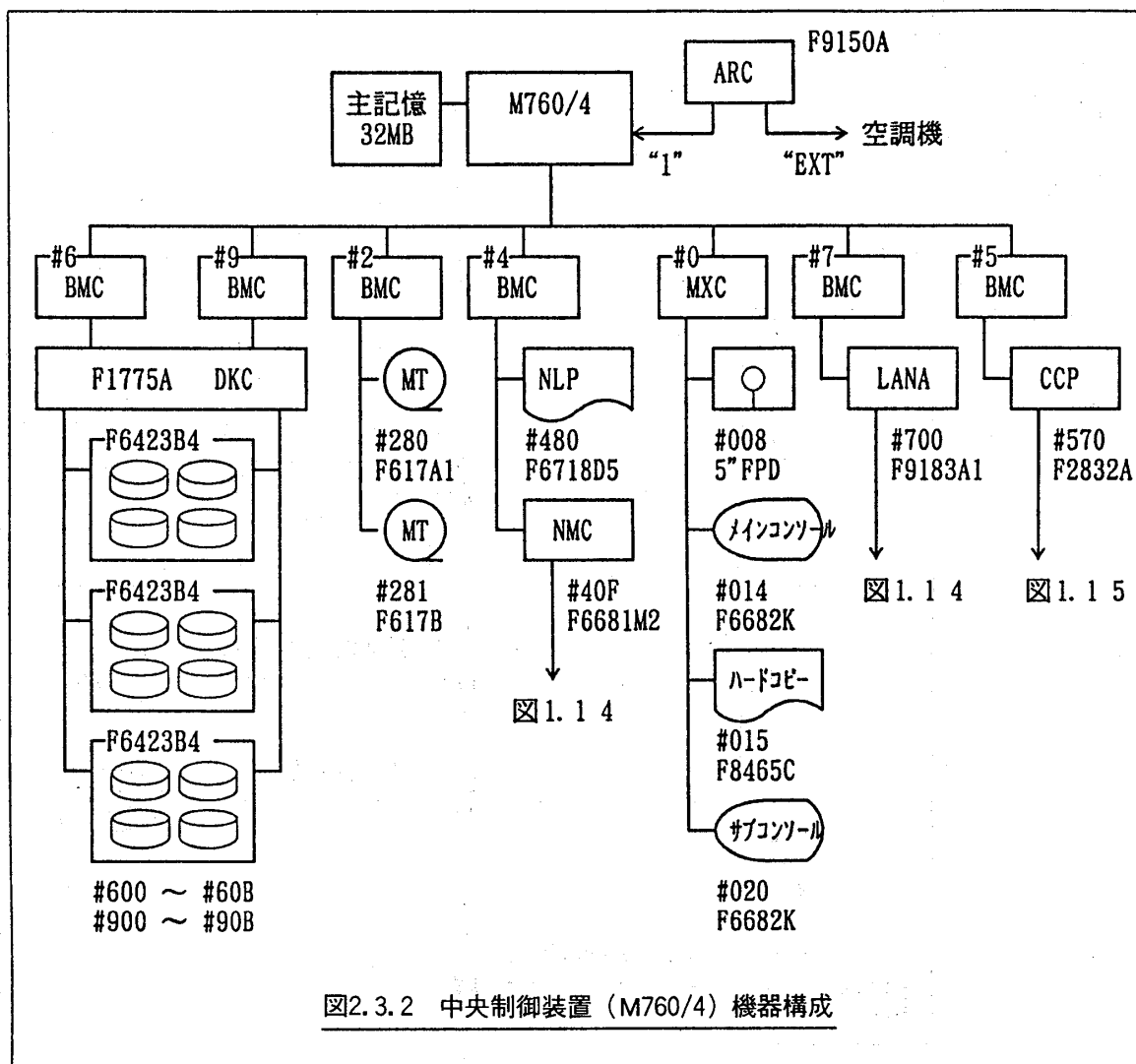
以下の通信を全てサポートすること。

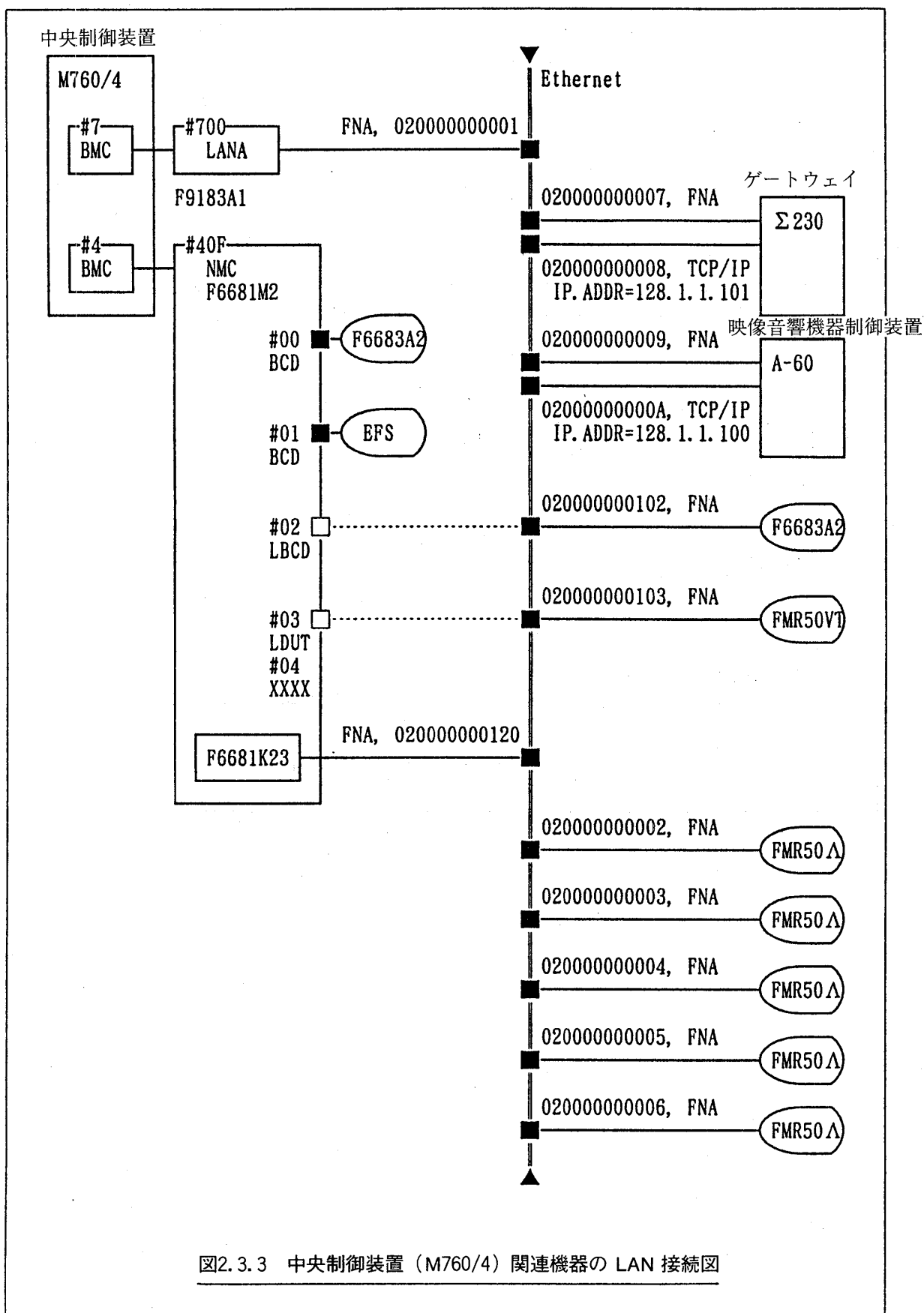
- DDX-P
- DDX-C
- ISDN net64
- 無手順 (センター内) 8ポート
(センター外) 8ポート

(6) 自動運転装置

- ①電源及び室温の異常を検出できるセンサーを備え、必要に応じて主システムを停止/遮断できること。
- ②環境に異常があった場合、指定された場所に警報を発すること。さらに、指定された電話番号に自動的に電話をかけ、音声で異常を通知できることが望ましい。

以上に述べた中央制御装置の基本用件を満たすものとして、中央制御装置 (M760/4) 機器構成を図2.3.2に、また中央制御装置関連機器のLAN接続図を図2.3.3、CCP回線接続図を図2.3.4に示す。





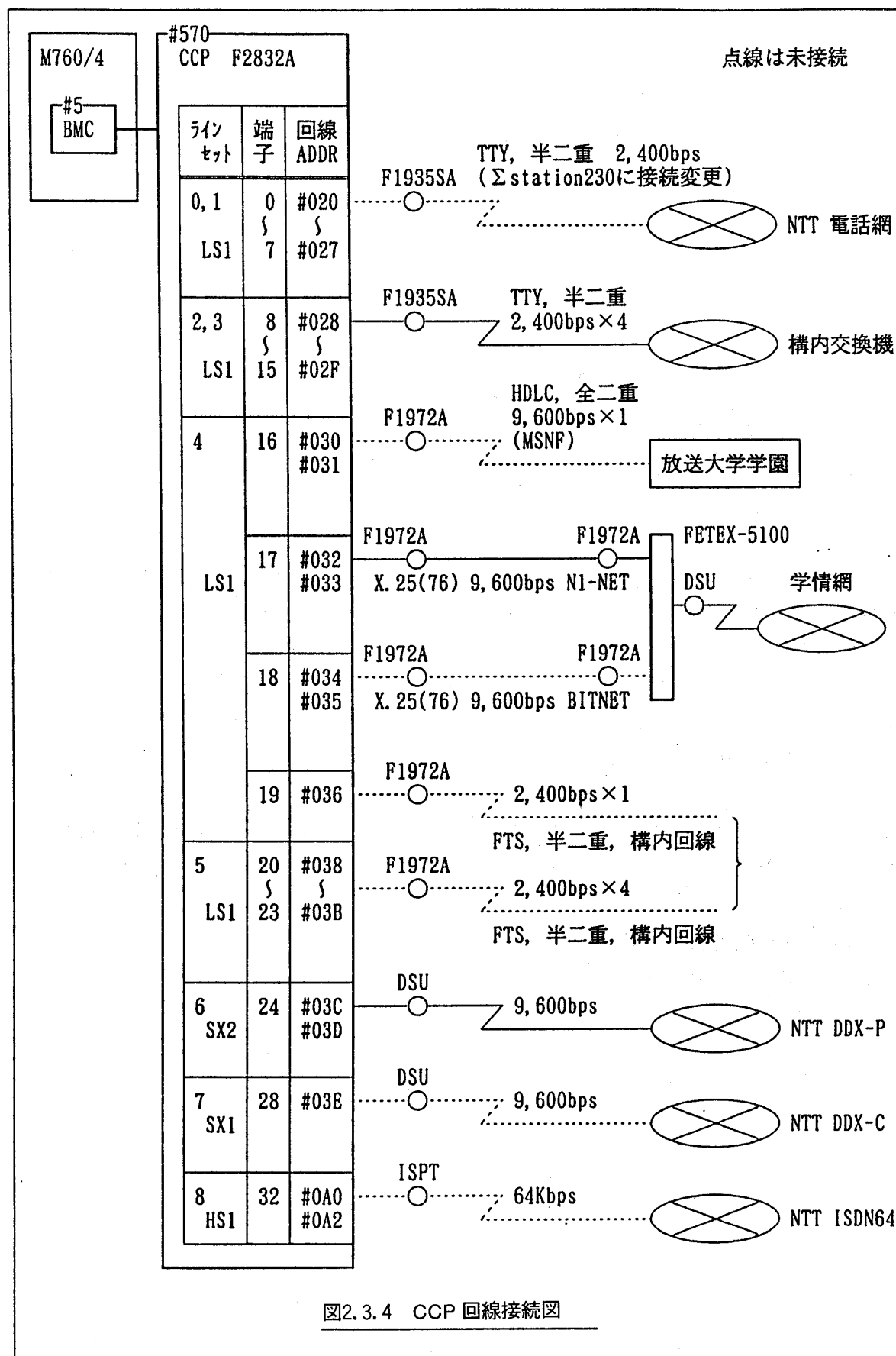


図2.3.4 CCP 回線接続図

2.3.3 映像音響機器制御装置

(1) 光ディスク装置の制御機能

①既設の光ディスク装置（SONY製）と接続し、中央制御装置からの指示により、必要な画像を取り出し、該当する端末に画像を伝送表示できること。

②光ディスク制御装置には、RS232Cを用いて制御するアナログ光ディスク装置とSCSIを用いて制御するデジタル光ディスク装置がある。このため、これらとデータベースとを連動して制御するための機能を提供できること。

(2) フレームメモリの制御

①光ディスク装置の画像出力は、一旦フレームメモリに蓄えられる。利用者1端末当たり2画面分のフレームメモリが割り当てられており、そのうち1画面はフル画面、他の1画面はマルチ画面モードで検索された画面を逐次表示できること。

②利用者端末側の指示により、フル画面モード、マルチ画面モードと表示モードを任意に切り替えられること。

(3) ビデオスイッチの制御

①センター内の画像伝送はCATVを用いるが、利用者のログオンにより、空きチャンネルを割り当て、端末に表示すると共に、以後はビデオスイッチを制御してそのチャンネルに画像を伝送できること。

②ビデオスイッチの制御はRS232Cである。

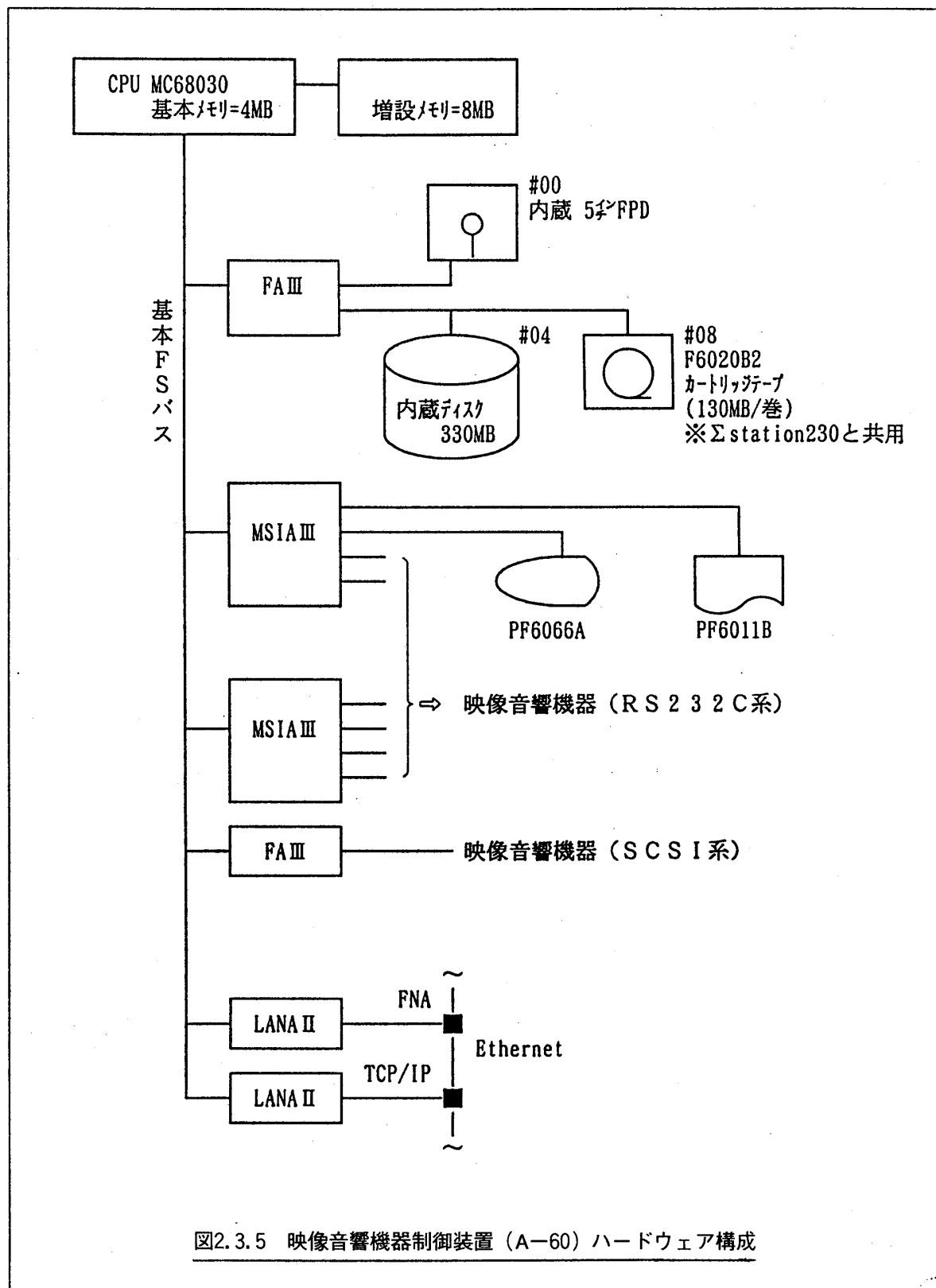
(4) 静止画伝送装置の制御

SCSIにより制御できること。

以上に述べた映像音響機器制御装置の基本用件を満たすものとして、映像音響機器制御装置ハードウェア構成を図2.3.5に示す。

2.3.4 映像音響機器構成図

映像音響機器構成図を図2.3.6に示す。



2.3.5 イメージファイリング装置 (EFS)

- ①データベースの書誌情報と連動した高精度イメージ・ファイリング装置を提案できること。
- ②プリンタに文書を出力できること。
- ③中央制御装置の端末としてのエミュレーション機能を有すること。
- ④マルチウインドウによる並列処理（入力、印刷、検索、編集）が可能なこと。
- ⑤階層構造にファイリングができること。
- ⑥ファイリング体系としてガイドの概念を含んでいること。
- ⑦検索機能としてガイド検索をサポートしていること。
- ⑧複数文書の連続入力、一括登録が可能なこと。
- ⑨FAX出力では、G4、G3をサポートすること。
- ⑩文字入力はかな漢字変換、連文節変換ができること。

以上に述べた映像音響機器制御装置の基本要件を満たすものとして、イメージファイリング装置のハードウェア構成を図2.3.7に示す。

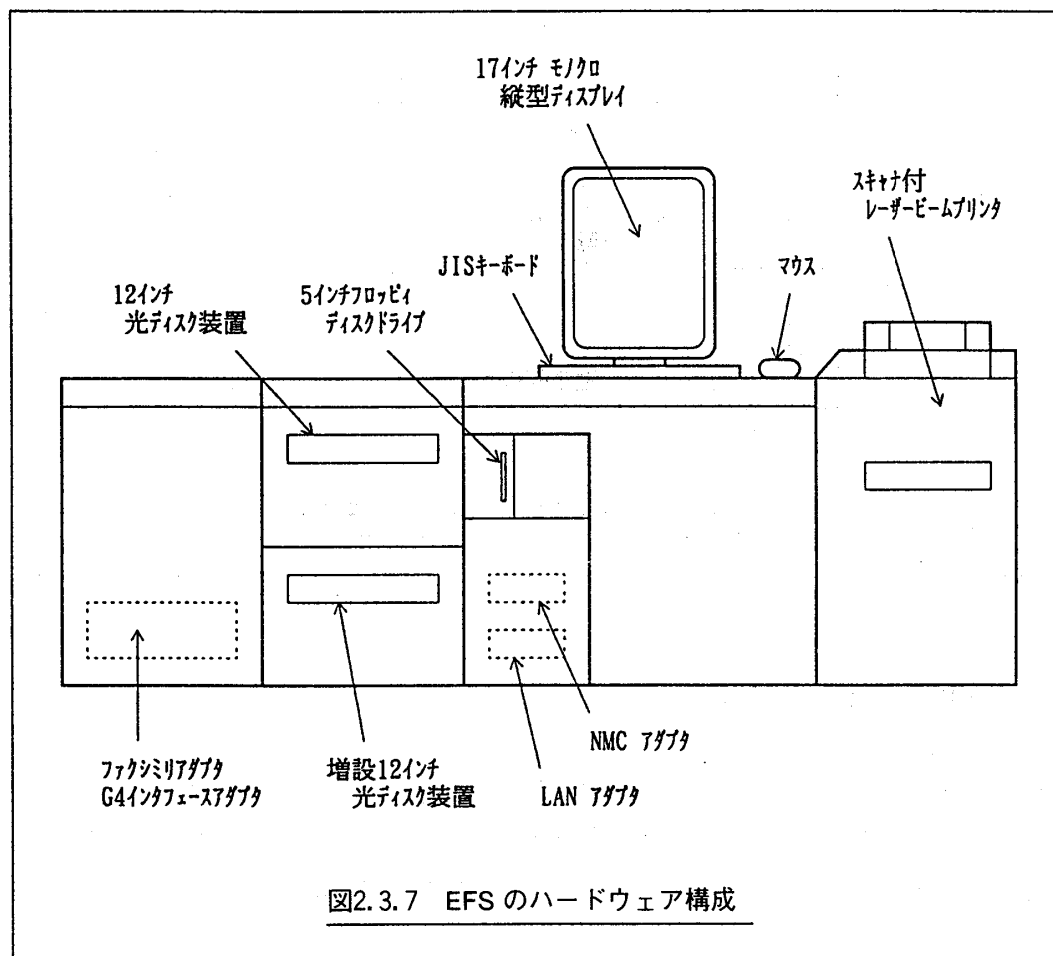
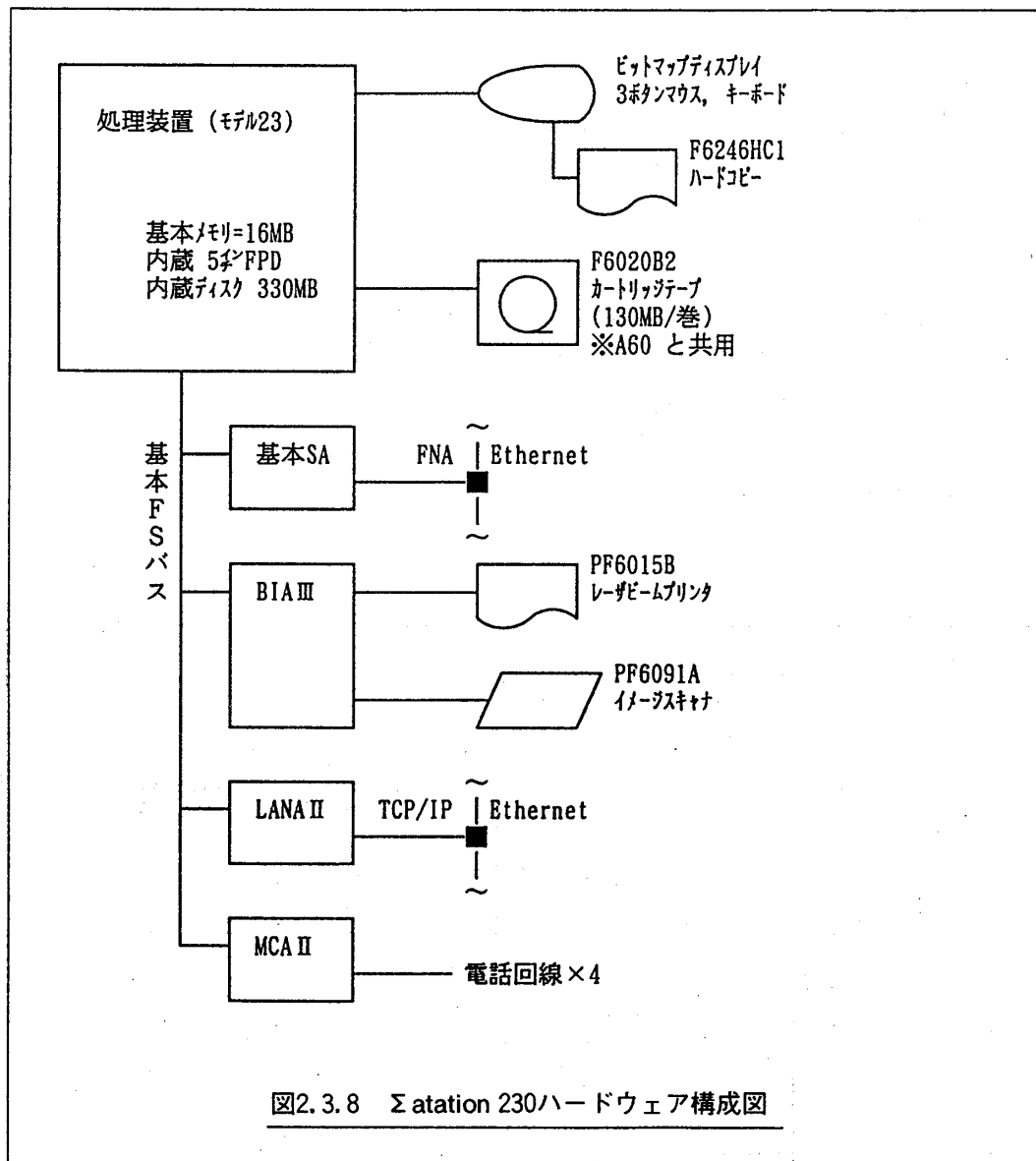


図2.3.7 EFSのハードウェア構成

2.3.6 ゲートウェイ

ゲートウェイのためのΣStation230のハードウェア構成図を図2. 3. 8に示す。



2.3.7 利用者の設備と接続形態

(1) 利用者の設備

利用者は大別して、所在検索を行うための「検索用端末」、映像・音響を再生するための「映像用モニタ」、及びイメージ出力用のFAXがある。センター外部からAMISを利用する場合は、この他に通信回線設備が必要である。表2. 3. 1に機能毎に必要な設備を示す。

表2.3.1 利用者の通信回線設備

利用場所 利用機能	センター内	センター外
所在検索	Ethernet経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・TCP/IP用ボード・ソフト ・Ethernet接続ケーブル 電話回線(内線)経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・モデム	電話回線経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・電話回線 ・モデム DDX-P経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・DDX-P 加入回線 ・DSU 学情網経由の場合 ・加入ホストにより異なる
静止画再生	CATVを使用する ・映像用モニタ	画像伝送装置を使用する ・DIH-2000 ・INSネット64 加入回線 ・映像用モニタ
サマリー再生	CATVを使用する ・映像用モニタ	画像伝送装置を使用する ・DIH-2000 ・INSネット64 加入回線 ・映像用モニタ
イメージ再生	F A X (G3/G4)	F A X (G3/G4)

(2) 接続形態

A M I Sでは、利用者は書誌情報の検索から画像情報の再生に至るまでシステムとの会話はすべて検索用端末を通して行う。検索用端末としては専用端末が望ましいが、一般的なT T Y端末でも使用できるように工夫されている。一般的なT T Y端末の場合は、ゲートウェイ用のW S上の通信ソフトウェアF C A Tでゲートウェイして接続する形態をとる。検索用端末の接続形態と利用できる機能の関係を表2. 3. 2に示す。

表2.3.2 検索端末の接続形態

機 能			検索用端末（TTY端末）の接続形態	
			F C A T経由	F C A T未経由
本システムの 提供機能	所在検索		○	×
	静止画再生		○	×
	サマリー再生		○	×
	イメージ再生		○	×
F A I R S - I の提供機能	条件検索		○	○
	B R O W S E機能		○	○
	外部 カタログ 機能	作成	×	×
		実行	○	○
	カタログ 機能	作成	○	○
		実行	○	○
	E F S連携	F A X送信	○	○
		印刷	○	○
	その他		○	○

○：その機能に必要な資格・設備があれば利用できることを示します。

×：設備に関係なくその機能は使用できないことを示す。

F A I R S - I 提供機能の詳細は、F A I R S - I のマニュアルを参照して下さい。

2.4 AMISの機能

AMISの機能体系を図2.4.1に示す。AMISはその機能面から、検索サブシステム、DB運用サブシステム、管理サブシステムの3つに大別される。中央制御装置におけるプログラム関連図を図2.4.2に、映像音響機器制御装置におけるプロセス構成図を図2.4.3に示す。AMISの各機能の概要を以下に説明する。

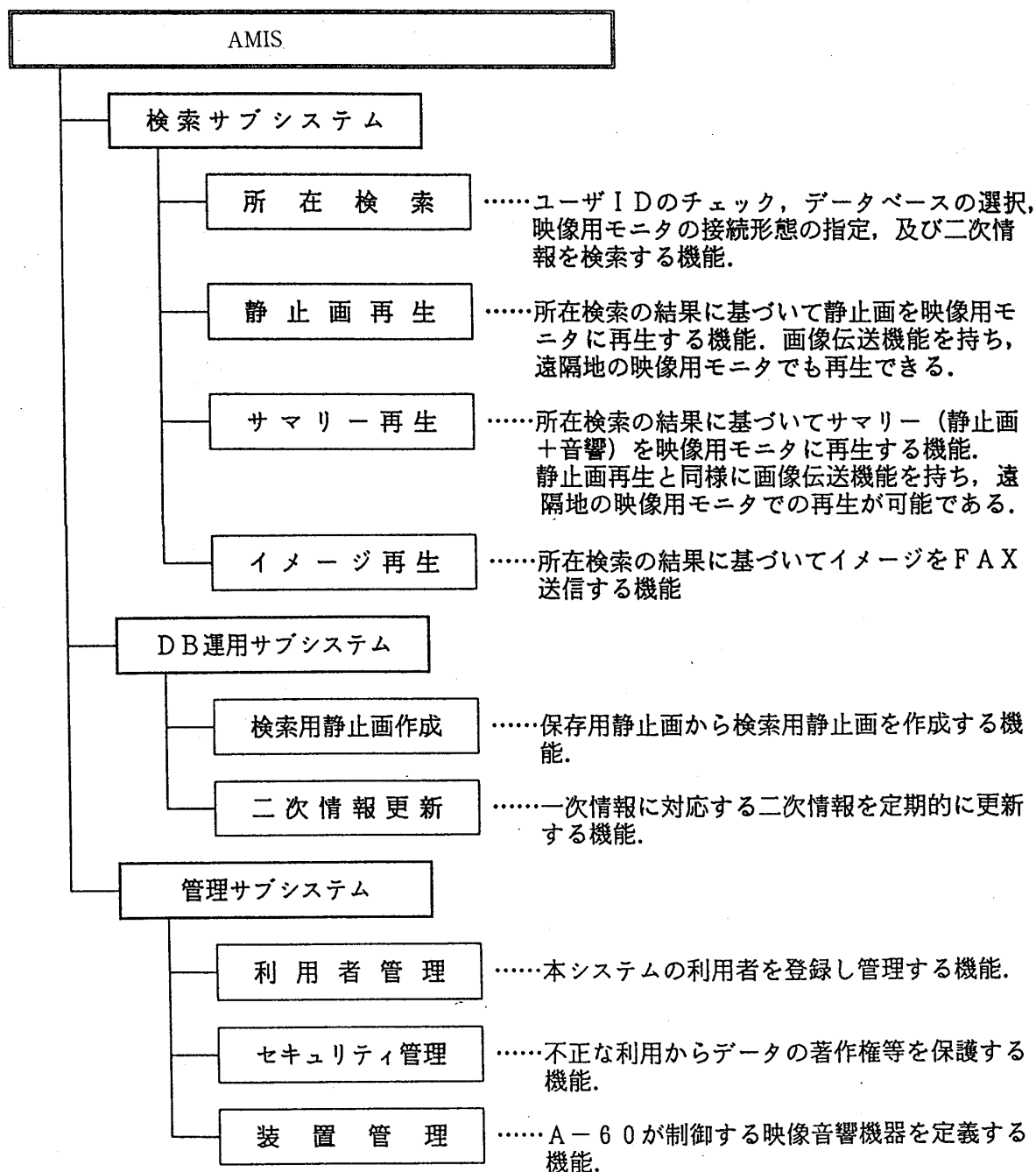
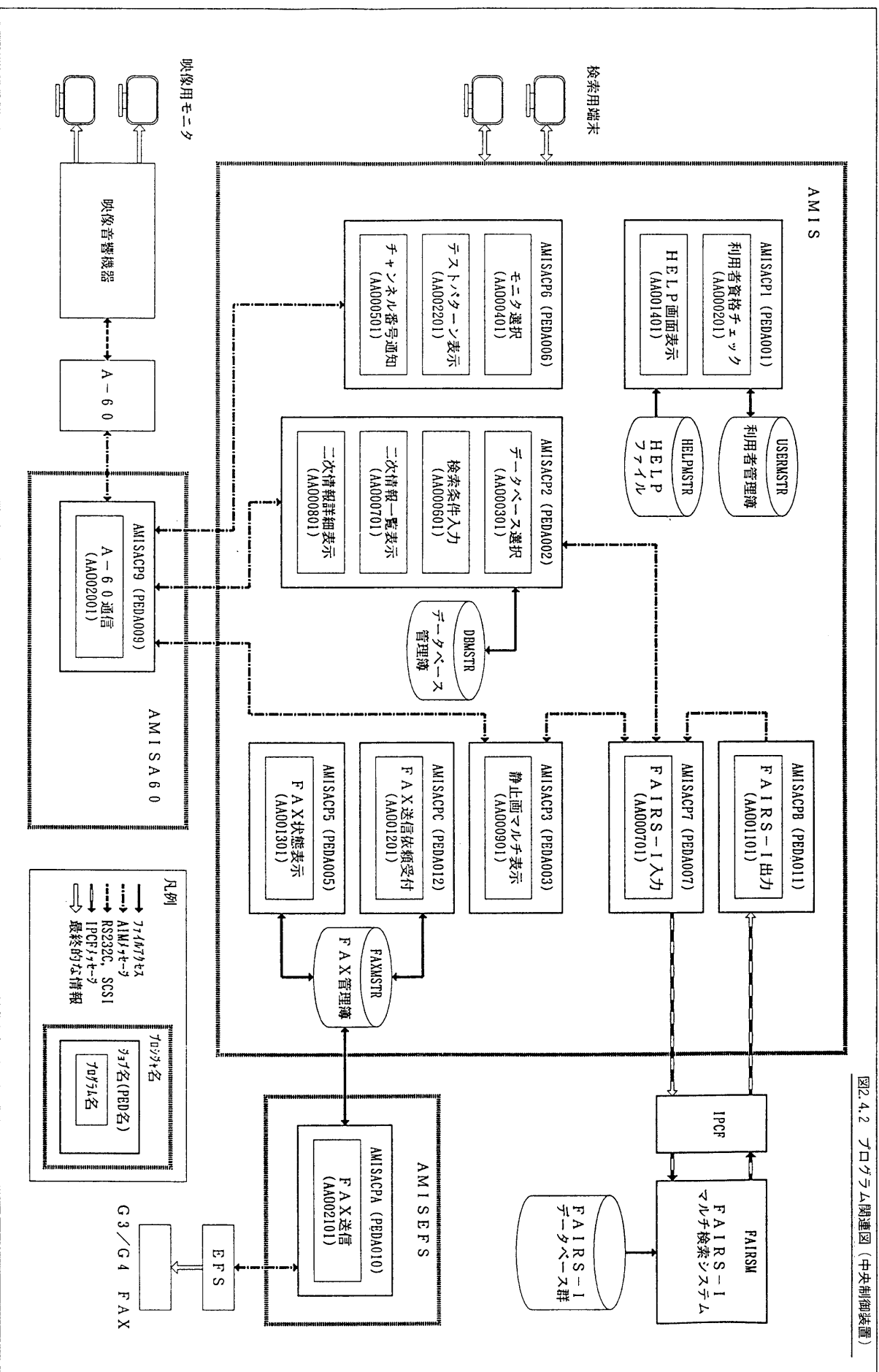
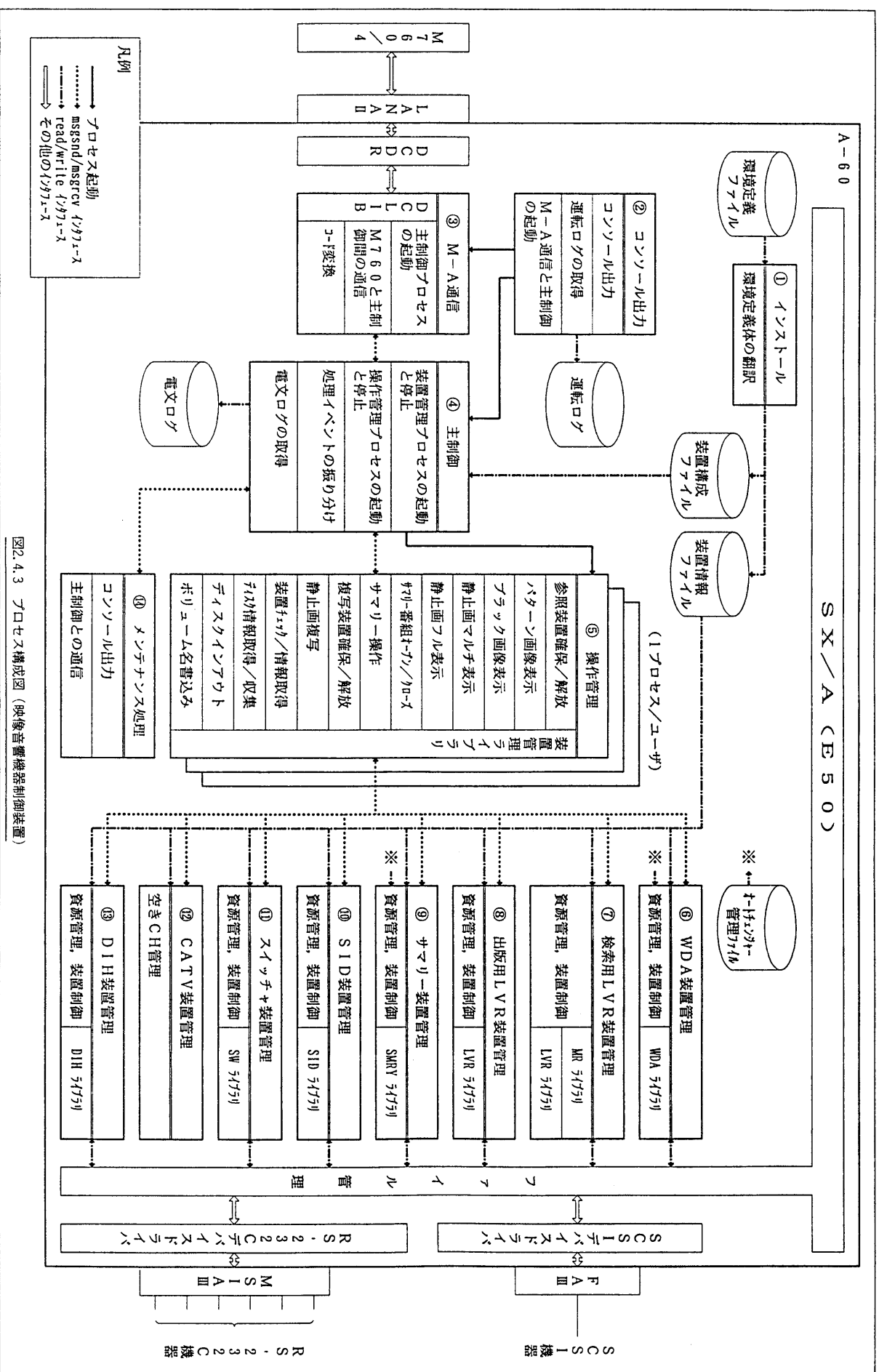


図2.4.1 AMIS 機能体系

図2.4.2 プログラム関連図 (中央制御装置)





2.4.1 検索サブシステム

検索サブシステムは、利用者に検索サービスを提供するものであり、所在検索、静止画再生、サマリー再生、イメージ再生の4つの機能を有する。

(1) 所在検索

所在検索は、利用者IDのチェック、データベースの選択、映像用モニタの接続形態の指定、及び書誌情報の検索を行う機能である。以下にその詳細を説明する。

①利用者IDの確認

- ・利用者がAMISに接続する際に、利用者IDとパスワードの正当性をチェックする。
- ・正しい利用者IDとパスワードを提示した場合は、パスワードを変更することができる。
- ・利用者に与えられている権限の範囲で任意にデータベースを選択できる。

②画像の表示

・静止画、又はサマリーを表示される場合、利用者は所在検索を行うための端末（検索用端末）とは別に映像表示用のモニタ（映像用モニタ）を用意する必要があるが、映像用モニタの接続形態として、所内のCATV網に接続する形態と、所外からISDN回線と画像伝送装置を経由して接続する形態の二種類がサポートされている。

・表示用モニタがISDN回線経由の場合、接続のためのダイヤリングはAMISが必要なタイミングで自動的に行う。

・利用者のISDN回線の加入者番号は事前にシステムに登録しておくが、一時的に変更することもできる。

・映像用モニタを選択した場合、使用に先立って、確認用のテストパターンで所定のチャンネルに正しく接続されているか確認することができる。

・静止画、又はサマリーを持つデータベースを選択したからといって必ずしも映像用モニタを用意する必要はなく、検索用端末だけで書誌情報のみを検索するといった利用形態もとれる。

③検索機能

・選択したデータベースを条件検索することができる。

・検索の結果得られた集合には集合番号が自動的に与えられ、一回の接続で最大100個まで記憶される。

・検索用コマンドとして、新たな集合を作るSEARCH、条件を付加して絞り込みを行うAND、条件を緩めて対象を広げるOR、否定条件で対象を検索するNOT、及び集合内のデータを並べ替えるSORTを使用することができる。

・検索して得られたデータは一覧形式、及び一件毎の詳細形式で画面に表示することができる。

・必要なときにHELP画面を表示させることができる。

(2) 静止画再生

静止画再生は、所在検索の機能に基づいて静止画を映像用モニタに再生する機能、及び画像伝送機能を持ち、遠隔地の映像用モニタでも再生を可能とするものである。以下にその詳細を説明する。

・所在検索で得た集合に対応する静止画を映像用モニタで見ることができる。

- ・映像表示モードとして、画面に一つの静止画を表示するフル画面表示と、画面に九つの縮小された静止画を表示するマルチ画面があり、検索用端末から任意に指定することができる。

- ・フル画面表示、マルチ画面表示共に検索用端末で前後の静止画に切り替えることができる。

- ・検索用端末には映像用モニタに表示中の静止画に対応する書誌情報が表示される。

(3) サマリー再生

サマリー再生は、所在検索の結果に基づいてサマリー（静止画＋音響）を映像用モニタに再生する機能である。静止画再生と同様に画像伝送機能を持ち、遠隔地の映像用モニタでの再生が可能である。以下にその詳細を説明する。

- ・所在検索で得られた集合に対応するサマリーを映像用モニタで見ることができる。

- ・映像表示モードとして、画面に一つの静止画を表示するフル画面表示と、画面に九つの縮小された静止画を表示するマルチ画面があり、検索用端末から任意に指定することができる。

- ・サマリーの再生モードとして、S F A再生、順方向ステップ再生、先頭表示、最終表示等が用意されており、検索用端末から任意に指定することができる。

- ・検索用端末には映像用モニタに再生中のサマリーに対応する書誌情報が表示される。

(4) イメージ再生

イメージ再生は、所在検索の結果に基づいてイメージをF A Xで送信する機能である。以下にその詳細を説明する。

- ・所在検索で得られた集合に対応する文献や印刷物のイメージ情報をF A Xに出力することができる。

- ・F A Xの出力状態を検索用端末で確認することができる。

2.4.2 D B運用サブシステム

D B運用サブシステムは、データベースの維持、更新を行うための機能をデータベース管理者に提供するものであり、検索用静止画作成、書誌情報更新の機能を有する。

(1) 検索用静止画作成

検索用静止画作成は、保存用静止画から検索用静止画を作成する機能で、保存に適したデジタル光ディスクに記録された保存用静止画を検索に適したアナログ光ディスクにコピーする。

(2) 書誌情報更新

書誌情報更新は、画像情報に対応する書誌情報を定期的に更新する機能で、メインフレーム上のデータベースを定期的にメンテナンスする。

2.4.3 管理サブシステム

管理サブシステムは、システムを不正な使用から保護すること、及び映像音響機器の装置構成を管理することを目的として作成されたものであり、利用者管理、セキュリティ管理、装置管理の機能を有する。

(1) 利用者管理

利用者管理は、A M I Sの利用者を登録し管理する機能であり、A M I Sの利用者、及び利

用者が属するグループの権限や属性を管理する。

(2) セキュリティ管理

セキュリティ管理は、データベースに登録された情報の著作権等を保護する機能であり、利用者に与えられた権限とデータに設定された機密保護のレベル（アクセスレベル）を比較し、不正な使用を防止する。

(3) 装置管理

装置管理は、画像制御装置が制御する映像音響機器を定義する機能であり、映像音響機器の構成をシステムに登録する。映像音響機器の構成に変更が生じた場合は、映像音響機器制御装置上の環境定義ファイルを修正して登録用のプログラムを実行する。

3. データベースの構築と運用

3.1 データベースのシステム環境

3.1.1 FAIRS-Iシステム環境

AMISでは、DBMS（データベースマネジメントシステム）として、FAIRS-Iを使用している。AMISのシステム環境として、まず、FAIRS-Iシステム環境を設定す

表3.1.1 FAIRS-Iシステム環境

No.	項 目	AMISの設定
1	システム管理者の利用者識別番号	AMIS
2	システム管理者のコマンドクラス	未設定 FAIRS 起動時のコマンドクラス検査なし.
3	システム管理者が利用できるコマンド	すべてのコマンドを使用可能
4	TSS 配下使用時の利用者識別番号入力方法	TSSのユーザIDをFAIRSコマンドのUSERオペランドに自動的に入力する.
5	利用者が利用できる出力クラス名と文字種別	クラス: A, J 文字別: 英大文字, 数字, カナ文字, 日本語(A, J共)
6	ファイル新規割当時の標準装置指定名	SYSDA
7	システム会計・統計情報の収集有無	システム会計情報: 収集する システム統計情報: 収集する
8	ソートマージプログラムのレベル等	V4以上, 漢字ソートあり
9	フルスクリーン端末使用時の初期画面表示有無	表示する.
10	パスワード誤入力時の再入力可能回数	3 回
11	言語種別 (日本語 or 英語)	日本語
12	利用者作成カタログ, プロファイルに対するシステム管理者の権限	参照, 消去とも不可.
13	本FAIRS システムの識別文字列	26
14	EFS 文書情報出力機能に関する指定 AIM のバージョン 出力依頼プログラムのプロシジャ名 " MQN 名 出力依頼時間の間隔 (1~60秒) TYPEオペランドの省略可否	V12 FAIRSP FAIRSM 30秒 可

る。FAIRS-Iシステム環境としては、管理者の利用者識別番号、パスワード誤入力時の再入力可能回数、言語種別、イメージ・ファイリング用光ディスク装置（EFS）に関する指定等を決定する。AMISのために設定したFAIRS-Iのシステム環境を表3.1.1に示す。

表3.1.2 磁気ディスクボリームの用途

装置機番	ボリューム通し番号	マウント属性	用 途
#600, #900	SYSRES	PRIVATE	・OS
#601, #901	SYSCAT	PRIVATE	・OS ・マスタカタログ
#602, #902	WORK01	STOREGE	・WORK ・スプール ・ページデータセット
#603, #903	WORK02	STOREGE	
#604, #904	USER01	PRIVATE	・ユーザカタログ ・センター共用ファイル ・AMIS（管理系ファイル）
#605, #905	USER02	PRIVATE	・AMIS（国内映像資料情報）
#606, #906	USER03	PRIVATE	・AMIS（映像・音響完成教材）
#607, #907	USER04	PRIVATE	・AMIS（素材静止画）
#608, #908	USER05	PRIVATE	・AMIS（文献・資料）
#609, #909	USER06	PRIVATE	・図書業務
#60A, #90A	USER07	PRIVATE	・研究開発用共用ボリューム
#60B, #90B	USER08	PRIVATE	

3.1.2 システムファイル環境

FAIRS-Iのシステム環境として、表3.1.1に示す設定を保存したり、その他様々な環境設定を行うために、システム管理ファイル、データベース管理ファイル等様々なシステムファイルが必要である。表3.1.2にシステムファイル構成を示す。表中、カタログファイルと共通外部カタログファイルは、AMISを経由しないで、FAIRS-Iデータベースを直接検索する利用者、すなわち、TSS配下でFAIRS-Iを起動して検索を行う利用者だけが使用できるファイルである。

表3.1.3 ファイル構成

No.	ファイルの種類	用 途	区分	作成方法	ファイル名
1	システム管理 ファイル	他のファイル情報を 格納する。	必須	JCL, PFD 等で割 り当てる。	AMIS. FAIRS. SYS
2	システム定数 ファイル	FAIRS システムの動 作環境情報を格納す る。	必須	JCL, PFD 等で割 り当てる。	AMIS. FAIRS. SCF
3	機密保護情報 管理ファイル	FAIRS システムの利 用に関する機密保護 情報が格納される。	必須	SECURITYマクロ で記述し, FAIR SGENで作成する	AMIS. FAIRS. SEC
4	データベース 管理ファイル	本FAIRS システムに 登録されたデータベ ース情報を格納する	必須	DBDDマクロで記 述し, FAIRSGEN で作成する。	AMIS. FAIRS. DBD
5	システム会計 情報ファイル	課金情報を格納する	選択	ACCTマクロで記 述し, FAIRSGEN で作成する。	AMIS. FAIRS. ACT
6	システム統計 情報ファイル	FAIRS システムの利 用統計情報を格納す る。	選択	STATISマクロで 記述し, FAIRSGE N で作成する。	AMIS. FAIRS. STS
7	カタログ ファイル	利用者が作成したカ タログが格納される	選択	CATALOG マクロ で記述し, FAIRS GEN で作成する	AMIS. FAIRS. CAT
8	共通外部カタ ログファイル	全利用者が共通に使 用できるカタログを 格納する。	選択	JCL, PFD 等で割 り当てる。	AMIS. FAIRS. COMCAT

表3.1.4 AMIS の主要ファイル

分類	ファイル内容	ファイル名		編成	ボリューム	備考	
A I M 環 境	AIM環境定義ソース	NIME	AIM	ADL	PO	USER01	
	DCAT			DCAT1	PS	USER01	
				DCAT2	PS	USER01	
	AIMディレクトリ			DRCT	PO	USER01	
	SSF			SSF	PS	USER01	
	履歴ログファイル 1			SIS. HLF1	PS	USER01	
	履歴ログファイル 2			SIS. HLF2	PS	USER01	
	履歴ログファイル 3			SIS. HLF3	PS	USER01	
	バックアップファイル			SIS. BOF	PS	USER01	
	ACPジョブ起動JCL			JCL	PO	USER01	

(続く)

(続き)

分類	ファイル内容	ファイル名		編成	ボリューム	備考	
	バックアップファイル			SIS, BOF	PS	USER01	
	ACPジョブ起動JCL			JCL	PO	USER01	
	リカバリジョブ起動JCL			JCLCAT	PO	USER01	
	フォーマットライブラリ			FLIB	PO	USER01	
自動化	オペレーション・プロシジャ	NIME	AOP	OPLIB	PO	USER01	
	オペレーション・マクロライブラリ			OPMAC	PO	USER01	
AMIS 業務プログラム環境	コマンドプロシジャ	AMIS	APP	CLIST	PO	USER01	
	JCLライブラリ			JCL	PO	USER01	
	YPSソース			YPS	PO	USER01	
	COBOLソース			COBOL	PO	USER01	
	COPYライブラリ			COPY	PO	USER01	
	ロードモジュール			LOAD	PO	USER01	
	画面定義体ソース			PSAM	PO	USER01	
	YPS 基本名標			MEIHYO	PS	USER01	
	YPS 基本構文			KBNBASE3	PS	USER01	
	YPS 基本構文DC用			KBNDIC	PS	USER01	
FAIRS ・I 関連ファイル	システム定数ファイル	AMIS	FAIRS	SCF	DB	USER01	
	システム管理ファイル			SYS	DB	USER01	
	機密保護管理ファイル			SEC	DB	USER01	
	データベース管理ファイル			DBD	DB	USER01	
	システム会計情報ファイル			ACT	DB	USER01	
	システム統計情報ファイル			STS	DB	USER01	
	カタログファイル			CAT	DB	USER01	
	外部共通カタログファイル			COMCAT	PO	USER01	
AMIS 管理系ファイル	データベース管理簿	AMIS	DB	MSTR	VSAM	USER01	
	利用者管理簿		USER	MSTR	VSAM	USER01	
	FAX管理簿		FAX	MSTR	VSAM	USER01	
	電子出版管理簿		PUBL	MSTR	VSAM	USER05	
				ITEM	VSAM	USER05	
	HELPファイル		HELP	MSTR	VSAM	USER01	
	時間監視ログファイル		TIME	MSTR	PS	USER01	

(続く)

(続き)

分類	ファイル内容	ファイル名			編成	ボリューム	備考
国内映像資料情報	原データ受信ファイル	AMIS	JEMISS	PEXPORT	PS	USER01	
	論理構造ファイル			LRSFILE, L01	DB	USER02	
	サブファイル			JEMSUB01, S01	DB	USER02	
	DB会計情報ファイル			ACCTFILE, A01	DB	USER01	
	DB統計情報ファイル			STATFILE, T01	DB	USER01	
映像・音響完成教材	原データ受信ファイル	AMIS	KYOZAI	PEXPORT	PS	USER01	
	論理構造ファイル			LRSFILE, L01	DB	USER03	
	サブファイル			KYOSUB01, S01	DB	USER03	
	DB会計情報ファイル			ACCTFILE, A01	DB	USER01	
	DB統計情報ファイル			STATFILE, T01	DB	USER01	
素材静止画	原データ受信ファイル	AMIS	SOZAI	PEXPORT	PS	USER01	
	論理構造ファイル			LRSFILE, L01	DB	USER04	
	サブファイル			SOZSUB01, S01	DB	USER04	
	DB会計情報ファイル			ACCTFILE, A01	DB	USER01	
	DB統計情報ファイル			STATFILE, T01	DB	USER01	
文献・資料	原データ受信ファイル	AMIS	SHIRYO	PEXPORT	PS	USER01	
	論理構造ファイル			LRSFILE, L01	DB	USER05	
	サブファイル			SHISUB01, S01	DB	USER05	
	DB会計情報ファイル			ACCTFILE, A01	DB	USER01	
	DB統計情報ファイル			STATFILE, T01	DB	USER01	

3.1.3 システム生成用JCL

AMISのシステム環境を決定後、これに従ってシステム生成用JCL'FAIRSGEN'を作成、実行する。

①システム生成用JCLの登録先

システム生成用JCL'FAIRSGEN'は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	FAIRSGEN

②システム生成用JCL'FAIRSGEN'の内容

システム生成用JCL'FAIRSGEN'の内容を図3.1.1に示す。

図3.1.1 システム生成用 JCL 'FAIPSGEN'

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//FAIRSGEN JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I ) システム セイセイ ヨウ JCL */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=KDJBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=(NEW,CATLG),UNIT=SYSDA,SPACE=(2048,(6)),
// VOL=SER=USER01,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=(NEW,CATLG),UNIT=SYSDA,SPACE=(6144,(4,,1)),
// VOL=SER=USER01,DSN=AMIS.FAIRS.SCF,
// DCB=(DSORG=PO,RECFM=U,BLKSIZE=6144)
//*****
//* STEP2 : INITIALAIZATION OF SYSTEM MANAGEMENT FILE */
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRSS1,REGION=768K
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
//FAIRSSYS DD DISP=OLD,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//*****
//* STEP3 : FAIRSGEN ( FAIRS GENERATION ) */
//*****
//STEP3 EXEC PGM=FAIRSGEN,REGION=1024K,DYNAMNBR=10
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
//SYSLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMAC
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSSCF DD DISP=OLD,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS CENTID=AMIS,
UIDTYPE=TSS,
SCLASS=((A,5),(J,5)),
ACCT=(YES),
STATIS=YES,
SORT=(V4+JEF,6,SYSDA,NOF),
UNIT=SYSDA,
SCREEN1=YES,
PROMPT=3,
FUNC=JAPANESE,
TLANG=NO,
SLANG=NO,
SHOWCAT=ALL,
QNAME=26,

```

C
C
C
C
C
C
C
C
C
C
C

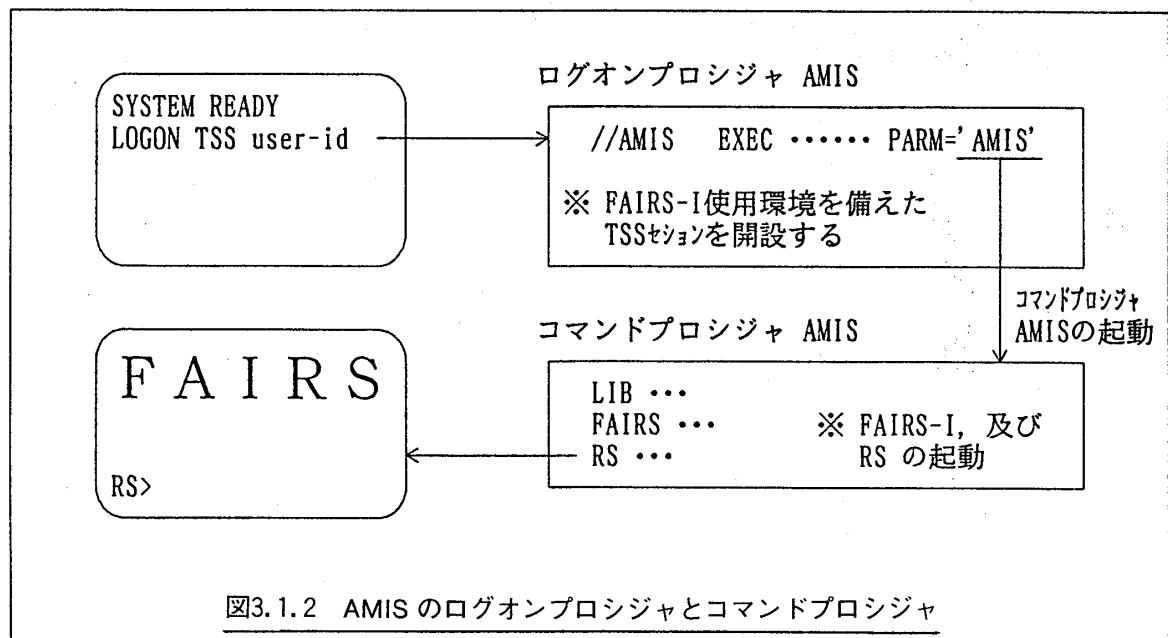
(続く)

(続き)

	1	2	3	4	5	6	7
		OPTDISK=NO,					C
		WSTIME=30, TYPE=1, AIM=(AIM, V12, FAIRSP, FAIRSM)					
DBDD		DSNAME=AMIS. FAIRS. DBD, VOLUME=USER01,					C
		SPACE=500					
SECURITY		DSNAME=AMIS. FAIRS. PSW, VOLUME=USER01,					C
		SPACE=500					
ACCT		DSNAME=AMIS. FAIRS. ACT, VOLUME=USER01,					C
		SPACE=(TRK, 200, 1)					
STATIS		DSNAME=AMIS. FAIRS. STS, VOLUME=USER01,					C
		SPACE=(TRK, 200, 1)					
CATALOG		DSNAME=AMIS. FAIRS. CAT, VOLUME=USER01,					C
		SPACE=(500)					
	/*						
	//						

3.1.4 ログオンプロシジャとコマンドプロシジャ

AMISを経由せずに、FAIRS-Iを直接使用してデータベースを検索する利用者のためのログオンプロシジャとコマンドプロシジャを準備する。これらプロシジャは、FAIRS-Iを使用するための環境を備えたTSSセッションを開設し、開設後、FAIRS-IとRSを自動的に起動する働きをする。図3. 1. 2にAMISのログオンプロシジャとコマンドプロシジャの関係を示す。



(1) ログオンプロシジャ

①ログオンプロシジャの登録先

ログオンプロシジャ 'AMIS' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
SYS2.PROCLIB	AMIS

②ログオンプロシジャ 'AMIS' の内容

ログオンプロシジャ 'AMIS' の内容、及び内容の説明を図3. 1. 3に示す。

図3.1.3 ログオンプロシジャ

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----	
/*	
/*	
/*	AMIS PROCEDURE
/*	
/*	THIS PROCEDURE IS ALLOWED TO USE ACCOUNT COMMAND
/*	
/*	*****
//AMIS	PROC ①
//AMIS	EXEC PGM=KEQEFT01, DYNAMNBR=200, PARM=' AMIS' ②
//STPCAT	DD DSN=NIME. UCAT, DISP=SHR ③
//STEPLIB	DD DSN=PP1. IRL. CMD, DISP=SHR ④
//SYSPROC	DD DSN=AMIS. APP. CLIST, DISP=SHR ⑤
//SYSHELP	DD DSN=SYS1. HELP, DISP=SHR ⑥
//SYSUADS	DD DSN=SYS1. UADS, DISP=SHR ⑦
//SYSLBC	DD DSN=SYS1. BRODCAST, DISP=SHR ⑧
//SYSPRINT	DD TERM=TS, SYSOUT=A ⑨
//SYSIN	DD TERM=TS ⑩
//SYSTSPRT	DD TERM=TS, SYSOUT=A ⑪
//SYSTSIN	DD TERM=TS ⑫
//FAIRSSYS	DD DSN=AMIS. FAIRS. SYS, DISP=SHR ⑬
//FAIRSSCF	DD DSN=AMIS. FAIRS. SCF, DISP=SHR ⑭
//FAIRSPRC	DD DSN=AMIS. FAIRS. COMCAT, DISP=SHR ⑮
//FAIRSMMSG	DD DSN=PP1. IRL. FAIRSMMSG, DISP=SHR ⑯
//FAIRSJWD	DD DSN=PP1. IRL. FAIRSJWD, DISP=SHR ⑰

- ① PROC文 : ログオンプロシジャの開始を示す文。
- ② EXEC文 : ターミナルモニタプログラムを起動するためのEXEC文。
PARMパラメタに指定した“AMIS”は利用者がログオンした直後に実行するコマンドプロシジャ名。
- ③ STEPCAT DD文 : 起動されたTSS セッションが参照するVSAMユーザカタログ。
- ④ STEPLIB DD文 : FAIRS-Iのコマンドが格納されているデータセット。
- ⑤ SYSPROC DD文 : コマンドプロシジャを作成したデータセット。
- ⑥ SYSHELP DD文 : TSSのHELPメッセージが格納されているデータセット。
- ⑦ SYSUADS DD文 : TSSのユーザ登録簿を指定する。
- ⑧ SYSLBC DD文 : TSSのプロッドキャストデータセットを指定する。
- ⑨ SYSPRINT DD文 : TSSセッション下で実行するコンパイラ, ユーティリティ等の出力データセット。TERM=TSは端末に出力することを示す。
- ⑩ SYSIN DD文 : TSSセッション下で実行するコンパイラ, ユーティリティ等の入力データセットを指定する。TERM=TSは端末から入力することを示す。
- ⑪ SYSTSPRT DD文 : TSSセッション下で実行する各種コマンドのメッセージ出力先。TERM=TSは端末に出力することを示す。
- ⑫ SYSTSIN DD文 : TSSセッション下で実行する各種コマンドの入力元。TERM=TSは端末に表示することを示す。
- ⑬ FAIRSSYS DD文 : FAIRS-Iのシステム管理ファイル。
- ⑭ FAIRSSCF DD文 : FAIRS-Iのシステム定数ファイル。
- ⑮ FAIRSPRC DD文 : FAIRS-Iの共通外部カタログファイル。
- ⑯ FAIRSMMSG DD文 : FAIRS-Iのメッセージ・コマンドファイル。
- ⑰ FAIRSJWD DD文 : FAIRS-Iの日本語単語辞書。

(2) コマンドプロシジャ

①コマンドプロシジャの登録先

コマンドプロシジャ 'AMIS' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.CLIST	AMIS

②コマンドプロシジャ 'AMIS' の内容

コマンドプロシジャ 'AMIS' の内容、及び内容の説明を図3. 1. 4に示す。

図3.1.4 AMIS コマンドプロシジャ

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----+	
LIB (' PP1. IR1. CMD' ' AMIS. FAIRS. SCF')	①
FAIRS USER(&SYSUID)	②
RS WORK(200 100) SETS(100) AUTOSAVE	③

- ① LIB コマンド : FAIRS-I のコマンドが格納されているデータセットを指定する。このとおり記述する。
- ② FAIRS コマンド : FAIRS システムを開始するコマンド。 USER(&SYSUID)は、TSSのユーザIDをFAIRS-IのユーザIDに展開するための記述。
- ③ RSコマンド : 検索サブシステムを起動するためのコマンド。

3.1.5 共通外部カタログ

必要に応じて、共通外部カタログを準備する。共通外部カタログファイルに登録するカタログは、エディタを用いて作成している。現在、AMIS. FAIRS. COMCATには表3. 1. 3に示す共通外部カタログが登録されている。これらのカタログは、FAIRS-IをTSS配下で直接使用するときのみ使用可能である。AMISの共通外部カタログファイルは以下の属性で作成している。

- 編成 : 区分編成
- レコード形式: 固定長
- レコード長 : 80 バイト
- ブロック長 : 80 の整数倍
- ボリューム : USER 01

表3.1.3 ファイル構成

No.	カタログ名	機 能 概 要	呼び出し方法
1	KEY	指定された半角文字列を「キーワード」に持つレコードを検索する.	KEY_半角文字列
2	KFW	指定された半角文字列を「カナタイトル」に持つレコードを検索する.	KFY_半角文字列
3	NFW	指定された全角文字列を「タイトル」, 又は「内容」に持つレコードを検索する.	NFW_半角文字列
4	01	タイトルと内容を表示する.	01
5	02	タイトル, 用途, 対象, 及び内容を表示する.	02
6	03	すべての標準項目を表示する.	03

3.2 データベース管理簿

3.2.1 データベース管理簿の構成

AMISでは、複数の様々な形態のデータベースを取り扱うため、データベースを一括して、効率よく管理する必要がある。そのため、データベース管理簿を作成、活用している。データベース管理簿には次の二種類の情報が登録されている。

- データベース情報：一個のデータベース全体に共通の情報
- 項目情報：個々のデータ項目毎の情報

表3. 2. 1にデータベース情報、表3. 2. 2に項目情報の詳細を示す。

表3.2.1 データベース情報

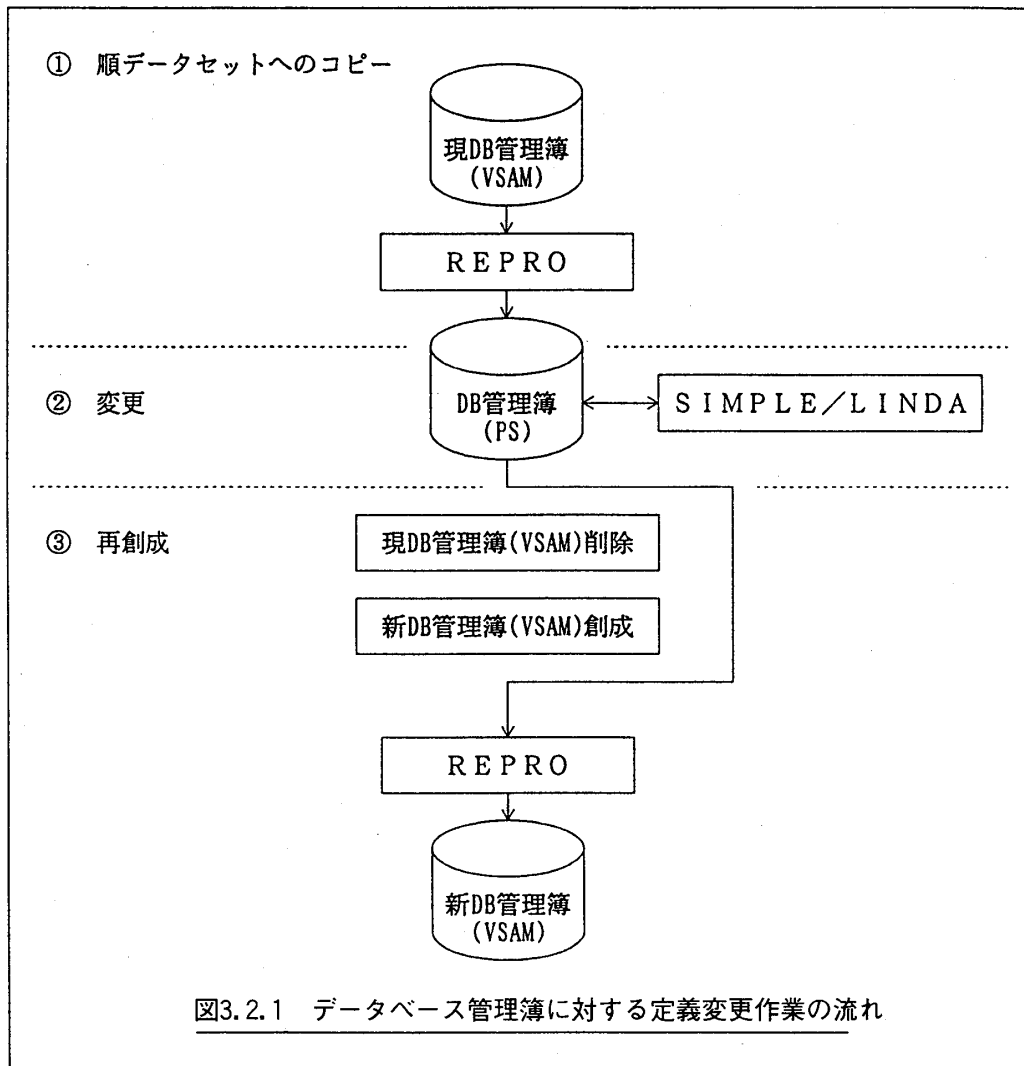
No.	項目名		属性	長さ (byte)	繰返し	説明
1	データベース番号		X	2	—	データベースの識別番号
2	情報区分		9	1	—	0に固定（データベース情報を表す）
3	未使用		X	2	—	0に固定（データベース情報を表す）
4	データベース名		N	20	—	データベースの正式な名称
5	システム登録名		X	8	—	FAIRS-Iに登録したデータベース名
6	サービス可否		9	1	—	0:サービス禁止, 1:サービス可能
7	マスキレベル		9	2	—	利用者のアクセスレベル ≥ マスキレベル のときこのDBを利用できる. マスキレベルは 0 ~ 15 で設定する.
8	概要説明		N	1,000	—	データベースの概要説明
9	保有メディア	テキスト	9	1	—	0:なし, 1:あり
10		静止画	9	1	—	0:なし, 1:あり
11		イメージ	9	1	—	0:なし, 1:あり
12		サマリー	9	1	—	0:なし, 1:あり

表3.2.2 項 目 情 報

No.	項目名	属性	長さ (byte)	繰返し	説明
1	データベース番号	X	2	—	データベースの識別番号
2	情報区分	9	1	—	1に固定（項目情報を表す）
3	項目ID	X	2	—	PC98でデータを作成するときに付与した項目の識別番号。
4	項目名	N	24	—	項目の正式名称
5	FAIRS-I 項目名	X	20	—	FAIRS-Iに登録した項目名
6	FAIRS-I 項目別名	X	8	—	FAIRS-Iに登録した項目別名
7	生起回数	9	2	—	1 ~ 99
8	項目長	9	4	—	1 ~ 9999
9	マスキレベル	9	2	—	利用者のアクセスレベル ≥ マスキレベル のときこの項目を参照できる。 マスキレベルは 0 ~ 15 で設定する。
10	項目属性	X	2	—	その項目の属性を次の記号で設定する。 N : 日本語 (=全角文字) X : EBCDIC (=半角文字) 9 : 数値 D : 日付 (西暦) NK : 日本語キーワード KK : カナキーワード C : コード
11	検索キー	9	1	—	0:一般項目, 1:検索キー項目
12	出力指定	9	1	—	0:非出力項目, 1:標準出力項目
13	ソートキー	9	1	—	0:一般項目, 1:ソートキー項目
14	出版ログ対象	9	1	—	0:対象外, 1:対象
15	未使用	X	967	—	

3.2.2 管理簿の変更

データベース管理簿には、現在、四つのデータベースが登録されている。各データベースのデータベース情報及び項目情報の詳細は付録1を参照されたい。データベース管理中の各設定値の変更には、図3.2.1に示す一連の作業が必要である。データベース管理簿に対する定義変更作業は、順データセットへのコピー、変更、再創成の3つの作業に大別できる。



(1) 順データセットへのコピー

V S A M形式のデータベース管理簿を順データセットにコピーする。コピー先の順データセットの名前は、A M I S . D B . M S T R P Sであるが、このデータセットが既に存在している場合はあらかじめ削除する。

①順データセットへのコピー用JCLの登録先

順データセットへのコピー用JCL'PSDB'は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	PSDB

②データセットへのコピー用 JCL 'PSDB' の内容

順データセットへのコピー用 JCL 'PSDB' の内容を図 3. 2. 2 に示す。

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7
//PSDB      JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT    DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//*
//*      < REPRO >  VSAM DATASET  ==>  PS DATASET
//*
//*****
//REPRO      EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//SYSPRINT   DD SYSOUT=*
//INPUT      DD DSN=AMIS.DB.MSTR,DISP=OLD
//OUTPUT     DD DSN=AMIS.DB.MSTRPS,DISP=(NEW,KEEP),UNIT=SYSDA,
//            SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),VOL=SER=USER01,
//            DCB=(RECFM=FB,LRECL=1100,BLKSIZE=11000)
//SYSIN      DD *
//            REPRO      INFILE(INPUT)      -
//                        OUTFILE(OUTPUT)
//
//

```

図3.2.2 データベース管理簿を順データセットにコピーする JCL 'PSDB'

(2) データベース管理簿の変更

データベース管理簿に対する定義の変更は S I M P L E / L I N D A を用いて行う。以下その手順を簡単に述べる。

① S I M P L E / L I N D A の起動

T S S にログオンして、S I M P L E / L I N D A 起動用コマンドプロシジャを実行する。

```
EXEC 'AMIS.APP.CLIST(LINDA)'
```

S I M P L E / L I N D A が起動されると次のメッセージが表示されるので、実行キーを押す。

```
SIMPLE/LINDA   STARTED AT HH:MM:SS
```

②処理の選択

順編成データセットの更新処理を行う。以下に示すとおり、オプションに 2.1 と入力し実行キーを押す。

オプション ==> 2・1

- 0 属性定義
- 1 データセットの創成処理
- 2 データセットの更新処理
- 3 データセットの印刷処理
- 4 データセットの検索表示処理
- 5 ユティリティ
- X 終了

サポートデータセット編成一覧

- .1. 順編成データセット
- .2. 索引順編成データセット
- .3. VSAMデータセット
- .4. 相対編成データセット
- .5. 区分編成データセット

③更新情報の指定

更新情報を指定する。以下に示すとおり、更新データセット名に 'AMIS.DB.MSTRPS'、コピー句枠にデータベース情報の DBKANRI、DBKANRI1 を入力、実行キーを押す。

コマンド ==>

データセット編成==> PS

以下の更新情報を入力してください。

更新データセット名 ==> 'AMIS.DB.MSTRPS'

メンバ名 ==>

ボリューム名 ==>

VSAM編成 ==>

コピー句名 (省略するとメンバ名選択リスト表示)

==> DBKANRI

==> DBKANRI1

OCCURS
(以下内容省略)

④データベース管理簿の更新

オプションに空白、テストケースに DBMSTR を入力し実行キーを押すと、データベース管理簿からコピーした順データセットの内容が表示される。これより、データベース管理簿に対する定義を変更する。順データセットは、データベース情報、項目情報の順にソートされている。画面上では、情報区分によって表示している情報が、データベース情報、項目情報、どちらの情報であるか区別する。情報区分が0はデータベース情報、1は項目情報であることを示す。また、漢字の項目は、コマンド域に J E F と入力することにより表示される。

⑤SIMPLE/LINDAの終了

更新が終了したら、次画面が表示されるまでPF3キーを押す。

オプション ==>
 テストケース ==> DBMSTR

- | | |
|----|-------------------------|
| 1 | レコードの選択 (レコードキーおよび番号) |
| 2 | コピー句によるアイテム名の選択 |
| 3 | コピー句仕様条件の入力 (コピー句が複数の時) |
| 空白 | 選択おわり、次画面表示 |

SIMPLE/LINDA END AT HH:MM:SS

この画面が表示されたら実行キーを押し、S H I M P L E / L I N D A が終了することを確認する。

(3) 再創成

データベース管理簿を再創成する。この処理は、現在使用中のデータベース管理簿を一度消去する。このため、データベース管理簿を使用する他のプログラムが動作していないことを確認する。

①データベース管理簿再創成用 J C L の登録先

データベース管理簿再創成用 J C L 'VSAMDB' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	VSAMDB

②データベース管理簿再創成用 J C L 'VSAMDB' の内容

データベース管理簿再創成用 J C L 'VSAMDB' の内容を図 3. 2. 6 に示す。

図3.2.6 データベース管理簿再創成用 JCL 'VSAMDB'

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7
//VSAMDB  JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT  DD  DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//**                                     **
//**   データベース管理簿ファイル (VSAM)   **
//**                                     **
//*****
/*JOB CAT  DD  DSN=SF1USER,DISP=SHR
/*-----*-----
/*          DELETE  CLUSTER                      *
/*-----*-----
//DELCL   EXEC  PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYS PRINT DD  SYSOUT=*
//SYS IN   DD  *
```

(続く)

(続き)

```

DELETE (AMIS. DB. MSTR)
CLUSTER

/*
//*-----*
//*      DEFINE CLUSTER      *
//*-----*
-----+---1---+---2---+---3---+---4---+---5---+---6---+---7
/*
//DEFCL   EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN   DD *
        DEFINE CLUSTER
            (NAME(AMIS. DB. MSTR)
            INDEXED
            VOLUMES(USER01)
            CYLINDERS(1 1)
            RECORDSIZE(1100 1100)
            KEYS(5 0)
            IMBED
            SUBAL
            SHAREOPTIONS(3 3))
        DATA
            (NAME(AMIS. DB. MSTR. DATA))
        INDEX
            (NAME(AMIS. DB. MSTR. INDEX))

/*
//*-----*
//*      SORT      *
//*-----*
//SORT     EXEC PGM=SORT, REGION=2048K
//SYSOUT   DD SYSOUT=*
//SORTIN   DD DSN=AMIS. DB. MSTRPS, DISP=SHR
//SORTOUT   DD DSN=&&DBKANRI, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(TRK, (5, 1), RLSE),
//           DCB=(RECFM=FB, LRECL=1100, BLKSIZE=11000)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SYSIN    DD *
        SORT  FIELDS=(1, 5, CH, A)

/*
//*-----*
//*      REPRO  ( SAM --> VSAM COPY )  *
//*-----*
//REPRO    EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//IDATASET DD DSN=&&DBKANRI, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//ODATASET DD DSN=AMIS. DB. MSTR, DISP=OLD
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN    DD *
        REPRO  INFILE(IDATASET)
                OUTFILE(ODATASET)
                REPLACE

/*
//

```

(4) 変更禁止項目

表3. 2. 3に示す項目は、AMISが項目名や属性、桁数等を意識して動いており、変更することができないため、特に注意が必要である。

表3.2.3 変更禁止項目

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性
01	TOROKU_NO	NO	登録番号	キー	6	—	右詰	半角
03	KANRI_NO	KN	管理番号	文字	16	1	左詰	半角
06	TITLE	T	タイトル	文章	200	—	—	全角
80	MASK_LEVEL	—	マスキレベル	文字	2	1	右詰	半角
81	MEDIA_TYPE	—	メディア種別	文字	1	1	左詰	半角
82	MASTER_VOL	—	保存用静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角
83	MASTER_ADDR	—	保存用静止画アドレス	文字	4	1	左詰	半角
84	REF_VOL	—	検索用静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角
85	REF_ADDR	—	検索用静止画アドレス	文字	5	1	左詰	半角
86	SUMMARY_VOL	—	サマリーボリューム名	文字	8	1	左詰	半角
87	START_ADDR	—	番組スタートアドレス	文字	5	1	左詰	半角
88	END_ADDR	—	番組エンドアドレス	文字	5	1	左詰	半角
89	WS_NAME	—	ワークステーション名	文字	8	1	左詰	半角
90	DOCID	DOC	文書ユニーク名	文字	14	1	左詰	半角

3.3 データベースの構成

現在、AMISには四つのデータベースが登録されている。表3.3.1にデータベース一覧を示す。これらデータベースには、データベース単位に表3.3.2に示す属性が設定されている。これらの設定内容は、基本的にはデータベース毎に異なる設定が可能であるが、現状では共通した値となっている。

表3.3.1 データベース一覧

No.	データベース名 [システム登録名]	登録情報の概要	構成メディア			
			一次情報			二次情報
			静止画	サマリー	イメージ	テキスト
1	国内映像資料情報 [JEMISS]	国内で市販されている16mm映画、ビデオテープ、スライド等の映像教材。	—	—	—	○
2	映像・音響完成教材 [KYOZAI]	放送教育開発センターが制作、収集、保有しているビデオ教材のサマリー。	—	○	—	○
3	素材静止画 [SOZAI]	番組の制作に使用された写真、スライド、図表等の静止画像。	○	—	—	○
4	文献・資料 [SHIRYO]	放送教育開発センターが制作、収集、保有している文献や印刷資料。	—	—	○	○

表3.3.2 各データベースに共通的な設定事項

No.	設定項目	設定内容
1	セパレートファイルの有無	セパレートファイルは、二次情報を光ディスク装置に格納する場合に使用するものであるため、AMISでは作成しない。
2	データベース会計情報の取得	各データベース毎に取得する。
3	データベース統計情報の取得	各データベース毎に取得する。
4	データベースの属性	
	(1) ブロック内空き領域率	10%
	(2) データベースで取り扱う文字の属性	日本語 (=全角文字), 半角英大文字, 半角数字, 半角特殊文字, 及び半角カタカナ
	(3) ひとつの項目が複数の項目値を持つ場合の項目値と項目値の区切り文字	半角のカンマ
	(4) 検索結果を利用者ファイルに出力することを許可するか否か	許可する
	(5) 検索結果をセンタのプリンタに出力することを許可するか否か	許可する
	(6) TSSモードでの検索を許可するか否か	許可する
	(7) バッチモードでの検索を許可するか否か	許可する
	(8) データベースに登録されていないユーザに検索を許可するか否か	許可する
	(9) 一回のコマンドで出力できるレコードの上限 (10) インデックスインバーテッドファイルを作成する際に、半角英小文字を半角英大文字と同等に扱うか否か	無制限 同等に扱う
	(11) 日本語のインデックスインバーテッドファイルを作成する際に、全角英小文字を全角英大文字と同等に扱うか否か	同等に扱う
	(12) 日本語のキーワードインバーテッドファイルを作成する際に、全角英小文字を全角英大文字と同等に扱うか否か	同等に扱う
	(13) 検索結果の出力行の途中で改行させたいときの改行位置を示す文字	設定しない
	(14) データ登録時、値の前後の空白を取り除くか否か	取り除く

3.3.1 J E M I S S (国内映像音響資料データベース)

(1) データベース情報

J E M I S S (国内映像音響データベース) は、国内で市販されている16mm映画、ビデオテープ、スライド等の映像教材に関する書誌情報のデータベースである。表3. 3. 3に、データベース名、システム登録名、データベース番号等、代表的なJ E M I S Sのデータベース項目情報を示す。

(2) スペース見積

表3. 3. 4にJ E M I S Sのスペース見積を示す。J E M I S Sのスペースは、初期量として2万件、年2回計2, 000件の更新を行っている実績から算出している。

表3.3.3 国内映像資料情報データベース (JEMISS) のデータベース情報

項 目	設 定 値
データベース名	国内映像資料情報
システム登録名	J E M I S S
サブファイル名	J E M S U B 0 1
データベース番号	A 1

表3.3.4 国内映像資料情報データベース (JEMISS) のスペース見積もり

<ul style="list-style-type: none"> ・初期量 : 20,000レコード ・増分量 : 1,000レコード/6ヵ月 ・収納年数 : 1,095年 					
NO	ファイルの種類	スペース量	ブロック化因数	ボリューム通番	データセット名
1	論理構造ファイル	50 BLK	—	USER02	AMIS. JEMISS. LRSFILE. L01
2	サブファイル	170,000 BLK	15	USER02	AMIS. JEMISS. JEMSUB01. S01
3	データベース会計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. JEMISS. ACCTFILE. A01
4	データベース統計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. JEMISS. STATFILE. T01

(3) データ項目

表3. 3. 5にJ E M I S Sのデータ項目及び各項目の代表的な項目情報の設定値を示す。項目情報は、項目ID、項目名、別名、ヘッダ、形式、長さ、生起回数、比較方法、属性、標準出力の有無等から構成されている。表中網掛け部分は属性の変更禁止項目である。

①項目IDは、2バイトの数字で、データ登録や更新作業時にデータのチェックを十分に行う目的で作成した。項目IDは、4つのデータベースともほぼ共通しており、同一の項目名、

表3.3.5 国内映像資料情報データベースのデータ項目設定

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
01	TOROKU_NO	NO	登録番号	キー	6	—	右詰	半角	○
02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	文字	8	1	右詰	半角	○
06	TITLE	T	タイトル	文章	200	—	—	全角	○
07	TITLE_KANA	TK	タイトル (カナ)	文章	100	—	—	半角	
08	TITLE_EIGO	TE	タイトル (英語)	文章	250	—	—	半角	
20	NDC_CD	NC	NDCコード	文字	3	1	左詰	半角	○
21	NDC	—	NDC	文字	40	1	左詰	全角	○
22	YOTO_CD	YC	用途コード	文字	2	2	左詰	半角	
23	YOTO	YO	用途	文字	30	2	左詰	全角	○
24	TAISHO_CD	TC	対象コード	文字	1	2	左詰	半角	
25	TAISHO	TA	対象	文字	20	2	左詰	全角	○
26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	文字	2	1	左詰	半角	
27	MEDIA	ME	媒体	文字	40	1	左詰	全角	○
28	YEAR	Y	制作年	文字	4	1	右詰	半角	○
29	TIME	—	時間	文字	3	1	右詰	半角	○
30	SENSHO_CD	SC	選賞コード	文字	1	1	左詰	半角	
31	SENSHO	SE	選賞	文字	30	1	左詰	全角	○
35	LANGUAGE	LG	言語	文字	50	1	左詰	全角	○
40	KEYWORD	K	キーワード (漢字)	文章	250	—	—	全角	
41	KEYWORD_KANA	KK	キーワード (カナ)	文章	250	—	—	半角	○
42	KEYWORD_EIGO	KE	キーワード (英語)	文章	250	—	—	半角	
43	ABSTRACT	A	概要 (漢字)	文章	1000	—	—	全角	○
44	ABSTRACT_KANA	AK	概要 (カナ)	文章	1000	—	—	半角	
45	ABSTRACT_EIGO	AE	概要 (英語)	文章	1000	—	—	半角	
50	EIBUNREN_NO	EN	英文連番号	文字	6	1	右詰	半角	○
51	PS_PRODUCER	PSP	制作	文字	40	3	左詰	全角	○

(続く)

網掛け部分は変更禁止

(続き)

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
52	PS_WRITER	PSW	脚本	文字	40	3	左詰	全角	○
53	PS_DIRECTOR	PSD	演出	文字	40	3	左詰	全角	○
54	PS_CAMERA	PSC	撮影	文字	40	3	左詰	全角	○
55	PS_ANIMETER	PSA	絵	文字	40	2	左詰	全角	○
56	PS_MUSIC	PSM	音楽	文字	40	2	左詰	全角	○
60	P_CD	PC	制作コード	文字	5	1	左詰	半角	
61	PRODUCTION	PR	制作会社	文字	60	1	左詰	全角	○
62	P_ZIP	PZ	郵便番号	文字	10	1	左詰	全角	○
63	P_ADDRESS	PA	住所	文章	80	—	—	全角	○
64	P_TEL	PT	電話	文字	15	1	左詰	全角	○
65	SPONSOR	SPO	企画会社	文字	60	1	左詰	全角	○
80	MASK_LEVEL	—	マスキレベル	文字	2	1	右詰	半角	
81	MEDIA_TYPE	—	メディア種別	文字	1	1	左詰	半角	
82	MASTER_VOL	—	保存静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
83	MASTER_ADDR	—	保存静止画アドレス	文字	4	1	左詰	半角	
84	REF_VOL	—	検索静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
85	REF_ADDR	—	検索静止画アドレス	文字	5	1	左詰	半角	
86	SUMMARY_VOL	—	サマリーボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
87	START_ADDR	—	番組スタートアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
88	END_ADDR	—	番組エンドアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
89	WS_NAME	—	ワークステーション名	文字	8	1	左詰	半角	
90	DOCID	DOC	文書ユニーク名	文字	14	1	左詰	半角	

網掛け部分は変更禁止

または性質を持つ項目には、同じ項目IDを使用している。

- ②項目名は、1バイトの英字及びアンダーバーの組合せで、項目名の長さは24バイト以内とする。
- ③別名は、項目名の短縮系で、検索などで項目名の変わりに使用することができる。
- ④ヘッダは、検索結果を出力する際、項目値の先頭に出力する見出し文字列である。ヘッダは2バイト系日本語文字列24バイト以内とする。

- ⑤形式は、文章形式、コード形式、文字形式のいずれかを指定する。
- ⑥長さは、項目値の最大長を指定する。
- ⑦生起回数は、項目値の数を指定する。生起回数の指定により、一つの項目に複数の項目値を入力することができる。
- ⑧比較方法は、項目に対する検索を行う際に、右詰めの比較を行うか、左詰めの比較を行うかを指定する。
- ⑨属性は、項目値が半角（英数字・カナ）文字列または全角（日本語）文字列かを指定する。
- ⑩出力は、標準出力を行うかを指定する。

(4) インバーテッドファイル項目

インバーテッドファイルは、利用者が検索を効率よく行うために必要なファイルである。インバーテッドファイルには、インデックスインバーテッドファイル、キーワードインバーテッドファイル（英数字、カナ属性）、日本語キーワードインバーテッドファイルがある。J E M I S S用に設定したインバーテッドファイルの項目を表3. 3. 6に示す。表中、1. 登録年月日から24. 企画会社の24項目にインデックスインバーテッドファイル、25. タイトル（カナ、英語）、キーワード（カナ、英語）、概要（カナ）にキーワードインバーテッドファイル、概要（英語）、タイトル、キーワード、概要については日本語キーワードインバーテッドファイルを作成している。

表3.3.6 国内映像資料情報データベースのインバーテッド項目設定

No	項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	インバーテッドファイル種別
1	02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	インデックス インバーテッド ファイル
2	20	NDC_CD	NC	NDCコード	
3	21	NDC	—	NDC	
4	22	YOTO_CD	YC	用途コード	
5	23	YOTO	YO	用途	
6	24	TAISHO_CD	TC	対象コード	
7	25	TAISHO	TA	対象	
8	26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	
9	27	MEDIA	ME	媒体	
10	28	YEAR	Y	制作年	
11	29	TIME	—	時間	
12	30	SENSHO_CD	SC	選賞コード	
13	31	SENSHO	SE	選賞	
14	35	LANGUAGE	LG	言語	
15	50	EIBUNREN_NO	EN	映文連番号	
16	51	PS_PRODUCER	PSP	制作	
17	52	PS_WRITER	PSW	脚本	
18	53	PS_DIRECTOR	PSD	演出	
19	54	PS_CAMERA	PSC	撮影	
20	55	PS_ANIMETER	PSA	絵	
21	56	PS_MUSIC	PSM	音楽	
22	60	P_CD	PC	制作コード	
23	61	PRODUCTION	PR	制作会社	
24	65	SPONSOR	SPO	企画会社	

(続く)

(続き)

No	項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	インバーテドファイル種別
25		K_FREEWORD	KFW	タイトル (カナ) タイトル (英語) キーワード (カナ) キーワード (英語) 概要 (カナ)	キーワード インバーテド ファイル
26		N_FREEWORD	NFW	概要 (英語) タイトル キーワード 概要	日本語 キーワード インバーテド ファイル

(5) 登録用 JCL

JEMISS を初めに創成する際には、JEMISS 登録用 JCL を実行する。

① JEMISS 登録用 JCL の登録先

JEMISS 登録用 JCL の登録先 'JEMISGEN' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	JEMISGEN

② JEMISS 登録用 JCL 'JEMISGEN' の内容

JEMISS 登録用 JCL 'JEMISGEN' の内容を図 3. 3. 1 に示す。

図3.3.1 JEMISS 登録用 JCL

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//JEMISGEN JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I ) JEMISS データベース / トロク */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) SCRATCH , INITIALIZE AND DBGEN /
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=2560K,DYNAMNBR=20
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
SCRATCH JEMISS ALL
INITIALIZE JEMISS
LRSFILE SPACE(50) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER02)
SUBFILE JEMSUB01 SPACE(170000) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER02) -
BIND(15)
ACCTFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
STATFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
END
DBGEN
SELECT JEMISS
ATTRIB MARGIN(10) LETTER(KANA) DELIMITER(',') FILEOUT SYSOUT -
TSS BATCH PUBLIC OUTLIMIT(0) CAPS NCAPS NKCAPS -
SUPPRESS
```

(続く)

(続き)

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----

DATABASE OWNER('放送教育開発センター')

EXPLANATION('JEMISS (JAPAN EDUCATIONAL MEDIA INFORMATION SERVICE SYSTEM) は、わが国における市販の映像教材情報のデータベースです。JEMISSには、学校教育、社会教育、産業教育、学術科学の分野を対象とし、1955年以降に制作された16ミリ映画、ビデオ教材、ビデオディスク、スライド等が登録されています。')

SUMMARY('国内映像教材情報データベース')

TITLE('JEMISS') UNIT('件')

SUBFILE JEMSUB01

EXPLANATION('1955年から1988年に制作された映像教材 計19217件 平成3年5月20日')

SUMMARY('1955年~1988年')

LEVEL(0)

KEY	TOROKU_NO	ALIAS(NO)	F	AD(R)
			L(006) ALPHA	
ELEMENT TOROKU_DATE		ALIAS(CHAR F OC(01)	AD(R)	
			L(008) ALPHA	
ELEMENT TITLE		ALIAS(TEXT		
			L(200) NIHON	
ELEMENT TITLE_KANA		ALIAS(TEXT		
			L(100) ALPHA	
ELEMENT TITLE_EIGO		ALIAS(TEXT		
			L(250) ALPHA	
ELEMENT NDC_CD		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(003) ALPHA	
ELEMENT NDC		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(040) NIHON	
ELEMENT YOTO_CD		ALIAS(CHAR V OC(02)	AD(L)	
			L(002) ALPHA	
ELEMENT YOTO		ALIAS(CHAR V OC(02)	AD(L)	
			L(030) NIHON	
ELEMENT TAISHO_CD		ALIAS(CHAR V OC(02)	AD(L)	
			L(001) ALPHA	
ELEMENT TAISHO		ALIAS(CHAR V OC(02)	AD(L)	
			L(020) NIHON	
ELEMENT MEDIA_CD		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(002) ALPHA	
ELEMENT MEDIA		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(040) NIHON	
ELEMENT YEAR		ALIAS(CHAR F OC(01)	AD(R)	
			L(004) ALPHA	
ELEMENT TIME		ALIAS(CHAR F OC(01)	AD(R)	
			L(003) ALPHA	
ELEMENT SENSHO_CD		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(001) ALPHA	
ELEMENT SENSHO		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(030) NIHON	
ELEMENT LANGUAGE		ALIAS(CHAR V OC(01)	AD(L)	
			L(050) NIHON	
ELEMENT KEYWORD		ALIAS(TEXT		
			L(250) NIHON	
ELEMENT KEYWORD_KANA		ALIAS(TEXT		
			L(250) ALPHA	
ELEMENT KEYWORD_EIGO		ALIAS(TEXT		
			L(250) ALPHA	
ELEMENT ABSTRACT		ALIAS(TEXT		
			L(1000) NIHON	
ELEMENT ABSTRACT_KANA		ALIAS(TEXT		
			L(1000) ALPHA	
ELEMENT ABSTRACT_EIGO		ALIAS(TEXT		
			L(1000) ALPHA	
ELEMENT BIBUNREN_NO		ALIAS(CHAR F OC(01)	AD(R)	
			L(006) ALPHA	

(続く)

(続き)

	1	2	3	4	5	6	7
ELEMENT PS_PRODUCER	ALIAS(PS)	CHAR V	OC(03)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT PS_WRITER	ALIAS(PSW)	CHAR V	OC(03)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT PS_DIRECTOR	ALIAS(PSD)	CHAR V	OC(03)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT PS_CAMERA	ALIAS(PSC)	CHAR V	OC(03)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT PS_ANIMETER	ALIAS(PSA)	CHAR V	OC(02)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT PS_MUSIC	ALIAS(PSM)	CHAR V	OC(02)	AD(L)			-
			L(040)	NIHON			
ELEMENT P_CD	ALIAS(PC)	CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(005)	ALPHA			
ELEMENT PRODUCTION	ALIAS(PR)	CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(060)	NIHON			
ELEMENT P_ZIP	ALIAS(PZ)	CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(010)	NIHON			
ELEMENT P_ADDRESS	ALIAS(PA)	TEXT					-
			L(080)	NIHON			
ELEMENT P_TEL	ALIAS(PT)	CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(015)	NIHON			
ELEMENT SPONSOR	ALIAS(SPO)	CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(060)	NIHON			
ELEMENT MASK_LEVEL		CHAR F	OC(01)	AD(R)			-
			L(002)	ALPHA			
ELEMENT MEDIA_TYPE		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(001)	ALPHA			
ELEMENT MASTER_VOL		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(008)	ALPHA			
ELEMENT MASTER_ADDR		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(004)	ALPHA			
ELEMENT REF_VOL		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(008)	ALPHA			
ELEMENT REF_ADDR		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(005)	ALPHA			
ELEMENT SUMMARY_VOL		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(008)	ALPHA			
ELEMENT START_ADDR		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(005)	ALPHA			
ELEMENT END_ADDR		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(005)	ALPHA			
ELEMENT WS_NAME		CHAR V	OC(01)	AD(L)			-
			L(008)	ALPHA			
ELEMENT DOCID	ALIAS(DOC)	CHAR F	OC(01)	AD(L)			-
			L(014)	ALPHA			
APP TOROKU_NO	HEADER('登録番号')						-
	COMMENT()						-
APP TOROKU_DATE	OUTPUT SYNONYM						-
	HEADER('登録年月日')						-
	COMMENT()						-
APP TITLE	OUTPUT SYNONYM						-
	HEADER('タイトル')						-
	COMMENT()						-
APP TITLE_KANA	OUTPUT SYNONYM						-
	HEADER('タイトル (カナ)')						-
	COMMENT()						-
APP TITLE_EIGO	NOOUTPUT SYNONYM						-
	HEADER('タイトル (英語)')						-
	COMMENT()						-
APP NDC_CD	NOOUTPUT SYNONYM						-
	HEADER('NDCコード')						-
	COMMENT()						-
	OUTPUT SYNONYM						-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	NDC	HEADER(' N D C ')				-
		COMMENT()				-
APP	YOTO_CD	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 用途コード ')				-
		COMMENT()				-
APP	YOTO	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 用途 ')				-
		COMMENT()				-
APP	TAISHO_CD	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 対象コード ')				-
		COMMENT()				-
APP	TAISHO	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 対象 ')				-
		COMMENT()				-
APP	MEDIA_CD	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 媒体コード ')				-
		COMMENT()				-
APP	MEDIA	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 媒体 ')				-
		COMMENT()				-
APP	YEAR	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 制作年 ')				-
		COMMENT()				-
APP	TIME	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 時間 ')				-
		COMMENT()				-
APP	SENSHO_CD	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 選賞コード ')				-
		COMMENT()				-
APP	SENSHO	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 選賞 ')				-
		COMMENT()				-
APP	LANGUAGE	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 言語 ')				-
		COMMENT()				-
APP	KEYWORD	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' キーワード (漢字) ')				-
		COMMENT()				-
APP	KEYWORD_KANA	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' キーワード (カナ) ')				-
		COMMENT()				-
APP	KEYWORD_EIGO	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' キーワード (英語) ')				-
		COMMENT()				-
APP	ABSTRACT	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 概要 (漢字) ')				-
		COMMENT()				-
APP	ABSTRACT_KANA	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 概要 (カナ) ')				-
		COMMENT()				-
APP	ABSTRACT_EIGO	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 概要 (英語) ')				-
		COMMENT()				-
APP	EIBUNREN_NO	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 英文連番号 ')				-
		COMMENT()				-
APP	PS_PRODUCER	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 制作 ')				-
		COMMENT()				-
APP	PS_WRITER	OUTPUT SYNONYM				-
		HEADER(' 脚本 ')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	PS_DIRECTOR	HEADER('演出')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	PS_CAMERA	HEADER('撮影')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	PS_ANIMETER	HEADER('絵')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	PS_MUSIC	HEADER('音楽')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_CD	HEADER('制作コード')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	PRODUCTION	HEADER('制作会社')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_ZIP	HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_ADDRESS	HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_TEL	HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	SPONSOR	HEADER('企画会社')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	MASK_LEVEL	HEADER('マスクレベル')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MEDIA_TYPE	HEADER('メディア種別')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MASTER_VOL	HEADER('保存静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MASTER_ADDR	HEADER('保存静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	REF_VOL	HEADER('検索静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	REF_ADDR	HEADER('検索静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	SUMMARY_VOL	HEADER('サマリーボリューム名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	START_ADDR	HEADER('番組スタートアドレス')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	END_ADDR	HEADER('番組エンドアドレス')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	WS_NAME	HEADER('ワークステーション名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	DOCID	HEADER('文書ユニーク名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				

(続く)

(続き)

	1	2	3	4	5	6	7
INDEX	(TOROKU_DATE	NDC_CD	NDC	YOTO_CD			
	YOTO	TAISHO_CD	MEDIA_CD	MEDIA			
	YEAR	TIME	SENSHO_CD	SENSHO			
	LANGUAGE						
	EIBUNREN_NO	PS_PRODUCER	PS_WRITER	PS_DIRECTOR			
	PS_CAMERA	PS_ANIMETER	PS_MUSIC	P_CD			
	PRODUCTION	SPONSOR)				
KEYWORD	K_FREEWORD	ALIAS(KFW)					
NKEYWORD	N_FREEWORD	ALIAS(NFW)	NUMERIC	YAMATOGO	JISHI		
	MAP						
END							
END							
/*							
//							

3.3.2 KYOZAI（映像・音響完成教材）データベース

(1) データベース情報

KYOZAI（映像・音響完成教材）データベースは、放送教育開発センターが制作、収集、保有しているビデオ教材に関するデータベースで、サマリー情報と書誌情報から構成されている。表3. 3. 7に、KYOZAIデータベースの代表的なデータベース項目情報を示す。

表3.3.7 映像・音響完成教材データベースの名称設定

項 目	設 定 値
データベース名	映像・音響完成教材
システム登録名	KYOZAI
サブファイル名	KYOSUB01
データベース番号	B1

(2) スペース見積

表3. 3. 8にKYOZAIデータベースのスペース見積を示す。KYOZAIデータベースのスペースは、初期量として2万2千件、年1回計5, 000件の更新を行っている実績から算出している。

表3.3.8 映像・音響完成教材データベースのスペース見積もり

・初期量 : 22,000レコード ・増分量 : 5,000レコード／1年 ・収納年数 : 4.6年					
NO	ファイルの種類	スペース量	ブロック化因数	リユーム 通番	データセット名
1	論理構造ファイル	50 BLK	—	USER03	AMIS. KYOZAI. LRSFILE. L01
2	サブファイル	50,000 BLK	15	USER03	AMIS. KYOZAI. KYOSUB01. S01
3	データベース会計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. KYOZAI. ACCTFILE. A01
4	データベース統計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. KYOZAI. STATFILE. T01

(3) データ項目

表3. 3. 9にKYOZAIデータベースのデータ項目及び各項目の代表的な項目情報の設定値を示す。

表3.3.9 映像・音響完成教材データベースのデータ項目設定

項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
01	TOROKU_NO	NU	登録番号	キー	6	—	右詰	半角	○
02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	文字	8	1	右詰	半角	○
03	KANRI_NO	KN	管理番号	文字	16	1	左詰	半角	○
04	BUNRUI_CD	BC	分類コード	文字	1	1	左詰	半角	
05	BUNRUI	BU	分類	文字	32	1	左詰	全角	○
06	TITLE	T	タイトル	文章	200	—	—	全角	○
07	TITLE_KANA	TK	タイトル(カナ)	文章	100	—	—	半角	
08	TITLE_EIGO	TE	タイトル(英語)	文章	250	—	—	半角	
09	LECTURER	LE	担当講師	文字	100	4	左詰	全角	○
10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	文字	8	1	左詰	半角	
11	KAMOKU	KA	科目名	文章	60	—	—	全角	○
12	K_GAIYO	KG	科目概要	文章	1000	—	—	全角	○
13	ZENKANSU	ZE	全巻数	文字	2	1	右詰	半角	○
14	MAIN_LLECTURER	ML	主任講師	文字	100	3	左詰	全角	○
15	OPENING_YEAR	OY	開設年次	文字	4	1	右詰	半角	○
16	CLOSING_YEAR	CY	閉講年次	文字	4	1	右詰	半角	○
17	MOKUROKU	MO	目録記載	文字	4	1	左詰	全角	
20	NDC_CD	NC	NDCコード	文字	3	1	左詰	半角	○
21	NDC	—	NDC	文字	40	1	左詰	全角	○
22	YOTO_CD	YC	用途コード	文字	2	2	左詰	半角	
23	YOTO	YO	用途	文字	30	2	左詰	全角	○
24	TAISHO_CD	TC	対象コード	文字	1	2	左詰	半角	
25	TAISHO	TA	対象	文字	20	2	左詰	全角	○
26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	文字	2	1	左詰	半角	
27	MEDIA	ME	媒体	文字	40	1	左詰	全角	○
28	YEAR	Y	制作年	文字	4	1	右詰	半角	○

(続く)

網掛け部分は変更禁止

(続き)

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
29	TIME	—	時間	文字	3	1	右詰	半角	○
35	LANGUAGE	LG	言語	文字	50	1	左詰	全角	○
40	KEYWORD	K	キーワード (漢字)	文章	250	—	—	全角	
41	KEYWORD_KANA	KK	キーワード (カナ)	文章	250	—	—	半角	○
42	KEYWORD_EIGO	KE	キーワード (英語)	文章	250	—	—	半角	
43	ABSTRACT	A	概要 (漢字)	文章	1000	—	—	全角	○
44	ABSTRACT_KANA	AK	概要 (カナ)	文章	1000	—	—	半角	
45	ABSTRACT_EIGO	AE	概要 (英語)	文章	1000	—	—	半角	
60	P_CD	PC	制作コード	文字	5	1	左詰	半角	
61	PRODUCTION	PR	制作会社	文字	60	1	左詰	全角	○
62	P_ZIP	PZ	郵便番号	文字	10	1	左詰	全角	○
63	P_ADDRESS	PA	住所	文章	80	—	—	全角	○
64	P_TEL	PT	電話	文字	15	1	左詰	全角	○
65	SPONSOR	SPO	企画会社	文字	60	1	左詰	全角	○
70	CW_CD	CWC	著作権者コード	文字	5	1	左詰	半角	
71	CW_NAME	CWN	著作権者	文字	60	1	左詰	全角	○
72	CW_ZIP	CWZ	郵便番号	文字	10	1	左詰	全角	○
73	CW_ADDRESS	CWA	住所	文章	80	—	—	全角	○
74	CW_TEL	CWT	電話	文字	15	1	左詰	全角	○
75	CW_MONEY	CWM	著作物使用料	文字	8	1	右詰	半角	
80	MASK_LEVEL	—	マスキレベル	文字	2	1	右詰	半角	
81	MEDIA_TYPE	—	メディア種別	文字	1	1	左詰	半角	
82	MASTER_VOL	—	保存静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
83	MASTER_ADDR	—	保存静止画アドレス	文字	4	1	左詰	半角	
84	REF_VOL	—	検索静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
85	REF_ADDR	—	検索静止画アドレス	文字	5	1	左詰	半角	

(続く)

網掛け部分は変更禁止

(続き)

項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
86	SUMMARY_VDL	—	サマリーボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
87	START_ADDR	—	番組スタートアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
88	END_ADDR	—	番組エンドアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
89	WS_NAME	—	ワークステーション名	文字	8	1	左詰	半角	
90	DOCID	DOC	文書ユニーク名	文字	14	1	左詰	半角	

網掛け部分は変更禁止

(4) インバーテッドファイル項目

表3. 3. 10にKYOZAIデータベースのインバーテッドファイルを示す。

表3.3.10 映像・音響完成教材データベースのインバーテッド項目設定

No	項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	インバーテッドファイル種別
1	02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	インデックスインバーテッド ファイル
2	03	KANRI_NO	KN	管理番号	
3	04	BUNRUI_CD	BC	分類コード	
4	05	BUNRUI	BU	分類	
5	09	LECTURER	LE	担当講師	
6	10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	
7	14	MAIN_LECTURER	ML	主任講師	
8	15	OPENING_YEAR	OY	開設年次	
9	16	CLOSING_YEAR	CY	閉講年次	
10	17	MOKUROKU	MO	目録記載	
11	20	NDC_CD	NC	NDCコード	
12	21	NDC	—	NDC	
13	22	YOTO_CD	YC	用途コード	
14	23	YOTO	YO	用途	
15	24	TAISHO_CD	TC	対象コード	
16	25	TAISHO	TA	対象	
17	26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	

(続く)

(続き)

No	項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	インバーテドファイル種別
18	27	MEDIA	ME	媒体	
19	28	YEAR	Y	制作年	
20	29	TIME	—	時間	
21	35	LANGUAGE	LG	言語	
22	60	P_CD	PC	制作コード	
23	61	PRODUCTION	PR	制作会社	
24	65	SPONSOR	SPO	企画会社	
25	70	CW_CD	CWC	著作権者コード	
26	71	CW_NAME	CWN	著作権者	
27		K_FREEWORD	KFW	タイトル (カナ) タイトル (英語) キーワード (カナ) キーワード (英語) 概要 (カナ) 概要 (英語)	キーワード インバーテド ファイル
28		N_FREEWORD	NFW	タイトル キーワード 概要 科目名 科目概要	日本語 キーワード インバーテド ファイル

(5) 登録用 J C L

K Y O Z A I データベースを初めに創成する際には、K Y O Z A I データベース登録用 J C L を実行する。

① K Y O Z A I データベース登録用 J C L の登録先

K Y O Z A I データベース登録用 J C L の登録先 'KYOZIGEN' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	KYOZIGEN

② K Y O Z A I データベース登録用 J C L 'KYOZIGEN' の内容

K Y O Z A I データベース登録用 J C L 'KYOZIGEN' の内容を図 3. 3. 2 に示す。

図3.3.2 KYOZAI データベース登録用 JCL

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//KYOZIGEN JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I ) KYOUZAI データベース / トロワ */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBRI4,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) SCRATCH , INITIALIZE AND DBGEN /
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=2560K,DYNAMNBR=20
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
SCRATCH KYOZAI ALL
INITIALIZE KYOZAI
LRSFILE SPACE(50) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER03)
SUBFILE KYOSUB01 SPACE(280000) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER03)
BIND(15)
ACCTFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
STATFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
END
DBGEN
SELECT KYOZAI
ATTRIB MARGIN(10) LETTER(KANA) DELIMITER(',') FILEOUT SYSOUT
TSS BATCH PUBLIC OUTLIMIT(0) CAPS NCAPS NKCAPS
SUPPRESS
DATABASE OWNER('放送教育開発センター')
EXPLANATION('映像・音響完成教材データベースは、放送教育
開発センターが制作、収集、保有するビデオ教材、オーディオ教材等の画像
・音声を含むデータベースです。')
SUMMARY('映像・音響完成教材データベース')
TITLE('KYOUZAI') UNIT('件')
SUBFILE KYOSUB01
EXPLANATION('メディアとしてテキストデータ、サマリーデー
タを保有するサブデータベースである。')
SUMMARY('映像・音響完成教材サブデータベース')
LEVEL(0)
KEY TOROKU NO ALIAS(NO) F AD(R)
ELEMENT TOROKU DATE ALIAS(ATE) CHAR F OC(01) AD(R)
ELEMENT KANRI NO ALIAS(KN) CHAR V OC(01) AD(L)
L(006) ALPHA
L(008) ALPHA
L(016) ALPHA

```

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
ELEMENT BUNRUI_CD	ALIAS(BC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(001) ALPHA				
ELEMENT BUNRUI	ALIAS(BU)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(032) NIHON				
ELEMENT TITLE	ALIAS(T)	TEXT				-
		L(200) NIHON				
ELEMENT TITLE_KANA	ALIAS(TK)	TEXT				-
		L(100) ALPHA				
ELEMENT TITLE_EIGO	ALIAS(TE)	TEXT				-
		L(250) ALPHA				
ELEMENT LECTURER	ALIAS(LB)	CHAR V OC(04) AD(L)				-
		L(100) NIHON				
ELEMENT KAMOKU_CD	ALIAS(KC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT KAMOKU	ALIAS(KA)	TEXT				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT K_GAIYO	ALIAS(KG)	TEXT				-
		L(1000) NIHON				
ELEMENT ZENKANSU	ALIAS(ZE)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT MAIN_LLECTURER	ALIAS(ML)	CHAR V OC(03) AD(L)				-
		L(100) NIHON				
ELEMENT OPENING_YEAR	ALIAS(OY)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT CLOSING_YEAR	ALIAS(CY)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT MOKUROKU	ALIAS(MO)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(004) NIHON				
ELEMENT NDC_CD	ALIAS(NC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(003) ALPHA				
ELEMENT NDC		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(040) NIHON				
ELEMENT YOTO_CD	ALIAS(YC)	CHAR V OC(02) AD(L)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT YOTO	ALIAS(YO)	CHAR V OC(02) AD(L)				-
		L(030) NIHON				
ELEMENT TAISHO_CD	ALIAS(TC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT TAISHO	ALIAS(TA)	CHAR V OC(02) AD(L)				-
		L(020) NIHON				
ELEMENT MEDIA_CD	ALIAS(MC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT MEDIA	ALIAS(ME)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(040) NIHON				
ELEMENT YEAR	ALIAS(Y)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT TIME		CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(003) ALPHA				
ELEMENT LANGUAGE	ALIAS(LG)	CHAR F OC(01) AD(L)				-
		L(050) NIHON				
ELEMENT KEYWORD	ALIAS(K)	TEXT				-
		L(250) NIHON				
ELEMENT KEYWORD_KANA	ALIAS(KK)	TEXT				-
		L(250) ALPHA				
ELEMENT KEYWORD_EIGO	ALIAS(KE)	TEXT				-
		L(250) ALPHA				
ELEMENT ABSTRACT	ALIAS(A)	TEXT				-
		L(1000) NIHON				
ELEMENT ABSTRACT_KANA	ALIAS(AK)	TEXT				-
		L(1000) ALPHA				
ELEMENT ABSTRACT_EIGO	ALIAS(AE)	TEXT				-
		L(1000) ALPHA				
ELEMENT P_CD	ALIAS(PC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
ELEMENT PRODUCTION	ALIAS(PR)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT P_ZIP	ALIAS(PZ)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(010) NIHON				
ELEMENT P_ADDRESS	ALIAS(PA)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT P_TEL	ALIAS(PT)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(015) NIHON				
ELEMENT SPONSOR	ALIAS(SPO)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT CW_CD	ALIAS(CWC)	CHAR F OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT CW_NAME	ALIAS(CWN)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT CW_ZIP	ALIAS(CWZ)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(010) NIHON				
ELEMENT CW_ADDRESS	ALIAS(CWA)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT CW_TEL	ALIAS(CWT)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(015) NIHON				
ELEMENT CW_MONEY	ALIAS(CWM)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASK_LEVEL		CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT MEDIA_TYPE		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(001) ALPHA				
ELEMENT MASTER_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASTER_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT REF_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT REF_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT SUMMARY_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT START_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT END_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT WS_NAME		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT DOCID	ALIAS(DOC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(014) ALPHA				
APP TOROKU_NO	HEADER('登録番号')					-
	COMMENT()					
APP TOROKU_DATE	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('登録年月日')					
	COMMENT()					
APP KANRI_NO	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('管理番号')					
	COMMENT()					
APP BUNRUI_CD	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('分類コード')					
	COMMENT()					
APP BUNRUI	NOOUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('分類')					
	COMMENT()					
APP TITLE	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('タイトル')					
	COMMENT()					
APP TITLE_KANA	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('タイトル (カナ)')					
	COMMENT()					
	NOOUTPUT SYNONYM					

(続く)

(続き)

	1	2	3	4	5	6	7
APP	TITLE_EIGO		HEADER('タイトル (英語)')				-
			COMMENT()				-
APP	LECTURER		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('担当講師')				-
			COMMENT()				-
APP	KAMOKU_CD		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('科目コード')				-
			COMMENT()				-
APP	KAMOKU		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('科目名')				-
			COMMENT()				-
APP	K_GAIYO		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('科目概要')				-
			COMMENT()				-
APP	ZENKANSU		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('全巻数')				-
			COMMENT()				-
APP	MAIN_LLECTURER		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('主任講師')				-
			COMMENT()				-
APP	OPENING_YEAR		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('開設年次')				-
			COMMENT()				-
APP	CLOSING_YEAR	OUTPUT SYNONYM	HEADER('閉講年次')				-
			COMMENT()				-
APP	MOKUROKU		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('目録記載')				-
			COMMENT()				-
APP	NDC_CD		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('NDCコード')				-
			COMMENT()				-
APP	NDC		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('NDC')				-
			COMMENT()				-
APP	YOTO_CD		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('用途コード')				-
			COMMENT()				-
APP	YOTO		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('用途')				-
			COMMENT()				-
APP	TAISHO_CD		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('対象コード')				-
			COMMENT()				-
APP	TAISHO		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('対象')				-
			COMMENT()				-
APP	MEDIA_CD		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('媒体コード')				-
			COMMENT()				-
APP	MEDIA		NOOUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('媒体')				-
			COMMENT()				-
APP	YEAR		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('制作年')				-
			COMMENT()				-
APP	TIME		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('時間')				-
			COMMENT()				-
APP	LANGUAGE		OUTPUT SYNONYM				-
			HEADER('言語')				-
			COMMENT()				-
			OUTPUT SYNONYM				-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	KEYWORD	HEADER('キーワード(漢字)')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	KEYWORD_KANA	HEADER('キーワード(カナ)')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	KEYWORD_EIGO	HEADER('キーワード(英語)')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	ABSTRACT	HEADER('概要(漢字)')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	ABSTRACT_KANA	HEADER('概要(カナ)')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	ABSTRACT_EIGO	HEADER('概要(英語)')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	P_CD	HEADER('制作コード')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	PRODUCTION	HEADER('制作会社')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_ZIP	HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_ADDRESS	HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	P_TEL	HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	SPONSOR	HEADER('企画会社')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	CW_CD	HEADER('著作権コード')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	CW_NAME	HEADER('著作権者')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	CW_ZIP	HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	CW_ADDRESS	HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	CW_TEL	HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP	CW_MONEY	HEADER('著作物使用料')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MASK_LEVEL	HEADER('マスキレベル')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MEDIA_TYPE	HEADER('メディア種別')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP	MASTER_VOL	HEADER('保存静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	MASTER_ADDR	HEADER('保存静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_VOL	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('検索静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('検索静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	SUMMARY_VOL	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('サマリーボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	START_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('番組スタートアドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	END_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('番組エンドアドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	WS_NAME	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('ワークステーション名')				-
		COMMENT()				-
APP	DOCID	NOOUTPUT SYNONYM				-
		HEADER('文書ユニーク名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				-
INDEX	(TOROKU DATE	KANRI NO	BUNRUI CD	BUNRUI		-
	LECTURER	KAMOKU CD	MAIN LECTURER	OPENING_YEAR		-
	CLOSING YEAR	MOKUROKU	NDC CD	NDC		-
	YOTO CD	YOTO	TAISHO CD	TAISHO		-
	MEDIA CD	MEDIA	YEAR	TIME		-
	LANGUAGE					-
	P CD	PRODUCTION	SPONSOR	CW_CD		-
	CW NAME)				-
KEYWORD	K FREEWORD	ALIAS(KFW)				
NKEYWORD	N_FREEWORD	ALIAS(NFW)	NUMERIC	YAMATO GO	JISHI	
MAP						
END						
END						
/*						
//						

3.3.3 SOZAI（素材静止画）データベース

(1) データベース情報

SOZAI（素材静止画）データベースは、番組の制作に使用された写真、スライド、図表等の静止画像データベースである。表3.3.11に、SOZAIデータベースの代表的なデータベース項目情報を示す。

表3.3.11 素材静止画データベースの名称設定

項 目	設 定 値
データベース名	素材静止画
システム登録名	SOZAI
サブファイル名	SOZSUB01
データベース番号	C1

(2) スペース見積

表3.3.12にSOZAIデータベースのスペース見積を示す。SOZAIデータベースのスペースは、初期量として3万件、年4回計16,000件の更新を行っている実績から算出している。

表3.3.12 素材静止画データベースのスペース見積もり

<ul style="list-style-type: none"> ・初期量 : 30,000レコード ・増分量 : 4,000レコード／3ヵ月 ・収納年数 : 3.8年 					
NO	ファイルの種類	スペース量	ブロック化因数	ボリューム 通番	データセット名
1	論理構造ファイル	50 BLK	—	USER04	AMIS. SOZAI. LRSFILE. L01
2	サブファイル	50,000 BLK	15	USER04	AMIS. SOZAI. SOZSUB01. S01
3	データベース会計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. SOZAI. ACCTFILE. A01
4	データベース統計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. SOZAI. STATFILE. T01

(3) データ項目

表3.3.13にSOZAIデータベースのデータ項目及び各項目の代表的な項目情報の設定値を示す。

表3.3.13 素材静止画データベースのデータ項目設定

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力	出版 対象
01	TOROKU_NO	NO	登録番号	キー	6	—	右詰	半角	○	○
02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	文字	8	1	右詰	半角	○	○
03	KANRI_NO	KN	管理番号	文字	16	1	左詰	半角	○	○
04	FUKABUNRUI_CD	FC	付加分類 コード	文字	2	2	左詰	半角		○
05	FUKABUNRUI	FU	付加分類	文字	30	2	左詰	全角	○	
06	TITLE	T	タイトル	文章	200	—	—	全角	○	○
07	TITLE_KANA	TK	タイトル (カナ)	文章	100	—	—	半角		
08	TITLE_EIGO	TE	タイトル (英語)	文章	250	—	—	半角		
10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	文字	8	1	左詰	半角		
11	KAMOKU	KA	科目名	文章	60	—	—	全角	○	
18	DAIHON	D	台本頁番号	文字	6	1	左詰	半角		
20	NDC_CD	NC	NDCコード	文字	3	1	左詰	半角	○	○
21	NDC	—	NDC	文字	40	1	左詰	全角	○	
26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	文字	2	1	左詰	半角		○
27	MEDIA	ME	媒体	文字	40	1	左詰	全角	○	
28	YEAR	Y	制作年	文字	4	1	右詰	半角	○	○
32	COLOR_CD	CC	カラーコード	文字	1	1	左詰	半角		○
33	COLOR	CO	カラー	文字	10	1	左詰	全角	○	
39	ISBN	—	出典	文字	100	1	左詰	全角	○	
40	KEYWORD	K	キーワード (漢字)	文章	250	—	—	全角		○
41	KEYWORD_KANA	KK	キーワード (カナ)	文章	250	—	—	半角	○	
42	KEYWORD_EIGO	KE	キーワード (英語)	文章	250	—	—	半角		
43	ABSTRACT	A	概要(漢字)	文章	1000	—	—	全角	○	○

(続く)

網掛け部分は変更禁止

(続き)

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力	出版 対象
44	ABSTRACT_KANA	AK	概要 (カナ)	文章	1000	—	—	半角		
45	ABSTRACT_EIGO	AE	概要 (英語)	文章	1000	—	—	半角		
57	PHOTOGRAPHER	PHO	撮影者	文字	40	1	左詰	全角	○	
58	PH_LOCATION	PHL	撮影地	文章	80	—	—	全角	○	○
59	PH_DATE	PHD	撮影年月日	文字	8	1	右詰	半角	○	○
70	CW_CD	CWC	著作権者コード	文字	5	1	左詰	半角		○
71	CW_NAME	CWN	著作権者	文字	60	1	左詰	全角	○	○
72	CW_ZIP	CWZ	郵便番号	文字	10	1	左詰	全角	○	
73	CW_ADDRESS	CWA	住所	文章	80	—	—	全角	○	
74	CW_TEL	CWT	電話	文字	15	1	左詰	全角	○	
75	CW_MONEY	CWM	著作物使用料	文字	8	1	右詰	半角		
80	MASK_LEVEL	—	マスクレベル	文字	2	1	右詰	半角		
81	MEDIA_TYPE	—	メディア種別	文字	1	1	左詰	半角		
82	MASTER_VOL	—	保存静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角		
83	MASTER_ADDR	—	保存静止画 アドレス	文字	4	1	左詰	半角		
84	REF_VOL	—	検索静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角		
85	REF_ADDR	—	検索静止画 アドレス	文字	5	1	左詰	半角		
86	SUMMARY_VOL	—	サマリー ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角		
87	START_ADDR	—	番組スタート アドレス	文字	5	1	左詰	半角		
88	END_ADDR	—	番組エンド アドレス	文字	5	1	左詰	半角		
89	WS_NAME	—	ワーク ステーション名	文字	8	1	左詰	半角		
90	DOCID	DOC	文書ユニーク名	文字	14	1	左詰	半角		

網掛け部分は変更禁止

(4) インバーテッドファイル項目

表3. 3. 14にSOZAIデータベースのインバーテッドファイルを示す。

表3.3.14 素材静止画データベースのインバーテッド項目設定

No	項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	インバーテッドファイル種別
1	02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	インデックス インバーテド ファイル
2	03	KANRI_NO	KN	管理番号	
3	04	FUKABUNRUI_CD	FC	付加分類コード	
4	05	FUKABUNRUI	FU	付加分類	
5	10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	
6	18	DAIHON	D	台本頁番号	
7	20	NDC_CD	NC	NDCコード	
8	21	NDC	—	NDC	
9	26	MEDIA_CD	MC	媒体コード	
10	27	MEDIA	ME	媒体	
11	28	YEAR	Y	制作年	
12	32	COLOR_CD	CC	カラーコード	
13	33	COLOR	CO	カラー	
14	57	PHOTOGRAPHER	PHO	撮影者	
15	59	PH_DATE	PHD	撮影年月日	
16	70	CW_CD	CWC	著作権者コード	
17	71	CW_NAME	CWN	著作権者	
18		K_FREWORD	KFW	タイトル (カナ) タイトル (英語) キーワード (カナ) キーワード (英語) 概要 (カナ) 概要 (英語)	キーワード インバーテド ファイル
19		N_FREWORD	NFW	タイトル キーワード 概要 科目名 撮影地	日本語 キーワード インバーテド ファイル

(5) 登録用 JCL

SOZAI データベースを初めに創成する際は、SOZAI データベース登録用 JCL を実行する。

① SOZAI データベース登録用 JCL の登録先

SOZAI データベース登録用 JCL の登録先 'SOZAIGEN' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	SOZAIGEN

② SOZAI データベース登録用 JCL 'SOZAIGEN' の内容

SOZAI データベース登録用 JCL 'SOZAIGEN' の内容を図 3. 3. 3 に示す。

図3.3.3 SOZAI データベース登録用 JCL 'SOZAIGEN'

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//SOZAIGEN JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****/
//* FAIRS-I ) SOZAI データベースノトラク /*/
//*****/
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET /*/
//*****/
//STEP1 EXEC PGM=KDJBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****/
//* STEP2 : FAIRS-I ) SCRATCH , INITIALIZE AND DBGEN /
//*****/
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=2560K,DYNAMNBR=20
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
SCRATCH SOZAI ALL
INITIALIZE SOZAI
LRSFILE SPACE(50) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER04)
SUBFILE SOZSUB01 SPACE(250000) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER04)
BIND(15)
ACCTFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
STATFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
END
```

(続く)

(続き)

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
DBGEN
SELECT SOZAI
ATTRIB MARGIN(10) LETTER(KANA) DELIMITER(',') FILEOUT SYSOUT -
      TSS BATCH PUBLIC OUTLIMIT(0) CAPS NCAPS NKCAPS -
      SUPPRESS
DATABASE OWNER(' 素材静止画データベース') -
      EXPLANATION(' 素材静止画データベースは、番組制作に利用さ-
れた写真、スライド等の画像データベースである。') -
      SUMMARY(' 素材静止画データベース') -
      TITLE(' S O Z A I') UNIT(' 件')
SUBFILE SOZSUB01
      EXPLANATION(' メディアとしてテキストデータ、静止画データ-
を保有するサブデータベースである。') -
      SUMMARY(' 素材静止画サブデータベース') -
      LEVEL(0)
KEY      TOROKU_NO      ALIAS(NO)      F      AD(R) -
      L(006) ALPHA
ELEMENT TOROKU_DATE      ALIAS(DATE) CHAR F OC(01) AD(R) -
      L(008) ALPHA
ELEMENT KANRI_NO      ALIAS(KN) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(016) ALPHA
ELEMENT FUKABUNRUI_CD      ALIAS(FC) CHAR V OC(02) AD(L) -
      L(002) ALPHA
ELEMENT FUKABUNRUI      ALIAS(FU) CHAR V OC(02) AD(L) -
      L(030) NIHON
ELEMENT TITLE      ALIAS(T) TEXT -
      L(200) NIHON
ELEMENT TITLE_KANA      ALIAS(TK) TEXT -
      L(100) ALPHA
ELEMENT TITLE_EIGO      ALIAS(TE) TEXT -
      L(250) ALPHA
ELEMENT KAMOKU_CD      ALIAS(KC) CHAR F OC(01) AD(L) -
      L(008) ALPHA
ELEMENT KAMOKU      ALIAS(KA) TEXT -
      L(060) NIHON
ELEMENT DAIHON      ALIAS(D) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(006) ALPHA
ELEMENT NDC_CD      ALIAS(NC) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(003) ALPHA
ELEMENT NDC      CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(040) NIHON
ELEMENT MEDIA_CD      ALIAS(MC) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(002) ALPHA
ELEMENT MEDIA      ALIAS(ME) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(040) NIHON
ELEMENT YEAR      ALIAS(Y) CHAR F OC(01) AD(R) -
      L(004) ALPHA
ELEMENT COLOR_CD      ALIAS(CC) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(001) ALPHA
ELEMENT COLOR      ALIAS(CO) CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(010) NIHON
ELEMENT ISBN      CHAR V OC(01) AD(L) -
      L(100) NIHON
ELEMENT KEYWORD      ALIAS(K) TEXT -
      L(250) NIHON
ELEMENT KEYWORD_KANA      ALIAS(KK) TEXT -
      L(250) ALPHA
ELEMENT KEYWORD_EIGO      ALIAS(KE) TEXT -
      L(250) ALPHA
ELEMENT ABSTRACT      ALIAS(A) TEXT -
      L(1000) NIHON

```

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
ELEMENT ABSTRACT_KANA	ALIAS(AK)	TEXT				-
		L(1000) ALPHA				
ELEMENT ABSTRACT_EIGO	ALIAS(AE)	TEXT				-
		L(1000) ALPHA				
ELEMENT PHOTOGRAPHER	ALIAS(PHO)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(040) NIHON				
ELEMENT PH_LOCATION	ALIAS(PHL)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT PH_DATE	ALIAS(PHD)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT CW_CD	ALIAS(CWC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT CW_NAME	ALIAS(CWN)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT CW_ZIP	ALIAS(CWZ)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(010) NIHON				
ELEMENT CW_ADDRESS	ALIAS(CWA)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT CW_TEL	ALIAS(CWT)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(015) NIHON				
ELEMENT CW_MONEY	ALIAS(CWM)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASK_LEVEL		CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT MEDIA_TYPE		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(001) ALPHA				
ELEMENT MASTER_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASTER_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT REF_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT REF_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT SUMMARY_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT START_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT END_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT WS_NAME		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT DOCID	ALIAS(DOC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(014) ALPHA				
APP TOROKU_NO		HEADER('登録番号')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP TOROKU_DATE		HEADER('登録年月日')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP KANRI_NO		HEADER('管理番号')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP FUKABUNRUI_CD		HEADER('付加分類コード')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				
APP FUKABUNRUI		HEADER('付加分類')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP TITLE		HEADER('タイトル')				-
		COMMENT()				-
		OUTPUT SYNONYM				
APP TITLE_KANA		HEADER('タイトル (カナ)')				-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	TITLE_EIGO		HEADER('タイトル (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	KAMOKU_CD		HEADER('科目コード')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	KAMOKU		HEADER('科目名')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	DAIHON		HEADER('台本頁番号')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	NDC_CD		HEADER('NDCコード')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	NDC		HEADER('NDC')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	MEDIA_CD		HEADER('媒体コード')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	MEDIA		HEADER('媒体')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	YEAR		HEADER('制作年')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	COLOR_CD		HEADER('カラーコード')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	COLOR		HEADER('カラー')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	ISBN		HEADER('出典')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD		HEADER('キーワード (漢字)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD_KANA		HEADER('キーワード (カナ)')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD_EIGO		HEADER('キーワード (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT		HEADER('概要 (漢字)')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT_KANA		HEADER('概要 (カナ)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT_EIGO		HEADER('概要 (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	PHOTOGRAPHER		HEADER('撮影者')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	PH_LOCATION		HEADER('撮影地')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	PH_DATE	HEADER('撮影年月日')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_CD	OUTPUT SYNONYM HEADER('著作権コード')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_NAME	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('著作権者')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_ZIP	OUTPUT SYNONYM HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_ADDRESS	OUTPUT SYNONYM HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_TEL	OUTPUT SYNONYM HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_MONEY	OUTPUT SYNONYM HEADER('著作物使用料')				-
		COMMENT()				-
APP	MASK_LEVEL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('マスキレベル')				-
		COMMENT()				-
APP	MEDIA_TYPE	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('メディア種別')				-
		COMMENT()				-
APP	MASTER_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('保存静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	MASTER_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('保存静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('検索静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('検索静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	SUMMARY_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('サマリーボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	START_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('番組スタートアドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	END_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('番組エンドアドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	WS_NAME	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('ワークステーション名')				-
		COMMENT()				-
APP	DOCID	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('文書ユニーク名')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				-
INDEX	(TOROKU_DATE	KANRI NO	FUKABUNRUI_CD	FUKABUNRUI		-
	KAMOKU_CD	DAIHON	NDC_CD	NDC		-
	MEDIA_CD	MEDIA	YEAR	COLOR_CD		-
	COLOR	PHOTOGRAPHER	PH_DATE	CW_CD		-
	CW_NAME)				-
KEYWORD	K FREEWORD	ALIAS(KFW)				-
NKEYWORD	N FREEWORD	ALIAS(NFW)	NUMERIC	YAMATOGO	JISHI	-
MAP						-
END						-
END						-
/*						-
//						-

3.3.4 SHIRYO（文献・資料）データベース

(1) データベース情報

SHIRYO（文献・資料）データベースは、主にセンターが出版している文献や印刷資料に関するデータベースで、イメージ情報を有する。表3. 3. 15に、SHIRYOデータベースの代表的なデータベース項目情報を示す。

表3.3.15 文献・資料データベースの名称設定

項 目	設 定 値
データベース名	文献・資料
システム登録名	SHIRYO
サブファイル名	SHISUB01
データベース番号	D1

(2) スペース見積

表3. 3. 16にSHIRYOデータベースのスペース見積を示す。SOZAIデータベースのスペースは、初期量として100件、年4回計100件程度の更新が見込まれることから算出している。

表3.3.16 文献・資料データベースのスペース見積もり

・初期量 : 100レコード ・増分量 : 100レコード／3ヵ月 ・収納年数 : 17.3年					
NO	ファイルの種類	スペース量	ブロック化因数	リユーム 通番	データセット名
1	論理構造ファイル	50 BLK	—	USER05	AMIS. SHIRYO. LRSFILE. L01
2	サブファイル	10,000 BLK	15	USER05	AMIS. SHIRYO. SHISUB01. S01
3	データベース会計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. SHIRYO. ACCTFILE. A01
4	データベース統計情報ファイル	100 TRK	—	USER01	AMIS. SHIRYO. STATFILE. T01

(3) データ項目

表3. 3. 17にSHIRYOデータベースのデータ項目及び各項目の代表的な項目情報の設定値を示す。

表3.3.17 文献・資料データベースのデータ項目設定

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
01	TOROKU_NO	NO	登録番号	キー	6	—	右詰	半角	○
02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	文字	8	1	右詰	半角	○
03	KANRI_NO	KN	管理番号	文字	16	1	左詰	半角	○
06	TITLE	T	タイトル	文章	200	—	—	全角	○
07	TITLE_KANA	TK	タイトル (カナ)	文章	100	—	—	半角	
08	TITLE_EIGO	TE	タイトル (英語)	文章	250	—	—	半角	
09	AUTHOR	AT	著者	文字	100	4	左詰	全角	○
10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	文字	8	1	左詰	半角	
11	KAMOKU	KA	科目名	文章	60	—	—	全角	○
20	NDC_CD	NC	NDCコード	文字	3	1	左詰	半角	○
21	NDC	—	NDC	文字	40	1	左詰	全角	○
28	YEAR	Y	制作年	文字	4	1	右詰	半角	○
34	PUB_PLACE	PP	出版国	文字	50	1	左詰	全角	○
35	LANGUAGE	LG	言語	文字	50	1	左詰	全角	○
37	JOUNAL	J	収録雑誌	文字	60	1	左詰	全角	○
38	BIB_DATA	BIB	巻号頁	文字	20	1	左詰	半角	○
40	KEYWORD	K	キーワード (漢字)	文章	250	—	—	全角	
41	KEYWORD_KANA	KK	キーワード (カナ)	文章	250	—	—	半角	○
42	KEYWORD_EIGO	KE	キーワード (英語)	文章	250	—	—	半角	
43	ABSTRACT	A	概要 (漢字)	文章	1000	—	—	全角	○
44	ABSTRACT_KANA	AK	概要 (カナ)	文章	1000	—	—	半角	
45	ABSTRACT_EIGO	AE	概要 (英語)	文章	1000	—	—	半角	
60	P_CD	PC	制作コード	文字	5	1	左詰	半角	
61	PRODUCTION	PR	制作会社	文字	60	1	左詰	全角	○
62	P_ZIP	PZ	郵便番号	文字	10	1	左詰	全角	○
63	P_ADDRESS	PA	住所	文章	80	—	—	全角	○

(続く)

網掛け部分は変更禁止

(続き)

項目 ID	項目名	別名	ヘッダ	形式	長さ バイト	生 起	比較 方法	属性	出力
64	P_TEL	PT	電話	文字	15	1	左詰	全角	○
70	CW_CD	CWC	著作権者コード	文字	5	1	左詰	半角	
71	CW_NAME	CWN	著作権者	文字	40	1	左詰	全角	○
72	CW_ZIP	CWZ	郵便番号	文字	12	1	左詰	全角	○
73	CW_ADDRESS	CWA	住所	文章	80	—	—	全角	○
74	CW_TEL	CWT	電話	文字	24	1	左詰	全角	○
75	CW_MONEY	CWM	著作物使用料	文字	8	1	右詰	半角	
80	MASK_LEVEL	—	マスクレベル	文字	2	1	右詰	半角	
81	MEDIA_TYPE	—	メディア種別	文字	1	1	左詰	半角	
82	MASTER_VOL	—	保存用静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
83	MASTER_ADDR	—	保存用静止画アドレス	文字	4	1	左詰	半角	
84	REF_VOL	—	検索用静止画 ボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
85	REF_ADDR	—	検索用静止画アドレス	文字	5	1	左詰	半角	
86	SUMMARY_VOL	—	サマリーボリューム名	文字	8	1	左詰	半角	
87	START_ADDR	—	番組スタートアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
88	END_ADDR	—	番組エンドアドレス	文字	5	1	左詰	半角	
89	WS_NAME	—	ワークステーション名	文字	8	1	左詰	半角	
90	DDCID	DDC	文書ユニーク名	文字	14	1	左詰	半角	

網掛け部分は変更禁止

(4) インバーテッドファイル項目

表3. 3. 18にSHIRYOデータベースのインバーテッドファイルを示す。

表3.3.18 文献・資料データベースのインバーテッド項目設定

No	項目 I D	項目名	別名	ヘッダ	インバーテッドファイル種別
1	02	TOROKU_DATE	DATE	登録年月日	インデックス インバーテド ファイル
2	03	KANRI_NO	KN	管理番号	
3	09	AUTHOR	AT	著者	
4	10	KAMOKU_CD	KC	科目コード	
5	20	NDC_CD	NC	NDCコード	
6	21	NDC	—	NDC	
7	28	YEAR	Y	制作年	
8	34	PUB_PLACE	PP	出版国	
9	35	LANGUAGE	LG	言語	
10	37	JOURNAL	J	収録雑誌	
11	60	P_CD	PC	制作コード	
12	61	PRODUCTION	PR	制作会社	
13	70	CW_CD	CWC	著作権者コード	
14	71	CW_NAME	CWN	著作権者	
15		K_FREEWORD	KFW	タイトル (カナ) タイトル (英語) キーワード (カナ) キーワード (英語) 概要 (カナ) 概要 (英語)	キーワード インバーテド ファイル
16		N_FREEWORD	NFW	タイトル キーワード 概要	日本語キーワード インバーテド ファイル

(5) EFSキャビネット属性

SHIRYOデータベースのイメージ情報は、イメージファイリングシステムに入力される。イメージファイリングシステムはスタンドアロンでも使用が可能であり、独自に書誌情報に相当する文字情報を保有する。SHIRYOデータベースのイメージファイリングシステム上の

書誌情報項目を表3. 3. 19に示す。キャビネット属性値は表に示す値に統一されており、管理番号を有することが必須の条件となっている。

表3.3.19 文献・資料データベースのキャビネット属性設定

No.	E F S 文書管理情報・項目名		文字	長さ	設定内容
	デフォルト属性	設定属性	区分	バイト	
キャビネット属性					
1	キャビネットID	——	ANK	6	SHIRYO
2	キャビネット名	——	日本語	60	文献・資料イメージ情報
3	キャビネットの注釈	——	日本語	80	(任意)
4	所有者名	——	日本語	30	放送教育開発センター
5	パスワードレベル	——	ANK	1	2
6	パスワード	——	ANK	8	SHIRYO
7	ドア 有無	——	——	—	なし
8	ガイドレベル数	——	ANK	1	0 (なし)
システム標準項目					
1	フリーキーワード	——	日本語 ANK	20	キーワードインポート 項目の内容より抽出 (10項目設定可能)
2	文書名	タイトル	日本語	60	2次情報のタイトルを設定
3	所有者名	著者名	日本語	30	(任意)
4	文書の注釈	——	日本語	80	(任意)
利用者設定項目 (10項目)					
NO	項目名	形式	バイト	検索項目	備 考
1	2次情報登録番号	2	6	1	
2	管理番号	1	16	1	必須
3	DB番号	1	2	1	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(6) 登録用 JCL

SHIRYOデータベースを初めに創成する際は、SHIRYOデータベース登録用JCLを実行する。

①SHIRYOデータベース登録用JCLの登録先

SHIRYOデータベース登録用JCLの登録先 'SIRYOGEN' は次のデータセットに登録されている。

データセット名	メンバ名
AMIS.APP.JCL	SIRYOGEN

②SHIRYOデータベース登録用JCL 'SIRYOGEN' の内容

SHIRYOデータベース登録用JCL 'SIRYOGEN' の内容を図3. 3. 4に示す。

図3.3.4 SHIRYO データベース登録用 JCL 'SIRYOGEN'

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//SIRYOGEN JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I ) SHIRYO データベース ノ トロク */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) SCRACH , INITIALIZE AND DBGEN /
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=2560K,DYNAMNBR=20
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
SCRATCH SHIRYO ALL
INITIALIZE SHIRYO
LRSFILE SPACE(50) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER05)
SUBFILE SHISUB01 SPACE(10000) UNIT(SYSDA) VOLUME(USER05) -
BIND(15)
ACCTFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
STATFILE SPACE(100) TRACKS UNIT(SYSDA) VOLUME(USER01)
END
DBGEN
SELECT SHIRYO
ATTRIB MARGIN(10) LETTER(KANA) DELIMITER(',') FILEOUT SYSOUT -
TSS BATCH PUBLIC OUTLIMIT(0) CAPS NCAPS NKCAPS -
SUPPRESS
DATABASE OWNER('放送教育開発センター') -

```

(続く)

(続き)

KEY	TOROKU_NO	ALIAS(NO)	F	AD(R)
ELEMENT TOROKU_DATE		ALIAS(0)	L(006) ALPHA	
ELEMENT KANRI_NO		ALIAS(KN)	CHAR F OC(01)	AD(R)
ELEMENT TITLE		ALIAS(T)	L(008) ALPHA	
ELEMENT TITLE_KANA		ALIAS(TK)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT TITLE_EIGO		ALIAS(TE)	L(016) ALPHA	
ELEMENT AUTHOR		ALIAS(AT)	TEXT	
ELEMENT KAMOKU_CD		ALIAS(KC)	L(200) NIHON	
ELEMENT KAMOKU		ALIAS(KA)	TEXT	
ELEMENT NDC_CD		ALIAS(NC)	L(100) ALPHA	
ELEMENT NDC		ALIAS(Y)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT YEAR		ALIAS(PP)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT PUB_PLACE		ALIAS(LG)	L(040) NIHON	
ELEMENT LANGUAGE		ALIAS(J)	CHAR F OC(01)	AD(R)
ELEMENT JOURNAL		ALIAS(BIB)	L(004) ALPHA	
ELEMENT BIB_DATA		ALIAS(K)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT KEYWORD		ALIAS(KK)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT KEYWORD_KANA		ALIAS(KE)	L(050) NIHON	
ELEMENT KEYWORD_EIGO		ALIAS(A)	L(050) NIHON	
ELEMENT ABSTRACT		ALIAS(AK)	CHAR V OC(01)	AD(L)
ELEMENT ABSTRACT_KANA		ALIAS(AE)	L(020) ALPHA	
ELEMENT ABSTRACT_EIGO		ALIAS(PC)	TEXT	
ELEMENT P_CD		ALIAS(PK)	L(1000) NIHON	
			L(1000) ALPHA	
			CHAR V OC(01)	AD(L)
			L(005) ALPHA	

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
ELEMENT PRODUCTION	ALIAS(PR)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(060) NIHON				
ELEMENT P_ZIP	ALIAS(PZ)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(010) NIHON				
ELEMENT P_ADDRESS	ALIAS(PA)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT P_TEL	ALIAS(PT)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(015) NIHON				
ELEMENT CW_CD	ALIAS(CWC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT CW_NAME	ALIAS(CWN)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(040) NIHON				
ELEMENT CW_ZIP	ALIAS(CWZ)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(012) NIHON				
ELEMENT CW_ADDRESS	ALIAS(CWA)	TEXT				-
		L(080) NIHON				
ELEMENT CW_TEL	ALIAS(CWT)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(024) NIHON				
ELEMENT CW_MONEY	ALIAS(CWM)	CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASK_LEVEL		CHAR F OC(01) AD(R)				-
		L(002) ALPHA				
ELEMENT MEDIA_TYPE		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(001) ALPHA				
ELEMENT MASTER_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT MASTER_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(004) ALPHA				
ELEMENT REF_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT REF_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT SUMMARY_VOL		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT START_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT END_ADDR		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(005) ALPHA				
ELEMENT WS_NAME		CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(008) ALPHA				
ELEMENT DOCID	ALIAS(DOC)	CHAR V OC(01) AD(L)				-
		L(014) ALPHA				
APP TOROKU_NO	HEADER('登録番号')					-
	COMMENT()					-
APP TOROKU_DATE	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('登録年月日')					-
	COMMENT()					-
APP KANRI_NO	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('管理番号')					-
	COMMENT()					-
APP TITLE	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('タイトル')					-
	COMMENT()					-
APP TITLE_KANA	OUTPUT SYNONYM					-
	HEADER('タイトル (カナ)')					-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	TITLE_EIGO		HEADER('タイトル (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	AUTHOR		HEADER('著者')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	KAMOKU_CD		HEADER('科目コード')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	KAMOKU		HEADER('科目名')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	NDC_CD		HEADER('NDCコード')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	NDC		HEADER('NDC')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	YEAR		HEADER('制作年')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	PUB_PLACE		HEADER('出版国')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	LANGUAGE		HEADER('言語')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	JOURNAL		HEADER('収録雑誌')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	BIB_DATA		HEADER('巻号頁')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD		HEADER('キーワード (漢字)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD_KANA		HEADER('キーワード (カナ)')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	KEYWORD_EIGO		HEADER('キーワード (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT		HEADER('概要 (漢字)')			-
			COMMENT()			-
			OUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT_KANA		HEADER('概要 (カナ)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	ABSTRACT_EIGO		HEADER('概要 (英語)')			-
			COMMENT()			-
			NOOUTPUT SYNONYM			-
APP	P_CD		HEADER('制作コード')			-
			COMMENT()			-

(続く)

(続き)

1	2	3	4	5	6	7
APP	PRODUCTION	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('制作会社')				-
		COMMENT()				-
APP	P_ZIP	OUTPUT SYNONYM HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
APP	P_ADDRESS	OUTPUT SYNONYM HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
APP	P_TEL	OUTPUT SYNONYM HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_CD	OUTPUT SYNONYM HEADER('著作権コード')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_NAME	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('著作権者')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_ZIP	OUTPUT SYNONYM HEADER('郵便番号')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_ADDRESS	OUTPUT SYNONYM HEADER('住所')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_TEL	OUTPUT SYNONYM HEADER('電話')				-
		COMMENT()				-
APP	CW_MONEY	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('著作物使用料')				-
		COMMENT()				-
APP	MASK_LEVEL	OUTPUT SYNONYM HEADER('マスキレベル')				-
		COMMENT()				-
APP	MEDIA_TYPE	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('メディア種別')				-
		COMMENT()				-
APP	MASTER_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('保存静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	MASTER_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('保存静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('検索静止画ボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	REF_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('検索静止画アドレス')				-
		COMMENT()				-
APP	SUMMARY_VOL	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('サマリーボリューム名')				-
		COMMENT()				-
APP	START_ADDR	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('番組スタートアドレス')				-
		COMMENT()				-
		NOOUTPUT SYNONYM				-

(続く)

(続き)

	1	2	3	4	5	6	7
APP	END_ADDR	HEADER(番組エンドアドレス')				-	
		COMMENT()				-	
APP	WS_NAME	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('ワークステーション名')				-	
		COMMENT()				-	
APP	DOCID	NOOUTPUT SYNONYM HEADER('文書ユニーク名')				-	
		COMMENT()				-	
INDEX	(TOROKU DATE	KANRI NO	AUTHOR	KAMOKU CD	-		
	NDC CD	NDC	YEAR	PUB PLACE	-		
	LANGUAGE	JOURNAL	P CD	PRODUCTION	-		
	CW CD	CW NAME)		-		
KEYWORD	K FREEWORD	ALIAS(KFW)			-		
NKEYWORD	N FREEWORD	ALIAS(NFW)	NUMERIC	YAMATO GO JISHI			
MAP							
END							
END							
/*							
//							

3.4 画像情報の所在管理

画像情報は各種の装置や媒体に記録・蓄積されており、中央制御装置から検索等で各画像情報にアクセスするために、画像情報の所在を管理する必要がある。AMISは、様々な機器に分散している情報を効率よく整理して管理している。次に、画像情報に関わる媒体や装置単位に所在管理がどの様に行われているかを説明する。

3.4.1 KYOZAIデータベースにおけるサマリー情報

KYOZAIデータベースは画像情報として静止画と音からなるサマリー情報を持っている。

(1) サマリー情報の蓄積媒体

サマリー情報はアナログ光ディスクに記録、蓄積される。サマリー情報用のアナログ光ディスクは、一枚の片面が一つのボリュームとして独立して管理される。一ボリュームに対し8バイトのボリューム名が付けられる。ボリューム上のサマリー情報の所在は5バイトのスタートアドレス及びエンドアドレスの組合せで示される。一ボリュームは、1,023件を上限としてサマリー情報が記録される。このサマリーをアナログ光ディスクに記録する際は、表3.4.1に示すアドレス情報が同時にアナログ光ディスクのデータ領域に記録される。

表3.4.1 サマリーのアドレス情報フロッピーの内容

No.	項目名	長さ[byte]	説明
1	ディスクNo.	8	ディスク, 及び表/裏の識別番号
2	番組No.	4	ボリューム内の連番 (1~1,023)
3	管理番号	16	管理番号
4	番組名	24	番組名 (漢字コードはJIS)
5	スタートアドレス	5	番組の開始フレーム番号
6	エンドアドレス	5	番組の終了フレーム番号
7	デリミタ	2	CRとLF

(2) 映像サマリー再生サブシステム

アナログ光ディスクに記録されたサマリー情報は、映像サマリー再生サブシステムで再生制御される。アナログ光ディスクは、アナログ光ディスクオートチェンジャーに装填される。アナログ光ディスクオートチェンジャーは、光ディスクを50枚まで収容することができる。映像サマリー再生サブシステムでは、オートチェンジャーの棚番号と光ディスクの面の組合せをボリュームNo. と呼び、個々のボリュームを管理している。ボリュームNo. は、00~99の数字で表されている。

アナログ光ディスクを再生するドライブにはレーザービデオディスクレコーダー（LVR-5000A）を使用している。レーザービデオディスクレコーダーは、映像サマリー再生サブシステム内に2台用意されている。各レーザービデオディスクレコーダーには、固有のドライブ番号が付けられている。

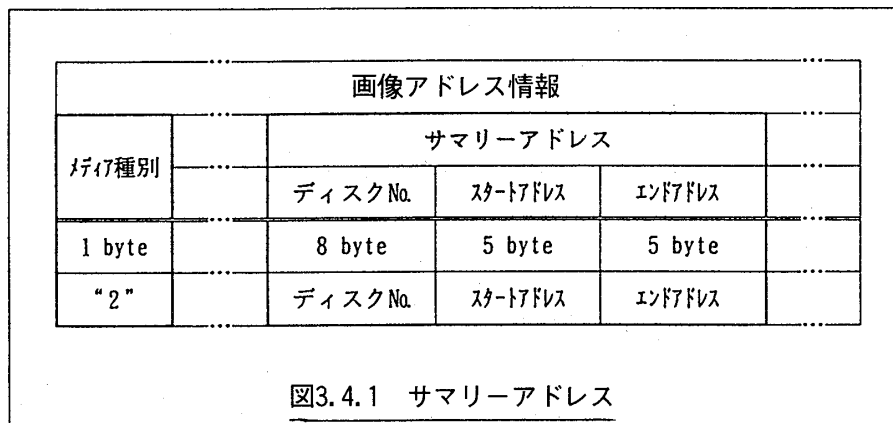
映像サマリー再生サブシステムは、外部の機器とのインタフェースとして、一件の映像教材のサマリー再生を依頼するときには、ドライブ番号、ボリュームNo.、スタートアドレス、及びエンドアドレスを指定するように規定している。

(3) 映像音響機器制御装置

映像音響機器制御装置は、映像サマリー再生サブシステムが定めるインタフェースに従って再生依頼を行うために、ドライブの使用状況、ボリュームNo. とボリューム名の対応、の2点を管理する。ドライブの使用状況は映像音響機器制御装置が自動的に把握する。また、映像音響機器制御装置には、各棚に装填されている光ディスクのボリューム名を調べ、映像音響機器制御装置内の管理ファイルに記録する機能が用意されている。システム管理者は、新しいディスクが追加されたときや変更された場合に、この機能を用いて管理ファイルを更新する。

(4) アドレス情報

中央制御装置上の書誌情報は、図3.4.1に示すアドレス情報で、目的のサマリー情報の所在を管理する。サマリーアドレスは、サマリーを記録したアナログ光ディスクと共に作成されるアドレス情報をもとに設定される。



3.4.2 SOZAIデータベースにおける静止画情報

SOZAIデータベースは画像情報として保存用静止画及び検索用静止画を持っている。

(1) 保存用静止画情報

(1.1) 保存用静止画情報の蓄積媒体

保存用静止画情報はデジタル光ディスクに記録、蓄積される。保存用静止画を蓄積するデジタル光ディスク（WDM-3DL0）は、一枚の片面が一つのボリュームとして独立して管理される。一ボリュームに対し8バイトのボリューム名が付けられる。ボリューム上の静止画の所在は4バイトのアドレスで示される。よって、ボリューム名とアドレスによって一件の静

止画を特定することができる。一ボリュームは、4, 100件を上限として静止画情報が記録される。この静止画をデジタル光ディスクに記録する際は、表3. 4. 2に示すアドレス情報が同時にフロッピーディスクに記録される。

表3.4.2 保存用静止画のアドレス情報フロッピーの内容

No.	項目名	長さ[byte]	説明
1	ボリューム名	8	ボリュームの識別名
2	アドレス	4	静止画が書き込まれたアドレス
3	管理番号	64	先頭16byteに管理番号。残りは無効。
4	無効フラグ	2	この静止画が作成ミス等によって無効であることを示す。

(1. 2) デジタル光ディスクオートチェンジャー

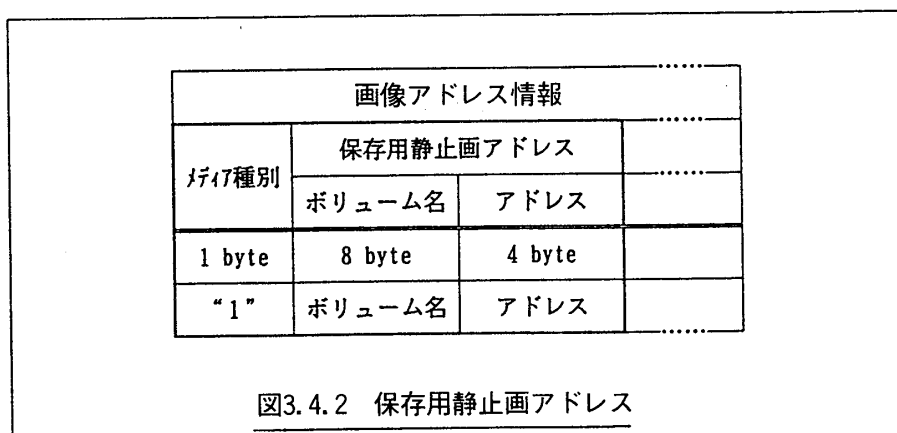
デジタル光ディスクは、デジタル光ディスクオートチェンジャー（WDA-3000）に装填して使われる。デジタル光ディスクオートチェンジャーは、光ディスクを50枚まで収容することができる。オートチェンジャー内では棚番号（0～49）と光ディスクの面（0/1）によってボリュームが識別される。映像音響機器制御装置がボリュームにアクセスするときには、棚番号と面によって目的のボリュームを特定する。

(1. 3) 映像音響機器制御装置

映像音響機器制御装置は、デジタル光ディスクオートチェンジャーに装填された光ディスクを再生するために目的とするボリュームがどの棚のどちらの面に存在しているかを把握しておく必要がある。映像音響機器制御装置には、各棚に装填されている光ディスクのボリューム名を調べ、映像音響機器制御装置内の管理ファイルに記録する機能が用意されている。システム管理者は、新しいディスクが追加されたときや変更された場合に、この機能を用いて管理ファイルを更新する。

(1. 4) アドレス情報

中央制御装置上の書誌情報は、図3. 4. 2に示すアドレス情報で、目的の保存用静止画情



報の所在を管理する。保存用静止画アドレスは、保存用静止画を記録したデジタル光ディスクと共に作成されるアドレス情報をもとに設定される。

(2) 検索用静止画

(2. 1) 検索用静止画情報の蓄積媒体

検索用静止画情報はアナログ光ディスクに記録、蓄積される。検索用静止画を蓄積するアナログ光ディスクは、一枚の片面が一つのボリュームとして独立して管理される。一ボリュームに対し8バイトのボリューム名が付けられる。ボリューム上の静止画の所在は5バイトのアドレス（フレーム番号）で示される。よって、ボリューム名とアドレスによって一件の静止画を特定することができる。一ボリュームは、42,500件を上限として静止画情報が記録される。

(2. 2) 映像音響機器制御装置

アナログ光ディスクはレーザービデオディスクレコーダーで記録・再生される。このレーザービデオディスクレコーダーは、静止画像の増加に伴う増設を容易にするために、マルチプレクサ（MR-12R）経由で映像音響機器制御装置と接続している。このため、映像音響機器制御装置は、目的のボリュームにアクセスするために、ボリューム名とボリュームを装填しているレーザービデオディスクレコーダーが接続されているマルチプレクサのチャンネル番号との対応を把握している。

(2. 3) アドレス情報

中央制御装置上の書誌情報は、図3.4.3に示すアドレス情報で、目的の検索用静止画情報の所在を管理する。検索用静止画アドレスは、静止画情報を保存用光ディスクから検索用光ディスクにコピーしたときと共に作成されるアドレス情報をもとに設定される。

画像アドレス情報					
データ種別	保存用静止画アドレス		検索用静止画アドレス		
	ボリューム名	アドレス	ボリューム名	アドレス	
1 byte	8 byte	4 byte	8 byte	5 byte	
"1"	ボリューム名	アドレス	ボリューム名	アドレス	

図3.4.3 検索用静止画アドレス

3.4.3 SHIRYOデータベースにおけるイメージ情報

SHIRYOデータベースは画像情報としてイメージ情報を持っている。

(1) イメージ情報の蓄積媒体

イメージ情報は、イメージファイリングシステム（EFS）の光ディスクに記録される。EFSには、中央制御装置と連携するために、ワークステーション名という8バイトの名前が付与される。AMISのEFSには、2台の12インチ光ディスクドライブが装備されている。光ディスクの片面はキャビネットとよばれる論理的な入れ物として認識される。キャビネットにはキャビネットIDと呼ばれる6バイトのユニークな名前が付与される。キャビネットに登録される個々の文書には、文書番号と呼ばれるキャビネット内でユニークな6バイトの番号が付けられる。このキャビネットIDと文書番号を、「／キャビネットID／文書番号」のように組み合わせたものを文書ユニーク名という。ワークステーション名と文書ユニーク名で目的のイメージ情報を特定できる。

イメージ情報をEFSに記録する際は、表3.4.3に示すキャビネット属性値をEFS上に登録する必要がある。キャビネット属性値は表に示す値に統一されており、管理番号を有することが必須の条件となっている。

キャビネットID	文書番号	DB番号	管理番号
6byte	6byte	2byte	16byte

表3.4.3 イメージアドレス情報

(2) アドレス情報

中央制御装置上の書誌情報は、図3.4.3に示すアドレス情報で、目的のイメージ情報の所在を管理する。

画像アドレス情報			
バイト種別	イメージアドレス		
	ワークステーション名	文書ユニーク名	
1 byte	8 byte	14 byte	
"3"	ワークステーション名	／キャビネットID／文書番号	

図3.4.4 イメージアドレス

メ デ ィ ア 種 別	デ ー タ 番 号 ー ス	ブランク
----------------------------	---------------------------------	------

- ・メディア種別・・・静止画であることを示す。(= 1 を指定)
- ・データベース番号・・・静止画アドレスを登録するデータベースのDB番号
(DB管理簿に登録されているDB番号を指定する)
- ・保存用静止画アドレス情報

出力：チェック済保存用静止画アドレス情報

操作：

SOZAIデータベースのデータの登録は、次のJCLにより保存用静止画アドレス情報のチェック処理を実行する。保存用静止画アドレス情報のファイル転送時にデータセット名を変更している場合は、JCLもそれに合わせて変更する。本JCLを実行して出力されたチェック済み保存用静止画アドレス情報のデータセットは検索アナログ光ディスクを作成する時の入力データセットとなる。SOZAIデータベースのデータ登録JCLは次のデータセットに登録されている。

データセット名 : AMIS.APPJCL

メンバ名 : SOZ012

入力データセット：SYSINデータ : 1 C 1

保存用静止画アドレス情報：AMIS.SOZAI.ADDR

出力データセット：AMIS.SOZAI.CHKADDR

図4. 4. 8にSOZAIデータベースのデータ登録JCL'SOZ012'のひな型を示す。

図4.4.8 SOZAI データベース用データ登録 JCL 'SOZ012'

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7
//JABB012 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//* JOB ID : JABB012 *
//* *
//* JOB NAME : 一次情報アドレスのチェック処理 (例) *
//*****
//JOB LIB DD DSN=SYS1.COB LIB,DISP=SHR
// DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//* <ABB00301> 所在データ・チェックデータ作成 *
//*-----*
//ABB00301 EXEC PGM=ABB00301,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSD BOUT DD SYSOUT=*
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//AB FILE I DD DSN=AMIS.@@@@@.ADDR,DISP=SHR
//AB FILE O DD DSN=@@SHOCHK1,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=120,BLKSIZE=1200)
//*-----*
//* <S O R T> *
//*-----*
//SORT EXEC PGM= SORT,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORT IN DD DSN=@@SHOCHK1,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORT OUT DD DSN=@@SHOCHK2,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=120,BLKSIZE=1200)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SYS IN DD *
SORT FIELDS=( $$,16,CH,A,
115,6,CH,D)
//*
//*-----*
//* <ABB00301> 所在データ・入力データチェック *
//* (メディア=サマリー・イメージのとき) *
//*-----*
//ABB00303 EXEC PGM=ABB00303,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSD BOUT DD SYSOUT=*
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//AB FILE I DD DSN=@@SHOCHK2,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//AB FILE O DD DSN=AMIS.@@@@@.CHKADDR,DISP=SHR
//AB DB KNR DD DSN=AMIS.DB.MSTR,DISP=SHR
//AB LIST I DD SYSOUT=*
//SYS IN DD *
***
//*
//*-----*
//* <ABB00301> 所在データ・入力データチェック *
//* (メディア=保存用静止画のとき) *
//*-----*
//ABB00303 EXEC PGM=ABB00303,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSD BOUT DD SYSOUT=*
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//AB FILE I DD DSN=@@SHOCHK2,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//AB FILE O DD DSN=@@WDA,DISP=(NEW,KEEP),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(10,5),RLSE),VOL=SER=USER03,

```

(続き)

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7
//          DCB=(RECFM=FB, LRECL=120, BLKSIZE=1200)
//ABDBKNR DD DSN=AMIS. DB. MSTR, DISP=SHR
//ABLIST1 DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
&&&
/*
//*-----*
//*      <S O R T> 2  検索用アナログ光ディスク作成処理用      *
//*      (メディア=保存用静止画のとき)                          *
//*-----*
//SORT EXEC PGM=SORT, REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&WDA, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=AMIS. @@@@. CHKADDR, DISP=SHR
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SYSIN DD *
      SORT FIELDS=(1, 8, CH, A, /** 保存用静止画ボリューム名
                      9, 4, CH, A) /** 保存用静止画アドレス
/*
//*-----*
//*      <ABB00701>  保存用デジタル光ディスク・アドレス情報出力 *
//*      (メディア=保存用静止画のとき)                          *
//*-----*
//ABB00701 EXEC PGM=ABB00701, REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDBOU DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILE1 DD DSN=AMIS. @@@@. CHKADDR, DISP=SHR
//ABFILE0 DD SYSOUT=*
/*
//

```

\$\$: 管理番号の相対位置
 &&& : SYSIN データ (メディア種別+データベース番号)
 @@@@@@ : データ

SOZAIデータベースのデータ登録JCL‘SOZ012’を起動すると次のメッセージがコンソールに表示される。

```

ABB00301 ABB010-I ** ABB00301 START **
ABB00301 ABB020-I ** INPUT FILE(ジョザイデータ) = ①
ABB00301 ABB030-I ** OUTPUT FILE(ジョザイデータチェック) = ②
ABB00301 ABB040-I ** ABB00301 E N D **

```

```

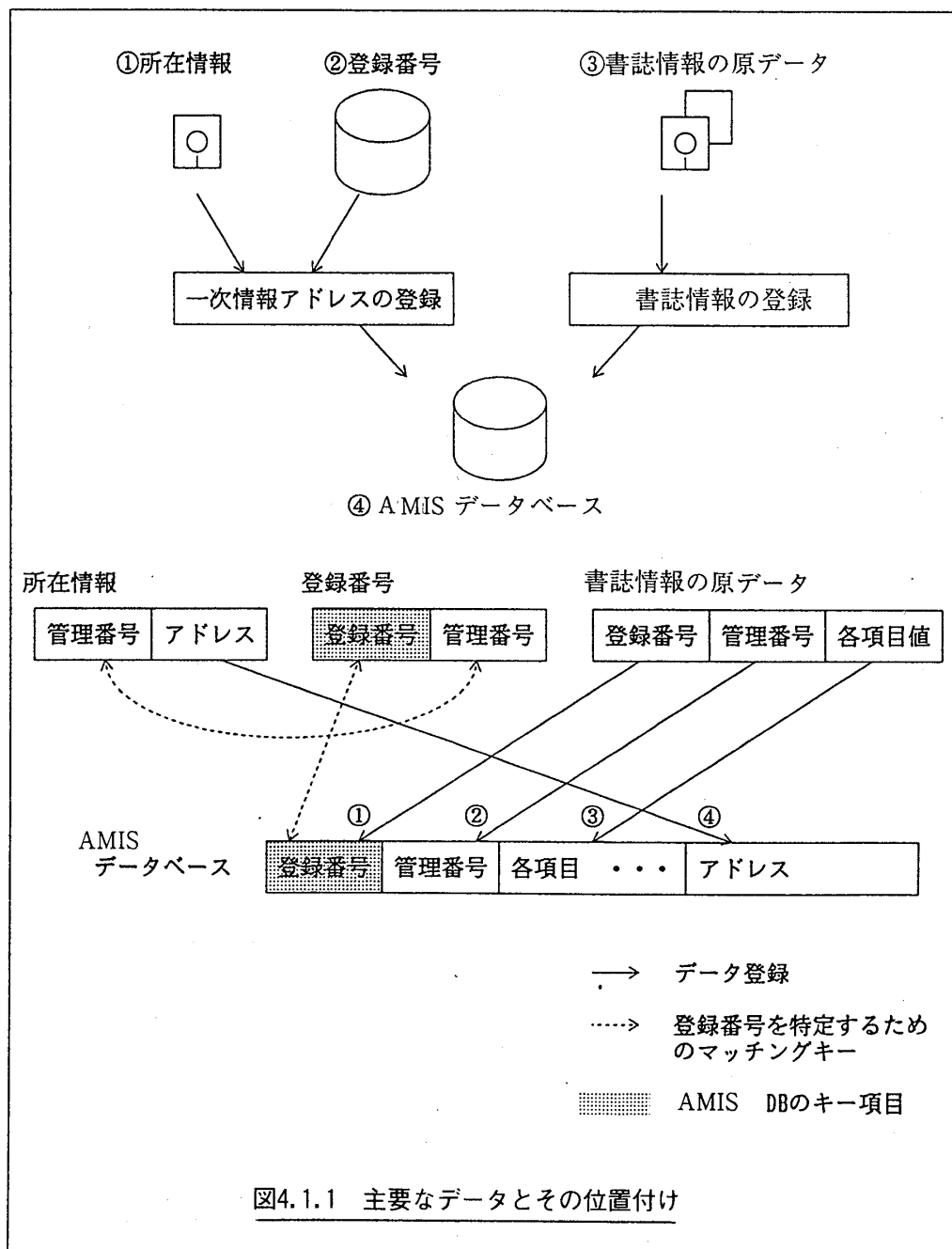
' ABB00303 ABB010-I ** ABB00303 START **
' ABB00303 ABB050-I ** INPUT FILE(ジョザイデータチェック) = ③
' ABB00303 ABB060-I ** OUTPUT FILE(ジョザイデータ) = ④
' ABB00303 ABB070-I ** OUTPUT FILE(チェックリスト) = ⑤
' ABB00303 ABB080-I ** ABB00303 E N D **

```

- ① ファイル転送した所在データのレコード数
- ② 入力順番を付加した所在データのレコード数
- ③
- ④
- ⑤

4. AMISの登録

AMISは、新規にデータベースを登録後も、定期的にデータの追加・変更・削除を行い、データベースの情報を常に最新の状態に維持する必要がある。AMISのデータベースは各種の画像情報をもっているため、関連する画像情報と同期をとってデータの登録、更新を行わなければならない。ここでは、データベースを新規に登録、及びその後メンテナンスするための具体的作業手順についてを説明する。



4.1 データベースの新規登録

AMISにデータベースを新規登録、更にデータの更新をする際の手順の概要を図4. 1. 2に示す。AMISにデータベースを新規登録する場合、まず、事前検討、FAIRSへの登録、データベース管理簿への登録の3つの作業が必要である。

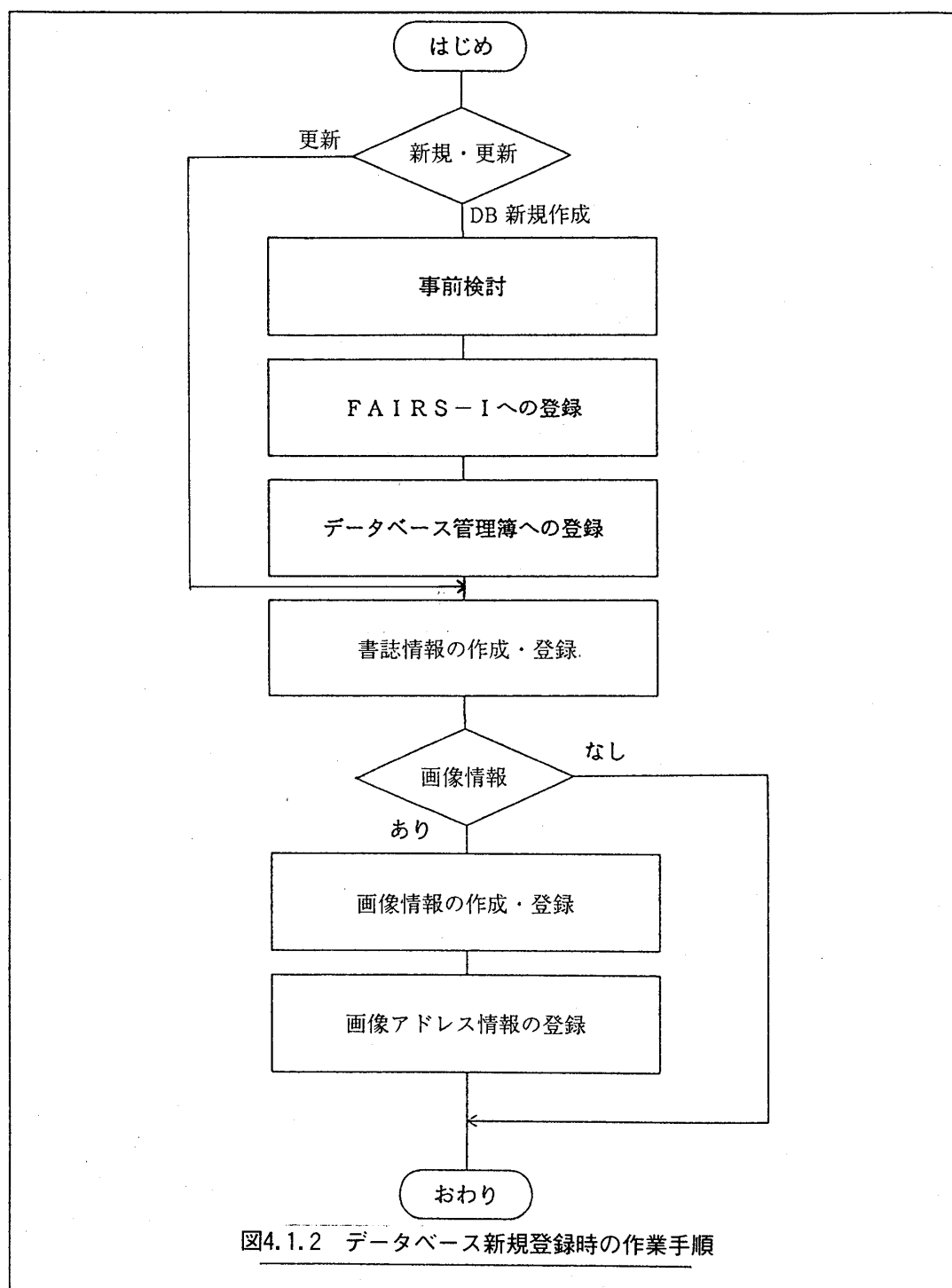


図4.1.2 データベース新規登録時の作業手順

(1) 事前検討

事前検討には、次に挙げる内容の検討が必要である。

①情報の構成

画像情報を持たせるかどうか、画像情報を持たせる場合、静止画、サマリー、イメージのどの形態にするか等を決定する。

②データ項目

書誌情報を構成するデータ項目、その属性、検索用インバーテッドファイルの設定項目などを決定する。データ項目は、既存のデータベースの項目名と項目IDの関係に留意し決定する。

③スペース見積

書誌情報のスペース見積を行い、現在使用している磁気ディスクのデータセット配置を考慮し、新規に登録するデータセットの配置を決定する。

④データベースの名称

データベースの名称等を決定する。

⑤データベースの属性

データベースの各種属性を検討する。

(2) FAIRS への登録

検討結果に基づき、データベース登録用JCLを作成し、データベースをFAIRSに登録する。

(3) データベース管理簿への登録

データベース管理簿に新規登録のデータベース情報及び項目情報を登録する。

以上の手順により、JEMISS、KYOZAI、SOZAI、SHIRYOの4つのデータベースをAMISに登録した。図4. 1. 3に各磁気ディスクに対するデータセットの配置を示す。また、各ボリュームのデータセット情報を表4. 1. 1に、各データセットの詳細を表4. 1. 2に示す。

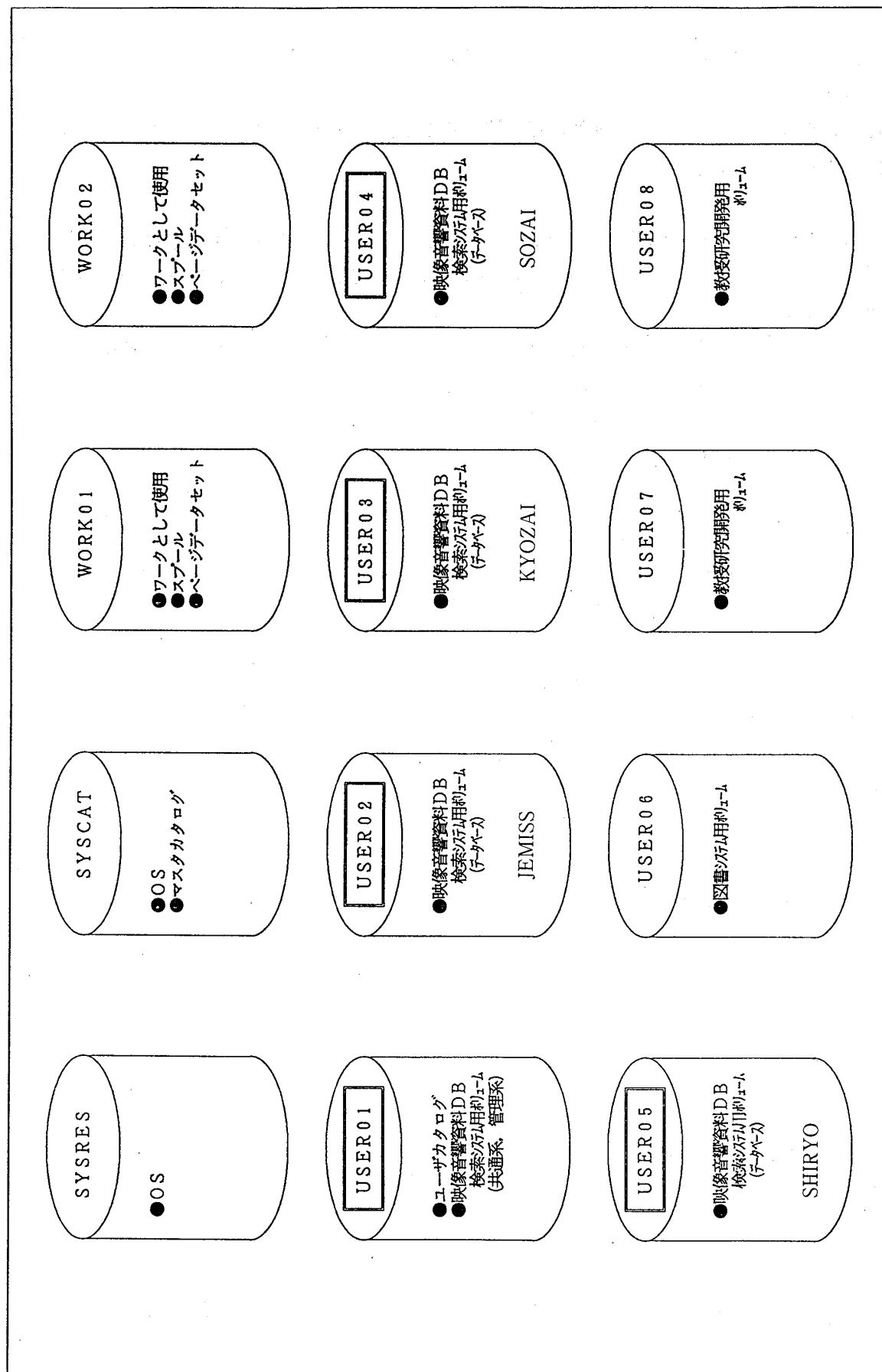


図4.1.3 データセットの配置

表4.1.1 各ポリシーのデータセット情報

ポリシーユーザ情報		NO	データセット名	形式	容量	NO	データセット名	形式	容量
VOL 名=USER01 UNIT =SYSDA F6423B4	<div>USER01</div> <p>●映像音響資料DB 検索システム用ポリシーユーザ (共通系、管理系)</p>	【用途】 ●ユーザカタログ ●映像音響資料DB検索システム用ポリシーユーザ (共通系、管理系のファイルを格納) 【DASD容量】・47,476 byte/VOL ・15 TRK/CYL ・13,275 TRK/VOL ・885 CYL/VOL							
		1	DB管理簿	VSAM	20TRK	6	FAIRSシステム生成用ファイル	DB	50TRK
		2	利用者管理簿	VSAM	15TRK	7	開発用データセット	PO	約300TRK
		3	FAX送信管理簿	VSAM	50TRK	8			
		4	DB会計情報 (4DB分)	DB	各200TRK	9			
		5	DB統計情報 (4DB分)	DB	各200TRK	10			
VOL 名=USER02 UNIT =SYSDA F6423B4	<div>USER02</div> <p>●映像音響資料DB 検索システム用ポリシーユーザ (データベース本体を格納)</p>	【用途】 ●映像音響資料DB検索システム用ポリシーユーザ (データベース本体を格納) 【DASD容量】・47,476 byte/VOL ・15 TRK/CYL ・13,275 TRK/VOL ・885 CYL/VOL							
		1	JEMISS・論理構造ファイル	DB	5TRK	6			
		2	"・サブファイル	DB	8000TRK	7			
		3				8			
		4				9			
		5				10			
VOL 名=USER03 UNIT =SYSDA F6423B4	<div>USER03</div> <p>●映像音響資料DB 検索システム用ポリシーユーザ (データベース本体を格納)</p>	【用途】 ●映像音響資料DB検索システム用ポリシーユーザ (データベース本体を格納) 【DASD容量】・47,476 byte/VOL ・15 TRK/CYL ・13,275 TRK/VOL ・885 CYL/VOL							
		1	KYOZAI・論理構造ファイル	DB	5TRK	6			
		2	"・サブファイル	DB	12000TRK	7			
		3				8			
		4				9			
		5				10			

表4.1.1 (続き)

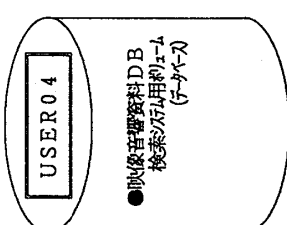
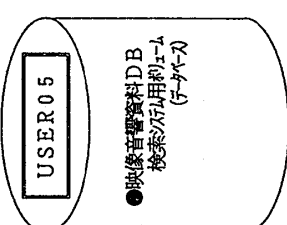
ポリユーモ情報		NO	データセット名	形式	容量	NO	データセット名	形式	容量
VOL 名=USER04 UNIT =SYSDA F6423B4		【用途】 ●映像音響資料DB検索システム用ポリユーモ (データベース本体を格納) 【DASD容量】 ・47,476 byte/VOL ・15 TRK/CYL ・13,275 TRK/VOL ・885 CYL/VOL							
		1	SOZAI・論理構造ファイル	DB	5TRK	6			
		2	" ・サブファイル	DB	12000TRK	7			
		3				8			
		4				9			
		5				10			
VOL 名=USER05 UNIT =SYSDA F6423B4		【用途】 ●映像音響資料DB検索システム用ポリユーモ (データベース本体を格納) 【DASD容量】 ・47,476 byte/VOL ・15 TRK/CYL ・13,275 TRK/VOL ・885 CYL/VOL							
		1	SHIRYO・論理構造ファイル	DB	5TRK	6			
		2	" ・サブファイル	DB	3000TRK	7			
		3	電子出版管理簿 (2加以外, 5000枚)	V SAM	10000TRK	8			
		4				9			
		5				10			
		1				6			
		2				7			
		3				8			
		4				9			
		5				10			

表4.1.2 各データセットの詳細情報

NO	ファイル名	ファイル形式	基礎値	容量算出内容						容量	備考
				件数	20,000	25,000	30,000				
11	サブファイル (JEMISS)	DB	①平均レコード長=5,000 ②レコード I=4, 索引語数=30 ③キーワード I=12, 索引語数=15	(1)コード格納カッパ数	49,486	61,857	74,228				・BLK長=2,024K/t ・TRK長=47,000/t
				(2)レコードフィールドカッパ数	62,298	77,862	93,425				
				(3)レコードフィールドカッパ数	0	0	0				
				計 (BLK)	111,784	139,719	167,653				
12	サブファイル (SOZAI)	DB	①平均レコード長=5,000 ②レコード I=4, 索引語数=30 ③キーワード I=12, 索引語数=15	(TRK)	4813.8..	6016.8..	7219.9..				
				件数	30,000	35,000	40,000				
				(1)コード格納カッパ数	74,228	86,600	98,971				
				(2)レコードフィールドカッパ数	93,425	115,872	124,552				
13	サブファイル (KYOZAI)	DB	①平均レコード長=5,000 ②レコード I=4, 索引語数=30 ③キーワード I=12, 索引語数=15	(3)レコードフィールドカッパ数	0	0	0				
				計 (BLK)	167,653	202,472	223,523				
				(TRK)	7219.9..	8719.2..	9625.7..				
				件数	22,000	30,000	42,000				
14	サブファイル (SHIRYO)	DB	①平均レコード長=5,000 ②レコード I=4, 索引語数=30 ③キーワード I=12, 索引語数=15	(1)コード格納カッパ数	76,173	103,872	145,420				
				(2)レコードフィールドカッパ数	68,524	93,425	130,777				
				(3)レコードフィールドカッパ数	0	0	0				
				計 (BLK)	144,697	197,297	276,197				
				(TRK)	6231.2..	8496.3..	11894.1..				
				件数	100	1,000	5,000				
				(1)コード格納カッパ数	248	1,238	12,371				
				(2)レコードフィールドカッパ数	238	1,088	10,648				
				(3)レコードフィールドカッパ数	0	0	0				
				計 (BLK)	486	2,326	23,019				
				(TRK)	20.9....	100.1....	991.2....				
							1981.4..				

4.2 データの作成

次に、データベースのデータを作成する。データの作成には、書誌情報の作成、画像情報の作成、画像アドレス情報の作成がある。

4.2.1 書誌情報の作成

書誌情報の原データは、既存のパソコン（PC98シリーズ）などで作成する。

①媒体・ファイル形式

ホストコンピュータに転送する際にFMR-50VTのエミュレータを使用する。媒体は5インチのフロッピーディスクとし、ファイル形式はMS-DOSのテキストファイルとする。ファイル名は、「DATA1.DAT」とする。

②使用コード

半角はASCII、全角はシフトJISとする。なお、外字のサポートは、本システムを使用する端末が不特定多数のメーカーが供給する端末であることから、規格の統一等、標準化が徹底するまでは対象外となる。

③データフォーマット

原データの各レコードは、FAIRSデータベースの1項目に対して作成する。ただし、項目長が250byteを越える項目の場合は、4レコードを最大として複数レコードにまたがって作成可能である。

一枚のフロッピーディスク（一つのファイル）内のデータは一種類のデータベースのデータのみとする。すなわち、一枚のフロッピーディスクの中に異なるデータベース番号は存在してはならないこととする。

一つのデータベースの一連のデータの中で、登録番号と項目IDが重複している場合は、最後に現れたデータを有効とし、それ以外は読み捨てられる。

原データのフォーマットを図4.2.1に示す。データの内容は次の通りである。

DB番号	処理区分	登録番号	項目ID	継続識別	項目値
2byte	1byte	6byte	1byte	1byte	250byte

図4.2.1 原データのフォーマット

・DB番号：

登録先のデータベースを一意に識別する記号。必須項目。ここに指定する文字列は、データベース管理簿にデータベース番号として登録されていなければならない。現在データベース管理簿に登録されているデータベースを表4.2.1に示す。

表4.2.1 データベース番号

データベース番号	データベース名	システム登録名
A 1	国内映像資料情報	JEMISS
B 1	映像・音響完成教材	KYOZAI
C 1	素材静止画	SOZAI
D 1	文献・資料	SHIRYO

• 処理区分：

項目の処理方法を表す。必須項目。表 4. 2. 2 に処理内容を示す。

表4.2.2 項目の処理区分

処理内容		記号	備 考
レコードの新規登録		A	必要項目数分作成します
登録済 レコード の更新	項目値の新規設定	S	Set
	項目値の変更	M	Modify
	項目値の消去	E	Erase
レコード全体の削除		D	Delete 処理区分“D”の原データ1件でレコード全体を削除ができます。

• 登録番号：

所在情報に対応する書誌情報の登録番号を設定する。この値は管理番号にてマッチングを行った所在情報の登録先書誌情報のキーとなる。必須項目。

• 項目 I D：

処理対象の項目をデータベース内で一意に識別する記号。ここに指定する文字例は、データベース管理簿の項目情報に項目 I D として登録されていなければならない。処理区分が“D”以外の場合、項目 I D は必須項目。処理区分が“A”で画像情報を持つデータベースの場合、「管理番号」に相当する項目 I D と項目値を必ず指定する必要がある。処理区分が“D”の場合は指定しても無視される。

• 継続識別：

項目値の長さが 2 5 0 b y t e を超える場合、原データを複数レコードに継続して記述するための識別記号。表 4. 2. 3 に継続識別を示す。処理区分が“D”以外の場合、継続識別は必須項目。処理区分が“D”の場合、指定しても無視される。継続がない項目の場合、継続識別に“1”を指定したレコードだけとなる。

表4.2.3

継続識別	意 味
1	1 行目
2	2 行目
3	3 行目
4	4 行目

・項目値：

項目の値を記述します。生起回数が2以上の項目の場合、個々の値の区切り文字は“,”（半角のカンマ）を使用する。処理区分が“A”、“S”、“M”の場合、項目値は必須項目。処理区分が“A”で画像情報を持つデータベースの場合、「管理番号」に相当する項目IDと項目値を必ず指定する必要がある。処理区分が“D”、“E”の場合、項目値を指定しても無視される。その他、次のことに注意する。

- ・一件の所在に対して1レコード作成する。
- ・一枚のフロッピーディスク（一つのファイル）内のデータは一種類のデータベースのデータのみとする。すなわち、一枚のフロッピーディスクの中に異なるデータベース番号は存在してはならないこととする。
- ・一つのデータベースの一連のデータの中で、登録番号と項目IDが重複している場合は、最後に現れたデータを有効とし、それ以外は読み捨てられる。

4.2.2 画像情報の作成

画像情報を作成し、各メディアに応じて入力する。素材静止画像情報の作成については「報告書 SOZAI データベース」（同時刊行）、サマリー画像情報の作成については「報告書 サマリー作成」（同時刊行）、イメージ情報の作成については「ワーキングレポート 文献データベース」（平成5年度刊行）に詳細を述べる。

4.2.3 画像アドレス情報の作成

(1) 保存用静止画アドレス情報

保存用静止画のアドレス情報は、静止画入力システムによって光ディスクに画像が記録される時に、同時に光ディスクのボリューム名、及び各画像のアドレスがフロッピーディスクに作成される。保存用静止画アドレス情報のフォーマットを図4.2.2に示す。

保存用静止画情報		管理情報		無効
ボリューム名	アドレス	管理番号	未使用	フラグ
8byte	4byte	16byte	48byte	2byte

図4.2.2 保存用静止画アドレス情報フロッピーのフォーマット

(2) サマリーアドレス情報

サマリーのアドレス情報は、サマリー編集システムによってアナログ光ディスクが作成される時に、同時に光ディスクのボリューム名、及び各サマリーのアドレス情報がフロッピーディスクに記録される。サマリーアドレス情報のフォーマットを図4. 2. 3に示す。

ディスクNo.	番組No.	管理番号	番組名	スタートアドレス	エンドアドレス	リミット
8byte	4byte	16byte	24byte	5byte	5byte	2byte

図4.2.3 サマリーアドレス情報

(3) イメージアドレス情報

イメージデータのアドレス情報は、E F Sに文書の登録を行ったとき自動付与される文書番号と文書情報として入力する管理番号を記録しておき、フロッピーディスクに各文書毎に再登録する。

①媒体・ファイル形式

ホストコンピュータに転送する際にFMR-50VTのエミュレータを使用する。媒体は5インチのフロッピーディスクとし、ファイル形式はMS-DOSのテキストファイルとする。

②使用コード

半角はASCIIする。

③データフォーマット

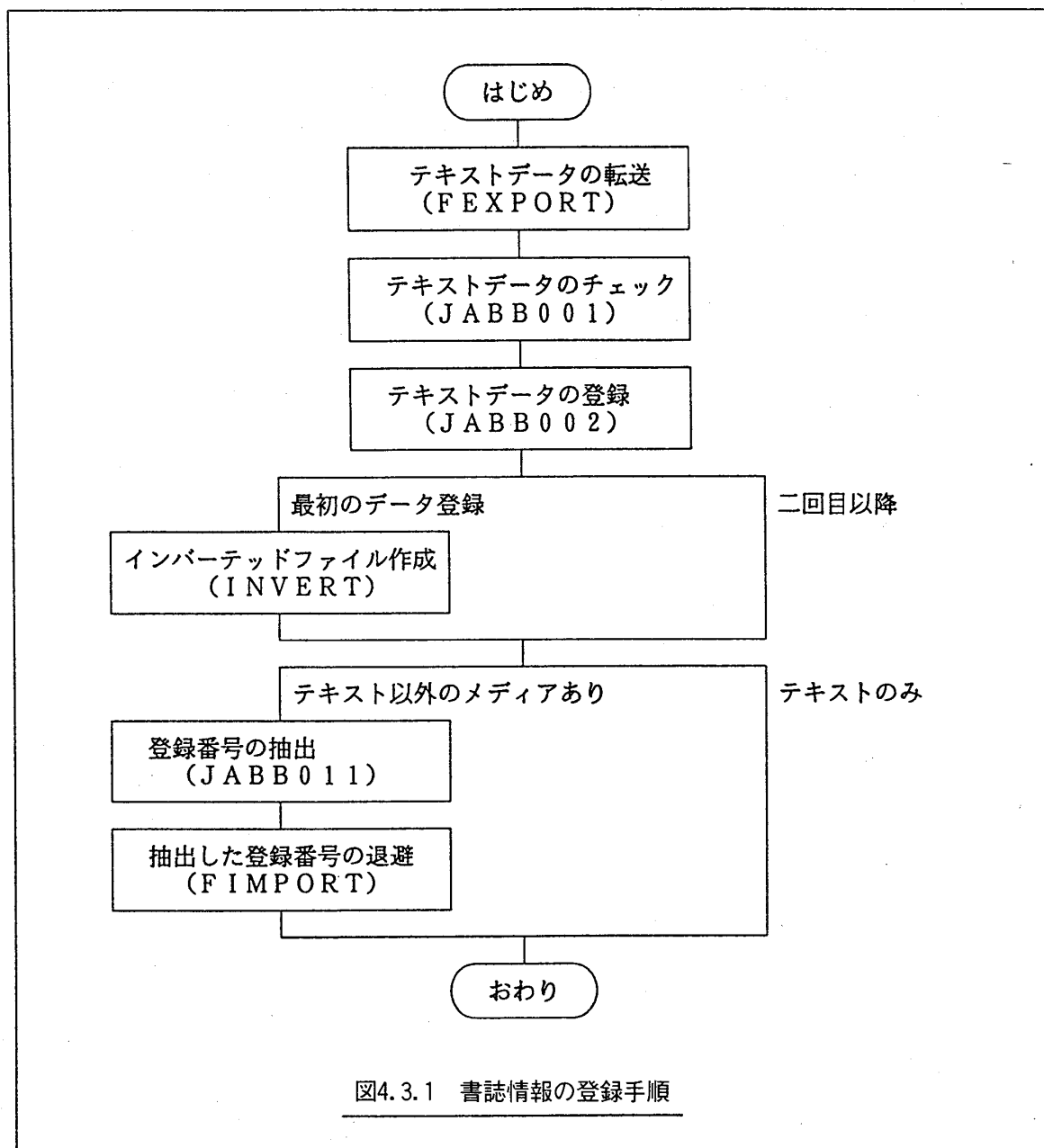
イメージアドレス情報のフォーマットを図4. 2. 4に示す。EFSのワークステーション名はアドレス情報チェック時に、SYSINデータとして入力される。現在AMISに登録されているEFSのワークステーション名は、EFS#01である。

キャビネットID	文書番号	DB番号	管理番号
6byte	6byte	2byte	16byte

図4.2.4 イメージアドレス情報

4.3 書誌情報の登録

AMISに書誌情報を登録するときに必要な作業の実施手順を図4.3.1に示す。以下、順を追って説明する。



(1) テキストデータの転送

MS-DOSのテキストファイル形式で作成した各データベースのデータを中央制御装置上の順データセットに転送する。

[入力] 作成した各データベースのデータ

- FD : 5インチ、2HD MS-DOS テキストデータ形式
- ファイル名: DATA1.DAT

[出力] 順データセット

デフォルトのデータセット名を表4. 3. 1に示す。変更も可能である。データセット名を変更する場合は、以下の属性で事前に割当が必要である。

- 編成 : 順データセット
- レコード長 : 300バイト
- レコード形式: 固定長
- ブロック長 : 300バイトの整数倍で32760以下。

[操作] 専用端末 (FMR-50VT) より次の手順で操作する。

- ① T S Sへログオンする。
- ② ファイル転送用コマンドプロシジャを起動する。

```
EXEC 'AMIS.APP.CLIST(FEXPORT)'
```

ファイル転送用コマンドプロシジャが起動されると次のメッセージが画面に表示される。

```
READY
EXEC 'AMIS.APP.CLIST(FEXPORT)'
```

*** FEXPORT START *** 日付 時刻

MS-DOSのテキスト形式ファイルをホストコンピュータに転送します
転送するフロッピーディスクの枚数を入力して下さい。==>

③ フロッピー枚数の入力

これから転送するフロッピーディスクの枚数を入力する。枚数を入力すると、次の確認メッセージが表示される。枚数を変更したい場合は、Nと入力して実行キーを押す。変更の必要がない場合は、Yと入力して実行キーを押す。

n枚のフロッピーディスクを転送します。
このまま処理を続けますか？(Y OR N) ==>

④ 転送先データセットの確認

フロッピー枚数の設定が終わると、転送先のデータセットを確認するために次のメッセージが表示される。

転送先データセットは AMIS.JEMISS.FEXPORT です。
データセット名を変更しますか？(Y OR N) ==>

データセット名を変更する場合は、Yと入力して実行キーを押す。変更の必要がない場合は、Nと入力して実行キーを押す。Yと返答した場合、データセット名の入力を促すために次のメッ

セージが表示される。

データセット名を入力して下さい。 ==>

データセット名は以下の形式で指定する。

◎○○…○. ◎○○…○. ……

◎は英字、○は英数字を示す。ピリオドで区切られる文字列は8文字以内でなければならない。

また、データセット名は全体で44文字以内でなければならない。

データセット名を変更すると、次の確認メッセージが表示される。

転送先データセットは[新データセット名]です。

このまま処理を続けますか？(Y OR N) ==>

データセット名を訂正する場合は、Nと入力して実行キーを押し、再度新しいデータセット名を指定する。訂正しない場合は、Yと入力して実行キーを押し。

⑤転送モードの指定

転送先データセット名の設定が終わると、転送モードを問い合わせる次のメッセージが表示される。

転送モードを入力して下さい。

A : 追加モード (前回入力したデータの後ろに追加します)

B : 新規モード (前回入力したデータは破棄されます)

==>

A又はNと入力して実行キーを押すと、次の確認メッセージが表示される。

○○モードで転送します。

このまま処理を続けますか？(Y OR N) ==>

転送モードを訂正する場合は、Nと入力して実行キーを押し、再度転送モードの指定をする。訂正のない場合は、Yと入力して実行キーを押し。

⑥転送

転送モードの指定が終わると、指定したフロッピィの枚数分だけ次のメッセージが表示される。メッセージに従って、フロッピィをAドライブ、又はBドライブにセットして実行キーを押すと転送が始まる。

n 枚目のフロッピィディスクを○ドライブにセットして実行キーを押し・・・

あるフロッピーの転送途中で打ち切りたい場合は、まず BREAK キーを押す。しばらくすると、次のフロッピーを要求するメッセージが表示されるので、そこで PF1 を押す。

n 枚のフロッピーディスクを転送しました。

*** FEXPORT END *** 日付 時刻

READY

(2) テキストデータのチェック

中央制御装置上の順データセットに転送されたテキストデータをチェックし、各データベースに登録するための有効データのみのデータセットを作成する。

[入力] ①SYSINデータ

1 2 3 4 8 0

デ	処	
ス	理	
タ 番	区	ブランク
ベ 号	分	

- ・データベース番号・・・テキストデータを登録するデータベースのDB番号

(DB管理簿に登録されているDB番号を指定する)

- ・処理区分・・・書誌情報の登録処理を示す。(=0 固定)

②ファイル転送で作成したテキストデータのファイル

[出力] 更新データファイル

[操作] データベース毎に次のJCLを実行し、原データチェック処理を起動する。JCLには各データベースで使用するデータセット名、及びSYSINデータが設定されている。テキストデータ転送処理でデータセット名を変更している場合は、JCLもそれに合わせて変更する必要がある。

①国内映像資料情報(JEMISS/JEMSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名：JEM001

入力：SYSINデータ：A10

データ転送データセット名：AMIS.JEMISS.FEXPORT

出力：AMIS.JEMISS.DATA

②映像・音響完成教材(KYOZAI/KYOSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名：KYO001

入力：SYSINデータ：B10

データ転送データセット名：AMIS.KYOZAI.FEXPORT

出力：AMIS.KYOZAI.DATA

③素材静止画(SOZAI/SOZSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZ001

入力 : SYSINデータ : C10

データ転送データセット名：AMIS.SOZAI.FEXPORT

出力 : AMIS.SOZAI.DATA

④文献・資料(SHIRYO/SHISUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHI001

入力 : SYSINデータ : D10

データ転送データセット名：AMIS.SHIRYO.FEXPORT

出力 : AMIS.SHIRYO.DATA

テキストデータのチェック処理のサンプルJCLの内容を図4.3.2に示す。次の部分を各データベースに応じて変更して使用する。

@@@@@：DBのシステム登録名

%% : DB管理簿に登録したデータベース番号

図4.3.2 テキストデータのチェック処理用 JCL

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7
//JABB001 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//*      JOB ID   : JABB001                                *
//*      *                                              *
//*      JOB NAME : 二次情報の登録・変更・削除            *
//*                  原データチェック処理 (サンプルJCL) *
//*      *                                              *
//*****
//JOB LIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
//          DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//*      <ABB00101>  原データ・チェックデータ作成        *
//*-----*
//ABB00101 EXEC PGM=ABB00101,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILE1 DD DSN=AMIS.@@@@.FEXPORT,DISP=SHR
//ABFILE0 DD DSN=&&GENCHK1,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(CYL,(20,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//*-----*
//*      <S O R T>                                         *
//*-----*
//SORT EXEC PGM=SORT,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=&&GENCHK1,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=&&GENCHK2,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(CYL,(20,10),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)

```

(続く)

図4.3.2 続き

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL,(10,5))
//SYSIN DD *
        SORT FIELDS=(1,2,CH,A,
                        4,6,CH,A,
                        265,6,CH,D,
                        263,2,CH,A,
                        271,6,CH,D)
/*
/*-----*
/*      <ABB00103>  原データ・入力データチェック      *
/*-----*
//ABB00103 EXEC PGM=ABB00103, REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDBOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*SYSCOUNT DD SYSOUT=*
//ABFILEI DD DSN=*&GENCHK2, DISP=(OLD,DELETE), UNIT=SYSDA
//ABFILEO DD DSN=AMIS. @@@@. DATA, @@@. DISP=(NEW,CATLG),
//          VOL=SER=USER02, SPACE=(CYL,(20,10)), UNIT=SYSDA
//ABFILEO DD DSN=*&GENDATA, DISP=(NEW,DELETE),
//          SPACE=(TRK,(100,10),RLSE), UNIT=SYSDA,
//          DCB=(RECFM=FB, LRECL=300, BLKSIZE=3000)
//ABDBKNR DD DSN=AMIS. DB. MSTR, DISP=SHR
//ABLIST1 DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
%*0
/*
//

```

```

***** 原データチェックリスト *****
データベース番号  処理区分  登録番号  項目ID  継続識別  入力順  エラ- 内容
①              ②              ③              ④              ⑤              ⑥      ⑦
C1              C              4              34              1              2      項目値が...
C2              A              5              03              1              10     処理対象...
:              :              :              :              :              :      :

```

図4.3.3 原データチェックリスト

- ①: エラーなった原データのデータベース番号
- ②: " 処理区分
- ③: " 登録番号
- ④: " 項目ID
- ⑤: " 継続識別
- ⑥: 入力された原データのレコード順番(ABB00101 のプログラムで付加した情報)
- ⑦: エラーの内容

本ジョブを起動するとコンソールに次のメッセージが表示される。

- (a) ファイル転送した原データのレコード数
- (b) 入力順番を付加した原データのレコード数
- (c) 原データのチェック所多で入力した原データのレコード数
- (d) チェック処理にて正常となった原データのレコード数

ただし、処理区分が追加モードであるレコードにメディア種別、マスキレ ベルの項目が存在しない場合は、プログラムにてこの項目の原データを生成 しています。

- (e) 登録番号の抽出レコード数
- (f) エラーリストの頁数

原データチェック処理を行った結果は、図4. 3. 3の形式でリスト出力される。

エラー内容を表4. 3. 1に示す。

表4.3.1 原データチェックのエラー内容

	⑦に表示されるエラー内容	意 味
1	処理対象外のデータベース番号です	S Y S I Nで指定されたデータベース番号以外の原データです
2	登録番号に相当する項目 I Dが存在しません	一連の登録番号のデータの中に登録番号用の項目を示す原データがありません
3	管理番号に相当する項目 I Dが存在しません	メディアとして一次情報をもつデータベースであるにもかかわらず、一連の登録番号のデータの中に管理番号用の項目を示す原データがありません
4	項目値が入力されていません	データ登録のデータが設定されていません。
5	項目 I Dが正しくありません	データベース管理簿に登録されていない項目 I Dです
6	1項目に対し処理区分が多重指定されています	1項目の項目値が複数行にまたがって設定されている時、処理区分が異なって指定されている
7	継続識別が正しくありません	1項目の項目値が複数行にまたがって設置されている時、継続識別の昇順に入力されていない
8	継続識別の指定が正しくありません	継続識別に指定されている値が1～4以外である
9	継続の指定はできません	一行で指定できる項目であるにもかかわらず複数行にまたがって項目値が指定されている
10	重複データです、このデータを無視します	同じ項目 I Dのデータが存在しているため、最終にあらわれたデータのみを有効としこのデータは無視します
11	項目値が入力可能な長さをこえています	データベース管理簿に登録されている項目長を超えて原データの項目値が設定されています
12	処理区分の指定が正しくありません	処理区分の指定値が正しくない

(3) テキストデータの登録

テキストデータのチェック処理を行った後のテキストデータを、FAIRSのDBGENのINPUTコマンド形式に変換し、各データベースにデータを登録する。

[入力] ①チェック済テキストデータファイル

(テキストデータチェック処理で出力)

②YSINデータ：FAIRSのDBGENコマンド

[出力] 各データベース

[操作] データベース毎に次のJCLを実行し、データベースへのデータ登録処理を起動する。JCLは各データベースで使用するデータセット名、及びSYSINデータが設定されている。テキストデータチェック処理にて出力先データセット名を変更している場合は、JCLもそれに合わせて変更する必要がある。

①国内映像資料情報(JEMISS/JEMSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : JEMX002

入力 : AMIS.JEMISS.DATA

出力 : AMIS.JEMISS.UPDATE

②映像・音響完成教材(KYOZAI/KYOSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYOX002

入力 : AMIS.KYOZAI.DATA

出力 : AMIS.KYOZAI.UPDATE

③素材静止画(SOZAI/SOZSUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZX002

入力 : AMIS.SOZAI.DATA

出力 : AMIS.SOZAI.UPDATE

④文献・資料(SHIRYO/SHISUB01)

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHIX002

入力 : AMIS.SHIRYO.DATA

出力 : AMIS.SHIRYO.UPDATE

データベースへのデータ登録処理のサンプルJCLの内容を図4. 3. 4に示す。次の部分を必要に応じて指定して使用する。

@@@@@ : 各データベースのシステム登録名

%%%%%%%% : サブファイル名

図4.3.4 データ登録処理用サンプル JCL

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----
//JABB002 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1),
//
//*****
//*      JOB ID      : JABB002                                     *
//**                                                     *
//**      JOB NAME : F A I R S - I データベース更新処理 (例)      *
//**                                                     *
//*****
//JOB LIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
//          DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//**-----*
//**      <ABB00202>   F A I R S - I 更新データ作成              *
//**-----*
//ABB00202 EXEC PGM=ABB00202,REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILEI DD DSN=AMIS.@@@@@.DATA,@@@.DISP=SHR
//ABFILEO DD DSN=AMIS.@@@@@.UPDATE,DISP=(NEW,CATLG),
//          VOL=SER=USER02,SPACE=(CYL,(20,10)),UNIT=SYSDA
//ABDBKNR DD DSN=AMIS.DB.MSTR,DISP=SHR
//**-----*
//**      <DBGEN>      F A I R S - I データベース 更新          *
//**-----*
//STEP1 EXEC PGM=IEFBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//**
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=5120K,DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
//          DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
      DBGEN
          SELECT @@@@@
          INPUT SUBFILE(XXXXXXXX)
          DATASET(AMIS.@@@@@.UPDATE)
      END
END
//DELETE EXEC PGM=KDJBRI4
//DATA DD DSN=AMIS.@@@@@.DATA,DISP=(OLD,DELETE)
//UPDATE DD DSN=AMIS.@@@@@.UPDATE,DISP=(OLD,DELETE)
//**
//

```

本ジョブを起動すると次のメッセージがコンソールに表示される。

```
ABB00202 ABB010-I ** ABB00202 START **  
ABB00202 ABB020-I ** INPUT FILE(コウシンデータ) = ①  
ABB00202 ABB030-I ** OUTPUT FILE(FAIRS-コマンド)= ②  
ABB00202 ABB040-I ** ABB00202 END **
```

- (a) 正常な原データのレコード数
- (b) FAIRSのINPUTコマンド形式に変換したレコード数
- (4) インバーテッドファイルの作成

データベースに書誌情報を初めて登録した際はインバーテッドファイルを作成する。二回目以降の登録処理では、インバーテッドファイルは自動的に更新される。

[入力] 各データベース

[出力] 各データベース

[操作] データベース毎に次のJCLを実行し、インバーテッドファイルの作成を行う。JCLは各データベースで必要なSYSINデータが設定されている。インバーテッドファイル毎にジョブを分割する場合は、INVERTコマンドにELEMENTオペランドを追加してジョブを起動する。

①国内映像資料映像(JEMISS/JEMSUB01)

データセット名: AMIS.APP.JCL

メンバ名 : JEMINV

②映像・音響完成教材(KYOZAI/KYOSUB01)

データセット名: AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYOINV

③素材静止画(SOZAI/SOZSUB01)

データセット名: AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZINV

④文献・資料(SHIRYO/SHISUB01)

データセット名: AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHIINV

インバーテッドファイル作成処理のサンプルJCLの内容を図4. 3. 5に示す。次の部分を必要に応じて指定して使用する。

@@@@@ : 各データベースのシステム登録名

%%%%%%%% : サブファイル名

図4.3.5 インバーラッドファイル作用処理用サンプル JCL

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//INVERT    JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//*          インバーラッド ファイル サクセイ JCL          *
//*****
//STEP1     EXEC PGM=IEFBRI4,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//STEP2     EXEC PGM=FAIRS,REGION=5120K,DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
//          DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
          DBGEN
          SELECT @@@@@@
          INVERT SUBFILE(XXXXXXXX)
          END
END
/*
//

```

(5) 登録番号の抽出

画像情報の所在情報をデータベースに登録する際に使用する。所在情報には管理番号とアドレス情報があるが、FAIRSのデータベースに登録するためのキーとなる登録番号がない。よって、書誌情報の管理番号と所在情報の管理番号を対応付けることでFAIRSデータベースのキーを決定する。

[入力] ①SYSINデータ

1 2 3 4 5 6 8 0

デ タ 番 ベ 号 ス	処 理 区 分	カ ン マ ,	抽 出 指 定	ブランク
--------------------------------------	------------------	------------------	------------------	------

- ・データベース番号・・・テキストデータを登録するデータベースのDB番号
(DB管理簿に登録されているDB番号を指定する)
- ・処理区分・・・書誌情報の登録処理を示す(=0 固定)
- ・カンマ・・・区切り文字として半角のカンマ(,)を指定する
- ・抽出指定・・・登録番号の抽出を行うことを指定する(=Y 固定)

②ファイル転送で作成したテキストデータのファイル

[出力] 登録番号のデータセット

[操作] データベース毎に次のJCLを実行し、登録番号を抽出する。JCLは各データベースで必要なSYSINデータが設定されている。テキストデータ転送処理にてデータセット名を変更している場合は、JCLもそれに合わせて変更する必要がある。

①国内映像資料映像(JEMISS/JEMSUB01)

登録番号の抽出は必要ない。

②映像・音響完成教材(KYOZAI/KYOSUB01)

データセット名 : AMIS.APP.JCL
 メンバ名 : KYO010
 SYSINデータ : B10,Y
 テータ転送テータセット名 : AMIS.KYOZAI.FEXPORT
 出力データセット名 : AMIS.KYOZAI.GENDATA

③素材静止画(SOZAI/SOZSUB01)

データセット名 : AMIS.APP.JCL
 メンバ名 : SOZ010
 SYSINデータ : C10,Y
 テータ転送テータセット名 : AMIS.SOZAI.FEXPORT
 出力データセット名 : AMIS.SOZAI.GENDATA

④文献・資料(SHIRYO/SHISUB01)

データセット名 : AMIS.APP.JCL
 メンバ名 : SHI010
 SYSINデータ : D10,Y
 テータ転送テータセット名 : AMIS.SHIRYO.FEXPORT
 出力データセット名 : AMIS.SHIRYO.GENDATA

登録番号の抽出処理のサンプルJCLの内容を図4. 3. 6に示す。次の部分を必要に応じて指定して使用する。

@@@@@ : 各データベースのシステム登録名
 %% : DB管理簿に登録したデータベース番号

図4.3.6 登録番号の抽出処理用サンプル JCL

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7-----
//JABB010 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//* JOB ID : JABB010 *
//* *
//* JOB NAME : 登録番号の抽出 サンプルJCL *
//* *
//*****
//JOBLIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//* <ABB00101> 原データ・チェックデータ作成 *
//*-----*
//ABB00101 EXEC PGM=ABB00101,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILEI DD DSN=AMIS.@@@@@.FEXPORT,@@@,DISP=SHR
//ABFILEO DD DSN=*&GENCHK1,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(20,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//*-----*
//* <S O R T> *
//*-----*
//SORT EXEC PGM=SORT,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=*&GENCHK1,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//SORTOUT DD DSN=*&GENCHK2,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(20,10),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1,2,CH,A,
4,6,CH,A,
265,6,CH,D,
263,2,CH,A,
271,6,CH,D)

/*
//*-----*
//* <ABB00103> 原データ・入力データチェック後 *
//* 登録番号の抽出 *
//*-----*
//ABB00103 EXEC PGM=ABB00103,REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//*SYSCOUNT DD SYSOUT=*
//ABFILEI DD DSN=*&GENCHK2,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//ABFILEO DD DSN=AMIS.@@@@@.DATA,DISP=(NEW,CATLG),
//ABFILEO2 DD DSN=AMIS.@@@@@.GENDATA,DISP=(NEW,CATLG),
// VOL=SER=USER01,SPACE=(CYL,(20,10)),UNIT=SYSDA
//ABDBKNR DD DSN=AMIS.DB.MSTR,DISP=SHR
//ABLIST1 DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
XX0,Y
/*
//

```


本ジョブを起動するとコンソールに次のメッセージが表示される。

```

ABB00101 ABB010-I ** ABB00101 START **
ABB00101 ABB020-I ** INPUT FILE(ゲンデータ) = ①
ABB00101 ABB030-I ** OUTPUT FILE(ゲンデータチェック) = ②
ABB00101 ABB040-I ** ABB00101 E N D **

```

```

ABB00103 ABB010-I ** ABB00103 START **
ABB00103 ABB040-I ** INPUT FILE(ゲンデータチェック) = ③
ABB00103 ABB050-I ** OUTPUT FILE(コウシンデータ) = ④
ABB00103 ABB060-I ** OUTPUT FILE(コウシンヨウ デンデータ) = ⑤
ABB00103 ABB070-I ** OUTPUT FILE(エラーリスト) = ⑥
ABB00103 ABB080-I ** ABB00103 E N D **

```

- (a) ファイル転送した原データのレコード数
- (b) 入力順番を付加した原データのレコード数
- (c) 原データのチェック所多で入力した原データのレコード数
- (d) チェック処理にて正常となった原データのレコード数

ただし、処理区分が追加モードであるレコードにメディア種別、マスクレベルの項目が存在しない場合は、プログラムにてこの項目の原データを生成しています。

- (e) 登録番号の抽出レコード数
- (f) エラーリストの頁数
- (g) 抽出した登録番号の退避

抽出した登録番号は、一次情報アドレスとともに退避する。

- ① T S S にログオンする。
- ② P F D 6 の画面から次のコマンドを使用して登録番号のデータセットを退避する。

• データセット名

中央制御装置からパソコンに転送するデータセットを指定する。各データベース毎に表 4.

3. 2 に示す登録番号用のデータセットが作成される。J C L のデータセット名を変更している場合は、コマンドのデータセット名もそれに合わせて変更する必要がある。

表4.3.2 登録番号用データセット

データベース名		データセット名
素材静止画	SOZAI/SOZSUB01	AMIS. SOZAI. GENDATA
映像・音響完成教材	KYOZAI/KYOSUB01	AMIS. KYOZAI. GENDATA
印刷・資料	SHIRYO/SHISUB01	AMIS. SHIRYO. GENDATA

- ③ 受信画面の問い合わせ

• 受信時の問い合わせ（1 頁目）

1 頁目では、受信するファイルの形式がテキストファイルであることを指定する。

<<ファイルの受信>>

ホストよりファイルを受信します。

ファイル名 : コマンドで入力したデータセット名
 データ長 : 99999
 レコード形式 : 固定長
 レコード長 : 300

パラメータリストを指定する場合は、ファイル名と識別名を入力して下さい
 パラメータリスト・ファイル名 =>
 パラメータリスト識別名 =>

受信するファイルの形式を番号で指定して下さい。=> ◎
 (パラメータリストを指定した場合は不要です)
 1. テキストファイル
 2. バイナリファイル

- ◎の箇所に1 (=テキストファイル)を入力し、実行キーを押す。2 頁目が表示される。
- 受信時の問い合わせ (2 頁目)
- 2 頁目では、受信するファイルの形式を指定する。

<<テキストファイルの受信>>

格納するファイル名を指定して下さい => X : ●●●●●●. ●●●●

ファイルの格納方法を番号で指定してください=> ■
 (指定しない場合は'1'になります)
 1. 新規または入れ換え
 2. 追加

(以下省略)

X : ●●●●●●. ●●●●

Xは受信フロッピーをセットするドライブ(A又はB)を入力し、指定のドライブにフロッピーをセットする。

●●●●●●. ●●●●は受信するファイル名を入力する。

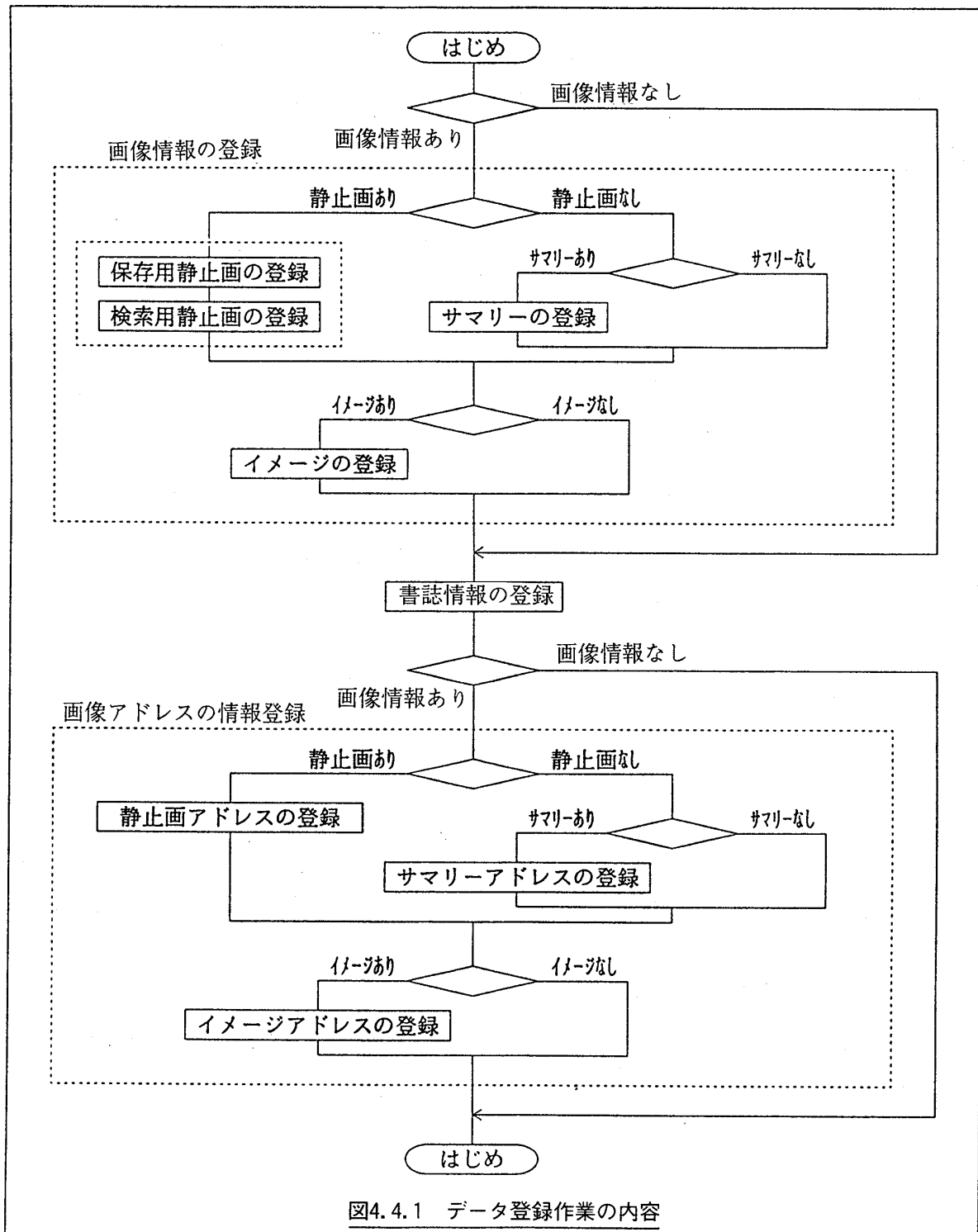


受信するファイルへのデータ格納方法を示す。通常は省略する。

- れらを入力し、実行キーを押すと、登録番号の退避が開始される。受信した登録番号のフロッピーは画像アドレス情報の登録時に使用するので、画像情報と合わせて管理する。

4.4 画像情報の登録

AMISにデータを登録するときに必要な作業の実施手順を図4.4.1に示す。AMISにデータを登録する場合は、対象データベースが保有する画像情報の種類によって必要な作業を取捨選択する判断が必要になる。

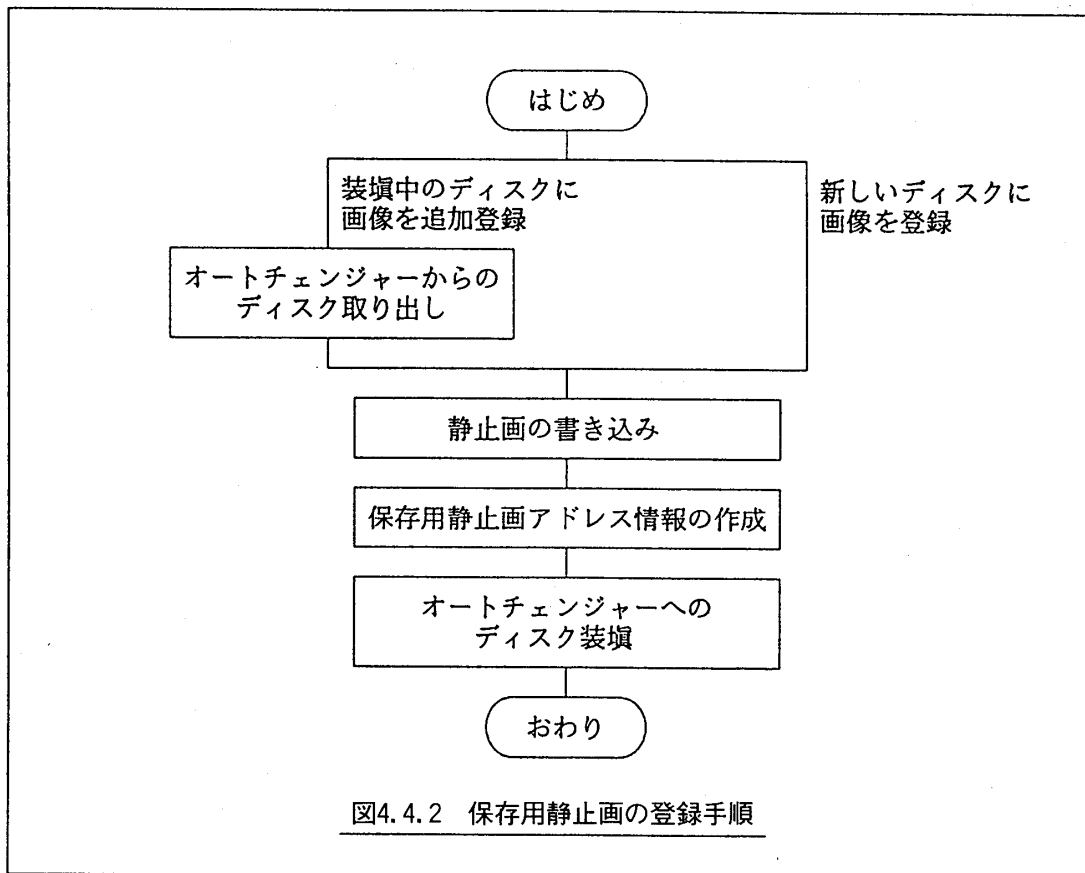


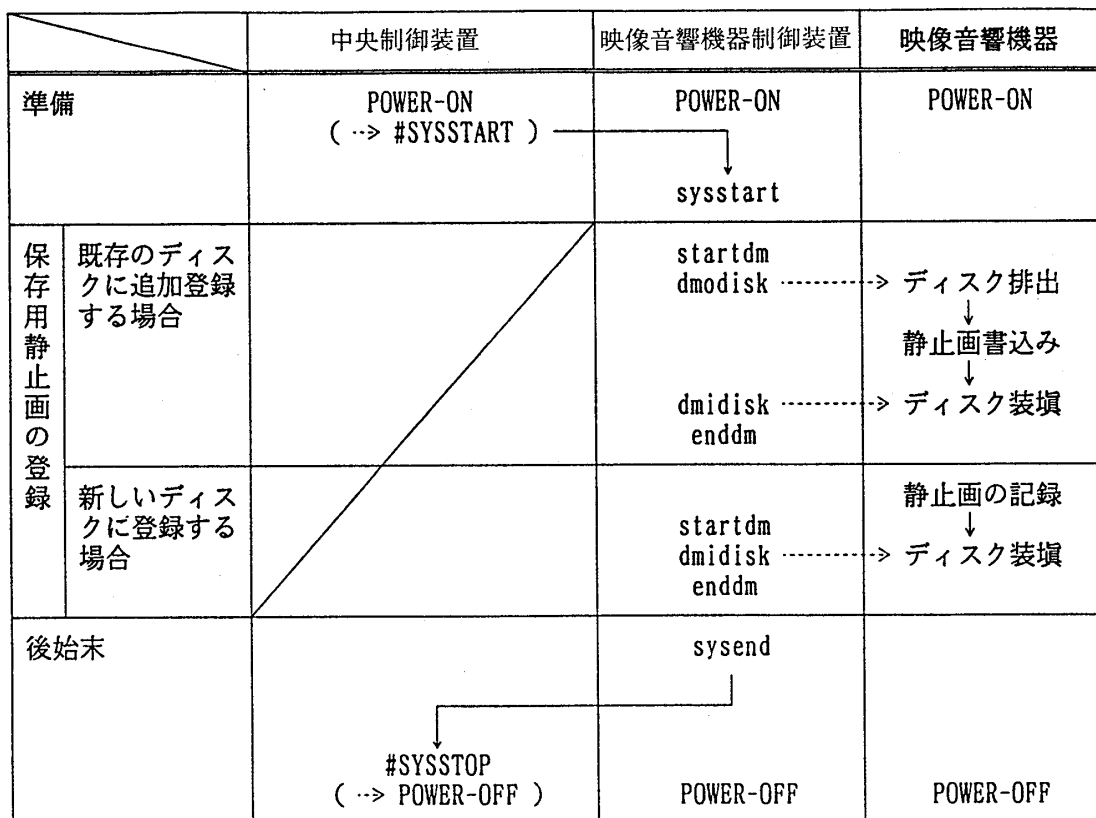
4.4.1 SOZAIデータベースの画像情報の登録

静止画の登録には、保存用デジタル光ディスクに記録された保存用静止画の登録と、検索用アナログ光ディスクに記録された検索用静止画の登録がある。

4.4.1.1 保存用静止画の登録

保存用静止画の登録は図4.4.2に示す順序で行う。保存用静止画を登録するときの関連各機器の操作の流れを図4.4.3に示す。





[凡例]

→ : 操作の順序を示す.

.....→ : システムにより制御されることを示す.

図4.4.3 保存用静止画登録時の操作関連図

(1) オートチェンジャーからのディスクの取り出し

映像音響機器制御装置 (A-60) のメンテナンスモードで次のコマンドを入力する。このとき取り出す光ディスクがどの棚番号 (00~99) に格納されているかを確認したうえでコマンドを実行する。コマンドが正常に実行されると、オートチェンジャーの取り出し口に目的の光ディスクが排出される。

```
dmodisk wda 棚番号
```

(2) 静止画の書き込み

静止画入力システムを使用して静止画を記録を入力する。詳細は、「報告書 SOZAIデータベース」(同時刊行)を参照されたい。

映像音響機器制御装置 (A-60) は、光ディスクの両面にボリューム名が書かれている光ディスクだけを管理対象とする。このため、新しい光ディスクに静止画を記録する場合は、必ず光ディスクの両面にボリューム名を書き込む必要がある。片面にしかボリューム名が書かれていない場合は装填時にリジェクトされる。また、オートチェンジャー内に装填されているボリューム名と名前が重複している場合も装填時にリジェクトされる。

(2) 保存用静止画アドレス情報の作成

静止画入力システムを使用して静止画を光ディスクに入力したとき、そのディスクのボリューム名、及び静止画のアドレスをフロッピーディスク中のファイルに記録する。

(3) オートチェンジャーへの光ディスク装填

次の手順で保存用静止画光ディスクをデジタルオートチェンジャーに装填する。

- ・オートチェンジャーの「I N」ボタンを押す。
- ・挿入口に保存静止画が記録されているデジタル光ディスクを挿入する。
- ・オートチェンジャー内に光ディスクが一時格納される。
- ・映像音響機器制御装置（A-60）のメンテナンスモードで、次のコマンドを入力する。

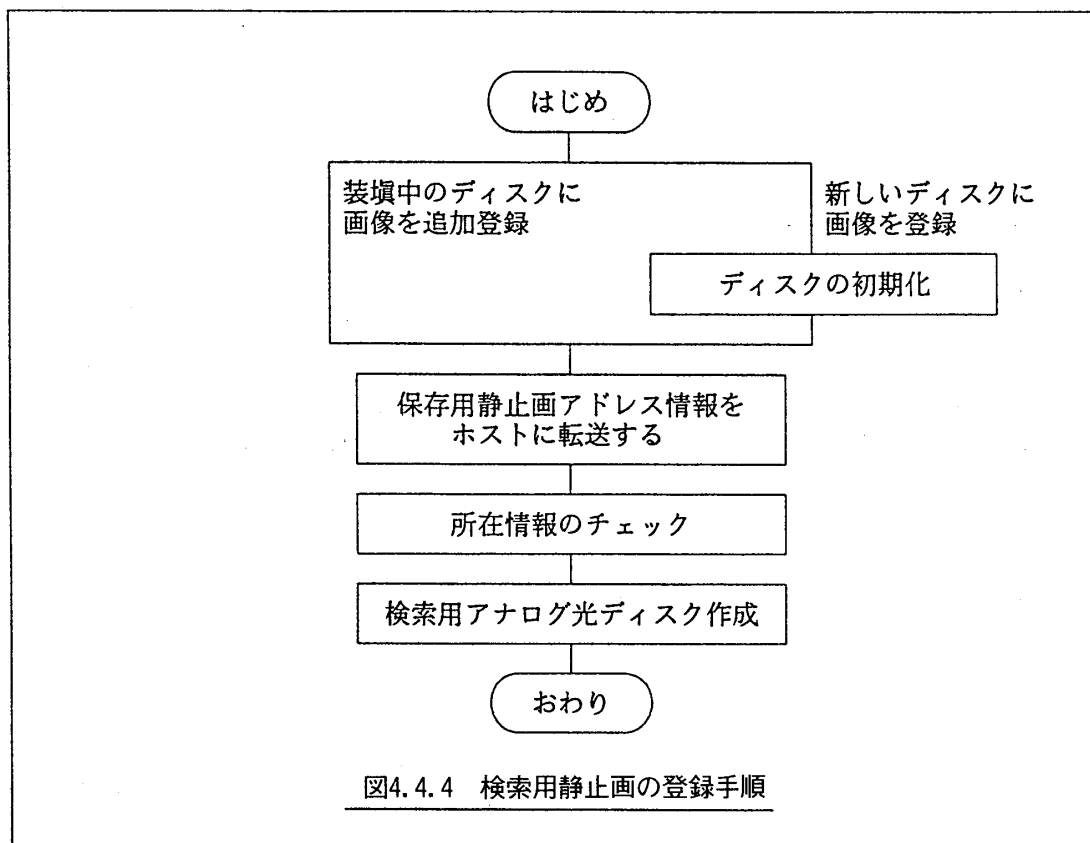
このときオートチェンジャーの装置名（環境定義ファイルで定義されているWDAの装置名）を確認したうえでコマンドを起動する。自動的に空いている棚にディスクが格納される。

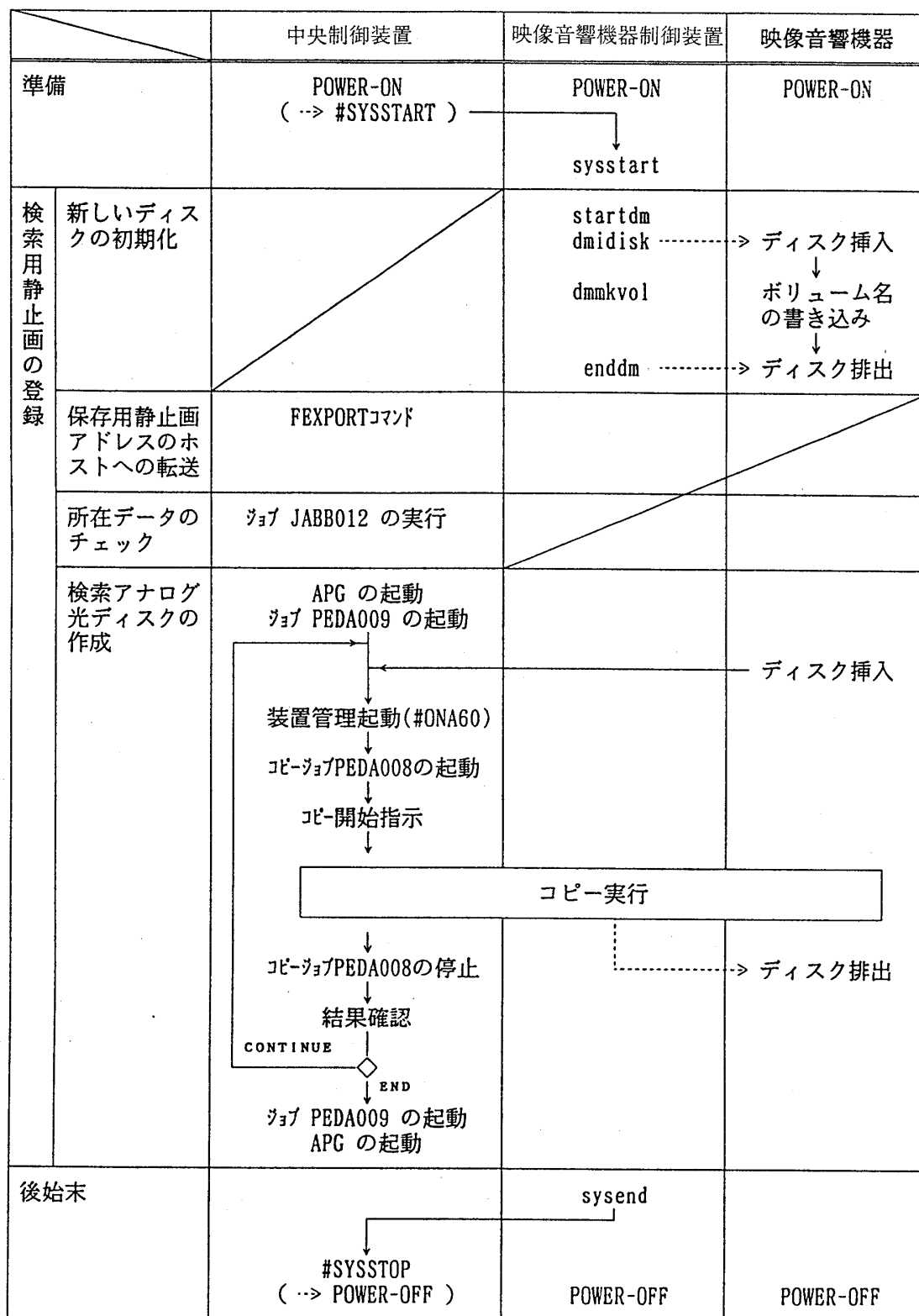
現在、AMISに登録されているオートチェンジャーの装置名は、WDA__01である。

```
EXEC 'AMIS.APP.CLIST(LINDA)'
```

4.4.1.2 検索用静止画の登録

検索用静止画の登録は図4.4.4に示す手順で行う。検索用静止画を登録するときの関連各機器の操作の流れを図4.4.5に示す。





→ : 操作の順序を示す。→ : システムにより制御されることを示す。

図4.4.5 検
索
用
静
止
画
像
登
録
時
の
操
作
関
連
図

(1) 光ディスクの初期化（ボリューム名の設定）

- ①初期化したい光ディスクをいずれかのLVRに挿入し、映像音響機器制御装置（A-60）から次のコマンドを入力する。これにより、指定したLVRに光ディスクが装填されていることが映像音響機器制御装置に通知される。

```
dmidisk alvr ユニット名
```

• 装置名

初期化する光ディスクを装填したLVRの装置名を指定する。ユニット名は、環境定義ファイルで定義した名称を示す。

- ②映像音響機器制御装置（A-60）のメンテナンスモードで次のコマンドを入力すると、光ディスクにボリューム名が書き込まれる。既にボリューム名が書き込まれている光ディスクを装填したLVRのユニット名を指定した場合は、ボリューム名が書き換わってしまうので注意が必要である。

```
dmmkvol alvr 装置名 ボリューム名
```

• 装置名

初期化する光ディスクを装填したLVRの装置名を指定する。装置名は、環境定義ファイルで定義した名称を示す。

• ボリューム名

光ディスクに書き込むボリューム名を8バイトで指定する。

(2) 保存用静止画アドレスの転送

- ①中央制御装置のTSSにログオンする。
②保存用静止画アドレス情報が記録されたフロッピーディスクのファイルを中央制御装置に転送する。
③PFD6の画面から次のコマンドを実行し、フロッピーディスク上の保存用静止画アドレスを転送する。

```
FEXPORT 'データセット名' [R | A]
```

• データセット名

ログオン端末から中央制御装置へ転送した画像アドレス情報を格納するデータセットを指定する。データセット指定中にメンバ指定があるならば区分データセット、メンバ指定がないならば順データセットがそれぞれ対象となる。

• REPLACE/ADD [R | A] オペランド

REPLACE/ADDオペランドは、中央制御装置へデータを転送する際のデータの格納方法を指定する。指定に際してはどちらか片方のみを使用する。また、両オペランド共に指定

しないことも可能である。これらのオペランドの指定方法により以下の動作を行う。

a. REPLACE オペランドを指定した場合

既存の順データセット全体、または区分データセットの1メンバの内容を転送データで置き換える。

b. ADD オペランドを指定した場合

既存の順データセットの内容に転送データを追加することを指定する。

c. 省略した場合

新規にデータセットが生成され、これに転送したデータが格納される。

④送信画面の問い合わせ画面

・送信時の問い合わせ（1 頁目）（図4. 4. 6 参照）

1 頁目では、転送するファイルがテキストファイルであることを指示する。◎の箇所には1（テキストファイル）を入力し、実行キーを押すと2 頁目が表示される。

<<ファイルの送信>>

ホストにファイルを送信します。
パラメータリストを送信する場合は、ファイル名と識別名を…
パラメータリスト・ファイル名 =>
パラメータリスト名 =>
送信するファイルの形式を番号で指定して下さい。=> ◎
(パラメータリストを指定した場合は不要です)
1. テキストファイル
2. バイナリファイル

・送信時の問い合わせ（2 頁目）

2 頁目では、送信するファイルのコード長などを指定する。図4. 4. 7 のように入力し、実行キーを押すとファイル転送が始まる。

<<テキストファイルの送信>>

送信するファイル名を指定して下さい。=> X: ●●●●●●●●●●
コード変換の方法を番号で指定して下さい=>
(指定しない場合は '3' になります)
1. カナで変換 2. 英小文字で変換
3. エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換
4. EBCDIC-ASCII で変換
拡張漢字のサポートを指定して下さい=>
1. サポートする 2. サポートしない (指定しない場合は '2' に…)
レコード形式を指定して下さい=> ◆
1. 固定長 2. 可変長 (指定しない場合は '2' に…)
レコード長を1から4096の範囲で指定して下さい。=> ■■■■
(指定しない場合は、固定長の時 '80', 可変長の時 '132' になります)
タブストップの変換方法を次の範囲で指定して下さい。=>
○. 変換しない 1-20. 変換する値 (指定しない場合は '8' に…)
圧縮指定を番号で指定して下さい =>
1. 圧縮する 2. 圧縮しない (指定しない場合は '1' に…)

X : ●...●. ●●●

Xは転送フロッピーをセットするドライブ（A又はB）を入力し、指定のドライブにフロッピーディスクをセットする。

●...●. ●●●は転送するファイル名を入力する。●は英数字を示す。



1（＝固定長）を入力する。



1 2 0（転送先のデータセットのレコード長）を入力する。

(3) 所在情報チェック処理

所在情報には、保存用デジタル光ディスクに書き込まれた静止画のアドレス情報が格納されており、本処理では「管理番号」の重複チェックを行う。また、保存用静止画の無効フラグに「NG」が設定されているデータを処理対象外として読み飛ばす。重複していないデータは検索用アナログ光ディスクの作成処理に使用するため、「ボリューム名＋アドレス」の昇順にソートされる。本処理を実行することで検索用アナログ光ディスク作成の対象となる保存用デジタル光ディスクのアドレス情報がリストに出力されるので、管理番号、ボリューム名、アドレスを確認する。

***** 所在データチェックリスト（静止画） *****		
管理番号	入力順	エラー内容
①	②	③
CHK01	50	重複データです.....
CHK01	150	無効フラグがNGです.....
CHK01	2000	無効フラグがNGです.....
:		
:		
:		

図4.4.9 所在データチェックリスト

①：エラーとなった所在データの管理番号を表示

②：付与された入力順番を表示

③：エラーの内容を示します。

「重複データです、このデータを無視します」

＝ 同一の管理番号をもつデータが複数あるため、一番最後に出現したデータのみを有効とするため、このデータは無視されます。

「無効フラグがNGの為、処理対象外とします」

＝ 所在データの無効フラグがNGであるため、処理対象外として読み飛ばします。

入力：・SYSINデータ

1	2	3	80
メディア 種別	データ ベース	番号	ブランク	

- (c) 所在データチェック処理の対象となったレコード数
- (b) 正常な所在データのレコード数
- (e) エラーリストのページ数

所在データチェックリストの出力形式を図4. 4. 9に、保存用静止画アドレス一覧リストの出力形式を図4. 4. 10に示す。

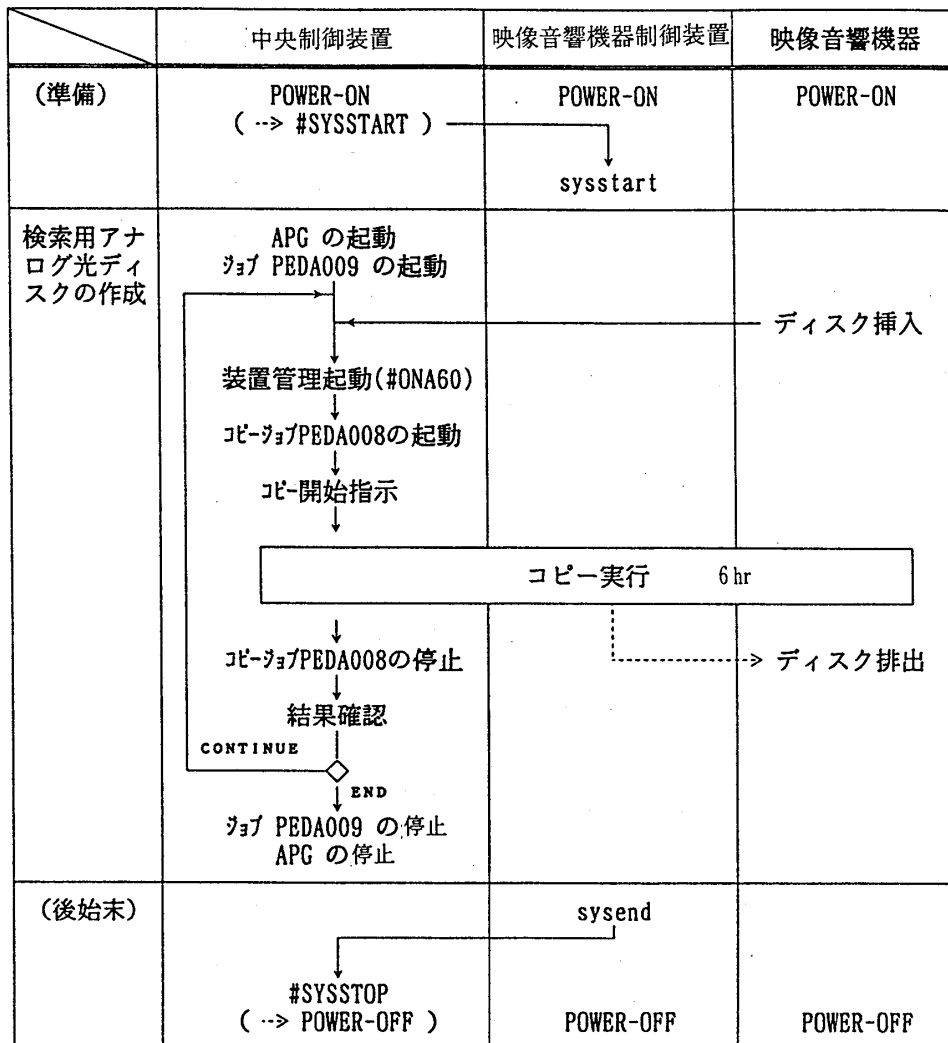
*** 検索用アナログ光ディスク作成（アドレス情報） ***						
No.	管理番号	処理状態	保存用静止画情報		検索用静止画情報	
			ボリューム名	アドレス	ボリューム名	アドレス
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1	KANRI-1		HOZ-VOL1	1001		
2	KANRI-2		HOZ-VOL4	1002		
3	KANRI-3		HOZ-VOL2	1003		
⋮						
⋮						

図4.4.10 保存用静止画アドレス一覧リスト

- ①：連番（保存用静止画アドレス情報のレコード通番）。検索用静止画のコピーを範囲指定で行う場合の、開始レコード番号、及び終了レコード番号に指定します。
- ②：管理番号
- ③：検索用静止画コピー処理の結果を表示します。この時点ではまだ書き込んでいないため空欄です。
- ④：保存用デジタル光ディスクのボリューム名
- ⑤：保存用デジタル光ディスク上の静止画アドレス
- ⑥：検索用アナログ光ディスクのボリューム名を表示します。この時点ではまだ書き込んでいないため空欄です。
- ⑦：検索用アナログ光ディスク上の静止画アドレスを表示します。この時点ではまだ書き込んでいないため空欄です。

(4) 検索用アナログ光ディスクの作成

所在データのチェックが終わったら、保存用デジタル光ディスクから検索用アナログ光ディスクに静止画をコピーする。図4. 4. 11に各機器の関連と操作手順を示す。



→ : 操作の順序を示す。 -----> : システムにより制御されることを示す。

図4.4.11 検索用アナログ光ディスク作成時の操作手順

①システムの起動

中央制御装置 (M 7 6 0 / 4) 及び映像音響機器制御装置 (A - 6 0) を起動する。

②APG、通信ソフトの起動

中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力しAMISのAPGを起動する。

```
F AIM, S, APG, APGN=AMISAPG
```

AMISのAPGが正常に起動すると、次のメッセージが表示されることを確認する。

```
IAJM02I A1 EXECUTED (START APG)
```

中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力し通信用ジョブを起動する。

```
F AIM, S, ACP, PED=PEDA009
```

通信用ジョブが正常に起動すると、次のメッセージが表示されることを確認する。

```
JXC880I XO ZCP JOB READY PED=PEDA009, JOB=AMISACP9
```

③検索用アナログ光ディスクの挿入

静止画を書き込む検索用アナログ光ディスクをいずれかのLVRに挿入する。

④装置管理の起動

中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力し装置管理を起動する。

```
#ON A60
```

⑤コピージョブの起動

検索用アナログ光ディスクを作成するためのオンラインジョブを起動し、保存用デジタル光ディスクから検索用アナログ光ディスクへの静止画コピー処理を実行する。静止画コピーJCLは次のデータセットに登録されている。

データセット名 : NIME.AIM.JCL

メンバ名 : PEDA008

入力データセット: チェック済保存用静止画アドレス情報: AMIS.SOZAI.CHKADDR

出力データセット: 静止画アドレス情報 : AMIS.SOZAI.CHKADDR1

: 結果リスト出力用データセット : AMIS.SOZAI.LIST

図4. 4. 12に静止画コピージョブ起動用JCL 'PEDA008'のひな型を示す。

図4. 4. 12 静止画コピージョブ起動用JCLのひな型

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----+
//AMISACP8 JOB CLASS=0,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
// EXEC PGM=JXGIJSM,REGION=4096K,TIME=1440
//*****
//* <PED=PEDA008 / MQN=MQN008> *
//*-----*
//* SMQN0081=アナログ作成開始/中断(AB000601) *
//* SMQN0082=検索アナログファイル解析 (AB000602) *
//* SMQN0084=静止画コピー処理 (AB000602) *
//*-----*
//* WDA.7ファイル (IOFILE) *
//* LVR.7ファイル (OUTFILE1) *
//* 結果ファイル (OUTFILE2) *
//*****
//AIMPED DD SUBSYS=(AIM,PEDA008,AMISAPG)
//***** (本番用)
//AIMPGM DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
// DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
```

(続く)

(続き) 図4.4.12

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----
//*****
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//*AIMSNAP DD SYSOUT=*
//SYSDBOUT DD SYSOUT=*
//***
//* 本番運用に使用するデータセット
//***
//IOFILE DD DSN=AMIS. SOZAI. CHKADDR, DISP=OLD
//OUTFILE1 DD DSN=AMIS. SOZAI. CHKADDR1, DISP=MOD
//OUTFILE2 DD DSN=AMIS. SOZAI. LIST, DISP=MOD
//***
//AIMACPIN DD *
JOB NAME=PEDA008, SOUT=Y, DUMPL=0
MQN NAME=MQN008,
INITTNO=1, OPENTYPE=PREOPEN, APLTYPE=DRIVEN
APL NAME=SMQN0081,
LOADMODE=PRELOAD, RENAME=AB000601
APL NAME=SMQN0082,
LOADMODE=PRELOAD, RENAME=AB000602
APL NAME=SMQN0084,
LOADMODE=PRELOAD, RENAME=AB000603
FILE NAME=DBMSTR,
OPENTYPE=PREOPEN
FILE NAME=IOFILE,
OPENTYPE=PREOPEN, FILEKIND=BDAM, OPENMODE=INOUT
FILE NAME=OUTFILE1,
OPENTYPE=PREOPEN, FILEKIND=BDAM, OPENMODE=INOUT
FILE NAME=OUTFILE2,
OPENTYPE=PREOPEN, FILEKIND=BDAM, OPENMODE=INOUT
/*
//

```

静止画コピージョブ起動用 JCL が正常に起動すると、次のメッセージが表示されることを確認する。

```
JXC880I ZO ZCP JOB READY PED=PEDA008, JOB=AMISACP8
```

⑥コピー開始指示

検索アナログ光ディスク作成ジョブの起動が完了したことを確認した後、次のコマンドをコンソールから入力してコピー処理を開始する。検索アナログ光ディスクへの画像コピーは、保存用デジタル光ディスクに記録されている画像1000枚につき約1時間30分かかるため、状況に応じて中断も行うことができる。

検索アナログ光ディスクへの画像コピーは、保存用デジタル光ディスクに記録されている画像1000枚につき約1時間30分かかるため、状況に応じて中断を行うことができる。この場合もコンソールより中断のコマンドを入力する。

- 保存用静止画アドレス情報を全てコピーする場合

```
F AIM, PO, MSG, SQ=SMQN0081, M=' START, ALL'
```

コンソールのメッセージ

```
*** ABO00601 COPY START (ALL)'
```

- 指定の画像アドレスを範囲指定でコピーする場合

```
F AIM, PO, MSG, SQ=SMQN0081, M=' START, ●, ▲'
```

コンソールのメッセージ

```
*** ABO00601 COPY START (RECNO = '●,▲')
```

●：コピー対象の先頭レコード番号（5桁以内の数字）

▲：コピー対象の最終レコード番号（5桁以内の数字）

このレコード番号は、保存用静止画アドレス情報のチェックを行った時に出力されるリストの「NO」欄に表示されている数字で指定する。

- 中断コマンド

```
F AIM, PO, MSG, SQ=SMQN0081, M=' STOP'
```

コンソールのメッセージ

```
*** ABO00601 COPY STOP (RECNO = '●,■')
```

●：コピー対象の先頭レコード番号（5桁以内の数字）

■：中断依頼にて処理を終了したコピー対象の最終レコード番号（5桁以内の数字）

⑦コピー終了の確認

コピー処理が終了すると、プログラムは自動的に装置管理を停止して、以下のメッセージをコンソールに表示する。装置管理が停止することによって、検索性アナログ光ディスクは自動的に排出、及び保存用デジタル光ディスクの棚への返却が行われる。これら、コピー終了時の一連の処理は、コピー処理を中断したか否かに関わらず必ず行われる。

終了メッセージ

```
*** ABO00601 ニュウリョク レポート      = ( a )
*** ABO00601 シュウリョウ レポート      = ( b )
*** ABO00601 シュツリョク レポート      = ( c )
*** ABO00601 COPY END      ( d )
```

- (a) プログラムが入力したレコード数
- (b) コピー処理の対象としたレコード数
- (c) コピー処理が正常に行われたレコード数
- (d) 開始メッセージで入力されたコピー範囲

⑧コピージョブの停止

コピー結果を確認するために、次のコマンドを入力してコピージョブを停止させる。

F AIM, P, ACP, PED=PEDA008

⑨コピー結果リストの出力、及び結果の確認

コピー結果は、コピー結果リストでの確認、及び静止画を実際に検索し再生することで行う。
素材静止画データベースの場合、コピー結果リストは次のJCLにより出力する。コピー結果
リスト出力処理用JCLは次のデータセットに登録されている。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZ015

入力データセット: 結果リスト出力用データセット : AMIS.SOZAI.LIST

図4. 4. 13にコピー結果リスト出力用JCL 'SOZ015' のひな型を示す。

図4.4.13 コピー結果リスト出力用 JCL のひな型

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----
//JABB015 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//*      JOB ID   : JABB015                      *
//*                                                     *
//*      JOB NAME : 検索アナログ光ディスク作成      *
//*                  結果リスト出力                  *
//*                                                     *
//*****
//JOBLIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
//      DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//-----*
//      <ABB00701>      結果リスト出力処理      *
//-----*
//STEP1 EXEC PGM=ABB00701,REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILE1 DD DSN=AMIS.0000000.LIST,DISP=SHR
//ABFILE0 DD SYSOUT=*
//
//

```

0000000 : データベースのシステム登録名

また、コピー結果リストの見方を図4. 4. 14、及び表4. 4. 1に示す。

*** 検索用アナログ光ディスク作成 (アドレス情報) ***

No.	管理番号	処理状態	保存用静止画情報		検索用静止画情報	
			ボリューム名	アドレス	ボリューム名	アドレス
①	②	③	⑤	⑥	⑦	⑧
1	KANRI-1	OK	HOZ-VOL1	1001	KEN-VOL1	30001
4	KANRI-2	OK	HOZ-VOL4	1002	KEN-VOL4	30002
3	KANRI-3	NG (CODE=nnnn) ④	HOZ-VOL2	1003		

①：連番 (処理通番)

②：管理番号

③：コピー結果。OKは正常、NGは異常を示す。コピージョブは、最初のNGを検出した時点で以降のコピーは打ち切って処理を終えます。

④：③がNGのときの原因を示すコード。コードの意味は表4.4.1を参照のこと。

⑤：保存用デジタル光ディスクのボリューム名

⑥：保存用デジタル光ディスク上の静止画アドレス

⑦：検索用アナログ光ディスクのボリューム名
(静止画コピー処理が正常に行われた場合のみ表示)

⑧：検索用アナログ光ディスク上の静止画アドレス
(静止画コピー処理が正常に行われた場合のみ表示)

図4.4.14 コピー結果リストの形式

表4.4.1 画像コピーNGの状態コード

状態コード	意 味	対 処
5 0 0 0	A-60側でシステムエラーが発生した。	A-60のプロセス状況を確認し、システムを再起動して実行し直す。
8 1 5 0	指定ボリューム（保存用デジタル光ディスク）がオートチェンジャに装填されていない。	保存用デジタル光ディスクのアドレスを確認し、該当のディスクをWDAに装填し、再実行する。
8 2 5 2	検索性アナログ光ディスクのボリュームが書き込み禁止状態である。	アナログ光ディスクを書き込み可能な状態にし、再実行する。
8 2 9 1	検索性アナログ光ディスクのボリュームにブランクエリアがない。	新しいアナログ光ディスクをLVRに挿入した後、再実行する。
9 1 0 0	WDAの故障。	WDAを点検・修理し再実行する。
9 2 0 0	LVRの故障。	LVRを点検・修理し再実行する。
9 5 0 0	デジタル光ディスク上に画像が書かれていない可能性がある。または、SIDの故障。	保存用デジタル光ディスクに画像が書かれているか確認する。画像が書かれている場合は、SIDが故障している可能性があるため点検する。
9 6 0 0	SW-3000の故障。	SW-3000を点検・修理し再実行する。
9 9 9 9	保存用デジタル光ディスク上の静止画に無効フラグが立っている。	保存用静止画のアドレスが正しいか否か確認する。必要ならば、アドレスを訂正して再実行する。

⑩映像音響機器制御装置通信用ジョブ、APGの停止

コピー結果を確認し、それ以上コピーを行わないというときは、以下に述べる方法で映像音響機器制御装置通信用ジョブとAPGを停止する。また、一切の業務を終了する場合は、中央制御装置、映像音響機器制御装置、映像音響機器の電源切断まで行う。

・映像音響機器制御装置通信用ジョブの停止

中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力し、映像音響機器制御装置通信用ジョブを停止する。

F AIM, P, ACP, PED=PEDA009

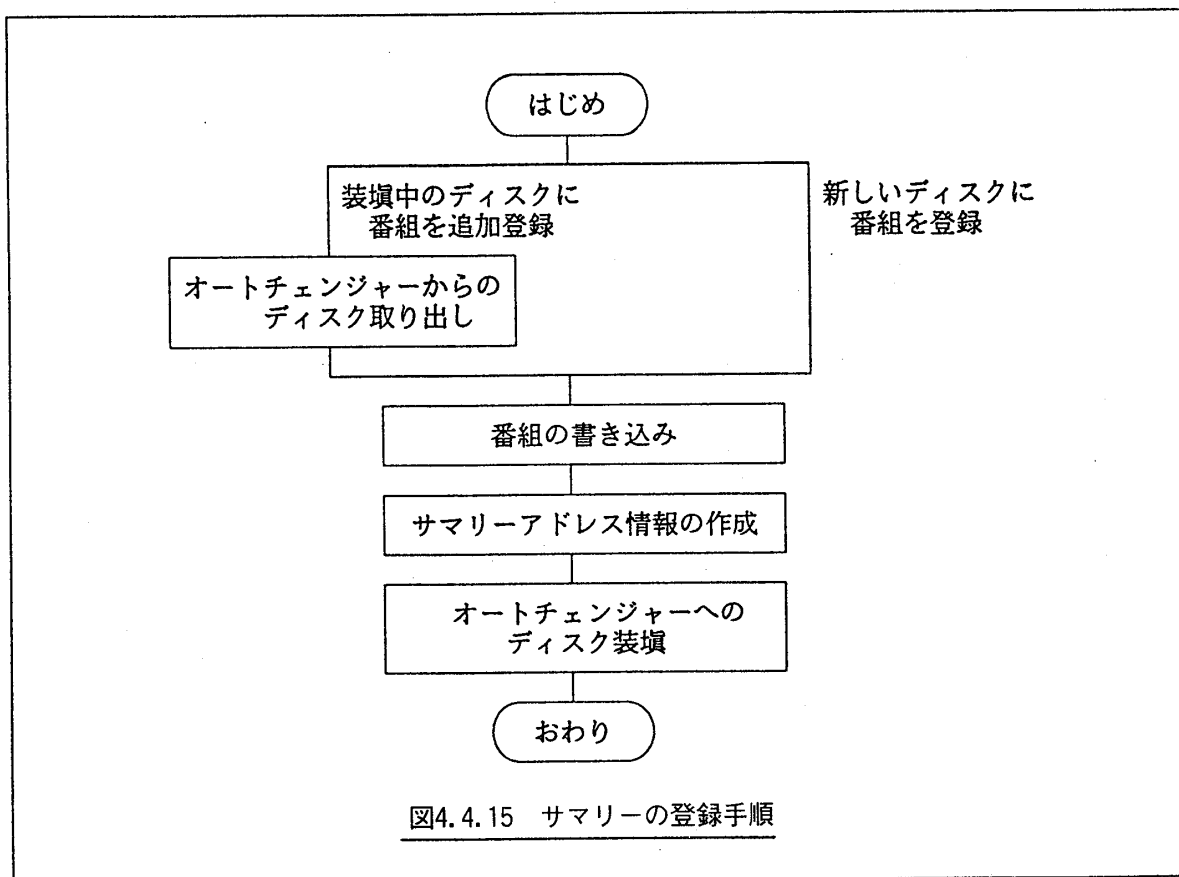
- A P G の終了

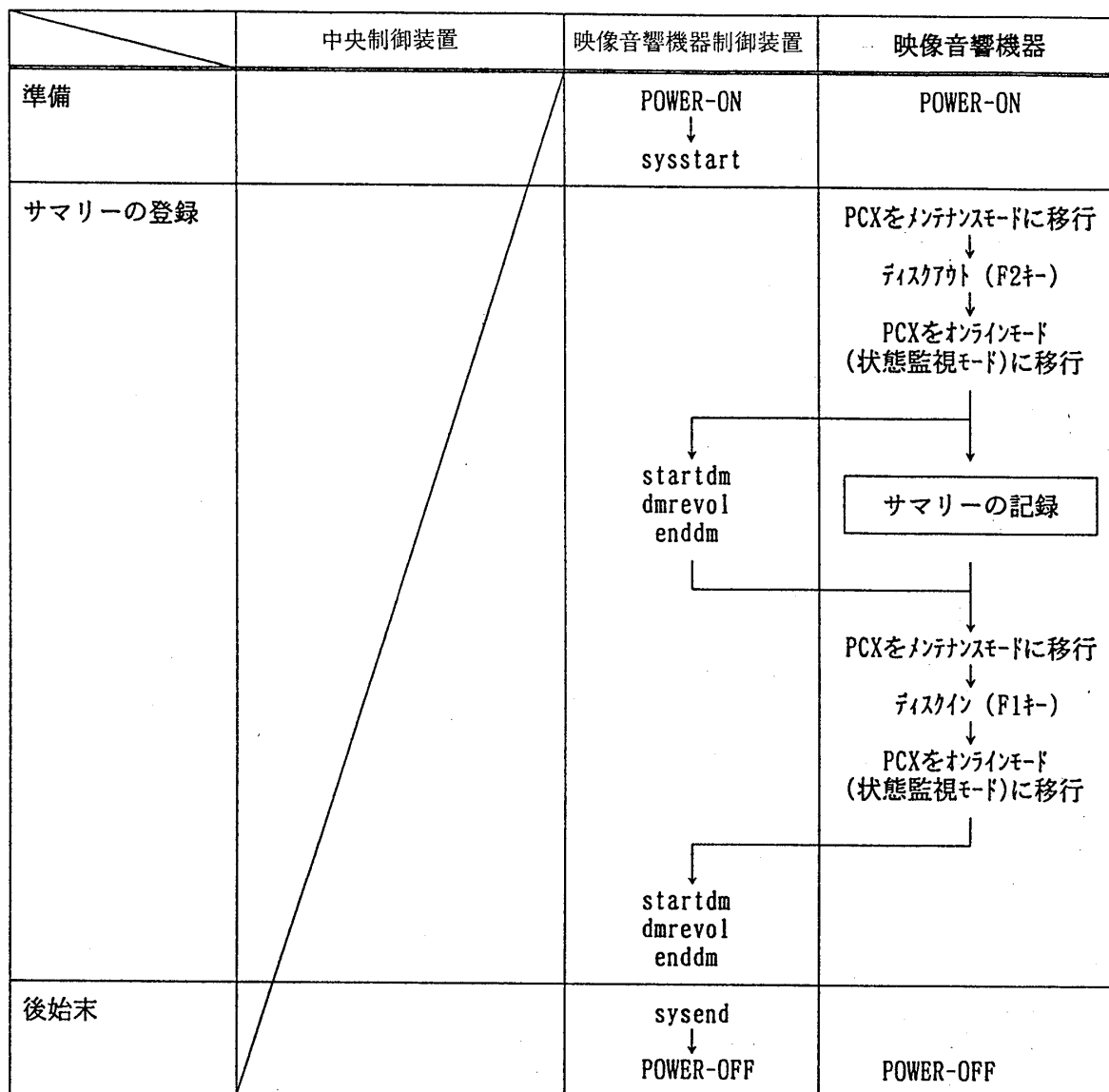
中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力し、A M I S の A P G を終了する。

F A I M, P, A P G, A P G N=A M I S A P G

4.4.2 K Y O Z A I データベースの画像情報の登録

サマリーは、既存の編集システムで静止画と音響をペアで登録する。この記録された番組を A M I S に登録する手順について説明する。サマリーの登録手順を図 4. 4. 1 5 に、サマリーを登録するときの関連各機器の操作の流れを図 4. 4. 1 6 に示す。





[凡例]

→ : 操作の順序を示す.

図4.4.16 サマリー登録時の操作関連図

(1) オートチェンジャーからディスクを取り出す。

装填中のディスクに番組を追加書きする場合、PCXの画面を操作 (=メンテナンスモードに移行) し、サマリーを追加記録するディスクをオートチェンジャーより取り出す。ディスク取り出し後、PCXの画面をメンテナンスモードから状態監視モードに戻す。次に、映像音響機器制御装置のメンテナンスモードで次のコマンドを実行し、PCXと映像音響機器制御装置のディスク装填状態に関する情報を一致させる。

dmrevol smry 取り出したディスクの棚番号

(2) サマリーの書き込み

既存の編集システムを使用してサマリーの記録を行う。

(3) サマリーアドレス情報の作成

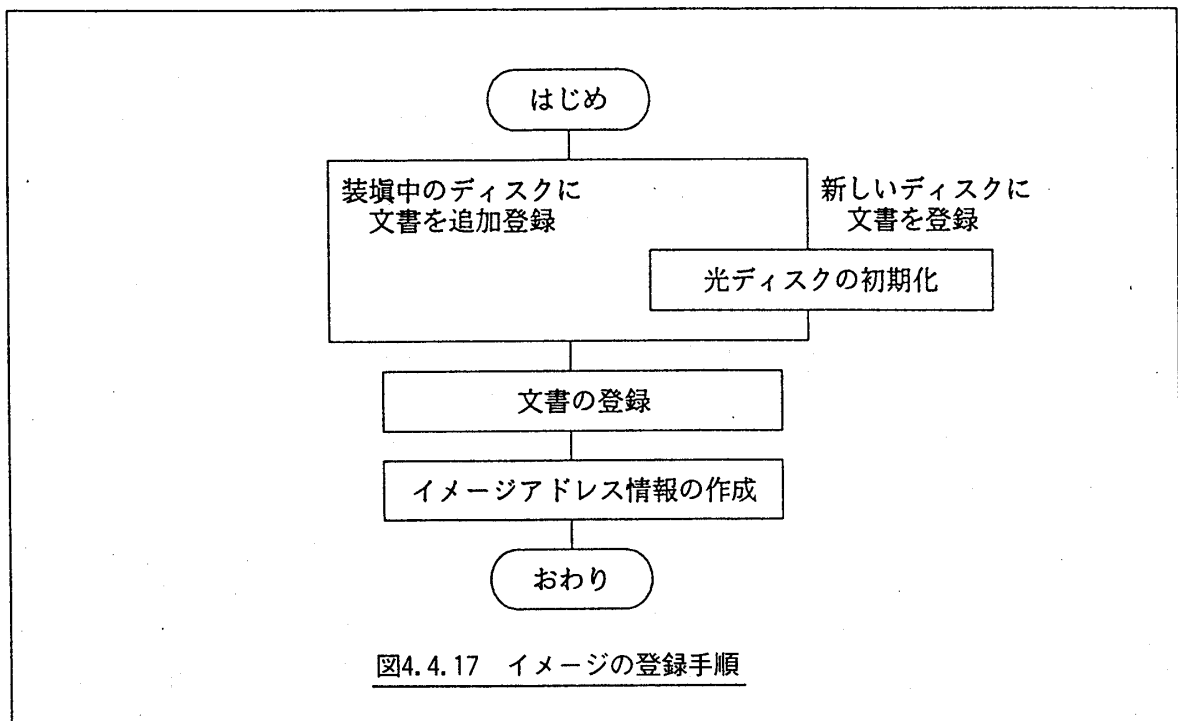
既存の編集システムを使用してサマリーを書き込んだときに、そのディスクのディスク No.、管理番号、番組の開始アドレス、終了アドレス等をフロッピーに記録する。

(4) オートチェンジャーへのディスク装填

P C Xの画面を操作 (=メンテナンスモードに移行) し、ディスクを所定の棚 (=ディスクに追加書きした場合は元の棚に、新規にディスクを作成した場合は任意の空いている棚) に装填する。ディスク装填後、P C Xの画面をメンテナンスモードから状態監視モードに戻す。映像音響機器制御装置のメンテナンスモードで次のコマンドを実行し、P C Xと映像音響機器のディスク装填状態に関する情報を一致させる。

4.4.3 イメージの登録

イメージの登録は、図 4. 4. 17 に示す手順で行う。イメージを登録するときの関連各機器の操作の流れを図 4. 4. 18 に示す。



		E F S	P C等
準備		POWER-ON	POWER-ON
イメージの登録	光ディスクの初期化	キャビネットの作成	
	文書の登録	文書の登録 文書番号の転記	
	イメージアドレス情報の作成		イメージアドレスの フロッピーディスクへの入力
後始末		POWER-OFF	POWER-OFF

図4.4.18 イメージ登録時の操作関連図

(1) 光ディスクの初期化

新規データベース作成時又は既存光ディスクに空きがなくなった等により、新しいディスクに文書を登録する場合は、光ディスクの初期化をして、キャビネットを作成する。キャビネットは、対応するデータベースを登録する時に検討したキャビネット属性に合わせて作成する。

＊詳細な手順は「E F S 操作説明書 基本システム編」の「第3章 キャビネットを管理する（キャビネット管理）」を参照。

(2) 文書の登録

登録する文書毎に次の情報を記録しておく。イメージアドレス情報を作成するためのデータとなる。

- 文書毎に付与されている管理番号
- 登録されたキャビネットID
- 文書登録を行った際にE F Sにて自動付与される文書番号

＊「E F S 操作説明書 基本システム編」の「第5章 文書を登録する（光ディスクに記録する）」を参照。

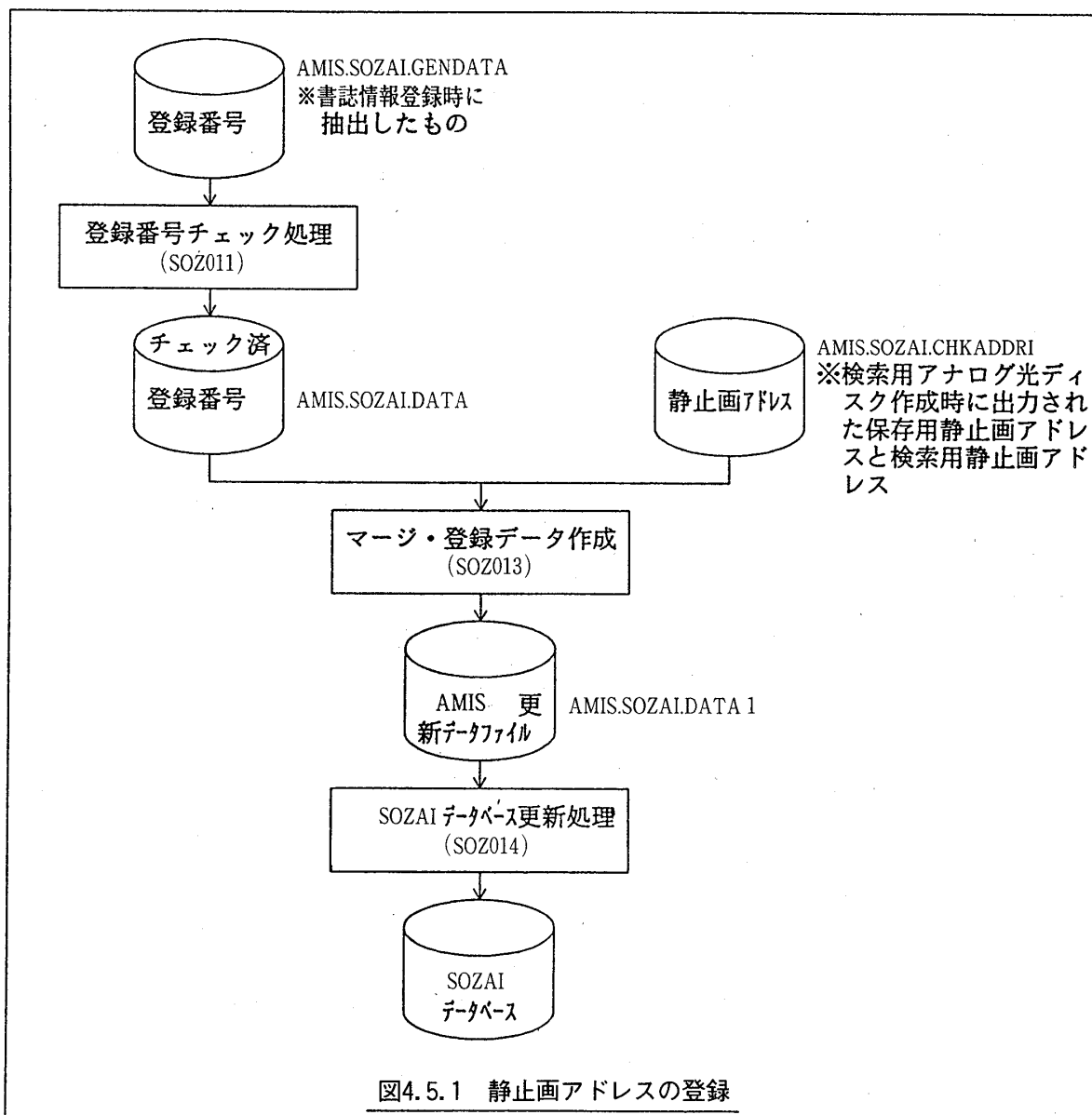
(3) イメージアドレス情報の作成

文書を登録した際、メモしておいた情報によってイメージアドレス情報を作成する。

4.5 画像アドレス情報の登録

4.5.1 SOZAIデータベースの画像アドレスの登録

静止画アドレスとして、保存用静止画アドレスと、検索用静止画のアドレスをAMISデータベースに登録する必要がある。図4.5.1に静止画アドレス登録処理の流れを示す。



(1) 抽出した登録番号のチェック

書誌情報登録時に抽出しておいた登録番号に対し、管理番号の重複チェックを行い、管理番号順にソートする。

[入力] ①SYSINデータ

- データベース番号

DB管理簿に登録したデータベース番号を2byteで指定する。

- 処理区分

画像アドレス情報の登録(=1)を1byteで指定する。

②抽出した登録番号

[出力] チェック済の抽出登録番号

[操作] SOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZ011

入力データセット : SYSINデータ : C11

抽出した登録番号 : AMIS.SPZAI.GENDATA

出力データセット : チェック済み抽出登録番号 : AMIS.SOZAI.DATA

図4. 5. 2にSOZAIデータベースの画像アドレス情報を登録用JCLのヒナ型を示す。

登録番号チェック処理を行うと図4. 5. 3の形式でリストが出力される。また、登録番号チェックのエラー内容を表4. 5. 1に示す。

図4.5.2

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//JABB011 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//* JOB ID : JABB011 *
//* *
//* JOB NAME : 登録番号のチェック処理 *
//* *
//*****
//JOB LIB DD DSN=SYS1.COB LIB,DISP=SHR
// DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//* <ABB00101> 登録番号・チェックデータ作成 *
//*-----*
//ABB00101 EXEC PGM=ABB00101,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSD BOUT DD SYSOUT=*
//SYS PRINT DD SYSOUT=*
//AB FILE I DD DSN=AMIS.000000.GENDATA,DISP=SHR
//AB FILE O DD DSN=&&GENCHK1,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
// SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),
// DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//*-----*
//* <S O R T> *
//*-----*
```

(続く)

(続き) 図4.5.2

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//SORT      EXEC PGM=SORT, REGION=2048K
//SYSOUT    DD  SYSOUT=*
//SORTIN    DD  DSN=*&GENCHK1, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//SORTOUT   DD  DSN=*&GENCHK2, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,
//              SPACE=(CYL, (1, 1), RLSE),
//              DCB=(RECFM=FB, LRECL=300, BLKSIZE=3000)
//SORTWK10  DD  UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK20  DD  UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK30  DD  UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SYSIN     DD  *
              SORT  FIELDS=(1, 2, CH, A,
                             4, 6, CH, A,
                             265, 6, CH, D,
                             263, 2, CH, A,
                             271, 6, CH, D)

/*
//*-----+-----*
//*      <ABB00103>   登録番号・入力データチェック      *
//*-----+-----*
//ABB00103 EXEC PGM=ABB00103, REGION=5120K
//SYSOUT    DD  SYSOUT=*
//SYSDBOU   DD  SYSOUT=*
//SYSPRINT  DD  SYSOUT=*
//*SYSCOUNT DD  SYSOUT=*
//ABFILEI   DD  DSN=*&GENCHK2, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//ABFILEO   DD  DSN=AMIS. @@@@. DATA, DISP=(NEW, CATLG),
//              VOL=SER=USER01, SPACE=(TRK, (100, 10)). UNIT=SYSDA
//              ABFILEOZ DD DUMMY
//ABDBKNR   DD  DSN=AMIS. DB. MSTR, DISP=SHR
//ABLISTI   DD  SYSOUT=*
//SYSIN     DD  *
%%1
/*
//

```

(注) %%部分はデータベース番号、@@@@部分にはデータベースのシステム登録名を指定します。

***** 原データチェッリスト *****						
データベース番号	処理区分	登録番号	項目ID	継続識別	入力順	エラー内容
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
C1	C	4	34	1	2	項目値が...
C2	A	5	03	1	10	処理対象...
:	:	:	:	:	:	:

図4.5.3 登録番号チェックリスト

- ①: エラーとなった登録番号のデータベース番号
- ②: " 処理区分
- ③: " 登録番号
- ④: " 項目ID
- ⑤: " 継続識別
- ⑥: 入力された登録番号データのレコード順番
- ⑦: エラーの内容を示しています。
この登録番号のデータは一次情報アドレスの登録処理の処理対象外となります。
エラー内容を表4.8に示します。

表4.5.1 登録番号チェックのエラー内容

	⑦に表示されるエラー内容	意 味
1	処理対象外のデータベース番号です	S Y S I Nで指定されたデータベース番号以外の原データです
2	処理区分はMのみ有効です	一次情報アドレスの登録・変更の時、指定できる処理区分は「M」のみです
3	項目IDは03のみ有効です	一次情報アドレスの登録・変更の時、指定できる項目IDは「03」のみです
4	継続識別は1のみ有効です	一次情報アドレスの登録・変更の時、指定できる継続識別は「1」のみです
5	項目値に管理番号が指定されていません	一次情報アドレスの登録・変更の時、項目ID=03に設定すべき管理番号が設定されていません
6	1項目に対し処理区分が多重指定されています	1項目の項目値が複数行にまたがって設定されている時、処理区分が異なって指定されている
7	重複データです、このデータを無視します	同じ項目IDのデータが存在しているため、最終にあらわれたデータのみを有効としこのデータは無視します

(2) マージ・登録データの作成

この処理は、重複チェック後の登録番号と検索アナログ光ディスク作成処理で出力された静止画アドレスを管理番号をキーにしてマッチングし、AMISのデータに変換する処理である。

[入力] ①S Y S I Nデータ

・メディア種別

1 (=データベースが静止画をメディアとして持つ)

・メディア種別の項目ID

DB管理簿に登録されたメディア種別の項目ID (=81)

②チェック済登録番号のデータ

③検索アナログ光ディスク作成で出力された静止画アドレス情報

[出力] AMISデータベース更新データファイル

[操作] SOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZ013

入力データセット: S Y S I Nデータ : 181

チェック済み抽出登録番号: AMIS.SOZAI.DATA

静止画アドレス情報 : AMIS.SOZAI.CHKADDR1

出力データセット: 更新データファイル : AMIS.SOZAI.DATA1

図4. 5. 4にマージ・登録データ作成用のJCLのヒナ型を示す。

図4.5.4 マージ・登録データ作成用 JCL のヒナ型

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//JABB013 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//*      JOB ID   : JABB013                                *
//*                                                     *
//*      JOB NAME : 更新データファイル作成処理 (例)        *
//*                  (一次情報アドレスの登録用)            *
//*****
//JOBLIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
//      DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOBCAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//*      <S O R T> 1                                     *
//*-----*
//SORT01 EXEC PGM=SORT,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=AMIS.@@@@@.DATA,DISP=SHR
//SORTOUT DD DSN=&&KOUSIN,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=300,BLKSIZE=3000)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SYSIN DD *
//          SORT FIELDS=(13,16,CH,A)
//*
//*-----*
//*      <S O R T> 2                                     *
//*-----*
//SORT02 EXEC PGM=SORT,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=* (注)
//SORTIN DD DSN=AMIS.@@@@@.CHKADDR,DISP=SHR
//SORTOUT DD DSN=&&HENKAN,DISP=(NEW,PASS),UNIT=SYSDA,
//          SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB,LRECL=120,BLKSIZE=1200)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SYSIN DD *
//          SORT FIELDS=(13,16,CH,A)
//*
//*-----*
//*      <ABB00402> 更新データファイル変換                *
//*-----*
//ABB00402 EXEC PGM=ABB00402,REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDABOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILE11 DD DSN=&&KOUSIN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//ABFILE12 DD DSN=&&HENKAN,DISP=(OLD,DELETE),UNIT=SYSDA
//ABFILEO DD DSN=AMIS.@@@@@.DATA1,DISP=(NEW,CATLG),
//          VOL=SER=USER01,SPACE=(CYL,(20,10)),UNIT=SYSDA
//ABLIST1 DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
$81
//

```

\$ 部分にはメディア種別, @@@@@@部分にはデータベースのシステム登録名を設定して実行してください。

(3) AMISデータベースの更新処理

この処理は、更新データファイルからINPUTコマンドを生成し、それによってAMISデータベースに静止画のアドレスを登録する処理である。

[入力] AMISデータベース更新データファイル

[出力] AMISデータベース

[操作] SOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SOZ014

入力データセット: 更新データファイル : AMIS.SOZAI.DATA1

出力データセット: INPUT コマンドファイル : AMIS.SOZAI.UPDATE

図4. 5. 5にAMISデータベースの更新処理用JCLのヒナ型を示す。

図4.5.5 AMISデータベースの更新処理用JCLのヒナ型

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//JABB014 JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//*****
//*      JOB ID : JABB014                                *
//*                                                    *
//*      JOB NAME : FAIRS-Iデータベース更新処理          *
//*      (一次情報アドレスの登録用)                      *
//*****
//JOBLIB DD DSN=SYS1.COBLIB,DISP=SHR
//      DD DSN=AMIS.APP.LOAD,DISP=SHR
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*-----*
//*      <ABB00202> FAIRS-I更新データ作成                *
//*-----*
//ABB00202 EXEC PGM=ABB00202,REGION=5120K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SYSDOUT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//ABFILEI DD DSN=AMIS.000000.DATA1,DISP=SHR
//ABFILEO DD DSN=AMIS.000000.UPDATE,DISP=(NEW,CATLG),
//      VOL=SER=USER01,SPACE=(CYL,(20,10)),UNIT=SYSDA
//ABDBKNR DD DSN=AMIS.DB.MSTR,DISP=SHR
//*-----*
//*      <DBGEN> FAIRS-Iデータベース更新                  *
//*-----*
//STEP1 EXEC PGM=IEFBRI4,REGION=256K
```

(続く)

(続き) 図4.5.5

```

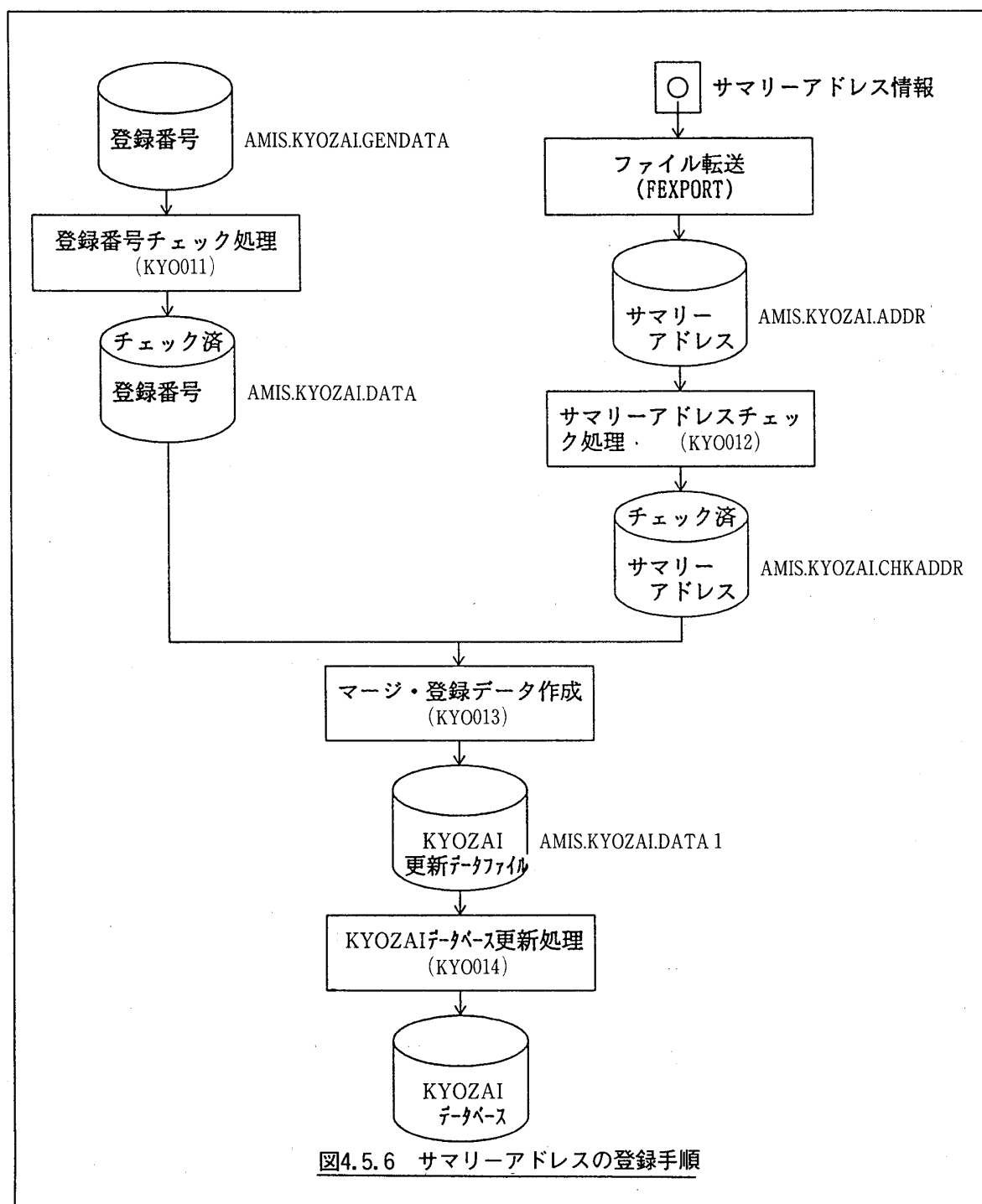
-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//FAIRSLIB DD DISP=SHR, DSN=PP1. IR1. CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR, DSN=PP1. IR1. NIN
//FAIRSMSC DD DISP=SHR, DSN=PP1. IR1. FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR, DSN=PP1. IR1. FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR, DSN=AMIS. FAIRS. SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR, DSN=AMIS. FAIRS. SCF
//*
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS, REGION=5120K, DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR, DSN=*. STEP1. FAIRSLIB
// DD DISP=SHR, DSN=*. STEP1. FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR, DSN=*. STEP1. FAIRSSYS
//FAIRSMSC DD DISP=SHR, DSN=*. STEP1. FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR, DSN=*. STEP1. FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
    DBCEN
        SELECT @@@@@@
        INPUT SUBFILE(XXXXXXXX)
        DATASET(AMIS. @@@@@@. UPDATE)
    END
END
//DELETE EXEC PGM=KDJBRI4
//DATA1 DD DSN=AMIS. @@@@@@. DATA, DISP=(OLD, DELETE)
//DATA2 DD DSN=AMIS. @@@@@@. DATA1, DISP=(OLD, DELETE)
//UPDATE DD DSN=AMIS. @@@@@@. UPDATE, DISP=(OLD, DELETE)
/*
//

```

\$ 部分にはメディア種別, @@@@@@部分にはデータベースのシステム登録名を設定

4.5.2 KYOZAIデータベースの画像アドレスの登録

図4. 5. 6にサマリーアドレスの登録処理の流れを示す。



(1) 抽出した登録番号のチェック

書誌情報登録時に抽出しておいた登録番号に対し、管理番号の重複チェックを行い、管理番号順にソートする。

[入力] ①SYSINデータ

- データベース番号

DB管理簿に登録したデータベース番号を2 byteで指定する。

- 処理区分

画像アドレス情報の登録 (= 1) を1 byteで指定する。

②抽出した登録番号

[出力] チェック済みの抽出登録番号

[操作] 映像・音響完成教材データベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYO011

入力データセット: SYSINデータ : B11

抽出した登録番号 : AMIS.KYOZAI.GENDATA

出力データセット: チェック済み抽出登録番号: AMIS.KYOZAI.DATA

(2) サマリーアドレス情報の転送

EXPORTコマンドを使用してサマリーのアドレスをホストに転送する。以下にEXPORTコマンドの使用手順を説明する。

①中央制御装置にTSSでログオンする。

②フロッピー・ディスク上のサマリーアドレス情報のデータファイルをホストに転送する。

PFD 6 の画面から次のコマンドを使用し、アドレス情報FDのファイル転送を行う。

- データセット名

パソコンから中央制御装置へ転送したデータを格納するデータセットを指定する。データセット指定中にメンバ指定があれば区分データセットが、メンバ指定がなければ順データセットがそれぞれ対象となる。

- REPLACE/ADD

REPLACE/ADDオペランドは、中央制御装置へデータを転送したデータの格納方法を指定する。指定に際してはどちらか片方しか使用できない。また、両オペランド共に指定しないことも可能である。これらのオペランドの指定方法により以下の動作を行う。

a. REPLACEオペランドを指定した場合

既存の順データセット全体、または区分データセットの1メンバの内容を転送データで置き換える場合、データセットの属性(レコード長、レコード形式)はパソコン側ファイルの属性で書き換えられる。

b. ADDオペランドを指定した場合

既存の順データセットの内容に転送データを追加することを指定する。このとき、データセットの属性(レコード長、レコード形式)とパソコン側ファイルの属性は一致する必要がある。データセット指定によって区分データセットが対象となっている場合にこのオペランドを指定しても無視される。

c. 省略した場合

新規にデータセットが生成され、これに転送したデータが格納される。生成されるデー

タセットの種別は、データセット指定中のメンバ指定の有無によって決定される。

③送信画面の問い合わせ画面

• 送信時の問い合わせ（1 頁目）

1 頁目では、転送するファイルの形式がテキストファイルであることを、指定する。

<<ファイルの送信>>

ホストにファイルを送信します。

パラメータリストを送信する場合は、ファイル名と識別名を入力して下さい

パラメータリスト・ファイル名 =>

パラメータリスト名 =>

送信するファイルの形式を番号で指定して下さい。=> ①

（パラメータリストを指定した場合は不要です）

1. テキストファイル
2. バイナリファイル

①の箇所に 1（＝テキストファイル）を入力し、実行キーを押すと、2 頁目が表示される。

• 送信時の問い合わせ（2 頁目）

2 頁目では、送信するファイルの形式を指定する。

<<テキストファイルの送信>>

送信するファイル名を指定して下さい。=> X: ●●●～●●●. ●●●●

コード変換の方法を番号で指定して下さい=>

（指定しない場合は '3' になります）

1. カナで変換
2. 英小文字で変換
3. エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換
4. EBCDIC-ASCII で変換

拡張漢字のサポートを指定して下さい=>

1. サポートする 2. サポートしない（指定しない場合は '2' になります）

レコード形式を指定して下さい=> ◆

1. 固定長 2. 可変長（指定しない場合は '2' になります）

レコード長を 1 から 4096 の範囲で指定して下さい。=> ■■■■

（指定しない場合は、固定長の時 '80'，可変長の時 '132' になります）

タブストップの変換方法を次の範囲で指定して下さい。=>

○. 変換しない 1-20. 変換する値（指定しない場合は '8' になります）

圧縮指定を番号で指定して下さい =>

1. 圧縮する 2. 圧縮しない（指定しない場合は '1' になります）

X : ●●●~●●●. ●●●●

Xは転送フロッピーをセットするドライブ（A又はB）を入力し、指定のドライブにフロッピーをセットする。

●●●~●●●. ●●●●は転送するファイル名を入力する。●は英数字を示す。



1（=固定長）を入力する。



120（=転送先のデータセットのレコード長）を入力する。

以上を入力し、実行キーを押すと、所在情報の転送が開始される。

(3) サマリーアドレスチェック処理

本処理では、サマリーアドレスに対し管理番号の重複チェックを行い、管理番号順にソートする。

[入力] ①SYSINデータ

メディア種別

サマリーアドレスであることを示す。（=2を指定）

データベース番号：

サマリーアドレスを登録するデータベースのDB番号

（DB管理簿に登録されているDB番号を指定する。）

②転送データセット

[出力] チェック済サマリーアドレス情報

[操作] KYOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYO012

入力データセット : SYSINデータ : 2B1

転送データセット : AMIS.KYOZAI.CHKADDR

出力データセット : チェック済みサマリーアドレス情報：

AMIS.KYOZAI.ADDR

(4) マージ・登録データの作成

この処理は、重複チェック後の登録番号とサマリーアドレスを管理番号をキーとしてマッチングし、AMISデータベース用のデータに変換する処理である。

[入力] ①SYSINデータ

・メディア種別

2（=データベースがサマリーをメディアとして持つ）

・メディア種別の項目ID

DB管理簿に登録されたメディア種別の項目ID（=81）

②チェック済登録番号のデータ

③チェック済サマリーアドレス情報

[出力] AMISデータベース更新データファイル

[操作] KYOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYO013

入力データセット:

SYSINデータ : 281

チェック済み登録番号 : AMIS.KYOZAI.CHKADDR

チェック済みサマリーアドレス情報: AMIS.KYOZAI.ADDR

出力データセット:更新データファイル : MIS.KYOZAI.DATA1

(5) FAIRS-Iデータベースの更新処理

この処理は、更新データファイルからINPUTコマンドを生成し、AMISデータベースにサマリーのアドレスを登録する処理である。

[入力] AMISデータベース更新データファイル

[出力] AMISデータベース

[操作] KYOZAIデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : KYO014

入力データセット:更新データファイル : AMIS.KYOZAI.DATA1

出力データセット:INPUT コマンドファイル:AMIS.KYOZAI.UPDATE

4.5.3 SHIRYOデータベースの画像アドレスの登録

図4. 5. 9にイメージアドレス情報の登録処理の流れを示す。

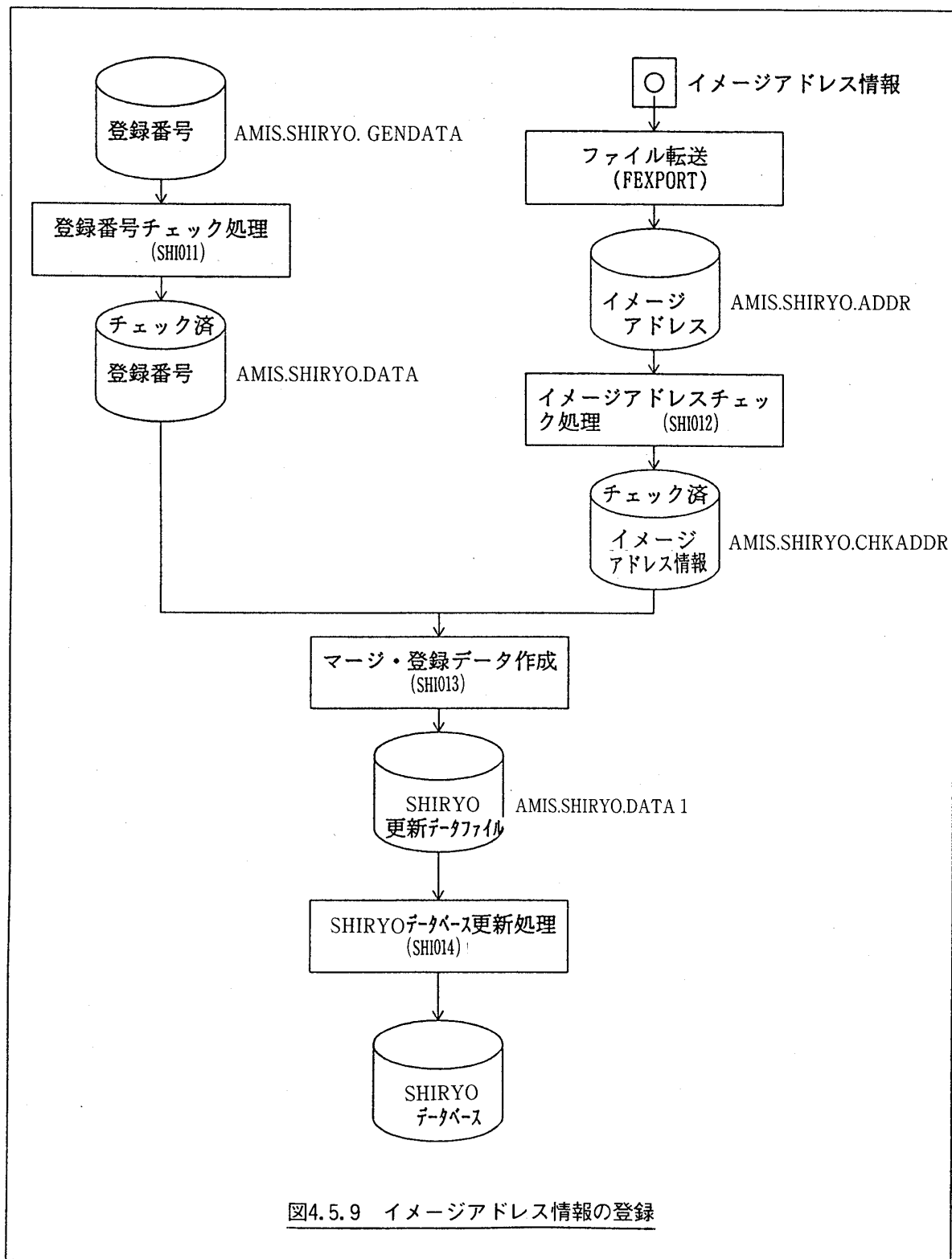


図4.5.9 イメージアドレス情報の登録

(1) 抽出した登録番号のチェック

書誌情報登録処理時に抽出しておいた登録番号に対し、管理番号の重複チェックを行い、管理番号順にソートする。

[入力] ①SYSINデータ

- データベース番号

DB管理簿に登録したデータベース番号を2byteで指定する。

- 処理区分

画像情報アドレスの登録(=1)を1byteで指定する。

②抽出した登録番号

[出力] チェック済みの抽出登録番号

[操作] SHIRYOデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHI011

入力データセット : SYSINデータ : D11

抽出した登録番号 : AMIS.SHIRYO.GENDATA

出力データセット : チェック済み抽出登録番号 : AMIS.SHIRYO.DATA

(2) イメージアドレス情報の転送

EXPORTコマンドを使用してイメージのアドレス情報をホストに転送する。以下にEXPORTコマンドの使用手順を説明する。

①中央制御装置にTSSでログオンする。

②フロッピー・ディスク上のサマリーアドレス情報のデータファイルをホストに転送する。

PFD 6の画面から次のコマンドを使用し、アドレス情報FDのファイル転送を行う。

- データセット名

パソコンから中央制御装置へ転送したデータを格納するデータセットを指定する。データセット指定中にメンバ指定があれば区分データセットが、メンバ指定がなければ順データセットがそれぞれ対象となる。

- REPLACE/ADD

REPLACE/ADDオペランドは、中央制御装置へデータを転送したデータの格納方法を指定する。指定に際してはどちらか片方しか使用できない。また、両オペランド共に指定しないことも可能である。これらのオペランドの指定方法により以下の動作を行う。

a. REPLACEオペランドを指定した場合

既存の順データセット全体、または区分データセットの1メンバの内容を転送データで置き換える場合、データセットの属性(レコード長、レコード形式)はパソコン側ファイルの属性で書き換えられる。

b. ADDオペランドを指定した場合

既存の順データセットの内容に転送データを追加することを指定する。このとき、データセットの属性(レコード長、レコード形式)とパソコン側ファイルの属性は一致する必要がある。データセット指定によって区分データセットが対象となっている場合にこのオ

ペラントを指定しても無視される。

c. 省略した場合

新規にデータセットが生成され、これに転送したデータが格納される。生成されるデータセットの種別は、データセット指定中のメンバ指定の有無によって決定される。

③送信画面の問い合わせ画面

• 送信時の問い合わせ（1 頁目）

1 頁目では、転送するファイルの形式がテキストファイルであることを、指定する。

<p style="text-align: center;"><<ファイルの送信>></p> <p>ホストにファイルを送信します。</p> <p>パラメータリストを送信する場合は、ファイル名と識別名を入力して下さい</p> <p>パラメータリスト・ファイル名 =></p> <p>パラメータリスト名 =></p> <p>送信するファイルの形式を番号で指定して下さい。=> ◎</p> <p>（パラメータリストを指定した場合は不要です）</p> <ol style="list-style-type: none">1. テキストファイル2. バイナリファイル
--

◎の箇所に入力し、実行キーを押すと、2 頁目が表示される。

• 送信時の問い合わせ（2 頁目）

2 頁目では、送信するファイルの形式を指定する。

＜＜テキストファイルの送信＞＞

送信するファイル名を指定して下さい。=> X: ●●●～●●●. ●●●●

コード変換の方法を番号で指定して下さい=>

(指定しない場合は '3' になります)

1. カナで変換 2. 英小文字で変換
3. エミュレータで定義されているキーボードタイプで変換
4. EBCDIC-ASCIIで変換

拡張漢字のサポートを指定して下さい=>

1. サポートする 2. サポートしない (指定しない場合は '2' になります)

レコード形式を指定して下さい=> ◆

1. 固定長 2. 可変長 (指定しない場合は '2' になります)

レコード長を1から4096の範囲で指定して下さい。=> ■■■■

(指定しない場合は、固定長の時 '80', 可変長の時 '132' になります)

タブストップの変換方法を次の範囲で指定して下さい。=>

- . 変換しない 1-20. 変換する値 (指定しない場合は '8' になります)

圧縮指定を番号で指定して下さい =>

1. 圧縮する 2. 圧縮しない (指定しない場合は '1' になります)

X: ●●●～●●●. ●●●●

Xは転送フロッピーをセットするドライブ (A又はB) を入力し、指定のドライブにフロッピーをセットする。

●●●～●●●. ●●●●は転送するファイル名を入力する。●は英数字を示す。



1 (=固定長) を入力する。



120 (=転送先のデータセットのレコード長) を入力する。

以上を入力し、実行キーを押すと、所在情報の転送が開始される。

(3) イメージアドレスチェック処理

この処理では、イメージアドレスに対し管理番号の重複チェックを行い、管理番号順にソートする処理である。

[入力] ①SYSINデータ

メディア種別

イメージアドレスであることを示す。(=3を指定)

データベース番号

イメージアドレスを登録するデータベースのDB番号

(DB管理簿に登録されているDB番号を指定する。)

EFSのワークステーション名

現在、AMISに登録されているEFSのワークステーション名は

「EFS#01」である。

②イメージアドレス情報

[出力] チェック済イメージアドレス情報

[操作] SHIRYOデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHI012

入力データセット: SY SINデータ: 3D1EFS#01

転送データセット: AMIS.SHIRYO.CHKADDR

出力データセット: チェック済みサマリーアドレス情報:

AMIS.SHIRYO.ADDR

(4) マージ・登録データの作成

この処理は、重複チェック後の登録番号とイメージアドレスを管理番号をキーとしてマッチングし、AMISデータベース用のデータに変換する処理である。

[入力] ①SY SINデータ

- メディア種別

3 (=データベースがイメージを画像データとして持つ)

- メディア種別の項目ID

DB管理簿に登録されたメディア種別の項目ID (= 81)

②チェック済登録番号のデータ

③チェック済イメージアドレス情報

[出力] AMISデータベース更新データファイル

[操作] SHIRYOデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHI013

入力データセット: SY SINデータ: 381

チェック済み登録番号: AMIS.SHIRYO.CHKADDR

チェック済みサマリーアドレス情報: AMIS.SHIRYO.ADDR

出力データセット: 更新データファイル: AMIS.SHIRYO.DATA1

(5) AMISデータベースの更新処理

この処理は、更新データファイルからINPUTコマンドを生成し、AMISデータベースにイメージのアドレスを登録する処理である。

[入力] AMISデータベース更新データファイル

[出力] AMISデータベース

[操作] SHIRYOデータベースの場合は、次のJCLを実行する。

データセット名 : AMIS.APP.JCL

メンバ名 : SHIX014

入力データセット: 更新データファイル: AMIS.SHIRYO.DATA1

出力データセット: INPUT コマンドファイル: AMIS.SHIRYO.UPDATE

4.6 データベースの退避復元

4.6.1 データベースの退避

データベースは万一の事故に備えバックアップを作成しておく必要がある。AMISのデータベースは、画像情報と書誌情報から成るが、画像情報は追記型の光ディスク、書誌情報は磁気ディスクに記録されるものであり、そのバックアップの取り方も異なる。基本的に画像情報は光ディスクの複製を作り、書誌情報は磁気テープに退避する。表4.6.1に各メディア毎のバックアップの取り方を示す。

表4.6.1 バックアップの取り方

No.	対象メディア			手段	具体的な説明（方法・実施時期）
1	画像情報	静止画	保存用	光ディスクの複製	既存編集システムによりコピーするそのときアドレス情報のフロッピーも一緒に作成しなおす。
2			検索用	保存用からの再コピー	検索用アナログ光ディスクが壊れた時に保存用から再コピーして作り直すため、特にバックアップは行わない。
3		サマリー		光ディスクの複製	既存編集システムによりコピーするそのときアドレス情報のフロッピーも一緒に作成しなおす。
4		イメージ		光ディスクの複製	E F S のキャビネット複写機能により、保管用のキャビネットを作成する。
5	書誌情報（テキスト）			データベースのバックアップ	FAIRS-I のBACKUPコマンドで行う。

4.6.1.1 画像情報の退避

画像情報の退避方法は各メディアによって異なる。

(1) 静止画

①保存用静止画

既存の編集システムで保存用静止画の光ディスクを複製する。複製したディスクは必ずしもアドレスが同じであるとは限らないため、保存用静止画アドレス情報のフロッピーも合わせて作成、管理する。

復元処理においては、アドレス情報の復元が必要となるので、抽出した登録番号もフロッピー上に退避しておく。登録番号は、AMISデータベースのどのレコードに登録するかを決定するためのデータとなる。

②検索用静止画

壊れた時に、保存用静止画からコピーする。特に退避する作業は行わない。

(2) サマリー

既存の編集システムでサマリーの光ディスクを複製する。複製したディスクは必ずしもアド

レスが同じであるとは限らないため、サマリー情報のフロッピーも合わせて作成する。

復元処理においては、アドレス情報の復元が必要となるので、抽出した登録番号もフロッピー上に退避しておく。登録番号は、AMISデータベースのどのレコードに登録するかを決定するためのデータとなる。

(3) イメージ

「EFS操作説明書 基本システム編」の「第3章 キャビネットを管理する（キャビネット管理）キャビネットを複写する（キャビネットの複写）」を参照して複写する。

キャビネットを複写した場合でも、文書番号は変更されないので、特にイメージアドレス情報の退避を行う必要はない。

4.6.1.2 書誌情報の退避

データベースの更新を行った場合は、該当のデータベースを退避する。

[入力] 各データベース

[出力] バックアップファイル

[操作] 次のJCLを実行してデータベース退避処理を起動する。この時、退避するデータベースによってJCLの退避MTのボリューム名、及び退避するデータベースのシステム登録名を変更する。このJCLを起動すると、データベースを構成するすべてのサブファイルが退避される。また、データベースの定義情報はSUBFILEオペランドの有無にかかわらず、退避データセットに退避される。また、特定のサブファイルを退避する場合は、BACKUPコマンドにSUBFILEオペランドを追加してジョブを起動する。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 : DBBKUP

図4. 6. 1にバックアップ用JCL'DBBKUP'を示す。

図4.6.1 バックアップ用 JCL'DBBKUP'

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//DBBKUP JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I DB ) タイ ョ JCL */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) BACKUP */
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=5120K,DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMSC DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMSC
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.DSNJEN=*.VOL.SHI,STEP1.FAIRSJWD
```

(続く)

(続き) 図4.6.1

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (5, 5))
//TAPE1 DD UNIT=TAPE, VOL=SER=#####, LABEL=(1, SL), DISP=(NEW, PASS),
// DSN=#####
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
BACKUP @@@@@@@@ DD(TAPE1) COMMENT(#####)
END DB名 日付
/* 1992.__.
//

```

: 退避MTのボリューム通番 (6Byteの英数字)

新しいMTを使用する場合はMTの初期化を行う。

: 退避MTのデータセット名

@@@@@@@@ : 退避するデータベースのシステム登録名

%%%%%%%% : 退避データセットについての注釈文 (日本語文字列・英数字・カナ文字列の混在可能) を 5 0 b y t e 以内の文字列で指定する。

新しいMTを使用してバックアップを行う場合、MTの初期化を行ってMTにボリューム名を付加する。MTの初期化を行う時は次のJCLを起動する。

データセット名: AMIS.APP.JCL

メンバ名 : MTINT

図4.6.2にMTの初期化用JCL 'MTINT' を示す。

図4.6.2 MTの初期化用JCL 'MTINT'

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//MTINT JOB CLASS=A, MSGCLASS=Y, MSGLEVEL=(1, 1, 1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT, DISP=SHR
//*****
/* MT INITIALIZE (6250BPI) DEN=4 *
//*****
//STEP1 EXEC PGM=JSGINITT
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//TAPE1 DD DCB=DEN=4, UNIT=TAPE
//SYSIN DD *
TAPE1 INITT SER=(@@@@@@), LABTYPE=SL
/*
//

```

(注) 初期化するMTのボリューム名を英数字6桁で記述します。

@@@@@@ : 初期化するMTのボリューム名を英数字6桁で記述する。

4.6.2 データベースの復元

データベースが破壊された場合の復元手順の概要を図4.6.3に示す。

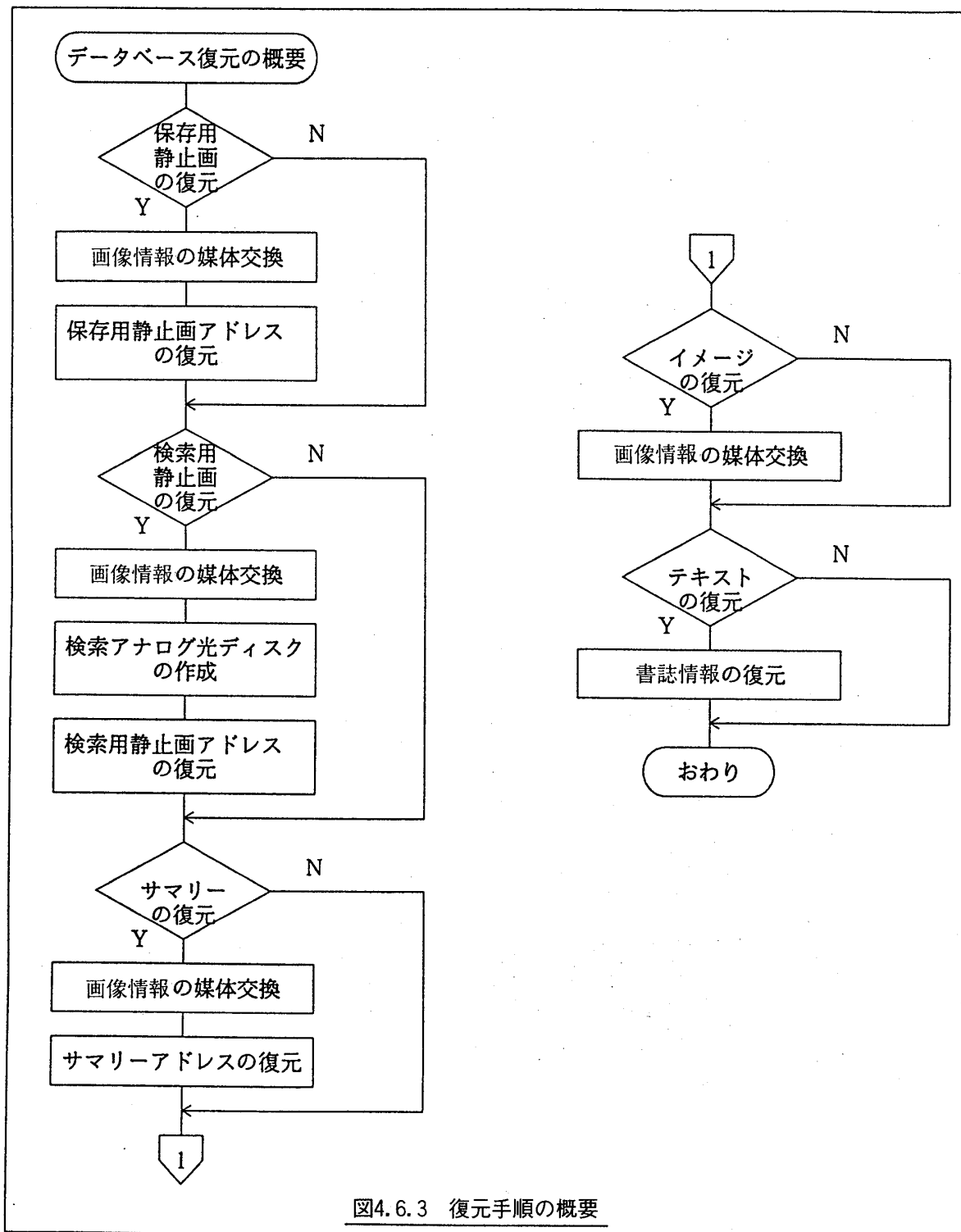


図4.6.3 復元手順の概要

4.6.2.1 画像情報の復元

画像情報の復元は、基本的に複製の媒体への交換という手段を取るが、メディアにより復元方法が異なる。

(1) 静止画

①保存用静止画

a. 光ディスクを交換する。

- ディスクの取り出し

映像音響機器制御装置のメンテナンスモードで次のコマンドを入力する。このとき取り出すディスクがどの棚番号（00～99）に格納されているかを確認したうえでコマンドを起動する。コマンドが正常である場合、オートチェンジャーの取り出し口に該当のディスクがでてくる。

```
d m o d i s k   w d a   棚番号
```

- ディスクを装填

- WDAの「IN」ボタンを押す。
- 挿入口に保存静止画が記録されているデジタル光ディスクを挿入する。
- WDA内にディスクが格納される。
- 映像音響機器制御装置のメンテナンスモードで、次のコマンドを入力する。このときオートチェンジャーの装置名（環境定義ファイルで定義されているWDAの装置名）を確認したうえでコマンドを起動する。自動的に空いている棚にディスクが格納される。現在、AMISに登録されているオートチェンジャーの装置名は、WDA__01である。

```
d m i d i s k   w d a   装置名
```

b. 退避していた登録番号をホストに転送する。

c. 一次情報アドレスをホストに転送します。

d. 保存用静止画アドレス情報の復元

保存用静止画のアドレス情報を復元する場合は、次のジョブを順番に起動する。ただし、マージ・登録データ作成処理にて入力データセットを保存用静止画アドレスが格納されているデータセット名を指定する。

- 登録番号のチェック（JABB011）
- 画像情報の所在データチェック（JABB012）
- マージ・登録データの作成（JABB013）
- 画像情報アドレスの登録（JABB014）

②検索用静止画

こわれたアナログ光ディスクに記録されていた静止画がどの保存用デジタル光ディスクに記

録されているのかを調べる。該当の保存用静止画が見つかったら、まず検索性静止画を作成する。次に、静止画アドレスをAMISデータベースに登録する。

(2) サマリー

①光ディスクを交換する。

PCXの画面を操作して、ディスクをオートチェンジャーより取り出した後、退避用光ディスクを取り出した棚に装填する。ディスク装填後、PCXの画面を状態監視モードに戻す。

②退避していた登録番号をホストに転送する。

します。

③サマリーアドレス情報を登録する。

(3) イメージ

①壊れたディスクを取り出し、退避用のディスクを装填する。

②イメージアドレス情報の復元

退避用のディスクにおいても文書番号は同じであるため、アドレス情報の復元を行う必要はない。

4.6.2.2 書誌情報の復元

中央制御装置上のAMISデータベースが何らかの原因で障害となった場合は、障害の原因を取り除いた後、データベースを復元する。

[入力] データベースを退避したバックアップMT

[出力] 復元の対象となるデータベース

[操作] 次のJCLを実行してデータベース復元処理を起動する。この時、復元するデータベースによってJCLの退避MTのボリューム名、及び復元するデータベースのシステム登録名を変更する。このJCLを起動すると、退避データセット上のデータベース全体が復元される。また、データセット中のサブファイルを選択して復元する場合は、RESTOREコマンドにSUBFILEオペランドを追加してジョブを起動する。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：DBREST

図4. 6. 4にバックアップ用JCL' DBREST'を示す。

図4.6.4 バックアップ用 JCL 'DBREST'

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//DBREST JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I DB ) フグン ヨ JCL */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBR14,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) BACKUP */
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=5120K,DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//TAPE1 DD UNIT=TAPE,VOL=SER=#####,LABEL=(1,SL),DISP=OLD,
// DSN=FAIRS. @@@@@@@@.BACKUP
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
RESTORE @@@@@@@@ DD(TAPE1) ALL
END
/*
//

```

: データベースを退避したバックアップMTのボリューム名

@@@@@@@@ : 復元の対象となるデータベースのシステム登録名

4.6.3 データベースの二重化

従来、各データベース（JEMISS、KYOZAI、SHIRYO、SOZAI）の更新作業において1週間以上かかり、その間データベースの検索サービスを停止せざるを得なかった。そこで、検索用データベースと更新用データベースを作成し作業を分割することによって検索サービスを更新作業中に停止することなく運用可能な状態とすることができる。

検索用データベース、更新用データベースの命名を以下のようにした。

検索用データベース：JEMISS、KYOZAI、SHIRYO、SOZAI

更新用データベース：JEMISSX、KYOZAI X、SHIRYOX、SOZAI X

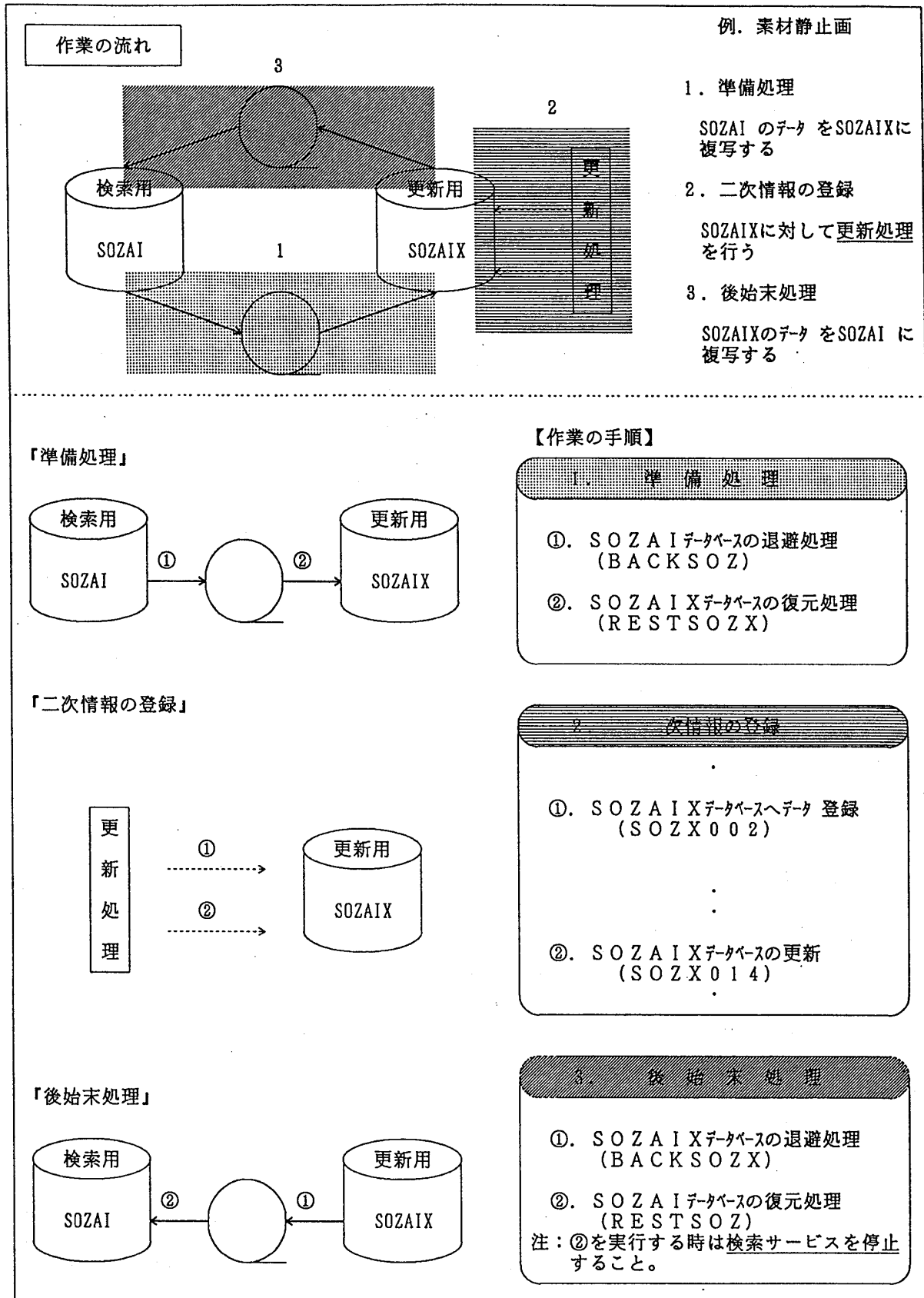
二重化作業作成メンバー一覧を表4.6.2に、二重化の作業手順については図4.6.5に示す。

表4.6.2 〔二重化作業作成メンバー覧〕

データセット名：AMIS.APP.JCL

No	用 途	現行メンバ名	作成メンバ名	備 考
1	データ ベース定義処理	JEMISGEN	GENJEMX	「JEMISSX」用 USER09
		KYOZIGEN	GBNKYOX	「KYOZAIX」用 USER10
		SIRYOGEN	GENSIRX	「SIRYOX」用 USER11
		SOZAIGEN	GENSOZX	「SOZAIX」用 USER12
2	データ ベース退避処理	DBBKUP	BACKJEM	「JEMISS」用
			BACKJEMX	「JEMISSX」用
			BACKKYD	「KYOZAI」用
			BACKKYOX	「KYOZAIX」用
			BACKSIR	「SIRYO」用
			BACKSIRX	「SIRYOX」用
			BACKSOZ	「SOZAI」用
			BACKSOZX	「SOZAIX」用
3	データ ベース復元処理	DBREST	RESTJEM	「JEMISS」用
			RESTJEMX	「JEMISSX」用
			RESTKYD	「KYOZAI」用
			RESTKYOX	「KYOZAIX」用
			RESTSIR	「SIRYO」用
			RESTSIRX	「SIRYOX」用
			RESTSOZ	「SOZAI」用
			RESTSOZX	「SOZAIX」用
4	データ ベース更新処理	JEM002	JEMX002	「JEMISSX」用
		KY0002	KY0X002	「KYOZAIX」用
		KY0014	KY0X014	
		SHI002	SHIX002	「SIRYOX」用
		SHI014	SHIX014	
		SOZ002	SOZX002	「SOZAIX」用
		SOZ014	SOZX014	

図4.6.5 データベース二重化の作業手順



5. 映像音響機器の運用

AMISは、映像音響機器の構成変更、拡張が可能になるよう設計されている。映像音響機器の構成と管理、及び構成変更、拡張の際の留意事項と必要な作業概要を説明する。

5.1 映像音響機器の構成

AMISが取り扱う映像音響機器の装置名とサポート台数を表5. 1. 1に、各装置の配置を図5. 1. 1に示す。ROM等を内蔵して機能を実現している機器については、そのバージョンが変わることにより映像音響機器制御装置とのインタフェースが取れなくなるものもあるので十分な注意が必要である。

	モニタ #1	モニタ #2	モニタ #3	モニタ #4		
		⑤ LVS-5000				
① SW-3000		④ LVR-5000				
		⑤ LVS-5000A				
② PCX用モニタ		④ LVR-5000A #1	⑥ SID-100 #4			
		④ LVR-5000A #2	⑥ SID-100 #3			
		④ LVR-5000A #3	⑥ SID-100 #2			
		④ LVR-5000A #4	⑥ SID-100 #1			
③ DIH-2000 #2		③ DIH-2000 #1				
					⑦ WDA-3000 (保存静止画)	⑧ WDA-3000改 (サマリー)

図5.1.1 各機器の搭載位置 (正面図)

表5.1.1 装置名およびサポート台数

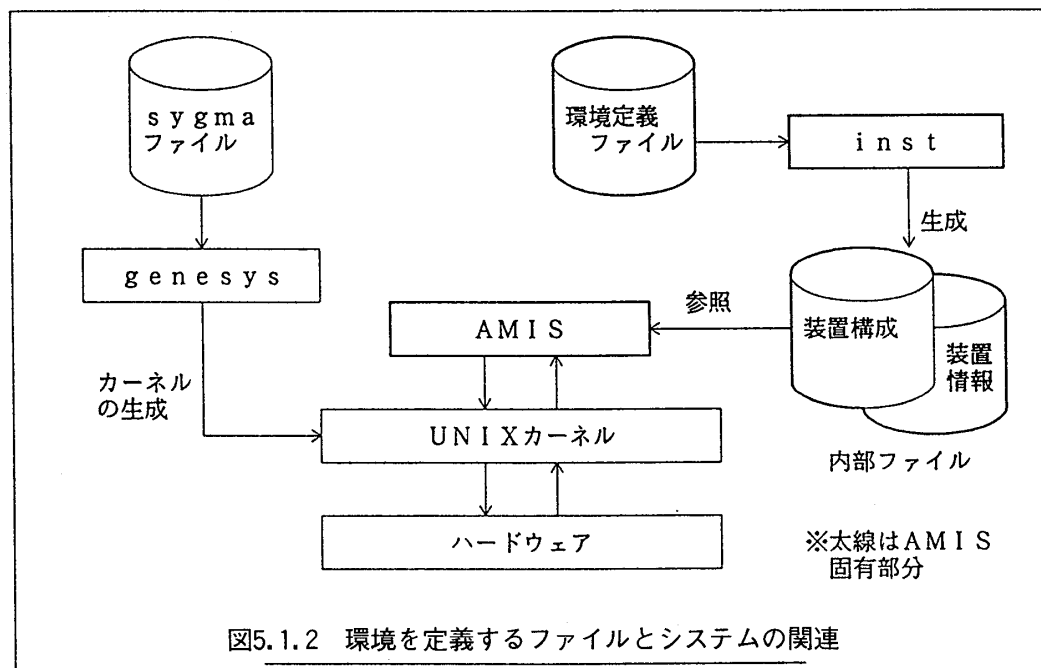
No	装置種別	装置名	サポート台数	その他条件
1	デジタル光ディスクオートチェンジャー	WDA-3000-10	1 台	以下の構成であること
	オートチェンジャー本体	WDA-E3000-10	1 台	
	ライカルディスクコントローラ	WDC-2000-10/A	1 台	装置内には 2 台設置
	ライカルディスクドライブ	WDD-3000	1 台	装置内には 2 台設置
	ライカルディスク	WDM-3DL0 WDM-3DA0	最大 5 0 枚 (両面) (オートチェンジャー仕様)	1 フレーム=381 セクター構成 FSC-100 以外で 〔記録された画像〕 を格納していること
2	マルチプルチャンネル	MR12R/MR20R/MR40R	1 台	
3	検索用レーザービデオディスクレコーダー	LVR-5000A	1 0 台以内	LVS-5000A と接続
4	電子出版マスタ作成用レーザービデオディスクレコーダー	LVR-5000	1 台	LVS-5000 と接続
5	映像サマリ再生システム	—————	1 台	インターフェース仕様書に 準ずる以下の機能
	コントローラ	PCX-300H41	1 台	
	サマリ再生系	—————	2 系統	
	サマリ格納ディスク	—————	最大 5 0 枚 (両面) (オートチェンジャー仕様)	
6	静止画検索用イメージファイルプロセッサ	S I D - 1 0 0	4 台以内	拡張フレームメモリーボード (SF M-110) を装備していること
7	サマリ検索用イメージファイルプロセッサ	S I D - 1 0 0	1 台	〃
8	マトリックススイッチャー	S W - 3 0 0 0	1 台	
9	画像伝送装置	D I H - 2 0 0 0	MSIAⅢの数とDIHに割り 当て可能な SW-3000のチ ャネル数以内	
10	CATVチャンネル数	—————	スイッチャーの出力CH数に依存	

映像音響機器制御装置上に登録されているAMISの主要ファイルを表5. 1. 2に示す。

表5.1.2 AMISの主要ファイル映像音響機器制御装置

ファイル名	ファイルへのパス	内容, 用途
環境定義ファイル	/usr1/comm/installs/config	映像音響機器の構成を記述したファイル。映像音響機器の構成に変更があったときは、このファイルを更新し、インストール処理を行ってシステムに反映させる。
装置構成ファイル	/usr1/comm/installs/apm.def	環境定義ファイルをインストール処理で翻訳し、主制御パスが参照し易い形式にしたファイル。主制御が配下の装置管理パスを起動するとき等に参照する。
装置情報ファイル WDA-3000 LVR-5000A(静止画) LVR-5000(電子出版) サマリ再生システム SID-100 SW-3000 CATV DIH-2000	/usr1/comm/installs/wda.def /usr1/comm/installs/alvr.def /usr1/comm/installs/mlvr.def /usr1/comm/installs/smry.def /usr1/comm/installs/sid.def /usr1/comm/installs/sw.def /usr1/comm/installs/catv.def /usr1/comm/installs/dih.def	環境定義ファイルをインストール処理で翻訳し、各装置管理パスが参照し易い形式にしたファイル。各装置の状態管理等に使用する。
運転ログ	/usr1/log/op_log/logx /usr1/log/op_log/logy	運転中の事象を記録するファイル。logxとlogyを循環使用する。それぞれ事象100個分の容量を持つ。
通信ログ	/usr1/log/tl_log/logx /usr1/log/tl_log/logy	中央制御装置との通信電文を記録するファイル。logxとlogyを循環使用する。それぞれ電文100個分の容量を持つ。
オートチェンジャー管理ファイル WDA-3000 サマリ再生システム	/usr1/unit_mng/bin/wdadisk.inf /usr1/unit_mng/bin/smrydisk.inf	オートチェンジャーに装填されている光ディスクの棚位置を記憶しておくファイル。
ソースプログラム インストールプログラム MA通信 メンテナンス処理 主制御 操作管理 装置管理(WDA-3000) " (LVR-5000) " (サマリ) " (SID-100) " (SW-3000) " (CATV) " (DIH-2000)	/usr1/comm/installs /usr1/ap_mng/src/mac /usr1/ap_mng/src/mmi /usr1/ap_mng/src/ap /usr1/ap_mng/src/opc /usr1/unit_mng/src/wda/c /usr1/unit_mng/src/lvr /usr1/unit_mng/src/smry /usr1/unit_mng/src/sid /usr1/unit_mng/src/sw /usr1/unit_mng/src/catv /usr1/unit_mng/src/dih	

映像音響機器制御装置は、あらかじめファイルに定義された装置構成情報に基づいて映像音響機器を制御している。映像音響機器の構成を変更する場合は、このファイルの変更が必要になる。映像音響機器の制御のためのファイルには、環境定義ファイルと `sygma` ファイルの2つがある。環境を定義するファイルとシステムの関係を図5.1.2に示す。



5.2 環境定義ファイル (/usr1/comm/installs/config)

環境定義ファイルには、制御対象となる映像音響機器の装置名、論理装置 I D、接続台数などに関する情報を定義する。

映像音響機器の環境定義ファイルの設定は、映像音響機器制御装置の v i 等のエディタを使用して行う。このファイルに定義された内容は、インストールプログラムにより文法チェック、及び装置構成ファイルと装置情報ファイルへの変換が行われる。インストールプログラムでは、s y g m a ファイルや実装機器との関連チェックは行わないので、注意が必要である。

(1) 環境定義ファイルの変更

環境定義ファイル「/usr1/comm/installs/config」を次の文法にしたがって変更する。

①文法

環境定義ファイルはパラメータ名とパラメータ値を 1 行ないに記述する。

- ・パラメータ名：20 バイト以下の半角の英数字、及び記号で記述する。

記号は次のものを使用できる。

- (ハイフン) _ (アンダースコア)

- ・パラメータ値：71 バイト以下の半角の英数字、及び記号で記述する。

記号は次のものを使用できる。

+ (プラス) - (マイナス, ハイフン) * (アスタリスク)
/ (スラッシュ) . (ピリオド) , (カンマ)
\$ (ドル記号) ¥ (円記号) ! (エクスクラメーション)
(シャープ) & (アンバサンド) % (パーセント)
' (シングルクォーテーション) " (ダブルクォーテーション) ((左カッコ)
) (右カッコ) { (左中カッコ) } (右中カッコ)
[(左カッコ)] (右大カッコ) ^ (ハットマーク)
| (縦線)

- ・セパレータ := (イコール) でパラメータ名とパラメータ値を区切る。
- ・スペース、タブ : 任意の位置に記述できる。(パラメータ名とパラメータ値の途中には記述不可)
- ・パラメータの終了; (セミコロン) で一つのパラメータの記述を終える。
- ・コメント ; (セミコロン) 以降、行末までに記述した文字は注釈と見なす。

②記述例

```
; wda system key defines
;
wda_no      = 1                ; define WDA unit
wda_dev0    = /dev/scs01      ; WDA device path
;
パラメータ名 : パラメータ値      コメント
```

- 1行の最大は80バイトとし、以降はエラーとする。
- ひとつのパラメータを複数行にまたがって定義することはできない。

③パラメータ一覧

表5. 2. 1 にパラメータの一覧を示す。

表5.2.1 環境定義パラメータ一覧 ①

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
I 操作管理			
apm_mlvr	電子出版用LVRを使用するか否かを定義する。	0 : 使用しない 1 : 使用する	0
apm_dih	D I Hを使用するか否かを定義する。	0 : 使用しない 1 : 使用する	0
apm_itvl	サマリーをインターバル再生するときの時間間隔を定義する。	1～3 2 7 6 7 単位：秒	5 (秒)
apm_ptno	テストパターン数を定義する。通常、テストパターンは、CATVのチャンネル数とD I H-2 0 0 0の台数の合計数分登録し、ここでその合計数を定義する。	0～1 7	0
以下のパラメータを一組として、apm_ptnoで定義した数の組だけ定義する。各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。□に指定する文字は0, 1, 2, …9, A, B, …Gの順に割り振ること。			
apm_ptnm□	当該テストパターン一意に識別する名前を定義する。	“D I H”, 又は “1”～“1 6” の文字列	省略不可
apm_ptvlnm□	当該テストパターンを記録しているデジタル光ディスクのボリューム名を定義する。	1 5 バイト以内の文字列	省略不可
apm_ptrcno□	当該テストパターンのデジタル光ディスク上のレコード番号を定義する。	5 桁の数字 ゼロサプレス不可	省略不可

(続く)

(続き) 表5.2.1 ②

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
II WDA-3000			
wda_no	WDA-3000の台数を定義する.	1 (台) に固定	1
wda_dev0	WDA-3000を接続しているA-60のデバイスファイル名を定義する.	32バイト以内の文字列 (例) /dev/scs01 デバイスファイル名は、A-60のsygmaファイルに定義されている名前であること.	省略不可
wda_devnm0	A-60内で当該WDAを一意に識別するための名前を定義する.	15バイト以内の文字列	wda0
wda_devid0	当該WDAのSCSI IDを定義する.	0~7の数字 同一SCSIバスに接続される他の機器と重複しないこと. SID-100のsid_scsiid0の定義と一致させること.	省略不可
wda_drno0	WDA内に装備されているドライブ(WDD)の台数を定義する.	1~2の数字 SID-100のsid_wdadr0の定義と一致させること.	2
以下のパラメータを一組として、wda_drno0で定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の○の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 ○に指定する文字は0, 1の順に割り振ること.			
wda_unitnm0○	当該WDA内でドライブ(WDD)を一意に識別するための名前を定義する.	15バイト以内の文字列 1台のWDA内でユニークであること.	WDA0○
wda_lun0○	当該ドライブの論理ユニット番号(LUN)を定義する. この番号はWDAに対して発行するコマンドのパラメータに使用される.	0~1の数字 SID-100のsid_wdalun0○の定義と一致させること.	パラメータ名の○の値
wda_lid0○	当該ドライブの論理装置IDを定義する.	8バイト(固定)の文字列. A-60内でユニークであること. SID-100のsid_wdalido○の定義と一致させること.	省略不可

(続く)

(続き) 表5.2.1 ③

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
Ⅲ 静止画検索用LVR-5000A, LVS-5000A			
alvr_dev	静止画検索用LVRはマルチプレクサチャンネルを經由して接続されるが、そのマルチプレクサチャンネルが接続されるA-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 デバイスファイル名は、A-60のsygmaファイルに定義されている名前であること。	省略不可
alvr_devnm	静止画検索用LVSをA-60内で一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	alvr
alvr_lid	静止画検索用LVSの論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。 A-60内でユニークであること。	省略不可
alvr_drno	静止画検索用LVSに接続されたLVRの台数を定義する。	1～10の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、alvr_drnoで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, … 9の順に割り振ること。			
alvr_unitnm□	当該LVRをA-60内で一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	alvr□
alvr_mrch□	当該LVRが接続されているマルチプレクサチャンネルのチャンネル番号を定義する。	2～12の番号	省略不可

(続く)

(続き) 表5.2.1 ④

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
IV 電子出版用LVR-5000, LVS-5000			
以下のパラメータは、操作管理のapm_mlvr（電子出版用LVR使用有無）に1（使用する）を定義したときのみ記述できる。0（使用しない）を定義したときは一切記述してはならない。			
mlvr_dev	電子出版用LVRが接続されるA-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 デバイスファイル名は、A-60のsygmaファイルに定義されている名前であること。	省略不可
mlvr_devnm	電子出版用LVSをA-60内で一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	mlvr
mlvr_lid	電子出版用LVSの論理装置IDを定義する。	8バイト（固定）の文字列。 A-60内でユニークであること。	省略不可
mlvr_drno	電子出版用LVSに接続されたLVRの台数を定義する。	1に固定	省略不可
mlvr_unitnm0	当該LVRをA-60内で一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	mlvr0
mlvr_mrch0	当該LVRが接続されているマルチプレクサチャンネルのチャンネル番号を定義する。	0に固定 （マルチプレクサを経由せず、A-60に直接接続する）	0

(続く)

(続き) 表5.2.1 ⑤

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
V サマリー再生サブシステム			
smry_dev	サマリー再生サブシステムのコントローラであるPCXが接続される、A-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 デバイスファイル名は、A-60のsygmaファイルに定義されている名前であること。	省略不可
smry_devnm	サマリー再生サブシステムをA-60内で一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	smry
smry_drno	サマリー再生サブシステム内のドライブの台数を定義する。	1～2の数字 SID-100の sid_vin1kd□, 及び sid_vin2kd□ で定義 されたサマリーの数の合 計と一致していること。	2
以下のパラメータを一組として、smry_drnoで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1の順に割り振ること。			
smry_unitnm□	A-60内で当該ドライブを一意に識別するための名前を定義する	15バイト以内の文字列	smry□
smry_drtype□	当該ドライブがサマリー再生サブシステムの二つの再生系統(X, Y)のどちらに対応するのかを定義する。	“X”, 又は“Y”	省略不可
smry_lid□	当該ドライブの論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。 A-60内でユニークであること。	省略不可

(続く)

(続き) 表5.2.1 ⑥

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
VI S I D - 1 0 0			
sid_no	S I D - 1 0 0 の台数を定義する。	1 ～ 6 の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、sid_noで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, … 5の順に割り振ること。			
sid_dev□	当該S I Dを接続しているA-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 デバイスファイル名は、A-60のsygmaファイルに定義されている名前であること。	省略不可
sid_devnm□	A-60内で当該S I Dを一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	s i d □
sid_devid□	当該W D AのS C S I I Dを定義する。	0 ～ 7 の数字 同一S C S Iバスに接続される他の機器と重複しないこと。	省略不可
sid_vin1□	入力コネクタ1の接続有無を定義する。	0 : 接続なし 1 : 接続あり	1
sid_vin1kd□	入力コネクタ1に接続されている装置の種別を定義する。	a l v r : 静止画検索用 L V S s m r y : サマリー再生 サブシステム	a l v r
sid_vin1lid□	入力コネクタ1に接続された装置の論理装置I Dを定義する。	alvr_lid, 又は smry_lid□ で定義した論理装置I Dを定義する。	省略不可
sid_vin2□	入力コネクタ2の接続有無を定義する。	0 : 接続なし 1 : 接続あり	1
sid_vin2kd□	入力コネクタ2に接続されている装置の種別を定義する。	a l v r : 静止画検索用 L V S s m r y : サマリー再生 サブシステム	a l v r
sid_vin2lid□	入力コネクタ2に接続された装置の論理装置I Dを定義する。	alvr_lid, 又は smry_lid□ で定義した論理装置I Dを定義する。	省略不可

(続く)

(続き) 表5.2.1 ⑦

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
sid_unitno□	1台のSIDの中のユニット数を定義する。 (1ユニットはメモリ2面で構成される。)	1～2の数字	2
以下のパラメーを一組として、sid_unitno□で定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメー名の○の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 ○に指定する文字は0, 1の順に割り振ること。			
sid_unitnm□○	1台のSID内で当該ユニットを一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	sid□○
sid_lun□○	当該ユニットの論理ユニット番号を定義する	0, 又は1	パラメータ名の○の値
sid_lid□○	A-60内で当該ユニットを一意に識別するための論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。 A-60内でユニークであること。	省略不可
sid_vctype□○	当該ユニットのビデオ信号がAとBのどちらのコネクタに出力されるのかを定義する。	“A”, 又は“B”	省略不可
sid_wdano	SIDと同一のSCSIバスに接続されているWDAの台数を定義する。	1(台)に固定。	1
sid_scsiid0	SIDと同一のSCSIバスに接続されているWDAのSCSI IDを定義する	0～7の数字。 WDA-3000のwda_devid0の定義と一致させること	省略不可
sid_wdadr0	当該WDA内のドライブ(WDD)の台数を定義する。	1～2の数字 WDA-3000のwda_drno0の定義と一致させること	2
以下のパラメーを一組として、sid_wdadr0で定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメー名の○の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 ○に指定する文字は0, 1の順に割り振ること。			
sid_wdalid0○	当該ドライブの論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。 A-60内でユニークであること。 WDA-3000のwda_lid0○の定義と一致させること。	省略不可
sid_wdalun0○	当該ドライブの論理ユニット番号(LUN)を定義する。	0～1の数字。 WDA-3000のwda_lun0○の定義と一致させること	パラメータ名の○の値

(続く)

(続き) 表5.2.1 ⑧

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
VII SW-3000			
sw_dev	SW-3000を接続しているA-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 ファイル名は、A-60のsigmaファイルに定義されている名前であること。	省略不可
sw_devnm	A-60内でSW-3000を一意に識別するための名前を定義する。	15バイト以内の文字列	sw
sw_inno	SW-3000の入力側に接続されているSID-100のユニット数を定義する。	1～12の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、sw_innoで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, …9, A, Bの順に割り振ること。			
sw_inlid□	当該ユニットの論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。	省略不可
sw_inch□	当該ユニットが接続されているSW-3000の入力チャンネル番号を定義する。	1～32の数字	省略不可
sw_outno	SW-3000の出力側に接続されている次のものの合計数を定義する。 ・CATVのチャンネル数 ・DIH-2000の台数 ・静止画検索用LVSの台数 ・電子出版用LVSの台数	1～16の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、sw_outnoで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, …9, A, B, …Fの順に割り振ること。			
sw_outlid□	当該機器の論理装置IDを定義する。	8バイト(固定)の文字列。	省略不可
sw_outch□	当該機器が接続されているSW-3000の出力チャンネル番号を定義する。	1～16の数字	省略不可
sw_lid□	SW-3000の一つの出力経路に対してA-60内で一意的識別名を定義する。	8バイト(固定)の文字列。	省略不可

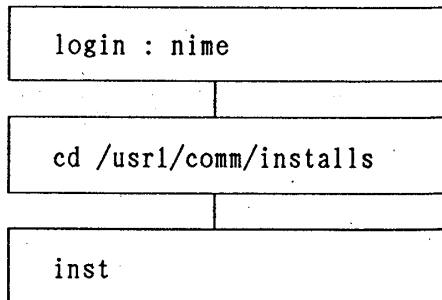
(続く)

(続き) 表5.2.1 ⑨

パラメータ名	意 味	パラメータ値	省略値
Ⅷ C A T V			
catv_no	SW-3000に接続されているC A T Vチャンネル数を定義する	1～16の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、catv_noで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, …, 9, A, B, …, Fの順に割り振ること。			
catv_ch□	A-60内で当該チャンネルを一意に識別する名前を定義する。	15バイト以内の文字列	c a t v□
catv_lid□	当該チャンネルに対応するSW-3000の出力経路 (sw_lid□で定義した名前) を定義する	8バイト (固定) の文字列	省略不可
Ⅸ D I H-2000			
以下のパラメータは、操作管理のapm_dih (D I H使用有無) に1 (使用する) を定義したときのみ記述できる。0 (使用しない) を定義したときは一切記述してはならない。			
dih_dev	D I H-2000を接続しているA-60のデバイスファイル名を定義する。	32バイト以内の文字列 デバイスファイル名は、A-60のs y g m aファイルに定義されている名前であること。	省略不可
dih_no	D I H-2000の台数を定義する。	1～16の数字	省略不可
以下のパラメータを一組として、dih_noで定義した数の組だけ定義する。 各組はパラメータ名の□の部分に異なる1桁の文字を指定して識別する。 □に指定する文字は0, 1, 2, …, 9, A, B, …, Fの順に割り振ること。			
dih_devnm□	A-60内で当該D I Hを一意に識別する名前を定義する。	15バイト以内の文字列	d i h□
dih_lid□	当該D I Hの論理装置I Dを定義する。	8バイト (固定) の文字列。 A-60内でユニークであること。	省略不可

(2) インストールプログラムの実行

インストールプログラムは次の手順で実行する。



環境定義ファイルの内容チェックが正常であった場合は次のメッセージがコンソールに出力される。

```
AMIS10005 i Install pg ended correctly. 9 files were made.
```

文法エラーがあった場合は、エラーメッセージに従ってパラメータ形式、及び相関関係等を確認・修正した後、再度インストールプログラムを実行する。

(3) 機器情報ファイルの定義内容サンプル

図5. 2. 1 に機器情報ファイルの記述例を示す。

図5.2.1 環境定義ファイルの記入例 ①

```
;
; operation-control key defines
;

apm_mlv      = 1                ; use MLVR or not
apm_dih      = 1                ; use DIH or not
apm_itvl     = 3                ; interval time of SMRY
apm_ptno     = 9                ; patern gazou-suu
apm_ptnm0    = dih              ; patern gazou-name
apm_ptnm1    = 1                ; patern gazou-name
apm_ptnm2    = 2                ; patern gazou-name
:
:
apm_ptnm8    = 8                ; patern gazou-name
apm_ptvlnm0  = HKCA_S01         ; volume name
apm_ptvlnm1  = HKCA_S01         ; volume name
:
:
apm_ptvlnm8  = HKCA_S01         ; volume name
apm_rcno0    = 00010            ; record No.
apm_rcno1    = 00011            ; record No.
:
:
apm_rcno8    = 00011            ; record No.
```

(続く)

図5.2.1 環境定義ファイルの記入例 ②

(続き)

```

;
; wda system key defines
;

wda_no          = 1                ; WDA auto changer No.
wda_dev0        = /dev/scs01      ; WDA device file name
wda_devnm0      = WDA_01          ; WDA auto changer name
wda_devid0      = 1                ; WDA scsi id
wda_drno0       = 1                ; WDA drive No.
wda_unitnm00    = WDD_01          ; WDA drive unit name
wda_lun00       = 0                ; WDA scsi lun
wda_lid00       = LID_0001        ; WDA logic id

;
; ALVR system key defines
;

alvr_dev        = /dev/spi01      ; ALVR device file name
alvr_devnm      = alvr_devnm      ; ALVR auto changer name
alvr_lid        = alvr_vin        ; ALVR logic id
alvr_drno       = 4                ; ALVR drive No.
alvr_unitnm0    = alvr0           ; ALVR drive unit name
alvr_unitnm1    = alvr1           ; ALVR drive unit name
alvr_unitnm2    = alvr2           ; ALVR drive unit name
alvr_unitnm3    = alvr3           ; ALVR drive unit name
alvr_mrcho      = 2                ; ALVR p-channel No.
alvr_mrchl      = 3                ; ALVR p-channel No.
alvr_mrcho2     = 4                ; ALVR p-channel No.
alvr_mrcho3     = 5                ; ALVR p-channel No.

;
; MLVR system key defines
;

mlvr_dev        = /dev/spi03      ; MLVR device file name
mlvr_devnm      = mlvr_devnm      ; MLVR auto changer name
mlvr_lid        = mlvr_vin        ; MLVR logic id
mlvr_drno       = 1                ; MLVR drive No.
mlvr_unitnm0    = mlvr0           ; MLVR drive unit name
mlvr_mrcho      = 0                ; MLVR p-channel No.

;
; SMRY system key defines
;

smry_dev        = /dev/spi00      ; SMRY device file name
smry_devnm      = smry            ; SMRY auto changer name
smry_drno       = 2                ; SMRY drive No.
smry_unitnm0    = smry0           ; SMRY drive unit name
smry_unitnm1    = smry1           ; SMRY drive unit name
smry_drtype0    = X                ; SMRY drive type
smry_drtype1    = Y                ; SMRY drive type
smry_lid0       = SMRY0000        ; SMRY logic id
smry_lid1       = SMRY0001        ; SMRY logic id

```

(続く)

図5.2.1 環境定義ファイルの記入例 ③

(続き)

```

;
; SID system key defines
;

sid_no          = 4                ; SID No.
sid_dev0        = /dev/scs02       ; SID device file name
;
sid_dev3        = /dev/scs05       ; SID device file name
sid_devnm0      = sid0             ; SID auto changer name
;
sid_devnm3      = sid3             ; SID auto changer name
sid_devid0      = 2                ; SID scsi id
;
sid_devid3      = 5                ; SID scsi id
sid_vin10       = 1                ; SID ON-OFF
;
sid_vin13       = 1                ; SID ON-OFF
sid_vinlkd0     = 1                ; SID connection to
;
sid_vinlkd3     = 1                ; SID connection to
sid_vin1lid0    = alvr_vin         ; SID vin1 logic id
;
sid_vin1lid3    = SMRY0000         ; SID vin1 logic id
sid_vin20       = 1                ; SID ON-OFF
;
sid_vin23       = 1                ; SID ON-OFF
sid_vin2kd0     = 1                ; SID connection to
;
sid_vin2kd3     = 1                ; SID connection to
sid_vin2lid0    = alvr_vin         ; SID vin2 logic id
;
sid_vin2lid3    = SMRY0000         ; SID vin2 logic id
sid_unitno0     = 2                ; SID unit-no
;
sid_unitno3     = 2                ; SID unit-no
sid_unitnm00    = sid00            ; SID drive-unit-name
;
sid_unitnm31    = sid31            ; SID drive-unit-name
sid_lun00       = 0                ; SID SCSI-LUN
;
sid_lun31       = 1                ; SID SCSI-LUN
sid_lid00       = sid_0000         ; SID logic id
;
sid_lid31       = sid_0031         ; SID logic id
sid_vctype00    = A                ; SID connecter-type
;
sid_vctype31    = B                ; SID connecter-type
sid_wdano       = 1                ; SID- WDA no
sid_scsi00      = 1                ; SID- WDA SCSI-ID
sid_wdadrvo     = 1                ; SID- WDA drive-no
sid_wdalid00    = LID_0001        ; SID- WDA logic id
sid_wdalun00    = 0                ; SID- WDA SCSI-LUN

```

(続く)

図5.2.1 環境定義ファイルの記入例 ④

(続き)

```

;
; SW system key defines
;

sw_dev      = /dev/spi02      ; SW device file name
sw_devnm    = sw_devnm       ; SW name
sw_inno     = 8               ; SW in connector No.
sw_inlid0   = SID_0000       ; SW in logic id
sw_inlid1   = SID_0001       ; SW in logic id
:
:
sw_inlid7   = SID_0031       ; SW in logic id
sw_inch0    = 1              ; SW in channel No.
sw_inch1    = 2              ; SW in channel No.
:
:
sw_inch7    = 8              ; SW in channel No.
sw_outno    = 10             ; SW out connector No.
sw_outlid0  = catv0001       ; SW out logic id
sw_outlid1  = catv0002       ; SW out logic id
:
:
sw_outlid9  = dih2_vin       ; SW out logic id
sw_outch0   = 5              ; SW out channel No.
sw_outch1   = 6              ; SW out channel No.
:
:
sw_outch9   = 16             ; SW out channel No.
sw_lid0     = SW_LID00       ; SW logic id
:
sw_lid9     = SW_LID09       ; SW logic id

;
; CATV system key defines
;

catv_no     = 6               ; CATV No.
catv_ch0    = M2CH           ; CATV channel name
catv_ch1    = M3CH           ; CATV channel name
:
:
catv_ch5    = M7CH           ; CATV channel name
catv_lid0   = catv0001       ; CATV logic id
catv_lid1   = catv0002       ; CATV logic id
:
catv_lid5   = catv0006       ; CATV logic id

;
; DIH system key defines
;

dih_no      = 2              ; DIH No.
dih_dev     = /dev/spi04     ; DIH device file name
dih_dev     = /dev/spi05     ; DIH device file name
dih_devnm0  = dih0           ; DIH name
dih_devnm1  = dih1           ; DIH name
dih_lid0    = dih1_vin       ; DIH logic id
dih_lid1    = dih2_vin       ; DIH logic id

```

5.3 sygma ファイル (/usr1/src/uts/sxa/cf/sygma)

sygma ファイルは、映像音響機器制御装置のOSであるSX/Aのカーネルを作成するために必要な情報を記述するファイルである。このファイルには、映像音響機器制御装置に接続されているアダプタやデバイス、実装メモリ量、仮想記憶サイズ等、OSの動作に関わるパラメータ等を記述する。

映像機器の追加等により装置構成に変更が生じた場合は、sygma ファイルを修正し、システムを再構築する。sygma ファイル定義内容の例を図5. 3. 1に示す。

図5.3.1 Sygma ファイル定義内容

```
/*
 *   SX/A  sygma for A-60
 *   (National Institute of Multi media Education)
 *
 *                               date   : 90/ 4/12
 *                               system  : VS
 *                               : MSIA console
 *                               model   : BASIC-2
 *                               edition : E50
 */
system mem=12;
/* */
adapter name=FA-1    addr=0x83; /* FA-3 std slot-3 */
adapter name=FA-2    addr=0x84; /* FA-3      slot-5 */
adapter name=FA-3    addr=0x85; /* FA-3      slot-6 */
adapter name=FA-4    addr=0x86; /* FA-3      slot-7 */
adapter name=MSIA-1  addr=0x87; /* MSIA-3    slot-8 */
adapter name=MSIA-2  addr=0x8a; /* MSIA-3    slot-9 */
/* */
device name=fpd FA-1(0*1); /* 5inch      */
device name=hd  FA-1(4*1); /* 330MB      */
device name=cmt FA-1(8*1); /* PF6020B CT-130 */
/* */
device name=scs FA-2(0*1); /* scsi id = 0 : host */
device name=scs FA-2(4*1); /* scsi id = 1 */
device name=scs FA-2(8*1); /* scsi id = 2 */
device name=scs FA-2(12*1); /* scsi id = 3 */
device name=scs FA-2(16*1); /* scsi id = 4 */
device name=scs FA-2(20*1); /* scsi id = 5 */
device name=scs FA-2(24*1); /* scsi id = 6 */
device name=scs FA-2(28*1); /* scsi id = 7 */

device name=sia MSIA-1(0*1); /* PF6066A console */
device name=lp  MSIA-1(2*1); /* PF6011A          */
device name=spi MSIA-1(4*1); /* PCX-300H41(PC)   */
device name=spi MSIA-1(6*1); /* MR-12R           */
device name=spi MSIA-2(0*1); /* SW-3000          */
device name=spi MSIA-2(2*1); /* LVR-5000A        */
device name=spi MSIA-2(4*1); /* DIH2000          */
device name=spi MSIA-2(6*1); /* DIH2000          */
device name=sxt; /* for command-2 */
```

(続く)

```
/* */  
    console type=sia;  
/* */  
    swap    siz=20480;  
/* */  
    dump    io=hd auto=yes;  
/* */  
    vs      max=10240;  
/* */  
    process num=60;  
/* */  
    message id=40 num=200 seg=1024;  
    sema    id=5 num=40;  
    shmem    id=3 siz=10;  
/* */  
    timer    glo=20;
```

5.4 システムのバックアップ

映像音響機器制御装置は、定期的にシステムのバックアップを行う必要がある。

(1) システムの退避

まず、システム復元のための、スタンドアロン版復元用プログラムを作成する。次に、「v backup」コマンドを用いて、CMT（カートリッジテープ、CT-130）にシステムを退避する。

①スタンドアロン版復元用プログラムの作成

映像音響機器制御装置のスタンドアロン版復元用プログラムの作成は、マルチユーザーモードで行う。映像音響機器制御装置は、通常の起動でマルチユーザーモードになる。

- ・映像音響機器制御装置を起動し、ログインする。

```
login :
```

- ・未使用の5インチFDを本体にセットしたあとに、次のコマンドを入力する。

```
mksr -mvbackup /dev/rct0 /dev/rhd00
```

②システムの退避

映像音響機器制御装置のシステムの退避は、シングルユーザーモードで行う。映像音響機器制御装置をシングルユーザーモードにするには、通常に起動後、shutdownを行い、下記のメッセージが出力されるのを待つ。

```
*** SYSCON CHANGED TO /dev/consile ***  
  
Wait for 'INIT: SINGLE USER MODE' before halting.  
#  
INIT: New run level:S  
INIT: SINGLE USER MODE  
#    <—このプロンプトが出力されるまで待つ。
```

- ・カートリッジテープ装置の電源を入れ、CMTをカートリッジテープ装置にセットし、次のコマンドを入力する。

```
vbackup -i /dev/rhd00 -o /dev/rct0
```

- ・一本目のCMTに最後まで書き込むと次のメッセージが表示され、CMTの交換を促してくる。

```
change device? (type RETURN for no, type device name for yes)
```

•別のCMTをカートリッジテープ装置にセットし、リターンキーを入力する。上記のメッセージが表示されるたびに、CMTを交換し、リターンキーを入力する。
バックアップが終了すると、次のメッセージが表示される。

```
/dev/rhd00  nnnnnn  blocks copied
```

CMTへの記録は一卷当り15～20分を要する。CMTは世代管理を厳重に行う必要がある。

(2) システムの復元

映像音響機器制御装置のシステムが破壊されたばあいは、スタンドアロン版復元用プログラムの記録されたFDをセットし、スタンドアロンシステムを起動し、システムを退避したCMTのデータを使用し、システムを復元する。

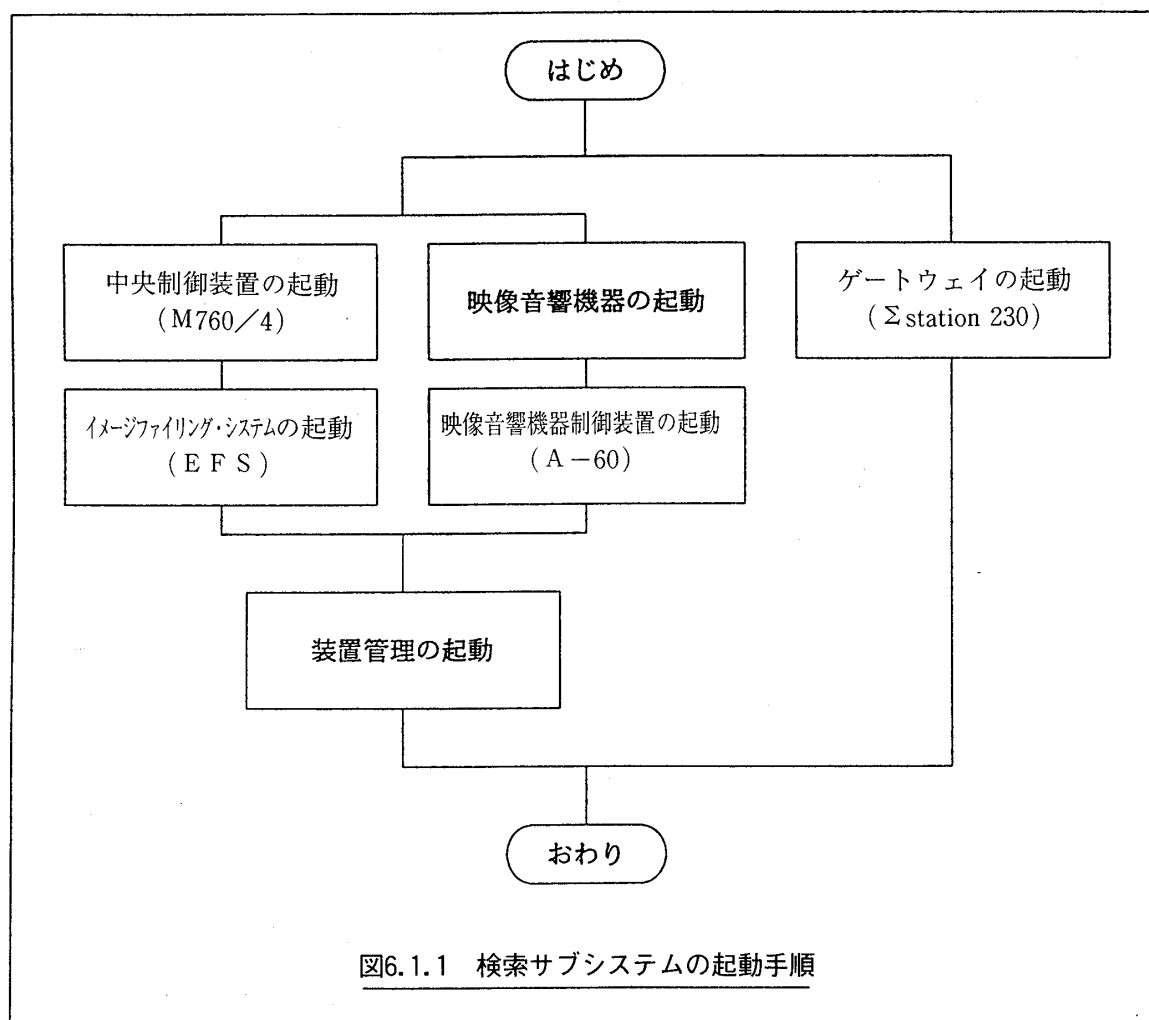
6. AMISの運用

6.1 システムの起動と終了

AMISの日常的なシステム管理作業には、①検索サブシステムの起動、②検索サブシステムの停止、③トータルダンプの取得、FAX管理簿のメンテナンス、がある。以下に、各作業の具体的な実施手順を示す。

(1) 検索サブシステムの起動

AMISの検索サービスを開始するためには、関連する機器やプログラムを必要に応じて起動する。図6. 1. 1にAMISの検索サブシステムの起動手順を示す。

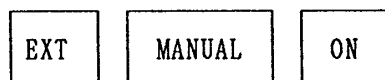


(1. 1) 中央制御装置 (M 7 6 0 / 4) の起動

中央制御装置を以下の手順にしたがって起動する。

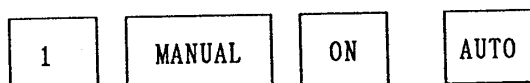
①空調の運転開始

A R C を操作し、中央制御装置室の空調を作動させる。



②中央制御装置の電源投入

A R C を操作し、中央制御装置 (M 7 6 0 / 4) の電源を投入する。



各機器の電源が順次投入され、ハードウェアの自己診断、I P L 処理、J E S や V T A M、T S S、A I M 等の各ソフトウェアが自動的に起動される。各ソフトウェアの起動が完了すると次のメッセージがコンソールに表示される。

```
*****
*                               *
*   SYSTEM STARTED !!         *
*                               *
*****
```

③検索サブシステムの起動

コンソールから次のコマンドを入力し検索サブシステムを起動する。

```
# G O A M I S
```

これにより、検索サブシステムを構成する各ジョブが起動される。次のメッセージがコンソールに表示されれば起動完了となる。

```
*****
*                               *
*   AMIS STARTED !!          *
*                               *
*****
```

[G O A M I S で実行されるコマンド]

G O A M I S は、A O F (自動運転機能) を利用して簡単な操作で検索サブシステムを起動できるようにしたオペレーションプロシジャである。このプロシジャでは以下のコマンドを発行、処理する。

① A P G の起動

検索サブシステム用 A P G 起動コマンドの発行

```
F  A I M, S, A P G, A P G N=A M I S A P G
```

A P G 起動完了メッセージの待ち合わせ

```
JXJM02I A1 EXECUTED (START APG)
```

② F A I R S マルチ検索システムの起動

F A I R S マルチ検索システム起動コマンドの発行

```
S  R D R D 2, V O L=S E R=U S E R 0 1,  
    D S N=A M I S. A P P. J C L (F A I R S M)
```

次に示す起動完了メッセージの待ち合わせ

```
KDU421I JOB FAIRSM STARTED
```

③ 検索サブシステムの各ジョブの起動

表 6. 1. 1 に示すジョブ毎に起動コマンドの発行と起動完了メッセージの待ち合わせを行う。

起動コマンドの形式

```
F  A I M, S, A C P, P E D=P E D 名
```

起動完了メッセージの形式

```
JXC8801 ZO ACP JOB READY PED=P E D 名, JOB=ジョブ名
```

表6.1.1 検索サブシステムの構成ジョブ

No	ジョブ名	P E D名	プログラム名	機能概要
1	AMISACP1	PEDA001	AA000201 AA001401	利用者資格のチェック H E L P画面の表示
2	AMISACP2	PEDA002	AA000301 AA000601 AA000701 AA000801	D B選択 検索用端末からの検索条件受付 二次情報の一覧表示 二次情報の詳細表示
3	AMISACP3	PEDA003	AA000901	静止画マルチ画面の表示
4	AMISACP4	PEDA004	AA001001	電子出版管理簿の区画指定
5	AMISACP5	PEDA005	AA001301	F A Xの状態表示
6	AMISACP6	PEDA006	AA000401 AA002201 AA000501	映像用モニタの選択 テストパターンの表示 チャンネル番号の通知
7	AMISACP7	PEDA007	AA000701	F A I R S - I への検索依頼
8	AMISACP9	PEDA009	AA002001	A - 6 0 との通信
9	AMISACPA	PEDA010	AA002101	E F S へのF A X 依頼と状態更新
10	AMISACPB	PEDA011	AA001101	F A I R S - I からの結果受信
11	AMISACPC	PEDA012	AA001201	検索用端末からのF A X 依頼受付

(1 . 2) イメージファイリングシステム (E F S) の起動

イメージファイリングシステムを以下の手順にしたがって起動する。

①電源の投入

E F S 本体の赤いボタンを押して電源を投入する。ハードウェアの自己診断後、自動的に I P L が始まる。I P L が完了すると「デスクトップメニュー」というタイトルのウィンドウが画面に表示される。

②光ディスクの挿入

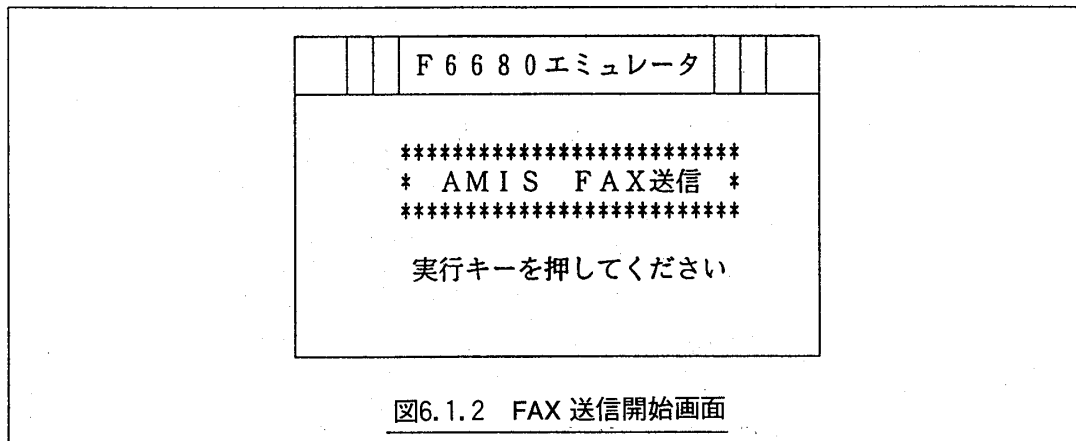
イメージ情報を登録した光ディスクを装填する。

③ホスト会話処理の起動

デスクトップメニューの「ホスト会話処理」をマウスでクリックして起動する。

F A X 送信処理の開始

ホスト会話処理の起動が完了すると、自動的に中央制御装置上の F A X 送信プログラム(ジョブ A M I S A C P A) との結合を行う L O G O N コマンドが発行される。これが正常に処理されると、図 6 . 1 . 2 に示す画面がエミュレータのウィンドウに表示される。この画面が表示されたら実行キーを押す。実行キーを押すと、画面の「実行キーを押して下さい」の表示が消え、準備が完了する。



(1. 3) 映像音響機器の起動

映像音響機器を以下の手順にしたがって起動する。

①電源の投入

映像音響機器の電源を投入する。電源スイッチは、ラック搭載機器はラックの一番下に、またオートチェンジャーは上部にある。

②検索性静止画アナログ光ディスクの挿入

検索性静止画のアナログ光ディスクを検索性光ディスク装置 (LVR-5000A) に挿入する。

③設定の確認

各映像音響機器の設定状態を表6. 1. 2に従って確認する。映像音響機器の配置を図6. 1. 3に示す。

表6.1.3 映像音響機器の設定確認項目

No.	装置名	確認項目	確認内容	備考
①	SW-3000	1. POWER インジケータ	点灯していること。	
②	PCX用モニタ	1. 状態監視画面	状態監視画面が表示され、富士通 A-60 の欄が ON になっていること。	
③	DIH-2000	1. POWER インジケータ	点灯していること。	利用者側の DIH-2000 は自動着信モードに設定するよう指導してください。
		2. モード表示	DIH-2000 の出力映像に THRU と表示されていること。(SW-3000 の IN-15, IN-16 を OUT-1~4 のいずれかにつないで確認する) 注) A-60 の装置管理起動後は、External control mode と表示される。	
④	LVR-5000A LVR-5000	1. REMORT インジケータ	点灯していること。(スイッチが REMORT 側になっていること)	
		2. FRAME インジケータ	点灯していること。(スイッチが FRAME 側になっていること)	
⑤	LVS-5000A LVS-5000	1. INPUT インジケータ	COMPOSITE が点灯していること。	
		2. OUTPUT インジケータ	COMPOSITE と RGB が点灯していること。	
		3. MODE インジケータ	COLOR と NTSC/525 が点灯していること。	
⑥	SID-100	1. INPUT インジケータ	VIDEO-1 又は VIDEO-2 になっていること。	
		2. MODE インジケータ	COLOR になっていること。	
⑦	WDA-3000	1. POWER インジケータ	点灯していること。	
		2. READY インジケータ	点灯していること。	
		3. STACK インジケータ	点灯していること。	
		4. IN READY インジケータ	点灯していること。	
⑧	WDA-3000改	1. POWER インジケータ	点灯していること。	
		2. READY インジケータ	点灯していること。	
		3. STACK インジケータ	点灯していること。	
		4. IN READY インジケータ	点灯していること。	

(1. 5) 映像音響機器制御装置 (A-60) の起動

映像音響機器制御装置 (A-60) を以下の手順にしたがって起動する。

①電源の投入

映像音響機器制御装置 (A-60) 本体の赤いボタンを押して電源を投入する。ハードウェ

アの自己診断後、自動的にIPLが始まる。IPLが完了すると次のようなログイン督促メッセージが表示される。

```
login:
```

②ログイン

ログインする。

ログインが受け付けられると次のようなプロンプトが表示される。

```
%
```

②主制御の起動

次のコマンドを入力し主制御を起動する。

```
sysstart
```

主制御が正常に起動すると次のようなメッセージが表示される。

```
% sysstart
[1] 9999
% AMIS14050 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
system starting

AMIS13008 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
主制御 起動完了

AMIS11009 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
MA通信 起動完了

AMIS14010 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
system started
```

リターンキーを押しプロンプト(%)を表示させ、以下のコマンドを入力して動作中のプロセスを確認する。

```
ps -f | sort +4
```

正常な状態では次のようなプロセスが表示される。*の付いているプロセスは必須のものである。

UID	PID	PPID	C	STIME	TTY	TIME	COMMAND	
root	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/lib/errdemon	
daemon	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	[syslog]	
root	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/lib/sendmail -bd -qlh	
nime	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	[opc_main]	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/ap_mng/src/ap/apm LOG	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/ap_mng/src/mac/mac LOG	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	ps	-fa	
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	[sort]	
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	[cs h]	

(1. 5) 装置管理の起動

(1. 1) から (1. 4) の作業がすべて正常に完了した後に、中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力する。

```
# O N A 6 0
```

本コマンドにより、中央制御装置と映像音響機器制御装置間のセッションの確立、及び映像音響機器制御装置の主制御プロセスに対する装置管理起動依頼が行われる。映像音響機器制御装置の主制御プロセスは、依頼に基づいて装置管理プロセスを生成する。生成された各装置管理プロセスは、それぞれの装置を初期化してその結果を主制御を通じて中央制御装置に通知する。これら一連の初期化処理が正常に完了すると中央制御装置のコンソールに次のメッセージが表示される。

```
*** AA002001 M-760/A-60 セッション カイシ
*** AA002001 システム キットウ カリョウ
```

映像音響機器制御装置の主制御プロセスは、各装置管理プロセスを順次起動して装置の初期化完了を待つ。何らかの原因で装置からの応答が帰らない場合のため、装置管理プロセスはタイム監視を行い、一定時間経過しても応答が帰らない場合は当該装置をビジー状態とし、次のエラーメッセージを表示する。

```
*** AA002001 M760/A60 ヲウソク タイムアウト (A60 システム キットウ シツパイ)
```

このメッセージが表示されたときは、映像音響機器の状態を確認し、原因を調べ、正常な状態にしたうえで再度装置管理の起動コマンドを入力する。図 6. 1. 3 に、AMIS 検索サービス中に起動されるプロセス群を示す。

UID	PID	PPID	C	STIME	TTY	TIME	COMMAND
9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/lib/errdemon
9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		[syslog]
9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/lib/sendmail -bd -qlh
9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		[opc_main]
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/ap_mng/src/ap/apm LOG
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/ap_mng/src/mac/mac LOG
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/wdamother
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/wda.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/wdababy 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		dev/scs01 0 LID_0001 WDA_01 WDD_01 0
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/alvr
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/cimm/install/s/alvr.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/mlvr
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/mlvr.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/smr
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/smr.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.parent
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.child
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.def 0 99999 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.child
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.child
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.child
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sid.child
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/sw.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/catv
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/catv.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/dih
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/unit_mng/bin/dih.def 99999
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		/usr/ap_mng/src/ap/apm LOG
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		ps -fa
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		[sort]
9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss		[csh]

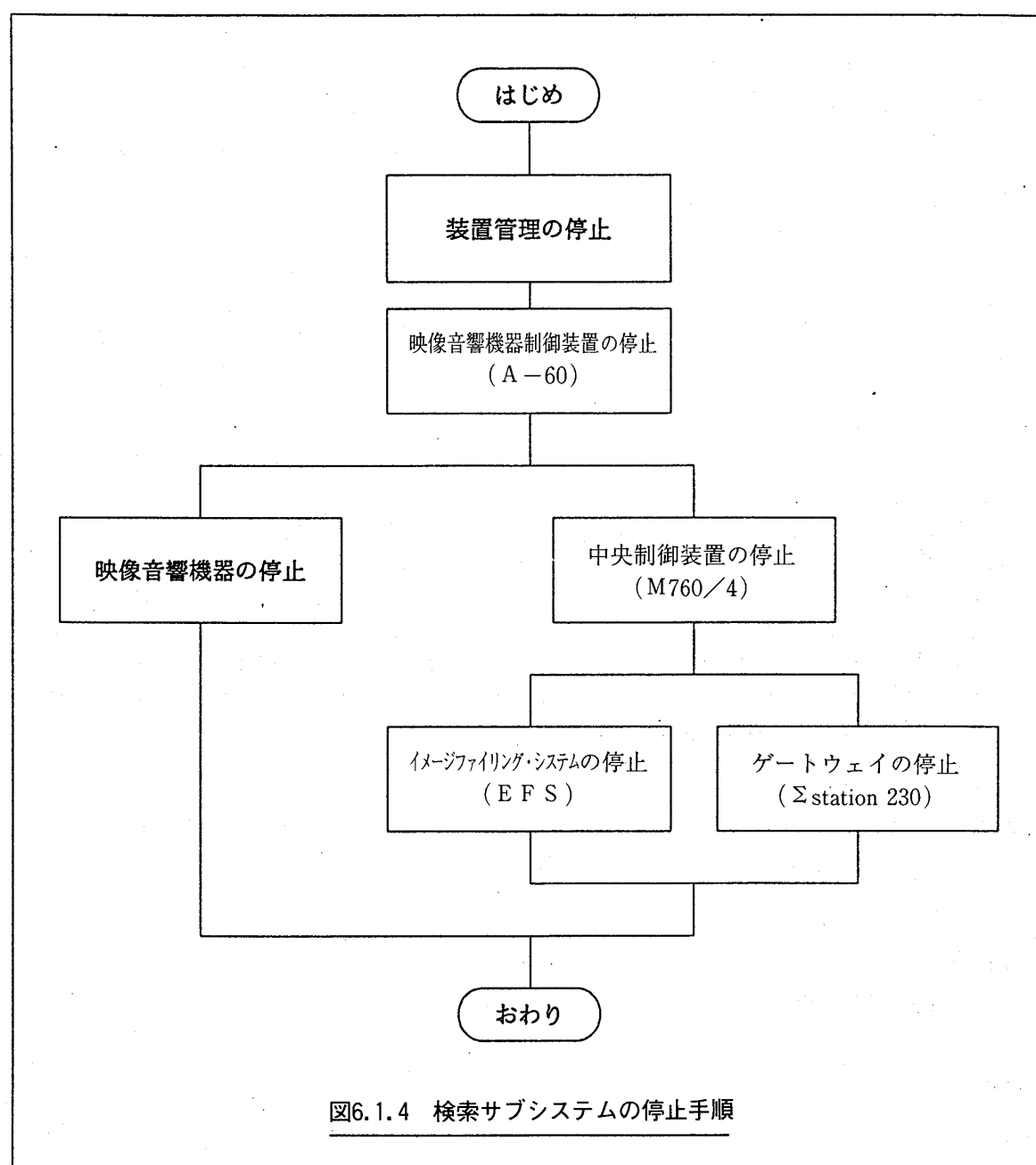
(1. 6) ゲートウェイ装置 (Σstation230) の起動

ゲートウェイ装置 (Σstation230) 本体の赤いボタンを押して電源を投入する。ハードウェアの自己診断後、自動的に IPL が始まる。IPL が完了すると次のようなログイン督促メッセージが表示される。

login:

(2) 検索サブシステムの停止

AMIS の検索サービスを終了するときは、図 6. 1. 4 に示す手順で各機器やプログラムを停止する。



(2. 1) 装置管理の停止

中央制御装置のコンソールから次のコマンドを入力し、映像音響機器制御装置の装置管理を停止させる。

```
#OFFA60
```

装置管理が停止し、中央制御装置と映像音響機器制御装置間のセッションが終了すると次のメッセージが表示される。

```
*** AA002001 サブシステム ティン カンリョウ  
*** AA002001 M-760/A-60 セッション シュウリョウ
```

(2. 2) 映像音響機器制御装置 (A-60) の停止

映像音響機器制御装置 (A-60) を以下の手順にしたがって停止する。

② プロセス状況の確認

リターンキーを押しプロンプト (%) を表示させ、以下のコマンドを入力して動作中のプロセスを確認する。

```
ps -f | sort +4
```

正常な状態では次のようなプロセスが表示される。*の付いているプロセスは必須のものである。正常な状態の場合は、次に主制御の停止を行う。

UID	PID	PPID	C	STIME	TTY	TIME	COMMAND	
root	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/lib/errdemon	
daemon	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	[syslog]	
root	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/lib/sendmail -bd -qlh	
nime	9999	1	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	[opc_main]	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/ap_mng/src/ap/apm LOG	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	mm:ss	/usr/ap_mng/src/mac/mac LOG	*
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	ps -fa		
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	[sort]		
nime	9999	9999	0	hh:mm:ss	console	[csh]		

上記以外のプロセスが表示された場合は、強制終了の操作を行う。

[強制終了の手順]

- 映像音響機器制御関係のすべてのプロセスの強制終了

```
akill
```

- 映像音響機器制御関係のすべてのメッセージキューの削除

```
aqdel
```

- 全映像音響機器の初期化

```
dml_kill
```

②主制御の停止

次のコマンドを入力し主制御を停止する。

```
sysend
```

主制御が正常に停止すると次のようなメッセージが表示される。

```
% sysend
[1] 9999
% AMIS14040 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
accept system halt command

AMIS14060 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
system terminating

AMIS13093 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
主制御 停止

AMIS14020 i 曜日 月 日 時;分;秒 年
system terminated
```

③ログアウト

次のようにコマンドを入力しログアウトする。

```
logout
```

ログアウトが受け付けられると次のようなプロンプトが表示される。

```
login:
```

④シャットダウン

システムを停止させるためにルートにログインする。

ログインが受け付けられると次のプロンプトが表示される。

```
%
```

次のコマンドを入力し停止処理を開始する。

```
shutdown
```

シャットダウン処理を開始して良いか問い合わせてくるので、yと返答する。

```
Do you want to continue (y or n):y
```

シャットダウンが完了すると次のプロンプトが表示される。

```
#
```

シャットダウンが完了したら、次のコマンドを入力する。

```
sync
```

⑤電源の切断

映像音響機器制御装置本体の赤いボタンを押して電源を切断する。

(2. 3) 映像音響機器の停止

サマリー再生サブシステムのファンクションキー10を押しパワーオフシーケンスを実行し、オートチェンジャー内のディスクドライブにセットされている光ディスクを棚に戻す。その後、各映像音響機器の電源を切断する。

(2. 4) 中央制御装置 (M760/4) の停止

中央制御装置を以下の手順にしたがって停止する。

①検索サブシステムの停止

コンソールから次のコマンドを入力し検索サブシステムを停止する。

```
#ENDAMIS
```

検索サブシステムが停止すると、次のメッセージがコンソールに表示される。

```
*****
*
*   AMIS ENDED   *
*
*****
```

②中央制御装置、及び空調の電源投入

A R CのA U T Oが点灯していることを確認する。次に、コンソールから以下のコマンドを入力し、A I M、T S S、V T A M等ソフトウェアの停止、電源切断、及び空調の停止を行う。

```
# S Y S S T O P
```

[E N D A M I Sで実行されるコマンド]

E N D A M I Sは、A O F（自動運転機能）を利用して簡単な操作で検索サブシステムを起動できるようにしたオペレーションプロシジャである。このプロシジャでは以下のコマンドを発行、処理する。

①F A I R Sマルチ検索システムの停止

F A I R Sマルチ検索システム停止コマンドの発行

```
F   A I M, P O, M S G, S O = A M Q N 0 0 7 1, M = 'C L R S'
```

次に示す停止完了メッセージの待ち合わせ

```
** FAIRS-I RS-TASK CLOSE.
** IPCF PORT CLOSE.
KDU4231 JOB FAIRSM ENDED - CODE = 0000
```

②検索サブシステムの各ジョブの停止

表6. 1. 1に示したジョブ毎に停止コマンドの発行と停止完了メッセージの待ち合わせを行う。

停止コマンドの形式

```
F   A I M, S, A C P, P E D = P E D 名
```

停止完了メッセージの形式

```
JXC8801 ZO ACP JOB NORMALLY ENDED PED=P E D 名, JOB=ジョブ名
KDU4231 JOB ジョブ名 ENDED - CODE = 0000
```

③ A P G の停止

検索サブシステム用 A P G 停止コマンドの発行

```
F  A I M, S, A P G, A P G N=A M I S A P G
```

A P G 停止完了メッセージの待ち合わせ

```
JXJM17I A1 EXECUTED (STOP APG)
```

(2. 5) イメージファイリングシステム (E F S) の停止

E F S 本体の赤いボタンを押して電源を切断する

(2. 6) ゲートウェイ装置 (Σstation230) の起動

ゲートウェイ装置 (Σstation230) 本体の赤いボタンを押して電源を切断する。すると、停止処理を初めて良いかきいてくるので、y と入力しリターンキーを押す。後は自動的に電源切断まで行われる。

(3) トータルダンプの取得

オンラインで随時更新されるファイルはファイル障害に備えて定期的にバックアップを取得しておく必要がある。バックアップの対象となるファイルは、利用者管理簿、F A X 管理簿の 2 点である。トータルダンプは、ボリューム通し番号が T D M P 0 1 の磁気テープに取得される。トータルダンプを取得するには、トータルダンプ取得 J C L を実行する。この場合、データベースの更新モードを使用するプログラムが動作していないことを確認して実行する。

トータルダンプ取得 J C L は次のデータセットに登録されている。

データセット名：NIME.APP.JCL

メンバ名 ：TDUMP

図 6. 1. 5 にトータルダンプ取得 J C L 'TDUMP' の内容を示す。

図6.1.5 トータルダンプ取得 JCL 'TDUMP'

```

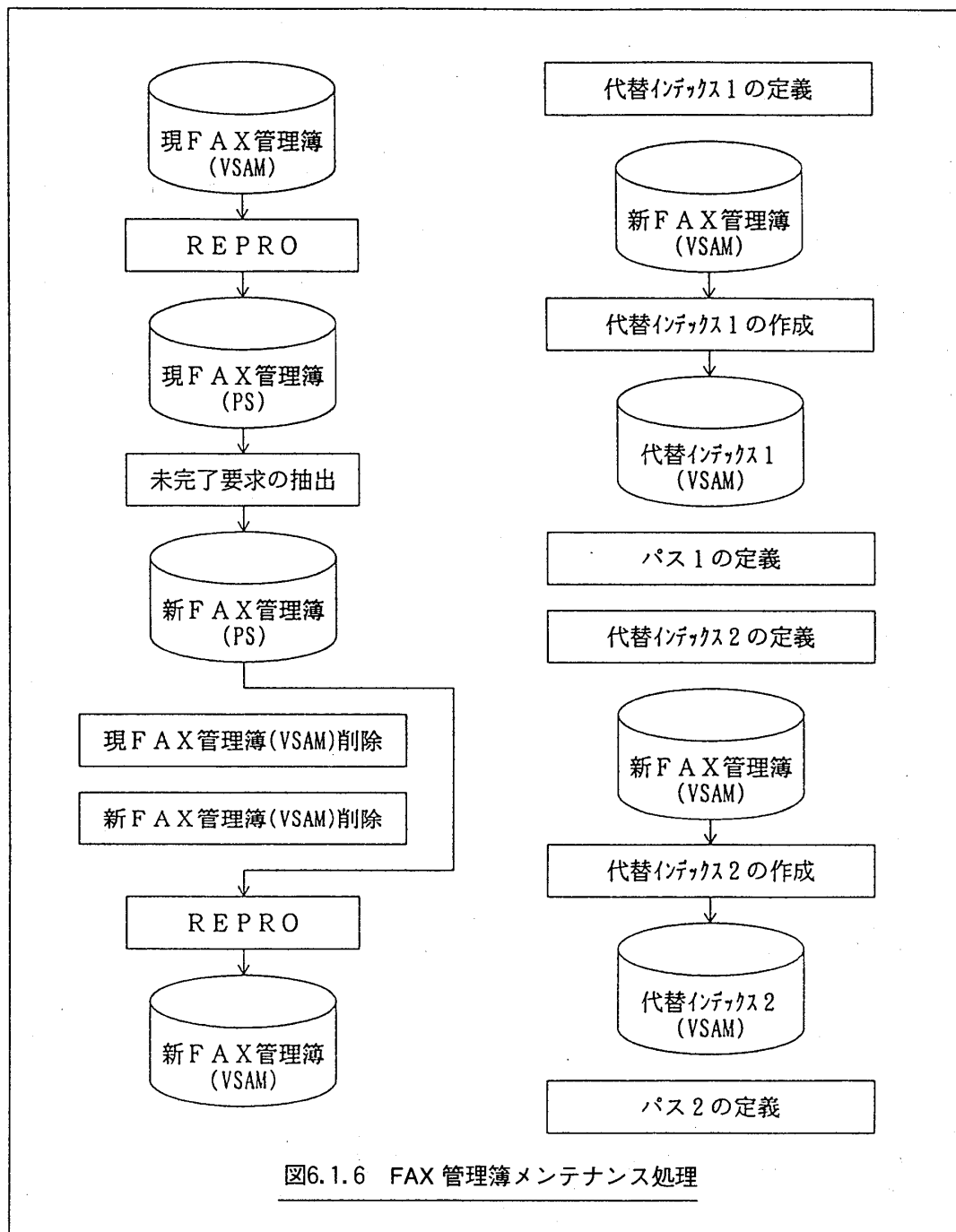
1      2      3      4      5      6      7
//TDUMP  JOB CLASS=A,MSGCLASS=A,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//*                                           */
//*   トータルダンプ処理                       */
//*                                           */
//*****
//      EXEC PGM=JXATDUMP,REGION=2048K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//OUT1   DD DSN=TDUMP.VSAMUSER,CNTL,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(01,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT2   DD DSN=TDUMP.VSAMUSER.BASE,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(02,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT3   DD DSN=TDUMP.VSAMPAX,CNTL,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(03,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT4   DD DSN=TDUMP.VSAMPAX.BASE,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(04,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT5   DD DSN=TDUMP.VSAMPAX.AIX1,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(05,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT6   DD DSN=TDUMP.VSAMPAX.AIX2,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(06,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT7   DD DSN=TDUMP.VSAMPUBL,CNTL,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(07,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT8   DD DSN=TDUMP.VSAMPUBL.BASE,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(08,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT9   DD DSN=TDUMP.VSAMITEM,CNTL,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(09,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//OUT10  DD DSN=TDUMP.VSAMITEM.BASE,UNIT=(TAPE,DEFER),
//        VOL=SER=TDMP01,LABEL=(10,SL),DISP=(NEW,KEEP)
//SYSIN  DD *
TDUMP
CLUSTER SCN,BASE=VSAMUSER,CFILB=OUT1,OFILB=OUT2
CLUSTER SCN,BASE=VSAMPAX,CFILB=OUT3,OFILB=OUT4
AIX OFILB=OUT5
AIX OFILB=OUT6
CLUSTER SCN,BASE=VSAMPUBL,CFILB=OUT7,OFILB=OUT8
CLUSTER SCN,BASE=VSAMITEM,CFILB=OUT9,OFILB=OUT10
END
/*
//

```

(4) F A X 管理簿のメンテナンス

表6.1.3 F A X 管理簿の構成

No.	項目名		属性	長さ	内容
1	主キー	ユーザ I D	X	7	依頼者のユーザ I D (AIM用)
		依頼日	9	8	依頼年月日 (西暦)
		依頼時刻	9	6	依頼時刻
2	副キー 1	ユーザ I D	X	7	依頼者のユーザ I D (AIM用)
		依頼日の補数	9	8	100000000-依頼日の値 逆スクロールのために使用
		依頼時刻の補数	9	6	1000000-依頼時刻の値 逆スクロールのために使用
3	副キー 2	依頼日	9	8	依頼年月日 (西暦)
		依頼時刻	9	6	依頼時刻
		F A X 送信状態	9	1	0 : 未処理 1 : E F S に送信依頼中 2 : E F S に依頼済 3 : 送信完了 4 : 送信失敗
4	所属		N	4 0	依頼者の所属
5	利用者名		N	4 0	依頼者名
6	タイトル		N	4 0	送信文書のタイトル
7	文書情報	ワークステーション名	X	8	依頼先 E F S の W S 名
		文書ユニーク名	X	1 4	送信文書のキャビネット名と文書番号
8	送信範囲		X	1	1 : 先頭 1 頁のみ送信 1 以外 : 全頁送信
9	送信先 F A X 情報	F A X タイプ	X	2	G 3, または G 4
		F A X 番号	X	2 0	F A X 番号
10	管理番号		X	1 6	送信文書の管理番号
11	送信 I D		9	4	E F S から通知される管理番号
12	未使用		X	8 8	



FAX送信サービスを行っていくうちに、FAX管理簿に処理済みの送信要求レコードが蓄積されていく。FAX管理簿の構成を表6.1.3に示す。処理済みの送信要求レコードは定期的に削除し、FAX管理簿を再編成する必要がある。FAX管理簿のメンテナンス処理は、図6.1.6に示す流れに従って行われる。FAX管理簿メンテナンス用のJCLは次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：FAXMSTR

図6. 1. 7にFAX管理簿のメンテナンス処理用JCL'FAXMSTR'の内容を示す。

図6.1.7 FAX 管理簿のメンテナンス処理用 JCL 'FAXMSTR' ①

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//FAXMSTR  JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT   DD  DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAX管理簿  VSAM => PS                               *
//*****
//REPRO1    EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//IDATASET  DD  DSN=AMIS.FAX.MSTR,DISP=OLD
//ODATASET  DD  DSN=AMIS.FAX.DELXXX,DISP=OLD
//SYSPRINT  DD  SYSOUT=*
//SYSIN     DD  *
//          REPRO  INFILE(IDATASET)
//                      OUTFILE(ODATASET)
//                      REPLACE
/*
//*****
//* FAX管理簿  データ抽出                               *
//*      送信状態 = 0(未処理)                           *
//*      1(送信依頼中)                                   *
//*      2(送信待ち)                                     *
//*****
//SORT      EXEC PGM=SORT,REGION=2048K
//SYSOUT     DD  SYSOUT=*
//SORTIN     DD  DSN=AMIS.FAX.DELXXX,DISP=OLD,UNIT=SYSDA
//SORTOUT    DD  DSN=AMIS.FAX.MSTRPS,DISP=OLD
//SORTWK10   DD  UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK20   DD  UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SORTWK30   DD  UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(10,5))
//SYSIN      DD  *
//          SORT   FIELDS=(1,21,CH,A)
//          INCLUDE COND=(57,1,CH,EQ,C'0',
//                        OR,57,1,CH,EQ,C'1',
//                        OR,57,1,CH,EQ,C'2')
/*
//*-----*
//*      DELETE  CLUSTER ( カタログエントリ削除 ) *
//*-----*
//DELETE     EXEC  PGM=KQCAMS,REGION=512K
//SYSPRINT   DD  SYSOUT=*
//SYSIN      DD  *
//          DELETE (AMIS.FAX.MSTR)
//                      CLUSTER
/*
//*-----*
//*      DEFINE  CLUSTER ( クラスタ定義 )          *

```

(続く)

(続き) 図6.1.7 ②

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
/*-----*
//DEFINE EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    DEFINE CLUSTER
        (NAME(AMIS. FAX. MSTR)
        INDEXED
        VOLUMES(USER01)
        CYLINDERS(1 1)
        RECORDSIZE(450 450)
        KEYS(21 0)
        SUBALLOCATION
        SHAREOPTIONS(3 3))
    DATA
    (NAME(AMIS. FAX. MSTR. DATA))
    INDEX
    (NAME(AMIS. FAX. MSTR. INDEX))

/*
/*-----*
/*      REPRO ( データセット複写 PS→VSAM )      *
/*-----*
//REPRO EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//IDATASET DD DSN=AMIS. FAX. MSTRPS, DISP=OLD, UNIT=SYSDA
//ODATASET DD DSN=AMIS. FAX. MSTR, DISP=OLD
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    REPRO INFILE(IDATASET)
          OUTFILE(ODATASET)
          REPLACE

/*
/*-----*
/*      DEFINE ALTERNATEINDEX                      *
/*-----*
//ALTIDX1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
    DEFINE ALTERNATEINDEX
        (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX)
        RELATE(AMIS. FAX. MSTR)
        VOLUMES(USER01)
        KEYS(21 21)
        CYLINDERS(1 1)
        RECORDSIZE(47 47)
        SUBALLOCATION
        UPGRADE
        SHAREOPTION(3 3))
    DATA
    (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX. DATA))
    INDEX
    (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX. INDEX))

/*
/*-----*
/*      BLDINDEX ( 代替インデックス作成 )      *
/*-----*
//BLDIDX1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K

```

(続く)

(続き) 図6.1.7 ③

```

-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//BASECL DD DSN=AMIS. FAX. MSTR, DISP=OLD
//ALTINDEX DD DSN=AMIS. FAX. ALTINDEX, DISP=OLD
//KQCUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5)), VOL=SER=WORK01
//KQCUT2 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5)), VOL=SER=WORK01
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
        BLDINDEX INFILE(BASECL)
                OUTFILE(ALTINDEX)

/*
//*-----*
//*      DEFINE PATH ( パス定義 )      *
//*-----*
//PATH1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
        DEFINE PATH
                (NAME(AMIS. FAX. PATH)
                PATHENTRY(AMIS. FAX. ALTINDEX)
                UPDATE)

/*
//*-----*
//*      DEFINE ALTERNATEINDEX 2      *
//*-----*
//ALTIDX1 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
        DEFINE ALTERNATEINDEX
                (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX2)
                RELATE(AMIS. FAX. MSTR)
                VOLUMES(USER01)
                KEYS(15 42)
                CYLINDERS(1 1)
                RECORDSIZE(41 41)
                SUBALLOCATION
                UPGRADE
                SHAREOPTION(3 3))
        DATA
        (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX2. DATA))
        INDEX
        (NAME(AMIS. FAX. ALTINDEX2. INDEX))

/*
//*-----*
//*      BLDINDEX ( 代替インデックス作成 )      *
//*-----*
//BLDIDX2 EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//BASECL DD DSN=AMIS. FAX. MSTR, DISP=OLD
//ALTIDX2 DD DSN=AMIS. FAX. ALTIDX2, DISP=OLD
//KQCUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5)), VOL=SER=WORK01
//KQCUT2 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5)), VOL=SER=WORK01
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
        BLDINDEX INFILE(BASECL)
                OUTFILE(ALTIDX2)

/*
//*-----*

```

(続く)

(続き) 図6.1.7 ④

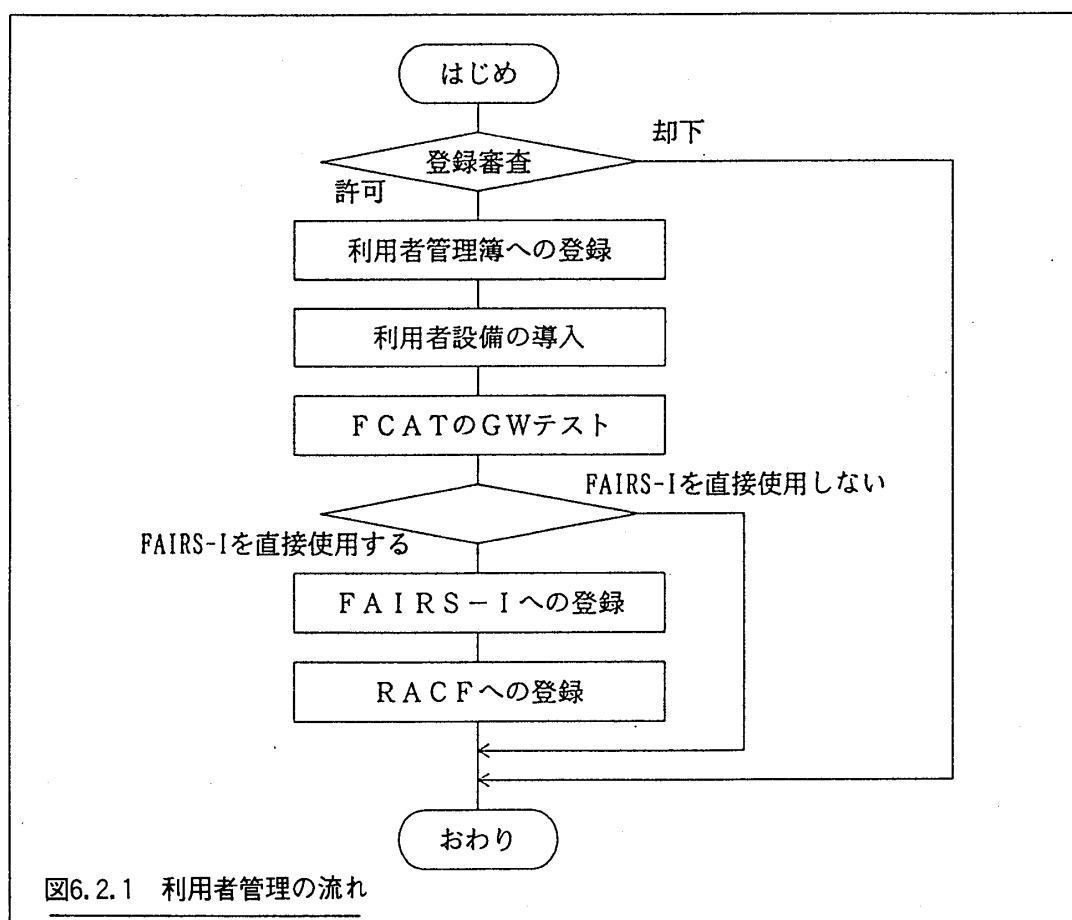
	1	2	3	4	5	6	7
/*	DEFINE	PATH	(パス定義)	*	
/*	-----						*
//PATH2	EXEC	PGM=KQCAMS,	REGION=512K				
//SYSPRINT	DD	SYSOUT=*					
//SYSIN	DD	*					
	DEFINE	PATH			-		
		(NAME	(AMIS. FAX. PATH2)		-		
		PATHENTRY	(AMIS. FAX. ALTIDX2)		-		
		UPDATE)					
/*							
//							

6.2 利用者の登録と更新

AMISを利用するために、利用者は事前に利用者IDや制限等が管理簿に登録されていなければならない。利用者を登録、更新する方法について説明する。

(1) 利用者管理の概要

AMISは、登録されている情報の著作権を保護したり、又将来行われる予定の課金処理のために、利用者を事前に登録する。システム管理者は利用者からの登録申請に基づいた利用者IDや制限等を利用者管理簿に登録する。利用者管理の流れを図6.2.1に示す。



AMISは利用者をグループで管理している。利用者管理簿にはグループと個人の二種類の情報を登録する。AMISにおけるグループ情報の構成を表6.2.1に、また個人情報の構成を表6.2.2に示す。

表6.2.1 グループ情報

No.	項目名		属性	長さ(byte)	繰返し	説明
1	情報区分		9	1	—	0に固定（グループ情報を表す）
2	グループID		X	8	—	グループの識別番号
3	グループ名		N	20	—	グループの名称
4	管理者ID		X	8	—	グループ管理者の利用者ID
5	利用可能データベース		X	2	100	グループの利用できるデータベース番号
6	利用権限	センタ管理	9	1	—	0:なし, 1:あり
7		FAX送信	9	1	—	0:なし, 1:あり
8		静止画モニタ表示	9	1	—	0:なし, 1:あり
9		サマリ画モニタ表示	9	1	—	0:なし, 1:あり
10		電子出版	9	1	—	0:なし, 1:あり
11		画像伝送	9	1	—	0:なし, 1:あり
12	アクセスレベル		9	2	—	アクセスレベル ≥ データベース情報のマスクレベル のときこのDBを利用できる. アクセスレベルは 0 ～ 15 で設定する
13	有効期間（自）		9	8	—	西暦(YYYYMMDD) 利用開始年月日を設定, この日 以降本システムの利用ができる
14	有効期間（至）		9	8	—	西暦(YYYYMMDD) 利用終了年月日を設定, この日 まで本システムの利用ができる
15	情報更新日		9	8	—	西暦(YYYYMMDD) グループ情報の登録更新を行った日 システム管理者の覚え書きとして 使用.

表6.2.2 個人情報

No.	項目名	属性	長さ(byte)	繰返し	説明
1	情報区分	9	1	—	1に固定（個人情報を表す）
2	利用者ID(AIM用)	X	7	—	利用者の識別番号(AIM用)
3	利用者ID(TSS用)	X	7	—	利用者の識別番号(TSS用)
4	パスワード(AIM用)	X	8	—	本システム利用時に参照する 利用者資格チェック画面の新パ ワードが反映される
5	グループID	X	8	—	利用者の所属するグループID
6	利用者名（漢字）	N	40	—	
7	利用者名（カナ）	X	40	—	利用者のカタカナ名
8	所属	N	40	—	利用者の所属する団体名等
9	職名・身分	N	20	—	利用者の職名・身分
10	郵便番号	X	6	—	例:940-23
11	住所	N	70	—	都道府県名を住所に含ませる。
12	電話番号	X	20	—	連絡先の電話番号
13	有効期間（自）	9	8	—	西暦(YYYYMMDD) 利用開始年月日を設定、この日 以降本システムの利用ができる
14	有効期間（至）	9	8	—	西暦(YYYYMMDD) 利用終了年月日を設定、この日 まで本システムの利用ができる
15	研究分野コード	9	3	—	利用者の研究分野をコード化し たもの。
16	課金有無	9	1	10	0:なし、1:あり
17	支払科目コード	9	2	—	支払経費科目をコード化したも の。
18	利用見込額	9	7	—	利用料金の上限值
19	利用済額	9	7	—	利用見込額に対して実際に使用 した金額。
20	支払責任者登録番号	X	7	—	支払責任者の利用者ID
21	経理責任者登録番号	X	7	—	経理責任者の利用者ID

(続く)

(続き) 表6.2.2

No.	項目名		属性	長さ(byte)	繰返し	説明
22	利用権限	センタ管理	9	1	—	0:なし, 1:あり
23		FAX送信	9	1	—	0:なし, 1:あり
24		静止画モニタ表示	9	1	—	0:なし, 1:あり
25		サマリ-画モニタ表示	9	1	—	0:なし, 1:あり
26		電子出版	9	1	—	0:なし, 1:あり
27		画像伝送	9	1	—	0:なし, 1:あり
28	FAXタイプ		X	2	—	利用者所有のFAXタイプ G3/G4
29	FAX番号		X	20	—	利用者所有のFAX番号
30	DIH番号		X	20	—	利用者所有のDIH を接続したISDNの加入者番号
31	情報更新日		9	8	—	西暦(YYYYMMDD) 個人情報の登録更新を行った日 システム管理者の覚え書きとして使用.

(2) 必要な設備

利用者の設備には、大別して、所在検索を行うための「検索用端末」、映像音響情報を再生するための「映像用モニタ」、及びイメージ出力用のファクシミリがある。センター外部からAMISを利用する場合には、これに加えて回線設備が必要になる。利用者がAMISを利用するために用意しなければならない設備を表6. 2. 3にまとめる。

表6.2.3 必要な設備

利用場所 利用機能	センター内	センター外
所在検索	Ethernet経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・TCP/IP用ボード・ソフト ・Ethernet接続ケーブル 電話回線(内線)経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・モデム	電話回線経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・電話回線 ・モデム DDX-P経由の場合 ・パソコン及び通信ソフト ・DDX-P 加入回線 ・DSU 学情網経由の場合 ・加入ホストにより異なる
静止画再生	CATVを使用する ・映像用モニタ	画像伝送装置を使用する ・DIH-2000 ・INSネット64 加入回線 ・映像用モニタ
サマリー再生	CATVを使用する ・映像用モニタ	画像伝送装置を使用する ・DIH-2000 ・INSネット64 加入回線 ・映像用モニタ
電子出版 (開発中)	所在検索、及び静止画再生に必要な設備	運用上の取り決めとして所外での電子出版作業は認めない
イメージ再生	F A X (G3/G4)	F A X (G3/G4)

(3) 利用者の登録、更新

利用者やグループをAMIS利用者管理簿に登録、あるいは登録内容を更新したり登録を抹消する手順について説明する。利用者の登録、更新の手順を図6. 2. 2に示す。

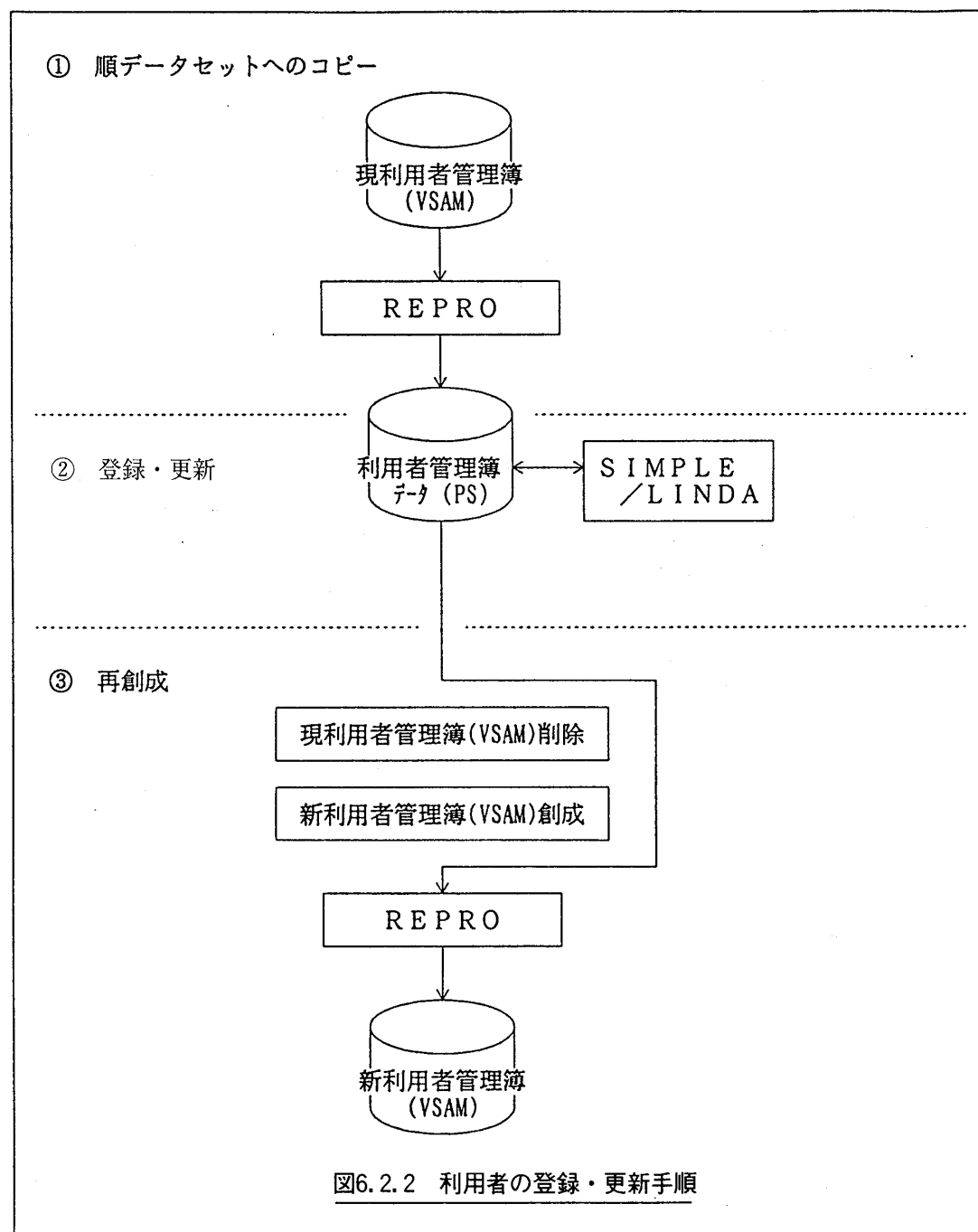


図6.2.2 利用者の登録・更新手順

(3. 1) 順データセットへのコピー

V S A M形式の利用者管理簿を順データセットにコピーする。順データセットにコピーすることで、以降の登録、更新作業を検索サービスと並行して行うことを可能にする。順データセットへのコピー用 J C L を実行し、V S A M形式の利用者管理簿を順データセット 'AMIS.USER.MSTRPS' にコピーする。AMIS.USER.MATRPS が既に存在している場合は削除してから J C L を実行する。利用者管理簿の順データセットへのコピー用 J C L は次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：PSUSER

図6. 2. 3に利用者管理簿の順データセットへのコピー JCL 'PSUSER'の内容を示す。

図6.2.3 利用者管理簿の順データセットへのコピー JCL 'PSUSER'

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7---
//PSUSER  JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT  DD  DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//*
//*      < REPRO >  VSAM DATASET ==>  PS DATASET
//*
//*****
//REPRO    EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//INPUT    DD DSN=AMIS.USER.MSTR,DISP=OLD
//OUTPUT    DD DSN=AMIS.USER.MSTRPS,DISP=(NEW,CATLG),UNIT=SISDA,
//            SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),VOL=SER=USER01,
//            DCB=(RECFM=FB,LRECL=400,BLKSIZE=4000)
//SYSIN     DD *
//          REPRO  INFILE(INPUT)      -
//          OUTFILE(OUTPUT)
//
//
```

(3. 2) 登録・更新

利用者やグループの登録・変更・抹消等はSIMPLE/LINDAと呼ばれるツールを用いて行う。

①SIMPLE/LINDAの起動

TSSにログオンし、次の起動用コマンドプロシジャを実行する。

```
EXEC 'AMIS.APP.CLIST(LINDA)'
```

SIMPLE/LINDAが起動されると次のメッセージが表示されるので、実行キーを押す。

```
SIMPLE/LINDA      STARTED AT HH:MM:SS
***
```

次の画面が表示される。

オプション ==>

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 0 属性定義 | サポートデータセット編成一覧 |
| 1 データセットの創成処理 | .1. 順編成データセット |
| 2 データセットの更新処理 | .2. 索引順編成データセット |
| 3 データセットの印刷処理 | .3. V S A Mデータセット |
| 4 データセットの検索表示処理 | .4. 相対編成データセット |
| 5 ユティリティ | .5. 区分編成データセット |
| X 終了 | |

②処理の選択

順編成データセットの更新処理を行う。オプションに2.1と入力して実行キーを押すと、つぎのような更新情報の入力画面が表示される。

コマンド ==>

データセット編成==> PS

以下の更新情報を入力してください。

更新データセット名 ==>
メンバ名 ==>
ボリューム名 ==>
V S A M編成 ==>

コピー句名 (省略するとメンバ名選択リスト表示)

==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>											==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>										
==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>											==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>										
==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>											==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>										
==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>											==>	<table border="1"><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>										

OCCURS
(以下内容省略)

③更新情報の指定

更新データセット名に 'AMIS.USER.MSTRPS'、コピー句名に、グループ情報のUSERMST1、個人情報のUSERMST2を入力し、実行キーを押すと次に示す画面が表示される。

オプション ==>
テストケース ==>

-
1. レコードの選択 (レコードキーおよび番号)
 2. コピー句によるアイテム名の選択
 3. コピー句仕様条件の入力 (コピー句が複数の時)
- 空白 選択おわり. 次画面表示
-

④利用者管理簿の更新

オプションに空白、テストケースにUSERMSTRを入力し実行キーを押すと、利用者管理簿からコピーした順データセットの内容が表示される。順データセットは、グループ情報、個人情報の順にソートされている。画面上では、情報区分によって表示している情報がどちらの情報であるかを区別する。情報区分が0はグループ情報、1は個人情報を示す。また、コマンド域にJEFと入力すると漢字が表示される。

⑤SIMPLE/LINDAの終了

更新が終了したら、次のメッセージが表示されるまで PF3キーを押す。

SIMPLE/LINDA END AT HH:MM:SS

このメッセージが表示されたら実行キーを押し、READY を表示する。

(3. 3) 再創成

新しい内容で利用者管理簿を創成し直す。この処理は利用者管理簿を使用する他のプログラムが動作していない時に行う。利用者管理簿の再創成用 J C L を実行する。

利用者管理簿の再創成用 J C L は次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：VSAMUSER

図 6. 2. 4 に利用者管理簿の再創成 JCL 'VSAMUSER' の内容を示す。

図6.2.4 利用者管理簿の再創成 JCL 'VSAMUSER'

```
-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//VSAMUSER JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//*                                           *
//*      利用者管理簿の創成                     *
//*                                           *
//*****
//*-----*
//*      DELETE CLUSTER                               *
```

(続く)

(続き)

```
/*-----*
//DELCL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DELETE (AMIS. USER. MSTR)
CLUSTER
/*
/*-----*
//* DEFINE CLUSTER *
/*-----*
/*
//DEFCL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
DEFINE CLUSTER
(NAME(AMIS. USER. MSTR)
INDEXED
VOLUMES(USER01)
CYLINDERS(1 1)
RECORDSIZE(400 400)
KEYS(9 0)
IMBED
SUBAL
SHAREOPTIONS(3 3))
DATA
(NAME(AMIS. USER. MSTR. DATA))
INDEX
(NAME(AMIS. USER. MSTR. INDEX))
/*
/*-----*
//* SORT *
/*-----*
//SORT EXEC PGM=SORT, REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=AMIS. USER. MSTRPS, DISP=SHR
//SORTOUT DD DSN=&&USERMSTR, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,
// SPACE=(TRK, (20, 1), RLSE),
// DCB=(RECFM=FB, LRECL=400, BLKSIZE=4000)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SYSIN DD *
SORT FIELDS=(1, 9, CH, A)
/*
/*-----*
//* REPRO ( SAM --> VSAM COPY ) *
/*-----*
//REPRO EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//INALP DD DSN=&&USERMSTR, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//OUTALP DD DSN=AMIS. USER. MSTR, DISP=OLD
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
REPRO INFILE(INALP)
OUTFILE(OUTALP)
REPLACE
/*
//
```

(3.4) FAIRS を直接使用する場合の設定

AMIS のデータベースの書誌情報を AMIS 検索サブシステムによってではなく、TSS 下で FAIRS を直接使用しても検索がかるのである。ただし、この場合は検索サブシステムが行っている著作権等の保護は適用されない。従って、このような利用形態はデータベース管理者など一部の特別な利用者に限定している。FAIRS を直接使用するには、① FAIRS の機密保護情報ファイルへの登録、② RACF への登録、の二つの設定を行う必要がある。

① FAIRS への登録

FAIRS の機密保護情報ファイルに利用者を登録するには、登録用 JCL を適宜変更し実行する。FAIRS の機密保護情報ファイルへの利用者登録用 JCL は次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名：DBUSER

図6.2.5 に FAIRS の機密保護情報ファイルへの利用者登録用 JCL 'DBUSER' の内容を示す。

図6.2.5 FAIRS の機密情報ファイルの利用者登録用 JCL 'DBUSER'

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//DBUSER JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//* FAIRS-I ) リヨウシトウロク */
//*****
//* STEP1 : ALLOCATION OF DATASET */
//*****
//STEP1 EXEC PGM=IEFBRI4,REGION=256K
//FAIRSLIB DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.CMD
//FAIRSMAC DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.NIN
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=PP1.IR1.FAIRSJWD
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SYS
//FAIRSSCF DD DISP=SHR,DSN=AMIS.FAIRS.SCF
//*****
//* STEP2 : FAIRS-I ) USER ADD */
//*****
//STEP2 EXEC PGM=FAIRS,REGION=5120K,DYNAMNBR=50
//STEPLIB DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSLIB
// DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSCF
//FAIRSSYS DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSSYS
//FAIRSMMSG DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSMMSG
//FAIRSJWD DD DISP=SHR,DSN=*.STEP1.FAIRSJWD
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTOUT DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK01 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK02 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
//SORTWK03 DD UNIT=SYSDA,SPACE=(CYL,(5,5))
```

(続く)

(続き) 図6.2.5

```
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
FAIRS USER(AMIS)
SECURITY
USER @@@@ CATALOG(1280 20 5)
USER @@@@ CATALOG(1280 20 5)
USER @@@@ CATALOG(1280 20 5)
:
USER @@@@ CATALOG(1280 20 5)
DELETE USER(@@@@)
DELETE USER(@@@@)
DELETE USER(@@@@)
:
DELETE USER(@@@@)
END
END
/*
//
```

} 利用者情報の登録・変更

} 利用者情報の削除

② R A C F への登録

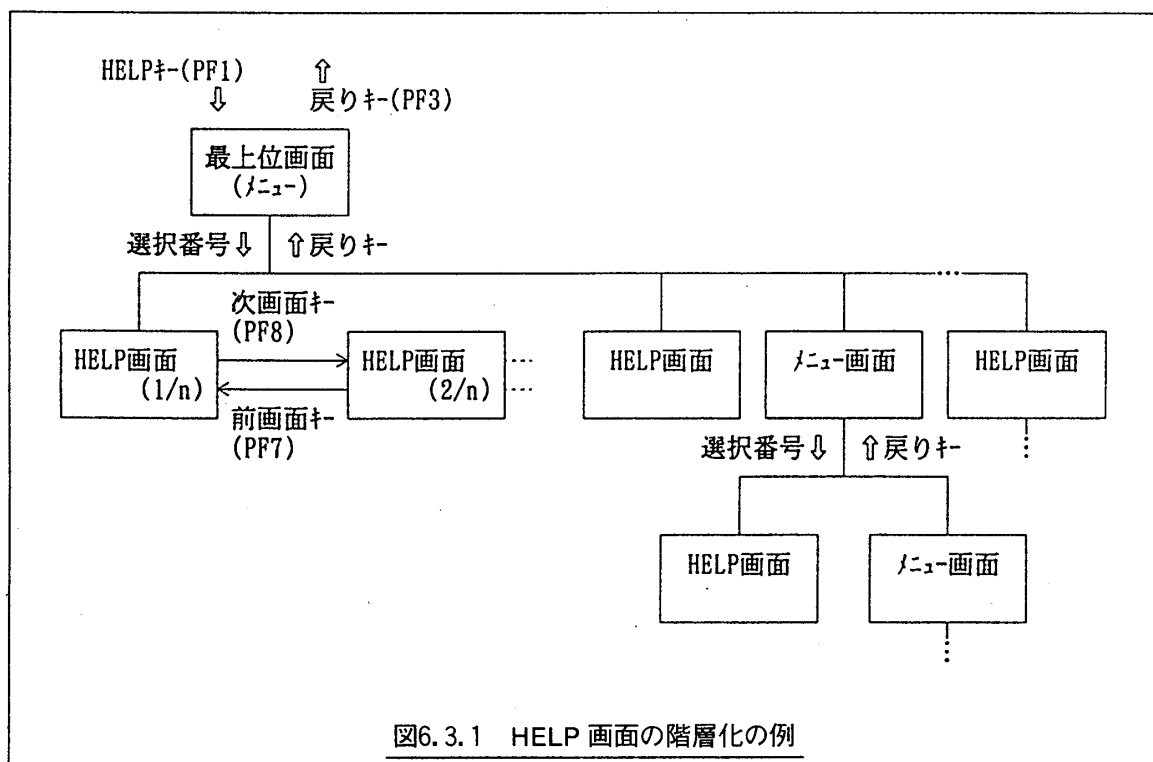
センターの利用者管理規約に従って、F A I R S - I を直接利用するユーザ I D を R A C F 管理簿に登録する。

6.3 ヘルプ画面の登録と変更

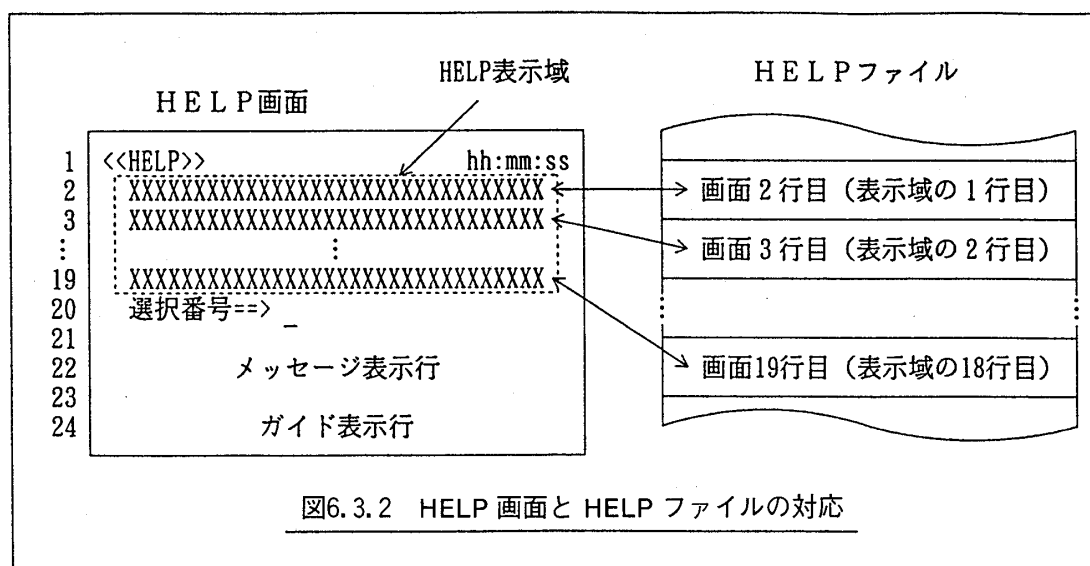
A M I S は利用者の補助としてヘルプ機能をもっている。ヘルプは利用者が求めたときに操作ガイドやセンターからのお知らせ等を検索用端末に表示する機能である。表示する内容はシステム管理者が随時変更することができる。この章では、H E L P 機能のしくみ、画面作成上の留意点、画面の登録・変更手順を説明する。

(1) ヘルプ機能のしくみ

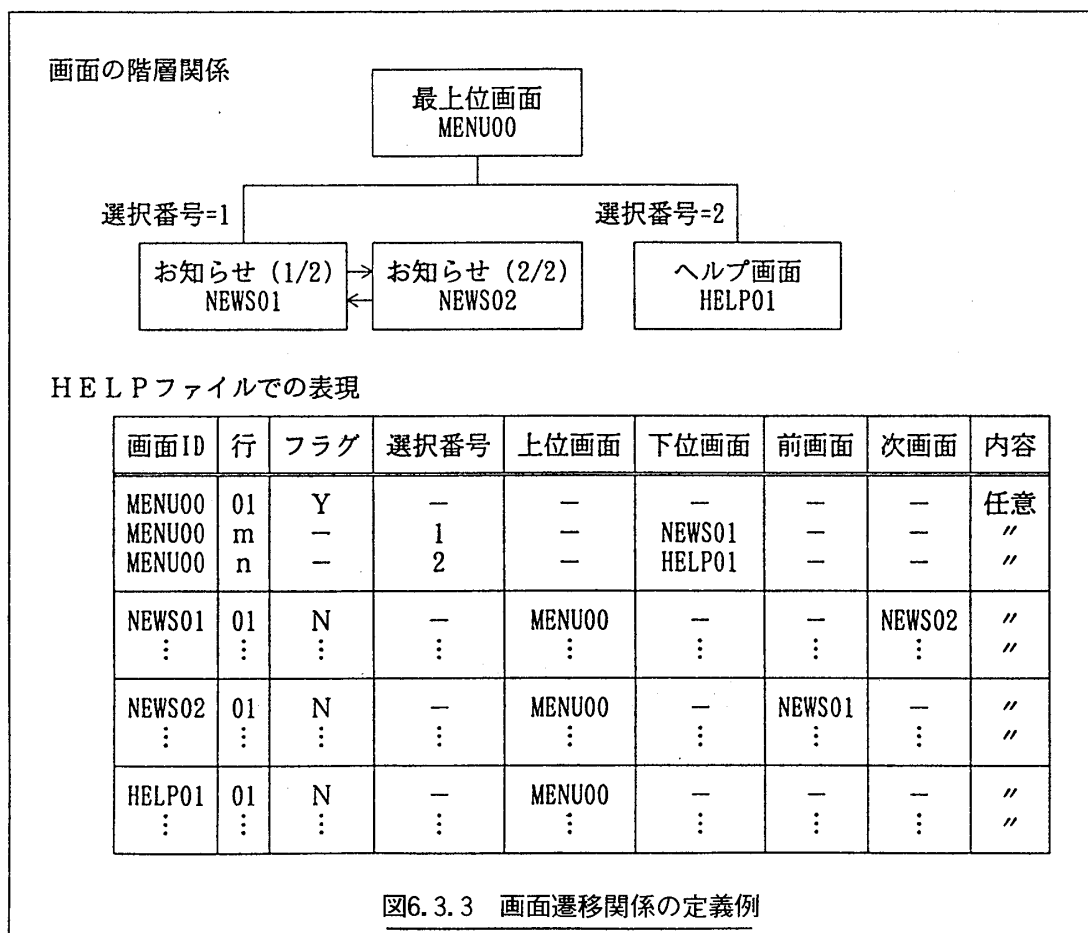
ヘルプ機能は検索用端末からHELPキー（PFI）を押すと、あらかじめ登録された画面を表示する機能である。各画面は階層的に配置することができる。従って、メニュー画面に登録し、その中から希望する項目を選択して詳細な情報を見ろといった利用の仕方が可能である。階層の数やメニュー画面を配置する位置などに制約はない。また、表示したい内容が1画面に収まり切らない場合のために、あるテーマを複数場面に渡って登録することもできる。この画面数にも特に制限はない。下位のヘルプ画面から上位のヘルプ画面に戻るとき、及び最上位のヘルプ画面から元の検索画面に戻るときは戻りキー（PF3）を押す。図6. 3. 1に階層化されたヘルプ画面の例を示す。



画面に表示する内容と他の画面との遷移関係はヘルプファイルに定義しておく。ヘルプファイルは図6. 3. 2のように1行を1レコードとするV S A Mデータセットとなっている。



画面と画面の遷移関係は図6. 3. 3に示すように定義する。



(2) ヘルプ画面作成上の留意点

ヘルプ画面を作成・更新するときの規則や留意事項は次の通りである。

①ヘルプファイルの属性

- ・編成 : VSAM/KSDS
- ・データセット名 : AMIS. SHEL P. MSTR
- ・レコード形式 : 固定長
- ・レコード長 : 150バイト
- ・CI長 : 150バイト
- ・ボリューム : USER01

②画面のサイズ

76バイト×18行

③ヘルプ画面の階層

特に制限はない。

④最上位画面の画面ID

MENU00とする。

⑤ヘルプ画面より入力できる選択番号の値

選択番号は、2桁の半角文字で設定する。

⑥ヘルプファイルのレイアウト

ヘルプファイルの1レコードはヘルプ画面の1行に対応している。また、個々のレコードは、画面に表示される文字列と画面間の遷移を制御するために必要な情報で構成されている。ヘルプファイルのレコードレイアウトを図6.3.4に示す。

項目名	画面ID	行番号	フラグ	選択番号	上位画面ID	下位画面ID	前頁画面ID	次頁画面ID	画面定義域
属性	X(6)	9(2)	X(1)	X(2)	X(6)	X(6)	X(6)	X(6)	X(76)
記述例	NEWS02	01	N	┘1	MENU00	NEWS10	NEWS01	NEWS03	《お知らせ》

図6.3.4 HELP ファイルのレコードレイアウト

⑦ヘルプファイル作成規約

ヘルプファイルの各レコードの内容は、表6. 3. 1に示す規約に従って設定する。

表6.3.1 HELP ファイルの作成規約

No.	領域名	属性	作 成 規 約	指定できる値
1	画面ID	X (6)	<ul style="list-style-type: none"> 1画面分は同一の画面IDとする。画面IDは、利用者指示（例えば、前頁／次頁等の指示要求）で次に表示する画面のキー情報となる。 1画面分は連続で指定する。異なった画面IDが出現するまでを同一の1画面とする。 HELPファイル内の全レコードに指定する。 HELP画面の最上位画面は「MENU00」とする。 	任意の半角文字 (注) 最上位画面IDは「MENU00」固定とする。
2	行番号	9 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 画面を表示する位置(01~18行目)をHELP表示域内相対番号で指定する。 行番号=01は必ず指定する。(行番号=01は画面遷移の管理情報を指定するため) 行番号が存在しない行は、端末画面上ブランクで表示される。 HELPファイル内の全レコードに指定する。 	01~18
3	フラグ	X (1)	<ul style="list-style-type: none"> 表示する1画面の中に選択番号による画面遷移があるか否かを指定する。 行番号=01のレコードに記述されたフラグのみ有効とする。(02~18行目にフラグを指定しても無視する) 	選択番号による下位画面への遷移の有無を示す Y: 選択あり N: " なし
4	選択番号	X (2)	<ul style="list-style-type: none"> 画面定義域に記述された選択番号と同じ文字を記述する。HELP機能は利用者が入力した文字とここに設定された文字を比較し、一致したレコードから遷移先の画面を特定する。 画面定義域に定義した文字と同じ文字を選択番号として設定する。 	文字: 選択番号 --: (1177 2byte) 選択なし
5	上位画面ID	X (6)	<ul style="list-style-type: none"> 戻りキー(PF3)を押下した時に表示する画面の画面IDを指定する。 「----- (1177 6byte)」の時はHELPの終了を示す。(通常は最上位画面のときだけ「----- (1177 6byte)」を設定する) 下位の画面においても、「----- (1177 6byte)」を指定した場合は、HELP終了と見なす。 戻りキー(PF3)が押下された時、上位画面IDに該当する画面IDが存在しない場合は「----- (1177 6byte)」を指定した時と同様、HELP終了の扱いとする。 	任意の半角文字 (注) '-----' は、HELP終了と見なす。
6	下位画面ID	X (6)	<ul style="list-style-type: none"> 選択番号で指定された画面の画面IDを指定。 下位画面IDに該当する画面がID存在しない場合「指定された画面はありません」のメッセージを表示し、画面遷移は行わない。 	任意の半角文字

(続く)

(続き) 表6.3.1

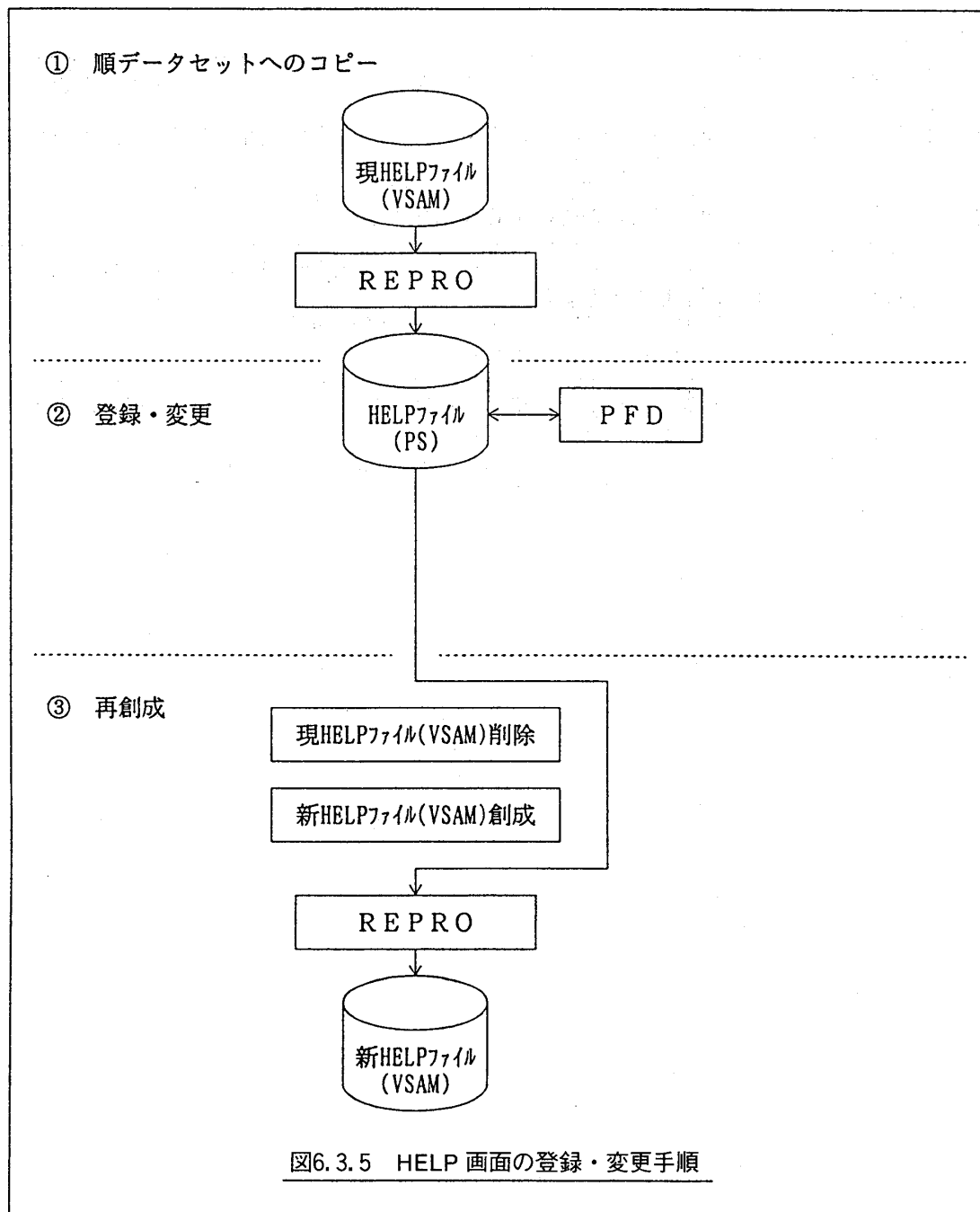
No.	領域名	属性	作成規約	指定できる値
7	前頁画面ID	X (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・前頁キー(PF7) が押下された時に表示する画面の画面IDを指定する。 ・行番号=01の前頁画面IDのみ有効とする。(02~18行目の画面IDは無視する) 	任意の半角文字
8	次頁画面ID	X (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・次頁キー(PF8) が押下された時に表示する画面の画面IDを指定する。 ・行番号=01の次頁画面IDのみ有効とする。(02~18行目の画面IDは無視する) 	任意の半角文字
9	画面定義域	X (76)	<ul style="list-style-type: none"> ・画面に表示する文字列を記述する。 ・半角文字, 全角文字混在可能。 ・シフトコードも含め76バイト(固定)で記述する。 	任意の半角, 全角文字

⑧その他の注意事項

AMISは、HELPファイル上に作成された画面の内容、及び画面間の遷移を制御するための項目については、一切チェックを行わない。このため、遷移先画面のIDが誤っているために意図した画面制御が行われないということも発生する場合がある。従って、ヘルプファイルを作成する時には、事前にメニュー階層を図に整理する等矛盾の無い設計が必要である。

(3) ヘルプ画面の登録・変更手順

ヘルプ画面の登録・変更・削除は図6. 3. 5に示す手順に従って行う。



①順データセットへのコピー

V S A M形式のヘルプファイルを順データセット 'AMIS.HELP/MSTRP' にコピーする。このファイルが既に存在している場合は、まずこの順データセットを削除する。次に、順データセットへのコピー用 J C L 'PSHELP' を実行する。ヘルプファイルを順データセットにコピーする J C L は次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 . . . : PSHELP

図 6 . 3 . 6 にヘルプファイルを順データセットにコピーする 'PSHELP' の内容を示す。

図6.3.6 ヘルプファイルのコピー JCL 'PSHELP'

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7---
//PSHELP  JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT  DD  DSN=NIME.UCAT,DISP=SHR
//*****
//*
//*      < REPRO >  VSAM DATASET ==> PS DATASET
//*
//*****
//REPRO    EXEC PGM=KQCAMS,REGION=768K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//INPUT    DD DSN=AMIS.HELP.MSTR,DISP=OLD
//OUTPUT    DD DSN=AMIS.HELP.MSTRPS,DISP=(NEW,KEEP),UNIT=SYSDA,
//           SPACE=(CYL,(1,1),RLSE),VOL=SER=USER01,
//           DCB=(RECFM=FB,LRECL=150,BLKSIZE=15000)
//SYSIN     DD *
//           REPRO  INFILE(INPUT)      -
//                   OUTFILE(OUTPUT)
//*
//

```

②登録・変更

E D I T機能を用いて、順データセット AMIS.HELP.MSTRPS に対して画面の登録、変更、削除を行う。P F DのE D I T機能で編集する際は、次のことに注意する。

- シフトコード除去機能は停止して編集・保存する。
- データタイプはD A T Aで編集する。
- 行番号付加機能は停止して編集・保存する。

③再創成

ヘルプファイルを再創成する。この処理は一旦ヘルプファイルを消去するため、ヘルプファイルを使用している他のプログラムが動作していないことを確認する。次に、ヘルプファイル再創成用 J C L 'VSAMHELP' を実行する。ヘルプファイル再創成用 J C Lは次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：VSAMHELP

図6.3.7にヘルプファイル再創成用 J C L 'VSAMHELP' の内容を示す。

図6.3.7 ヘルプファイル再創成 JCL 'VSAM HELP'

```

-----+-----1-----+-----2-----+-----3-----+-----4-----+-----5-----+-----6-----+-----7--
//VSAMHELP JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y,MSGLEVEL=(1,1,1),
//
//JOB CAT DD DSN=NIME. UCAT, DISP=SHR
//*****
//*
//*      H E L P ファイルの創成
//*
//*****
//*-----*
//*      DELETE CLUSTER
//*-----*
//DELCL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
//      DELETE (AMIS. HELP. MSTR)
//      CLUSTER
//
//*-----*
//*      DEFINE CLUSTER
//*-----*
//
//DEFCL EXEC PGM=KQCAMS, REGION=512K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
//      DEFINE CLUSTER
//              (NAME(AMIS. HELP. MSTR)
//              INDEXED
//              VOLUMES(USER01)
//              CYLINDERS(1 1)
//              RECORDSIZE(150 150)
//              KEYS(8 0)
//              IMBED
//              SUBAL
//              SHAREOPTIONS(3 3))
//      DATA
//      (NAME(AMIS. HELP. MSTR. DATA))
//      INDEX
//      (NAME(AMIS. HELP. MSTR. INDEX))
//
//*-----*
//*      SORT
//*-----*
//SORT EXEC PGM=SORT, REGION=2048K
//SYSOUT DD SYSOUT=*
//SORTIN DD DSN=AMIS. HELP. MSTRPS, DISP=SHR
//SORTOUT DD DSN=&&HELPMSTR, DISP=(NEW, PASS), UNIT=SYSDA,

```

(続く)

(続き) 図6.3.7

```
//          SPACE=(TRK, (5, 1), RLSE),
//          DCB=(RECFM=FB, LRECL=150, BLKSIZE=15000)
//SORTWK10 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK20 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SORTWK30 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(CYL, (10, 5))
//SYSIN    DD *
          SORT  FIELDS=(1, 8, CH, A)
/*
/*-----*
/*      REPRO  ( SAM --> VSAM COPY )      *
/*-----*
//REPRO    EXEC PGM=KQCAMS, REGION=768K
//INALP    DD DSN=&&HELPMSTR, DISP=(OLD, DELETE), UNIT=SYSDA
//OUTALP    DD DSN=AMIS. HELP. MSTR, DISP=OLD
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSIN     DD *
          REPRO  INFILE(INALP)           -
                  OUTFILE(OUTALP)        -
                  REPLACE
/*
//
```

6.4 システムの安全性

AMISの安定したサービスを保証するためには、日頃から適正なシステム保全対策を講じておく必要がある。システム保全作業の具体例として、適切なタイミングでのデータバックアップ[°]、トラブル発生時の正確な分析と影響範囲の見極め、迅速な復旧処理の実施、関係者への連結や報告及び記録等がある。システムトラブル時の一連の対応を円滑に行うために、システム保全のためのルール確立とそれに従った要員の訓練が重要である。この章では想定される障害の種類と復旧処理の概要、復旧のためのバックアップデータの取得方法、及び障害からの復旧方法について説明する。

(1) システム保全作業の概要

AMISの運用中に発生すると思われるトラブルとその影響、予防措置、及び復旧手段をシステム構成要素毎に分類し、表6.4.1に示す。本格的なサービスを安定的に提供するには、この他にトラブル発生時の連絡したり、報告するルートやルール等をより具体的に取り決め関係者に周知徹底するなど、制度面の整備も必要となる。

表6.4.1 システム保全作業の概要

システム構成要素	想定トラブル	影響	予防措置	復旧手段
中央制御装置 (M760/4)				
ハードウェア				
CPU, メモリ	故障	<ul style="list-style-type: none"> ・システムダウン ・ファイル破壊 	定期保守	修理 システム再起動 ファイル復元
チャネル	故障	両系共故障の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・システムダウン ・ファイル破壊 	定期保守	修理 システム再起動 ファイル復元
DASD	故障	故障発生箇所により <ul style="list-style-type: none"> ・システムダウン ・サブシステムダウン ・業務プログラム異常終了 	定期保守 ファイルバックアップ	修理 システム再起動 ファイル復元
ソフトウェア				
OS, AIM等	障害 オペレーション ミス	<ul style="list-style-type: none"> ・システムダウン ・サブシステムダウン ・ファイル破壊 ・業務プログラム異常終了 ・処理結果異常 ・その他 	PTF適用 要員訓練	ファイル復元 再処理 その他
AMIS	障害 オペレーション ミス	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイル破壊 ・業務プログラム異常終了 ・処理結果異常 ・その他 	PTF適用 要員訓練	ファイル復元 再処理 その他
映像音響機器制御装置 (A-60)、ゲートウェイ (Σstation 230)				
ハードウェア	故障	故障箇所により <ul style="list-style-type: none"> ・A-60のダウン ・その他 	定期保守 ファイルバックアップ	修理 システム再起動 ファイル復元
ソフトウェア				
OS等	障害 オペレーション ミス	<ul style="list-style-type: none"> ・システムダウン ・業務プログラム異常終了 ・処理結果異常 ・その他 	PTF適用 要員訓練	ファイル復元 再処理 その他
AMIS	障害 オペレーション ミス	<ul style="list-style-type: none"> ・業務プログラム異常終了 ・処理結果異常 ・その他 	PTF適用 要員訓練	ファイル復元 再処理 その他
イメージファイリングシステム (EFS)	故障	故障箇所により <ul style="list-style-type: none"> ・文書登録, 検索不能 ・FAX送信不能 ・その他 	定期保守 光ディスクの複製	修理 システム再起動 光ディスクの交換
映像音響機器	他社機器のため不明			

(2) バックアップ

システム管理者が行う予防措置として主要ファイルのバックアップがある。ここでは、AIMISの各種ファイルのバックアップ方法を説明する。ファイルのバックアップツールは、ファイルの種類、存在場所や使用形態等により異なる。表6.4.2にファイルのバックアップツールを示す。

表6.4.2 バックアップツール

機種	ファイル種別	バックアップ対象	バックアップツール
M760/4	オンライン更新ファイル	利用者管理簿 FAX管理簿 電子出版管理簿	JXATDUMP
	FAIRS-Iデータベース	各データベース	FAIRS-IのBACKUP機能
	上記以外	ボリューム全体	ARCS
A-60	すべてのファイル	磁気ディスク全体	vbackup
Σstation 230			
EFS	光ディスク	キャビネット	キャネット複写

① JXATDUMP

JXATDUMPは、AIM配下で更新されるデータセットをバックアップするツールである。

② FAIRSのBACKUP機能

FAIRSのBACKUP機能は、データベースの実体である論理構造ファイル、及びサブファイルをバックアップするツールである。

③ ARCS

ARCSは磁気ディスクボリューム全体のバックアップを短時間で取得するのに適したツールである。ARCSはバックアップだけでなく復元も行うことができる。また、パラメータの指定により特定ファイルだけのバックアップ/復元も行うことができる。ARCSの起動用JCLはボリューム毎に表6.4.3のように用意されている。

表6.4.3 バックアップ用 ARCS JCL一覧

データセット名	メンバ名	用途
NIME.UTY.JCL	BKUPUSR1	USER01バックアップ用
	BKUPUSR2	USER02バックアップ用
	⋮	⋮
	BKUPUSR8	USER08バックアップ用
	BKUPSCAT	SYSCATバックアップ用
	BKUPSRES	SYSRESバックアップ用
	BKUPWRK1	WORK01バックアップ用
	BKUPWRK2	WORK02バックアップ用

図 6. 4. 1 に 'BKUPUSRI' の内容を示す。

図6.4.1 BKUPUSRI

```
-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7--
//BKUPUSRI JOB CLASS=A,MSGCLASS=Y      ????,CLASS=A,MSGCLASS=Y
//STEP1    EXEC PGM=KBKARCS,REDION=4096K
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSDMS   DD SYSOUT=*
//INVOL    DD UNIT=SYSDA,VOL=SER=USER01,DISP=SHR
//OUTMT    DD UNIT=TAPE,VOL=SER=(USER11,USER12,USER13),LABEL=(,SL),
//          DSN=ARCS.BACKUP.USER01,DISP=(NEW,KEEP)
//SYSIN    DD *
          BACKUP VOLUME, FROM(DD(INVOL)), TO(DD(OUTMT)), COMPRESS
/*
//
```

④ v b a c k u p

v b a c k u p は、映像音響機器制御装置 (A-60)、及びゲートウェイ (x station 230) の磁気ディスクの内容をバックアップするツールである。バックアップ媒体はカートリッジテープであるが、そのドライブであるカートリッジテープ装置は映像音響機器制御装置 (A-60) とゲートウェイ (x station 230) で共用になっている。カートリッジテープ装置を付け替えるときは、必ず電源を切ってから行うよう注意が必要である。

⑤キャビネット複写

キャビネット複写は、イメージファイリングシステム (EFS) の光ディスクの複製をとるための機能である。

(3) 障害からの復旧

障害内容の復旧操作を表 6. 4. 4 に示す。ハードウェア障害については、その原因を取り除いた後に表に示す作業を行う。

表6.4.4 障害内容と復旧操作

障害内容	復旧操作	説明
中央制御装置 (M760/4)		
システムダウン	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの再起動 ・トランザクションリカバリ ・トータルロード 	通常の手順でシステムを起動します。システムはシステムダウン後の起動であることを自動的に認識し、トランザクションリカバリ、及びトータルロードを行います。トータルロードでは、オンライン更新ファイルのリカバリを行うためにトータルダンプMTのセットを要求してきますので、オペレータは最新のMTをマウントしてください。
ファイル破壊	<ul style="list-style-type: none"> ・トータルロード 又は ・FAIRS-IのRESTORE機能 又は ・ARCS 	破壊の内容に応じて <ul style="list-style-type: none"> ・トータルロード、又は ・FAIRS-IのRESTORE機能、又は ・ARCS で復元してください。
映像音響機器制御装置 (A-60)、ゲートウェイ (Σstation 230)		
ファイル破壊	・ファイルの復元	v backupで取得したバックアップから磁気ディスクを復元します。
イメージファイリングシステム (EFS)		
光ディスク破壊	・光ディスクの交換	壊れた光ディスクの代わりに複製の光ディスクを装填してください
映像音響機器		
光ディスク破壊	<ul style="list-style-type: none"> ・光ディスクの交換 ・一次情報アドレスの再登録 	壊れた媒体を交換し、新しい媒体に対応した一次情報アドレスを登録してください。

①トータルロードによる復元

トータルロードはAIMのJXADSRCVユーティリティが提供する復元形態で、トータルダンプMTによってトータルダンプ取得時の状態にファイルを復旧する処理である。トータルダンプ処理は、以下のJCLを復旧したいファイルに応じて修正、実行する。実行するとトータルダンプMTのマウントを要求してくるので、適切なトータルダンプMTをマウントする。トータルロード処理JCLは次のデータセットに登録されている。

データセット名：AMIS.APP.JCL

メンバ名 ：DSRCV

図6.4.2にトータルロード処理'DSRCV'の内容を示す。

図6.4.2 トータルロード処理 JCL 'DSRCV'

	1	2	3	4	5	6	7
//DSRCV	JOB	CLASS=A, MSGCLASS=A, MSGLEVEL=(1, 1, 1),					
//							
//JOB	CAT	DD DSN=NIME, UCAT, DISP=SHR					
//	*****						
//*							*/
//*		トータルロード処理					*/
//*							*/
//	*****						
//STEP1	EXEC	PGM=JXADSRV, REGION=4096K					
//SYS	PRINT	DD SYSOUT=*					
//IN1	DD	DSN=TDUMP, VSAMUSER, CNTL, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(01, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN2	DD	DSN=TDUMP, VSAMUSER, BASE, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(02, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN3	DD	DSN=TDUMP, VSAMFAX, CNTL, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(03, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN4	DD	DSN=TDUMP, VSAMFAX, BASE, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(04, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN5	DD	DSN=TDUMP, VSAMFAX, AIX1, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(05, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN6	DD	DSN=TDUMP, VSAMFAX, AIX2, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(06, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN7	DD	DSN=TDUMP, VSAMPUBL, CNTL, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(07, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN8	DD	DSN=TDUMP, VSAMPUBL, BASE, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(08, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN9	DD	DSN=TDUMP, VSAMITEM, CNTL, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(09, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//IN10	DD	DSN=TDUMP, VSAMITEM, BASE, UNIT=(TAPE, DEFER),					
//		VOL=SER=TDMP01, LABEL=(10, SL), DISP=(OLD, KEEP)					
//SYSIN	DD *						
		DSRCV SISN=SIS, DID=PRO, LOG=NO, LOAD=(10, E)					
		CLUSTER SCN, BASE=VSAMUSER, CFIL=IN1, IFIL=IN2, OPT=FORCE					←利用者管理簿
		CLUSTER SCN, BASE=VSAMFAX, CFIL=IN3, IFIL=IN4, OPT=FORCE					
		AIX IFIL=IN5					← F A X 管理簿
		AIX IFIL=IN6					
		CLUSTER SCN, BASE=VSAMPUBL, CFIL=IN7, IFIL=IN8, OPT=FORCE					
		CLUSTER SCN, BASE=VSAMITEM, CFIL=IN9, IFIL=IN10, OPT=FORCE					
		END					
//*							
//							

②FAIRSのRESTORE機能による復元

FAIRSのRESTORE機能は、FAIRSデータベースを復元するためのツールである。このツールは、データベースの無駄なスペースを取り除く効果もあるため、データベースが壊れたときだけでなく、度重なるデータ追加によって悪化したスペース効率を回復するときも効果のあるツールである。

③ARCSによる復元

ARCSは磁気ディスクボリューム全体を短時間で復旧するのに適したツールである。パラメータの指定により特定ファイルだけのバックアップ／復元も行うことができる。ARCSの

起動用 JCL はボリューム毎に表 6. 4. 5 のように用意されている。復旧するボリュームに対応するメンバを実行する。

表6.4.5 バックアップ用 ARCS JCL一覧

データセット名	メンバ名	用途
NIME, UTY, JCL	RSTRUSR1	USER01復元用
	RSTRUSR2	USER02復元用
	⋮	⋮
	RSTRUSR8	USER08復元用
	RSTRSCAT	SYSCAT復元用
	RSTRSRES	SYSRES復元用
	RSTRWRK1	WORK01復元用
	RSTRWRK2	WORK02復元用

図 6. 4. 3 に ' RSTRUSRI ' の内容を示す。

図6.4.3 RSTRUSRI

	1	2	3	4	5	6	7
//RSTRUSRI	JOB CLASS=A, MSGCLASS=Y,						
/*MESSAGE	"USER01" BACKUP TAPE => "USER01" DASD VOLUME						
//STEP1	EXEC PGM=KBKARCS, REASON=4096K						
//SYSPRINT	DD SYSOUT=*						
//SYSDFS	DD SYSOUT=*						
//SYSUT1	DD DSN=ARCS, BACKUP, USER01, LABEL=(, SL), UNIT=TAPE, DISP=SHR,						
//	VOL=SER=(USER11, USER12, USER13)						
//SYSUT2	DD VOL=SER=USER01, DISP=OLD, UNIT=SYSDA						
//SYSIN	DD *						
	RESTORE VOLUME, FROM (DD (SYSUT1)), TO (DD (SYSUT2))						
/*							
//							

④ S X / A のファイル復元

映像音響機器制御装置 (A-60)、又はゲートウェイ (Σ station 230) の磁気ディスクが壊れたときは、バックアップテープから復元する。